

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(30)

— 南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ —  
(鹿児島島西ⅠC～伊集院ⅠC)

<sup>あぜ</sup> 护 <sup>ぼり</sup> 堀 遺 跡 (日置郡松元町)

<sup>にし</sup> 西 <sup>の</sup> <sup>はら</sup> 原 B 遺 跡 (日置郡松元町)

2001年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

あぜ ぼり  
柵 堀 遺 跡  
にし の はら  
西ノ原 B 遺跡



## 序 文

この報告書は、南九州西回り自動車道鹿児島道路建設に先立って、平成4年度・5年度・6年度に実施した栢堀遺跡・西ノ原B遺跡の埋蔵文化財発掘調査記録です。

調査では旧石器時代・縄文時代の遺物・遺構が数多く発見されました。

なかでも、旧石器時代細石刃文化の遺物出土状況は、南九州縄文文化の始まりを知るうえで注目されています。

本書は、地域の先史時代の解明に貴重な手掛かりを提供するものと考えており、文化財保護と学術研究のために活用していただければ幸いです。

終わりに、この発掘調査にご協力くださった関係各位の皆様をはじめ、発掘調査に参加された地元の皆様に対して感謝の意を表します。

平成13年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所 長 井 上 明 文

報告書抄録

ふりがな	あぜぼりいせき にしのはらBいせき							
書名	栢堀遺跡 西ノ原B遺跡							
副書名	南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第30集							
編著者名	牛ノ濱 修・元田 順子							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	西暦 2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あぜぼり 栢堀遺跡	かごしまけんひおきぐん 鹿児島県日置郡 まつもとちょういしたにあざあぜぼり 松元町石谷字栢堀	463647	31-42	31° 36' 18"	130° 27' 52"	確認調査 199210 ～ 199210 全面調査 19921124 ～ 19930715	2,700	南九州西 回り自動 車道鹿児 島道路建 設
にしのはら 西ノ原B遺跡	かごしまけんひおきぐん 鹿児島県日置郡 まつもとちょういしたにあざにしのはら 松元町石谷字西ノ原	463647	31-54	31° 36' 42"	130° 27' 36"	全面調査 19930922 ～ 19931121	1,300	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	主な遺物	特記事項			
栢堀遺跡	包含地	旧石器時代細石刃文化期 縄文時代早期 前期 中期 後期 晩期 古墳時代 古代～近世	石器製作ブロック 集石 5基  溝状遺構 1条 土抗 2基 土坑群 1カ所	細石刃・細石刃核・ 前平・平楯・轟・春日・ 黒川・石槍・砥石・ 石鏃・成川式土器・ 須恵器・土師器・ 瓦器・青磁・白磁・ 石鍋				
西ノ原B遺跡	包含地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石刃文化期 古墳時代	礫群 1基	ナイフ・三稜尖頭器 細石刃・細石刃核 成川式土器				

## 例 言

- 1 この報告書は、南九州西回り自動車道鹿児島道路建設に伴う栢堀遺跡・西ノ原B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、国土交通省 鹿児島国道工事事務所の受託事業として、鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本書で用いたレベル数値は、すべて海拔高である。
- 4 本書で用いた挿図中の通し番号は、図版中の番号と同一である。
- 5 発掘調査においては、松元町教育委員会の協力・援助を得た。
- 6 現地調査に関する実測及び写真撮影は、調査担当者（牛ノ濱修・新町正・元田順子）で行った。
- 7 本書の執筆は、栢堀遺跡の縄文～古代を元田が行い、旧石器と西ノ原B遺跡を主として牛ノ濱が行った。  
遺物写真の撮影及びプリントは、鶴田静彦・横手浩二郎が行った。
- 8 本書の編集は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで行い、牛ノ濱がこれを担当した。
- 9 石器実測の一部を（株）エーティック西日本支店、（株）埋蔵文化財サポートシステム鹿児島支店に委託し、残りトレースを整理作業員の協力を得て、牛ノ濱・元田が行った。
- 10 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用を計画中である。

## 目 次

序文	
例言	
第Ⅰ章 はじめに	11
第Ⅱ章 調査の経過	
第1節 調査に至るまでの経過	16
第2節 調査の組織	16
第3節 調査の経過	18
第Ⅲ章 位置及び環境	
第1節 遺跡の位置及び自然環境	21
第2節 歴史的環境	21
第Ⅳ章 層位	26
第Ⅴ章 柵堀遺跡	
第1節 調査の概要	31
第2節 旧石器時代	36
遺構	36
遺物	36
第3節 縄文時代	82
遺構	82
遺物	87
土器	87
石器	119
第4節 弥生～古墳時代	129
第5節 古代～中世	131
第6節 まとめ	136
第Ⅵ章 西ノ原B遺跡	139
第1節 調査の概要	139
第2節 旧石器時代	139
第3節 古墳時代	171
第4節 まとめ	172

## 挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置図	14
第 2 図	栢堀遺跡・西ノ原B遺跡の位置及び周辺遺跡	23
第 3 図	土層模式図	26
第 4 図	栢堀遺跡土層断面図 (1)	27
第 5 図	栢堀遺跡土層断面図 (2)	28
第 6 図	栢堀遺跡土層断面図 (3)	29
第 7 図	西ノ原B遺跡土層断面図	30
第 8 図	栢堀遺跡地形図	32
第 9 図	ブロック分布図	33
第10図	石材ブロック別分布図	34
第11図	細石刃・細石刃核出土分布図	35
第12図	礫群	36
第13図	Aブロック遺物出土状況	37
第14図	A・Bブロック出土石器	37
第15図	Bブロック遺物出土状況	38
第16図	Cブロック遺物出土状況	39
第17図	Cブロック出土石器 (1)	40
第18図	Cブロック出土石器 (2)	41
第19図	Cブロック出土石器 (3)	42
第20図	Dブロック遺物出土状況	44
第21図	Eブロック遺物出土状況	45
第22図	Fブロック遺物出土状況	46
第23図	D・E・F出土石器	47
第24図	Gブロック遺物出土状況	49
第25図	Gブロック出土石器	49
第26図	Hブロック遺物出土状況	50
第27図	Hブロック出土石器 (1)	51
第28図	Hブロック出土石器 (2)	52
第29図	Iブロック遺物出土状況	54
第30図	Jブロック遺物出土状況	55
第31図	Kブロック遺物出土状況	56
第32図	Lブロック遺物出土状況	57
第33図	J・K・Lブロック出土石器	58
第34図	Mブロック遺物出土状況	60
第35図	Mブロック出土石器	61

第36図	Nブロック遺物出土状況	62
第37図	Nブロック出土石器	63
第38図	Oブロック遺物出土状況	64
第39図	Oブロック出土石器 (1)	65
第40図	Oブロック出土石器 (2)	66
第41図	Pブロック遺物出土状況	68
第42図	Qブロック遺物出土状況	69
第43図	Rブロック遺物出土状況	70
第44図	Sブロック遺物出土状況	71
第45図	P・Q・R・Sブロック出土石器	72
第46図	ブロック外出土石器	73
第47図	集石 (1)	82
第48図	集石 (2)	82
第49図	集石 (3)	83
第50図	集石 (4)	83
第51図	集石 (5)	84
第52図	土坑群	85
第53図	土坑 (1)	85
第54図	土坑 (2)	85
第55図	溝状遺構	86
第56図	縄文土器 (1)	88
第57図	縄文土器 (2)	90
第58図	縄文土器 (3)	91
第59図	縄文土器 (4)	92
第60図	縄文土器 (5)	93
第61図	縄文土器 (6)	94
第62図	縄文土器 (7)	95
第63図	縄文土器 (8)	96
第64図	縄文土器 (9)	97
第65図	縄文土器 (10)	98
第66図	縄文土器 (11)	100
第67図	縄文土器 (12)	102
第68図	縄文土器 (13)	103
第69図	縄文土器 (14)	104
第70図	縄文土器 (15)	105
第71図	縄文土器 (16)	106
第72図	縄文土器 (17)	107



第73図	縄文土器 (18)	108
第74図	縄文土器 (19)	109
第75図	縄文土器 (20)	110
第76図	縄文土器 (21)	111
第77図	縄文土器 (22)	112
第78図	縄文土器 (23)	113
第79図	縄文土器 (24)	114
第80図	縄文土器 (25)	115
第81図	石鏃 (1)	122
第82図	石鏃 (2)	123
第83図	石匙	125
第84図	砥石・磨石	126
第85図	磨石・スクレイパー	127
第86図	弥生～古墳時代出土土器	130
第87図	須恵器	132
第88図	古代～中世出土遺物	134
第89図	西ノ原B遺跡地形図	140
第90図	礫群	141
第91図	ブロック分布図	142
第92図	ブロック石材別分布図	143
第93図	VIII層遺物出土状況	144
第94図	VIII層出土石器	145
第95図	Aブロック遺物出土状況	146
第96図	Bブロック遺物出土状況	147
第97図	Bブロック出土石器	147
第98図	Cブロック遺物出土状況	148
第99図	Dブロック遺物出土状況	149
第100図	Eブロック遺物出土状況	150
第101図	D・Eブロック出土石器	151
第102図	Fブロック遺物出土状況	152
第103図	Gブロック遺物出土状況	153
第104図	Hブロック遺物出土状況	154
第105図	F・Hブロック出土石器	155
第106図	Iブロック遺物出土状況	157
第107図	Jブロック遺物出土状況	158
第108図	I・Jブロック出土石器	159
第109図	Kブロック遺物出土状況	160

第110図	Lブロック遺物出土状況	161
第111図	K・Lブロック出土石器	162
第112図	Mブロック遺物出土状況	163
第113図	Mブロック出土石器	164
第114図	Mブロック出土敲石	165
第115図	古墳時代出土土器（1）	170
第116図	古墳時代出土土器（2）	171

## 表 目 次

第1表	遺跡一覧表	15
第2表	周辺遺跡（1）	24
第3表	周辺遺跡（2）	25
第4表	朽堀遺跡石器器種別分類表	75
第5表	石器分類表（1）	76
第6表	石器分類表（2）	77
第7表	石器分類表（3）	78
第8表	石器分類表（4）	79
第9表	石器分類表（5）	80
第10表	石器分類表（6）	81
第11表	組織痕土器観察表	109
第12表	縄文土器観察表（1）	116
第13表	縄文土器観察表（2）	117
第14表	縄文土器観察表（3）	118
第15表	石鏃分類表	120
第16表	石鏃計測表	124
第17表	石器観察表	128
第18表	弥生～古墳時代出土遺物観察表	129
第19表	須恵器観察表	131
第20表	土師器観察表	133
第21表	古代～中世出土遺物観察表	135
第22表	石器器種別一覧表	167
第23表	石器分類表（1）	168
第24表	石器分類表（2）	169

## 図 版 目 次

図版 1	朽堀遺跡遠景，土層（薩摩火山灰）	175
図版 2	土層，遺物出土状況（旧石器時代）	176
図版 3	遺物出土状況（旧石器時代），集石 1 号	177
図版 4	集石 2 号，集石 3 号	178
図版 5	集石 5 号，土坑群完掘状況	179
図版 6	土坑 1，土坑 2 検出状況	180
図版 7	溝状遺構検出状況，溝状遺構	181
図版 8	砥石出土状況，石匙出土状況	182
図版 9	石槍出土状況，確認調査発掘風景	183
図版 10	旧石器発掘風景，発掘風景	184
図版 11	旧石器（1）細石刃核	185
図版 12	旧石器（2）細石刃核	186
図版 13	旧石器（3）細石刃核，石鏃出土状況	187
図版 14	旧石器（4）	188
図版 15	縄文（1）	189
図版 16	縄文（2）	190
図版 17	縄文（3）	191
図版 18	縄文（4）	192
図版 19	縄文（5）	193
図版 20	縄文（6）	194
図版 21	縄文（7）	195
図版 22	縄文（8）	196
図版 23	縄文（9）	197
図版 24	縄文（10）	198
図版 25	縄文（11）	199
図版 26	石鏃	200
図版 27	石匙	201
図版 28	砥石・磨石	202
図版 29	成川式土器・須恵器	203
図版 30	西ノ原 B 遺跡航空写真	204
図版 31	航空写真，A 3 区東側土層	205
図版 32	発掘状況，敲石出土状況	206
図版 33	発掘調査風景，旧石器遺物出土状況	207
図版 34	礫群，調査風景	208
図版 35	旧石器（1）	209
図版 36	旧石器（2），調査メンバー	210

# 第 I 章 はじめに

## 第 1 節 調査に至るまでの経過

建設省九州建設局は、鹿児島～市来間に南九州西回り自動車道路の建設を計画し、現在工事が進められている。

この計画に伴い、平成 2 年 8 月に鹿児島西インターチェンジと伊集院インターチェンジ間の分布調査が行われ、23箇所の遺物散布地・確認調査の必要な地点が確認された。

工事区間内の埋蔵文化財の取り扱いについては、建設省鹿児島国道工事事務所と鹿児島県教育委員会との協議に基づき、鹿児島国道工事事務所と鹿児島県知事との間で発掘調査に係る委託契約が結ばれ、埋蔵文化財の確認調査・緊急発掘調査が行われた。

## 第 2 節 確認調査の経過と概要

取添……詳細分布調査及び試掘調査の結果、表層下はシラスであり、包含層及び遺物は検出されなかった。

中野……詳細分布調査及び試掘調査の結果、表層下はシラスであり、包含層及び遺物は検出されなかった。

山ノ中……詳細分布調査の結果、曲輪等が残存していることが判明した。

この地は、中世山城「小田城」芦谷氏・別府氏の居城であり、本丸の位置とはずれているが、縄張りの範疇であり、郭・堀・井戸・大手の遺構等が現存している。

縄文時代……住居跡、揖宿式・中原式・松ノ木式土器・石皿・磨石等

古墳時代……成川式土器

平安時代……土坑、須恵器・土師器

仲間ヶ迫……詳細分布調査及び試掘調査の結果、表層下はシラスであり、包含層及び遺物は検出されなかった。

木ヶ暮……昭和 27 年に発掘調査され、縄文時代後期の指宿式土器を多く出土した遺跡で、遺跡の隣接地が建設予定地であったため緊急に確認調査を行った。台地中央部において、3カ所のトレンチ（10m×2m=1、7m×2m=2）で確認調査を行った。その結果、予定地内は削平され、表層下はすぐシラスで包含層及び遺物は検出されなかった。

宮尾……旧石器時代……剥片・碎片

縄文時代……集石、陥し穴、土坑、条痕文・塞ノ神式土器等

奈良～平安時代……掘立柱建物跡、須恵器・土師器等

仁田尾……STA 350 と STA 355 を基準に 10m 間隔の区割りを設定した。その区割りにそって、19カ所のトレンチ（4m×2m=12、10m×2m=2、14m×2m=1、16m×2m=2、18m×2m=2）で確認調査を行った。その結果、縄文時代後・晩期の遺物がⅢ層から、早期の遺物がⅣ・Ⅴ層から出土した。また、Ⅶ層の粘土からは旧石器時代の遺物が出土した。

旧石器時代……礫群、陥し穴、ナイフ・尖頭器・台形石器・細石刃核・細石刃

- 縄文時代……………掘立柱建物跡，溝，集石，陥し穴，土坑  
前平式・吉田式・轟式・曾畑式・市来式・黒川式土器等  
古墳～平安時代…………掘立柱建物跡，溝，須恵器・土師器
- 西ノ原A…………台地上に20m×2mのトレンチを設定して確認調査を行った。その結果，予定地内は削平されていて表層下はすぐシラスで包含層及び遺物は検出されなかった。
- 西ノ原B…………台地上に3カ所のトレンチ（5m×2m=3）で確認調査を行った。その結果，Ⅶ層から旧石器時代の剥片・碎片が出土した。  
旧石器時代…………礫群，ナイフ・三稜尖頭器・細石刃核・細石刃  
古墳時代…………成川式土器
- 前山…………STA 318 とSTA 319 の南側境界杭を基準に10m間隔の区割りを設定した。その区割りに沿って，7カ所のトレンチ（5m×2m=2，8m×2m=1，10m×2m=2，15m×2m=1，16m×2m=1）で，確認調査を行った。その結果，Ⅴ層の黒褐色土層から縄文時代早期の集石が検出され，Ⅶ層の粘土層からは旧石器時代の遺物が出土した。  
旧石器時代…………台形様石器・ナイフ・剥片尖頭器・細石刃核・細石刃  
縄文時代…………前平式・轟式土器等  
古墳時代…………成川式土器
- 栢堀…………引き込み線No.9とNo.12を基準に10m間隔の区割りを設定し，その区割りに沿って5カ所のトレンチ（8m×2m=3，6m×2m=1，9m×2m=1）で確認調査を行った。その結果，縄文時代後・晩期の遺物がⅢ層から，早期の遺物がⅣ・Ⅴ層から出土した。また，Ⅶ層の粘質土からは旧石器時代の遺物が出土した。  
旧石器時代…………礫群，尖頭器・細石刃核・細石刃  
縄文時代…………溝，前平式・平楯式・轟式・黒川式・石槍・砥石等  
平安時代…………青磁・須恵器・土師器等
- 前田…………詳細分布調査及び試掘調査の結果，表層下はシラスであり，包含層及び遺物は検出されなかった。
- 木場田…………台地上に20m×2mのトレンチを設定して確認調査を行った。その結果，予定地内は削平されていて表層下はすぐシラスで包含層及び遺物は検出されなかった。
- 前原…………STA 235 とSTA 240 を基準に10m間隔の区割りを設定した。その区割りに沿って，11カ所のトレンチ（8m×2m=4，10m×2m=1，16m×2m=1，18m×2m=1，20m×2m=3，28m×2m=1）で確認調査を行った。その結果，縄文時代後・晩期の遺物がⅢ層から，早期の前平式・吉田式・石坂式がⅣ・Ⅴ層から出土した。  
旧石器時代…………礫群，台形石器・三稜尖頭器・細石刃核・細石刃等  
縄文時代…………住居跡，道跡，連穴土坑・土坑・集石等  
前平式・吉田式・石坂式・押型文・岩崎式・黒川式等  
石槍・石皿・磨石・石鏃・石斧等
- 京旨後平…………台地上に10m×2mのトレンチを設定して確認調査を行った。その結果，予定地内は削平されていて表層下はすぐシラスで，包含層及び遺物は検出されなかった。

中柿ヶ迫……STA 183 と北側境界杭を基準に10m間隔の区割りを設定した。その区割りに沿って、20m×2mのトレンチで確認調査を行った。その結果、Ⅲ層以下の層位は確認されたが、遺物・遺構は発見されなかった。

フミカキ……STA 159 と北側境界杭を基準に10m間隔の区割りを設定した。その区割りに沿って、6カ所のトレンチ（16m×2m=1、18m×2m=1、20m×2m=2、30m×2m=2）で確認調査を行った。その結果、Ⅲ層上部から弥生土器が、Ⅳ・Ⅴ層から縄文時代早期の吉田式土器、石皿が出土した。

縄文時代……集石、石坂式・押型文・黒川式土器等

平安時代……須恵器

山下堀頭A……詳細分布調査及び試掘調査の結果、表層下はシラスであり、包含層及び遺物は検出されなかった。

山下堀頭B……STA 140 とSTA 141 を基準に10m間隔の区割りを設定した。その区割りに沿って、2カ所のトレンチ（15m×2m=1、30m×2m=1）で確認調査を行った。その結果、Ⅱ層下部より古墳時代の成川式土器・磨製石鏃が出土した。

縄文時代……曾畑式土器

弥生時代……住居跡、鉄剣・石鏃・軽石製品等

平安時代……周溝墓、須恵器等

立迫……STA 125 とSTA 128 を基準に10m間隔の区割りを設定した。その区割りに沿って、3カ所のトレンチ（16m×2m=2、20m×2m=1）で確認調査を行った。その結果、予定地内は削平を受け、攪乱層とシラスであり、遺物包含層は確認されなかった。

土筆……STA 114 とSTA 115 の北側境界杭を基準に10m間隔の区割りを設定した。その区割りに沿って、10m×2mのトレンチで確認調査を行った。その結果、予定地内は削平を受け、表層下はシラスであり、包含層及び遺物は検出されなかった。

西柵キ山……詳細分布調査及び試掘調査の結果、表層下はシラスであり、包含層及び遺物は検出されなかった。

上寺山……詳細分布調査及び試掘調査の結果、表層下はシラスであり、包含層及び遺物は検出されなかった。



第1図 遺跡位置図

第1表 遺跡一覽表

番号	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査員	時代	概要
19	山ノ中	鹿児島市西別府町	12,000	H6, 5～6 H7, 5～H8, 3	東・菅牟田・ 西園	縄文 古墳 平安	住居跡、指宿・中原・松ノ木・石皿・磨石 成川式土器 土坑、須恵器・土師器
17	宮尾	松元町石谷	8,400	H5, 12～H6, 3 H8, 4～9	牛ノ濱・東・ 繁昌・三垣	旧石器 縄文 奈良・平安	剥片・碎片 集石、陥し穴、土坑、条痕文・塞ノ神 掘立柱建物跡、須恵器・土師器
16	仁田尾	松元町石谷	34,500	H5, 4～H6, 3 H6, 4～H7, 3 H7, 7～H8, 3	池畑・宮田・ 今村・寺原・ 園田・前村・ 牛ノ濱・常田・ 繁昌・三垣	旧石器 縄文 古墳～平安	礫群、陥し穴、ブロック ナイフ・尖頭器・台形石器・MC・MB 掘立柱建物跡、溝、集石・陥し穴・土坑 前平・吉田・轟・曾畑・市来・黒川式土器 掘立柱建物跡、溝、須恵器・土師器
15	西ノ原B	松元町石谷	1,300	H6, 10～11	牛ノ濱・園田	旧石器 古墳	礫群、ナイフ・三稜尖頭器・MC・MB 成川式土器
13	前山	松元町石谷	9,600	H7, 5～H8, 3 H8, 4～9	鶴田・桑波田・ 橋口・元田	旧石器 縄文 古墳	台形様石器・ナイフ・剥片尖頭器・MC 前平・轟 成川式土器
14	栢堀	松元町石谷	11,000	H4, 12～H5, 3 H5, 4～6	牛ノ濱・新町・ 元田	旧石器 縄文 平安	MC・MB 溝、前平・平楯・轟・黒川・石槍・砥石 青磁・須恵器・土師器・石鍋
10	前原	松元町福山	53,500	H3, 10～H5, 11 H6, 1～H8, 10	牛ノ濱・新町・ 前迫・前村・ 元田・東・ 菅牟田	旧石器 縄文	礫群、台形石器・三稜尖頭器・MC・MB 住居跡、道跡、連穴土坑、土坑、集石 前平・吉田・石坂・押型文・岩崎・黒川 石槍・石皿・磨石・石鏃・石斧
7	フミカキ	松元町福山	7,200	H6, 10～H7, 3 H7, 5～6	東・菅牟田・ 西園	縄文 平安	集石、石坂・押型文・黒川 須恵器
6	山下堀頭	松元町福山	5,500	H6, 6～10	東・菅牟田	縄文 弥生 平安	曾畑 住居跡、鉄剣・石鏃・軽石製品 周溝墓、須恵器



## 第II章 調査の経過

### 第1節 調査に至るまでの経過

柵堀遺跡は、平成4年10月に確認調査を行った。

引き込み線No.9とNo.12を基準に10m間隔の区割りを設定し、その区割りに沿って5か所のトレンチ（8m×2m、3か所、6m×2m、1か所、9m×2m、1か所）で確認調査を行った。

その結果、縄文時代後期・晩期の遺物がⅢ層から、早期の遺物がⅣ・Ⅴ層から出土した。また、Ⅶ層の暗茶褐色粘質土からは旧石器時代の遺物が出土した。

そこで、11月24日から3月26日まで緊急調査を行った。

### 第2節 調査の組織

発掘調査（平成4・5年度）	柵堀遺跡			
事業主体者	建設省鹿児島国道工事事務所			
調査責任者	鹿児島県教育委員会			
企画・調整	鹿児島県教育庁			
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所	長	大久保忠昭
調査企画者	〃		次長兼総務課長	水口 俊雄
〃	〃		主任文化財主事 兼調査課長	戸崎 勝洋
調査担当者	〃		文化財主事	牛ノ濱 修
〃	〃		文化財調査員	新町 正（平成4年）
〃	〃		〃	元田 順子（平成4年）
調査事務担当	〃	主	査	下園 勝一
		主	事	中村 和代
発掘調査（6年度）	西ノ原B遺跡			
事業主体者	建設省鹿児島国道工事事務所			
調査責任者	鹿児島県教育委員会			
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課			
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所	長	内村 正弘
調査企画者	〃		次長兼総務課長	川原 信義
〃	〃		主任文化財主事 兼調査課長	戸崎 勝洋
調査担当者	〃		文化財主事	牛ノ濱 修
〃	〃		文化財調査員	園田 淳美
調査事務担当	〃	主	査	成尾 雅明
〃	〃	主	事	中村 和代

報告書作成（平成12年度）

事業主体者	建設省鹿児島国道工事事務所		
調査責任者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所 長	井上 明文
調査企画者	"	次長兼総務課長	黒木 友幸
"	"	主任文化財主事 兼調査課長	新東 晃一
"	"	課 長 補 佐	立神 次郎
執筆担当者	"	主任文化財主事 兼第三調査係長	牛ノ濱 修
		文化財研究員	元田 順子
事務担当	"	総 務 係 長	有村 貢
"	"	主 査	今村孝一郎

### 第3節 調査の経過

確認調査を平成4年度（平成4年10月）に行い、その結果に基づき平成4年度（平成4年11月24日～平成5年3月26日）と平成5年度（平成5年6月1日～7月15日）に全面調査を行った。経過は日誌抄により月毎に略述する。

平成4年度

月	調 査 の 経 過
10月	<p>確認調査開始。(担当 牛ノ濱・前村・元田)</p> <p>引き込み線No.9とNo.12を基準に10m間隔の区割りを設定し、その区割りに沿って5か所のトレンチ（8m×2m, 3か所, 6m×2m, 1か所, 9m×2m, 1か所）で確認調査を行った。その結果、縄文時代後期・晩期の遺物がⅢ層から、早期の遺物がⅣ・Ⅴ層から出土した。また、Ⅶ層の暗茶褐色粘土からは旧石器時代の遺物が出土した。</p>
11月	<p>24日より全面調査。(担当 牛ノ濱・新町・元田)</p> <p>A～E-15～21区 表土剥ぎ取り。Ⅲ層上部掘り下げ。</p> <p>I層下部から青磁・須恵器など古代から中世にかけての遺物出土。Ⅲ層上部からは縄文時代晩期の遺物出土。</p>
12月	<p>A～E-15～21区 Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。</p> <p>A・B-4～6区 表土剥ぎ取り。Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。</p> <p>B-15区 溝状遺構検出。B-17, D・E-19・20区 土坑検出。</p> <p>A・B-4・5区 集石遺構検出。</p> <p>D-20区 Ⅲ層 岩崎下層式土器出土。C-18区 Ⅲ層 有溝砥石出土。</p> <p>縄文時代早期・中期・後期・晩期・古墳時代の遺物が出土する。</p> <p>3日-成尾英仁（串木野高校教諭）</p>
1月	<p>A・B-3～5区, Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。 B～D-14～18区, Ⅲ～Ⅴ層掘り下げ。</p> <p>C-16・17区（10m×2m）旧石器時代確認トレンチ</p> <p>C-18区（6m×2m）縄文時代早期確認トレンチ</p> <p>A・B-3～5区, Ⅵ層（薩摩火山灰）重機にて剥ぎ取り。</p> <p>A・B-3～5区, Ⅶ層掘り下げ, 細石刃文化遺物出土。</p> <p>A・B-11～13区, Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ。 B-13区, 溝状遺構検出（縄文晩期）</p> <p>長期研修生実習-川添（宮之城町）, 原田（蒲生町）, 上蘭（東市来町）</p> <p>18日-梅北文化財課課長補佐, 吉元埋蔵文化財係長, 25日-横田義章（九州歴史資料館）</p>

2 月	<p>1日 埋蔵文化財センター研修</p> <p>A・B-4区 VII層掘り下げ</p> <p>B-13・14区 III層掘り下げ</p> <p>A・B-6～10区 表土剥ぎ，II層～III上～IV層</p> <p>D-19・20区 遺構検出</p> <p>D-19・20区 III・IV層掘り下げ D-19区 遺構検出</p> <p>3日－甲元眞之（熊大），新田栄治（鹿大）弥栄久志，24日－木村幾太郎（大分市歴史歴史資料館館長），新東晃一</p>
3 月	<p>A・B-4・5区 VII層</p> <p>A・B-6・7・8層 III～V層</p> <p>D-19 III～IV層 平椀式土器 C・D・E-19・20区 V層まで</p> <p>15日－小林達雄（國學院大）調査指導，22日－鈴木保彦（日本大学）</p> <p>26日で発掘調査終了。現道付近まで遺跡の拡大がみられたため，5年度に現道部についての調査を行う。</p>

平成5年度

6 月	<p>1日より調査再開。</p> <p>A-2・3区 VII層掘り下げ。（道路敷きのため道路片面の調査を行う）</p> <p>A・B-3・4区 VII層下部掘り下げ。</p> <p>A-2・3区 VII層掘り下げ。</p>
7 月	<p>A-2・3区 VII層掘り下げ。</p> <p>A・B-3・4区 VII層下部掘り下げ。</p> <p>前年の調査区と合わせて19ブロックを検出する。</p> <p>A-2区より礫群検出。</p> <p>15日で発掘調査終了。発掘機材撤収。</p>

西ノ原B遺跡

西ノ原B遺跡は確認調査を平成3年5月に行い、その結果に基づき平成6年度（平成6年9月22日～11月21日）に全面調査を行った。経過は日誌抄により月毎に略述する。

確認調査

平成3年5月7日～10日

確認調査開始（担当 牛ノ濱修・新町正）

1～3トレンチを設定し掘り下げる。

黒褐色土層が残存している箇所もあるが大半が薩摩火山灰まで削平されている。

2・3トレンチのⅦ層に黒曜石製剥片・碎片が出土する。

旧石器時代の遺物包含層を確認し、トレンチ埋め戻しを行う。

平成6年度

月	調 査 の 経 過
9 月	22日より全面調査（担当 牛ノ濱修・園田敦美） B-2～5区西側に2mトレンチを設定し掘り下げる。全体的にⅦ層から旧石器時代の遺物出土。 A・B-3～5区、2m×2mのグリッドを設定して全面調査を行う。
10 月	A・B-3～5区 Ⅶ層掘り下げ。ナイフ形石器・台形石器出土。 B・C-6区 拡張。細石刃核・細石刃出土。 6日－内村文化財課長 12日－河口貞徳鹿児島県考古学会長 17日－成尾英仁（串木野高校教諭） 18日－新田栄治鹿児島大学教授・戸崎課長
11 月	A～C-3～6区 Ⅶ層～Ⅷ層掘り下げ。 A・B-1・2区 Ⅲ層掘り下げ。成川式土器出土。 10日－木崎康弘（熊本県文化課） 21日で発掘調査終了。機材撤収。

## 第Ⅲ章 位置及び環境

### 第1節 遺跡の位置及び自然環境

栢堀遺跡・西ノ原B遺跡は、日置郡松元町大字石谷に所在する。

松元町は、薩摩半島の中部に位置し、東部は鹿児島市、北西部は伊集院町、南部は吹上町・日吉町に接し、鹿児島市からわずか13kmの距離にあるため近年、鹿児島市のベッドタウンとして人口増加が著しいところである。鹿児島湾と東シナ海への分水嶺地帯であり、春山の八の久保（標高391.7m）を最高峰とし、概して標高150～200mのシラス台地とその浸食谷による多数の溪谷からなっている。集落は河川の沖積平野と台地の縁辺部に立地している。河川は吹上浜に流入する神之川水系の上谷口川・石谷川・福山川などがあるが一般に小規模な河川である。松元町の先史時代の遺跡はシラス台地縁辺部にあり、湧水源の周辺にあることが多い。

栢堀遺跡は、標高185mの台地縁辺部にあり、谷を隔てた台地には前山遺跡がある。

西ノ原B遺跡は、仁田尾遺跡の隣接地で、小さな谷を挟んだ北側に突出した痩せ尾根上の台地上に立地する。標高は190mである。

### 第2節 歴史的環境

松元町周辺では、昭和20年代後半に河口貞徳氏により、木ヶ暮遺跡や東昌寺遺跡の発掘調査が行われたのみで、昭和59年度発行の遺跡地名表では松元町の遺跡数は15ヶ所が紹介されているのみであったが、平成3年から始まった南九州西回り自動車道建設に係る調査等が行われたこと等により、遺跡数が一気に増加し、現在では57ヶ所の遺跡が周知されている。そこで、周辺遺跡と併せて主な遺跡を時代順に若干紹介したい。

#### 旧石器時代

松元町では、南九州西回り自動車道建設が始まるまでは、旧石器時代の遺跡は発見されていなかったが、今では全国からも注目される遺跡が多く発見され、県内でも有数の遺跡群となっている。

前山遺跡では、A T火山灰の下位から台形様石器や剥片が出土している。A T火山灰の下位から遺物が出土した遺跡は県内でも少なく貴重な遺跡である。西ノ原B遺跡の隣接地の仁田尾遺跡は遺跡の規模から西日本最大の旧石器時代の遺跡と言われている。ナイフ形石器文化と細石刃文化の2文化層から約12万点を超える遺物が、ブロックを形成して出土した。遺構としては、礫群を伴い細石刃文化では現在日本で一番古いだらうといわれている逆茂木をもつ陥し穴が検出された。遺物は、ナイフ形石器・尖頭器・台形石器・細石刃核・細石刃などが出土している。また、現在調査中の仁田尾中B遺跡では、細石刃文化から縄文時代に移行する時代の遺物等が大量に出土している。石鏃の製作跡などが発見され、ナイフ形石器なども見つかった。その他、栢堀遺跡の隣接地では宮ヶ迫遺跡が知られ、ナイフ形石器・台形石器・剥片尖頭器・細石刃核・細石刃などが出土している。旧石器時代の細石刃と縄文時代草創期の土器や石鏃が供伴した横井竹ノ山遺跡や瀬戸頭遺跡も隣接している。

#### 縄文時代

前原遺跡では、縄文時代早期の集落が発見された。住居跡20数基、道跡2本や連穴土坑、集石、土坑などが検出され、集落構成や生活用具の移り変わりを知る上で貴重な遺物が出土した。遺物は前平式・吉田式・石坂式・押型文・岩崎式・黒川式土器などが石槍・石皿・磨石・石鏃・石斧等と出土している。その他、縄文時代早期の層から砥石と磨製石剣や磨製石鏃が出土して注

目されている。仁田尾遺跡も旧石器だけでなく縄文時代の遺構・遺物も多数見つかった。草創期の土器や石鏃、早期の前平式・吉田式、前期の轟式・曾畑式土器が出土した。また、晩期の黒川式土器に伴って掘立柱建物跡が検出されている。フミカキ遺跡では、集石と石坂式・押型文・黒川式土器が、木ヶ暮遺跡では、市来式・指宿式土器が出土している。その他、鹿児島市の山ノ中遺跡では後期の住居跡が傾斜面に検出され、指宿式・中原式土器が出土している。特筆すべきは高知県で出土する松ノ木式土器が出土し、縄文時代の交易を知る上で貴重な遺跡となった。

#### 弥生時代

松元町は、台地が多いせいか弥生時代の遺跡は少ないが、昭和27年に河口貞徳氏によって調査された東昌寺遺跡が知られている。また、山下堀頭遺跡では、住居跡が検出され、磨製石鏃等も出土している。

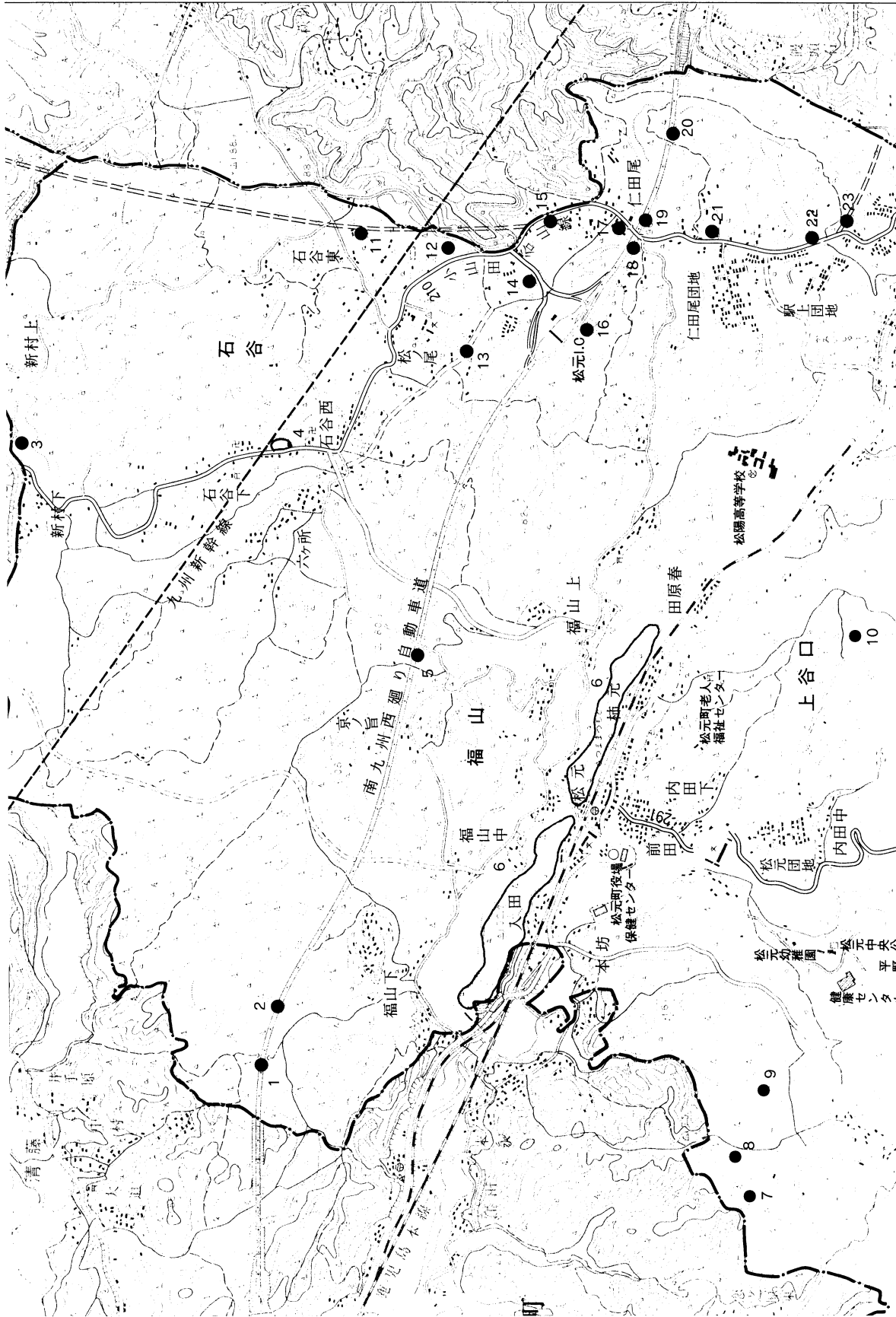
#### 古墳時代

古墳時代の遺跡は、集落等は発見されていないが、成川式土器が前山遺跡や仁田尾遺跡・前原遺跡などで出土している。また、西ノ原遺跡では小型壺の完形品が以前見つかっている。地名表では弥生時代の後期になっているが、成川式土器であり、古墳時代に入るものと思われる。

#### 古代～中世

古代から中世にかけては、宮尾遺跡や仁田尾遺跡・フミカキ遺跡などで須恵器や土師器・陶磁器などが出土している。山下堀頭遺跡では、平安時代の周溝墓が検出され、須恵器・土師器・陶磁器等も出土している。

松元町の歴史を語るとき忘れてならない人物がいる。石谷城28代城主町田少輔久長の長男として天保9（1838）年に鹿児島城下で生まれた町田久成である。19歳の安政3（1856）年、藩主島津斉彬の許しを得て、江戸の幕吏の養成機関である昌平黌に学び、帰藩して薩摩藩の英蘭学の教育機関である開成所の学頭を命じられた。久成は慶応元（1865）年薩摩藩留学生を引き連れてイギリスへ渡り、その時、大英博物館などヨーロッパの博物館を見学し、日本にも博物館の必要性を感じ取ったようである。文化財を見る鑑識眼も高く、私費をはたいて文化財保護に努めた。明治15（1882）年3月20日上野に東京帝国博物館を完成させ、初代館長となり、文化財保護行政生みの親と称されている。



第2図 柵堀遺跡・西ノ原B遺跡の位置及び周辺遺跡



第2表 周辺遺跡（1）

番号	遺跡名	所在地	時代	遺物・備考	文献
1	山下堀頭	松元町福山	縄文 弥生 平安	曾畑式 住居跡・鉄剣・石鏃・軽石製品 周溝墓，須恵器	
2	フミカキ	松元町福山	縄文 平安	集石，石坂式・押型文・黒川式 須恵器	
3	小松迫	松元町石谷	縄文	石坂式土器	
4	石谷城跡	松元町石谷	室町後期	空堀，井戸	
5	前原	松元町福山	旧石器 縄文	礫群，台形石器・三稜尖頭器 細石刃核・細石刃 住居跡，道跡，連穴土坑，集石 前平式・吉田式・石坂式等 石剣・石槍・石皿・石鏃等	
6	谷口城跡 （上柵城） （下柵城）	松元町上谷口 松元町福山下	室町後期	空堀 空堀	
7	火ノ字都	松元町上谷口	弥生～古墳		
8	大山	松元町上谷口	縄文中期		
9	喜次郎岡	松元町上谷口	古墳～平安	土器片	
10	谷頭原	松元町上谷口	縄文～古墳	土器片	
11	伏野	松元町石谷			
12	隠迫	松元町石谷			
13	宮ヶ迫	松元町石谷	旧石器	ナイフ，台形石器，尖頭器等 細石刃・細石刃核・石鏃等	
14	栢堀	松元町石谷	旧石器 縄文 平安	礫群，台形石器・三稜尖頭器 細石刃核・細石刃・石槍等 溝，集石，前平式・平柵式等 青磁・須恵器・土師器等	本文
15	栢堀B	松元町石谷			
16	前山	松元町石谷	旧石器 縄文 古墳	台形様石器・ナイフ形石器等 尖頭器・ナイフ・台形石器等 細石刃・細石刃核・剥片等 集石，前平式・轟式等 成川式土器	
17	西ノ原A遺跡	松元町石谷	弥生後期	弥生土器（小型壺完形）	

第3表 周辺遺跡（2）

18	西ノ原B遺跡	松元町石谷	旧石器 古墳	礫群, ナイフ・尖頭器・細石刃核等 成川式土器	本文
19	仁田尾	松元町石谷	旧石器 縄文 古墳～平安	礫群, 陥し穴, 磨石集積遺構 ナイフ・尖頭器・台形石器・細石刃核 建物跡, 溝, 集石, 土坑 前平式・吉田式・轟式・市来等 掘立柱建物跡, 溝, 須恵器・土師器等	
20	宮尾	松元町石谷	縄文 奈良・平安	集石, 陥し穴, 塞ノ神式・条痕文等 掘立柱建物跡, 須恵器・土師器等	
21	御仮屋跡				
22	仁田尾中A	松元町石谷	旧石器 縄文	細石刃核・細石刃等 草創期土器	
23	仁田尾中B	松元町石谷	旧石器 縄文	剥片尖頭器・細石刃核・細石刃 草創期土器・石鏃・スクレイパー等	

参考文献

鹿児島県教育委員会「鹿児島県の中世城館」

松元町教育委員会「宮ヶ迫遺跡」

松元町『松元町郷土史』

角川書店「日本地名大辞典 46 鹿児島県」1983

鹿児島県教育委員会「鹿児島県市町村遺跡地名表」鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（36）1985

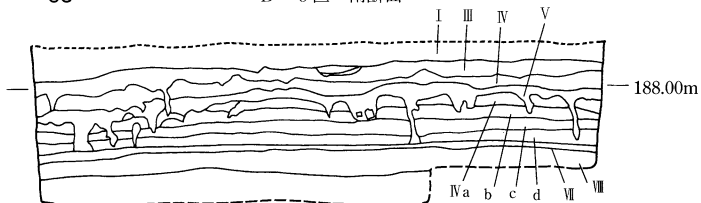
## 第IV章 層位

遺跡内の地層は、発掘調査対象地域が約200mにもおよぶため、場所によって層序に若干の相違があるが、基本的にはI層耕作土からVII層シラスまで第3図のように10層に区分できる。

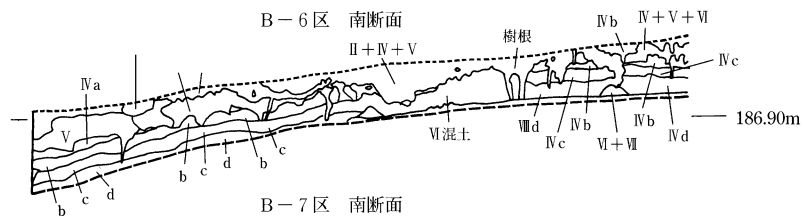
I	I 層	：黒褐色耕作土。色調によって2～3層に区分できる。
II	II 層	：黒色腐植土。削平されている箇所が多く、部分的にしかみられない。
IIIa	IIIa 層	：黄褐色火山灰土。下部のアカホヤ火山灰に有機質が混在したもので、粘質が弱く、径2mm前後の軽石を含む。上部に縄文時代後期～晩期の遺物を下部に前期の遺物を包含している。
IIIb	IIIb 層	：黄燈色軽石。約6,500年前の鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰に対比される。
IV	IV 層	：暗褐色火山灰土。やや灰色を帯びた硬質の火山灰で、比較的細粒である。下部に早期の遺物を包含している。
V	V 層	：黒褐色火山灰土。濃い黒色で粘質が強く、径5mm前後の軽石が混じる上部に縄文時代早期の遺物が包含される。
VI	VI 層	：この層は約11,500年前の桜島起源の軽石（薩摩火山灰）であり、色調及び粒子の大小により4～7層に区分できる。 a : 黄褐色軽石 b : やや緻密軽石質褐色火山灰土 c : 黒色白色火山砂を多く含む黄褐色軽石 d : 黒色白色火山砂をやや含む黄褐色軽石
VII	VII 層	：暗茶褐色粘質火山灰土。極めて微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する。
VIII	VIII 層	：茶褐色粘質火山灰土。微粒で粘質が強く、乾くとクラックが発達する
IX	IX 層	：シラス

第3図 土層模式図

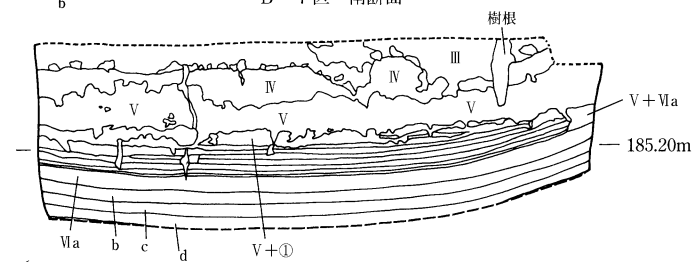
B-5区 南断面



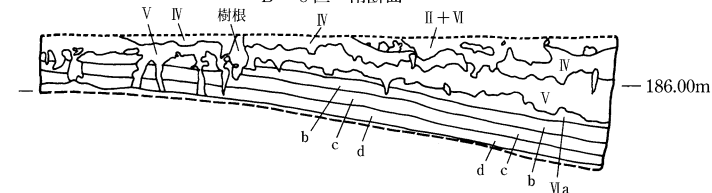
B-6区 南断面



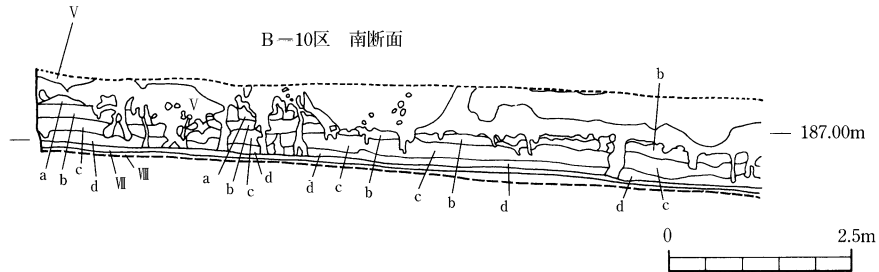
B-7区 南断面



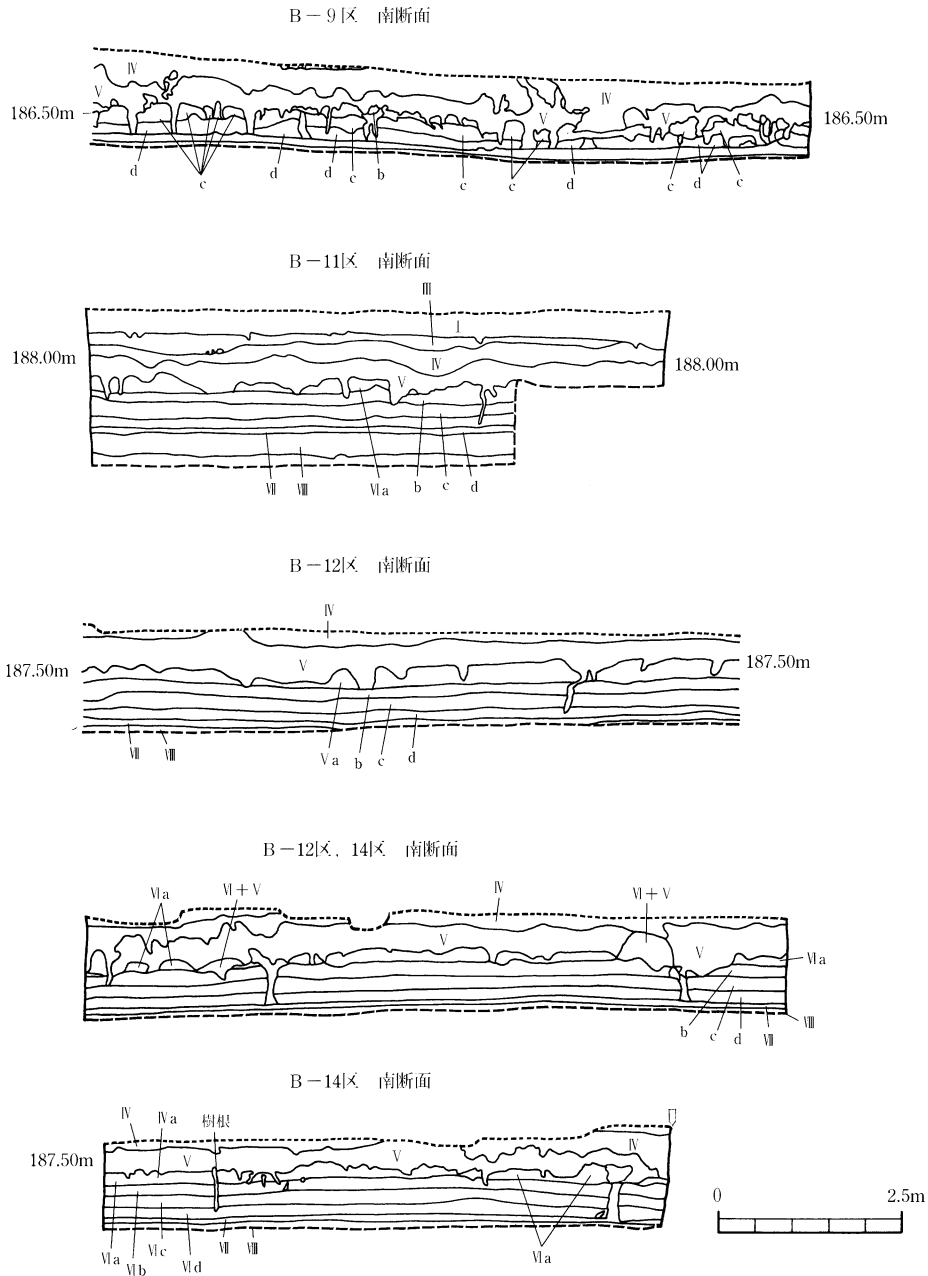
B-8区 南断面



B-10区 南断面



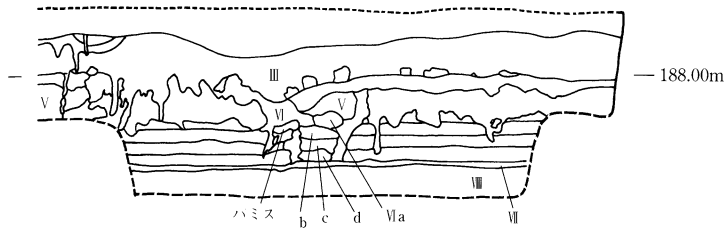
第4图 柘塘遗址土层断面图(1)



第5图 柘城遺跡土層断面图 (2)

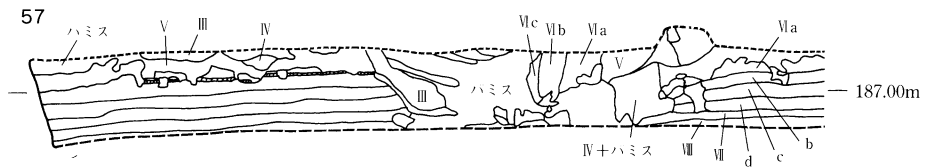
56

C-15区 西断面



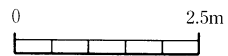
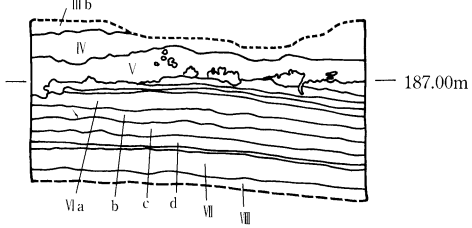
C-17区 南断面

57

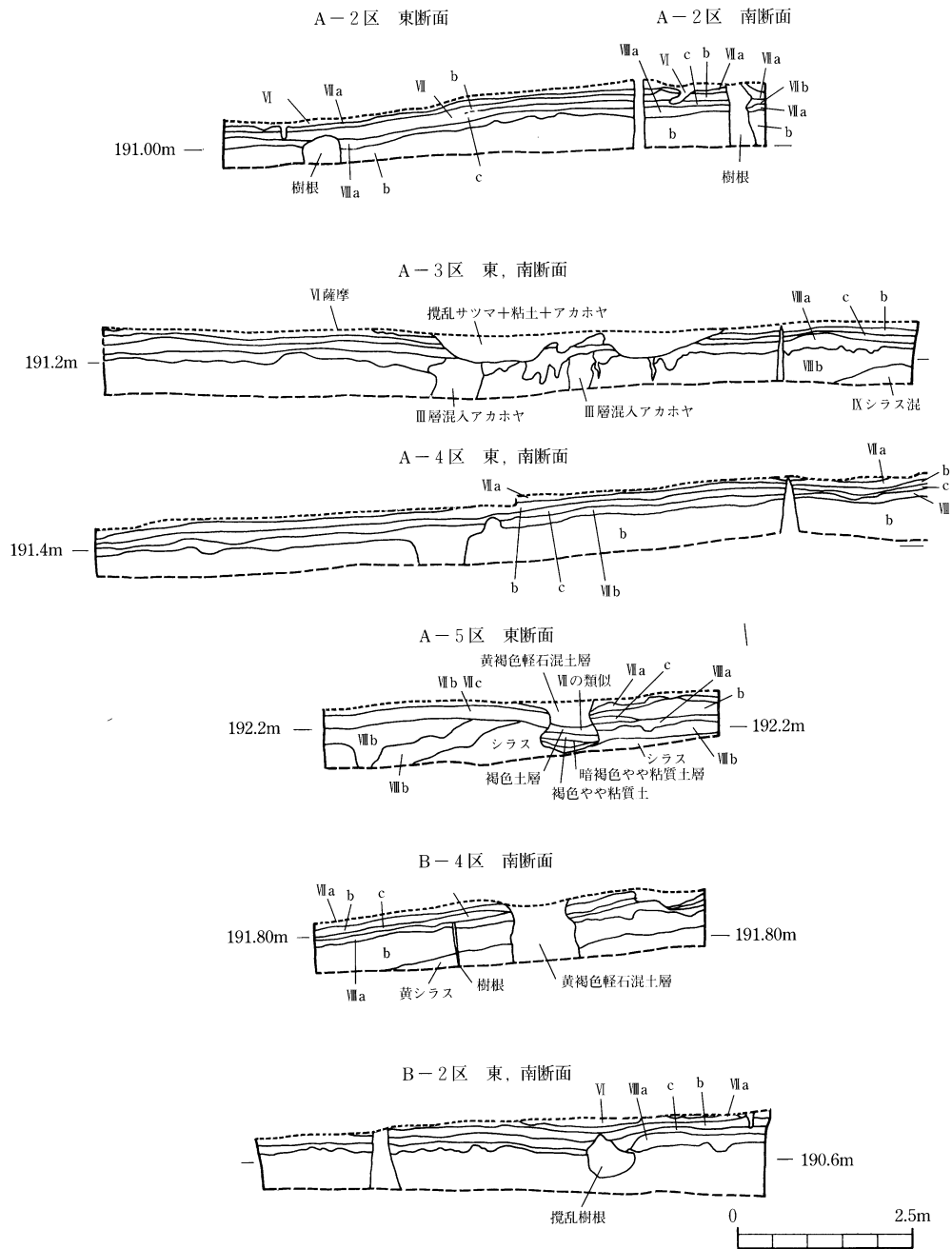


58

C-21区 西断面



第6図 柵堀遺跡土層断面図(3)



第7図 西ノ原B遺跡土層断面図

あぜ ぼり  
櫛 堀 遺 跡



## 第V章 柵堀遺跡

### 第1節 調査の概要

道路新設工事図面の引き込み線No.9とNo.12を基準に10m間隔の区割りを設定し、西側より1～22、南側よりA～Eと名称した。その区割りに沿って5ヶ所のトレンチ（8m×2m＝3ヶ所、6m×2m＝1ヶ所、9m×2m＝1ヶ所）で確認調査を行った。

その結果、縄文時代後・晩期の遺物がⅢ層から、早期の遺物がⅣ・Ⅴ層から出土した。また、Ⅶ層の粘質土からは旧石器時代の遺物が出土した。

確認調査の成果により、平成4年11月24日から緊急調査を行った。

約2700㎡の範囲で、約5000点の遺物が出土した。Ⅰ層下部からは、青磁・須恵器・土師器等が出土した。Ⅲ層の土器は上部が縄文時代後期・晩期のもので、黒色研磨土器・組織痕文土器が主体となっている。下部では壺式土器がみられた。土器片が1179点、石器及び石片が361点、礫が325点出土している。石器は、石鏃・石匙・磨石・石皿・砥石・剥片等が出土した。砥石は、縄文時代晩期のもので、玉製作に用いられたものと思われる。

Ⅳ・Ⅴ層の土器は縄文時代早期のもので、平椀式・前平式土器が主体である。Ⅳ層は、土器片が266点、石器及び石片が54点、礫が468点、Ⅴ層は土器片が33点、石器及び石片が6点、礫が207点出土している。石器は、石鏃・石皿・剥片が出土した。

縄文時代の石器の石材は、黒曜石・チャート・頁岩・鉄石英・水晶・安山岩・砂岩等が使用されている。

Ⅶ層からは、旧石器時代の遺物が約1600点出土した。石鏃・石槍・細石刃核・細石刃などであり、5ヶ所のブロックから出土した。石材は黒曜石を主体とするが一部チャート・鉄石英等も使用されている。

遺構として、縄文時代から集石5、土坑9、溝状遺構1が検出されている。

3月26日で、平成4年度の調査は終了したが、2・3区の道路敷きの部分まで遺跡が広がることから平成5年度まで調査を延長した。

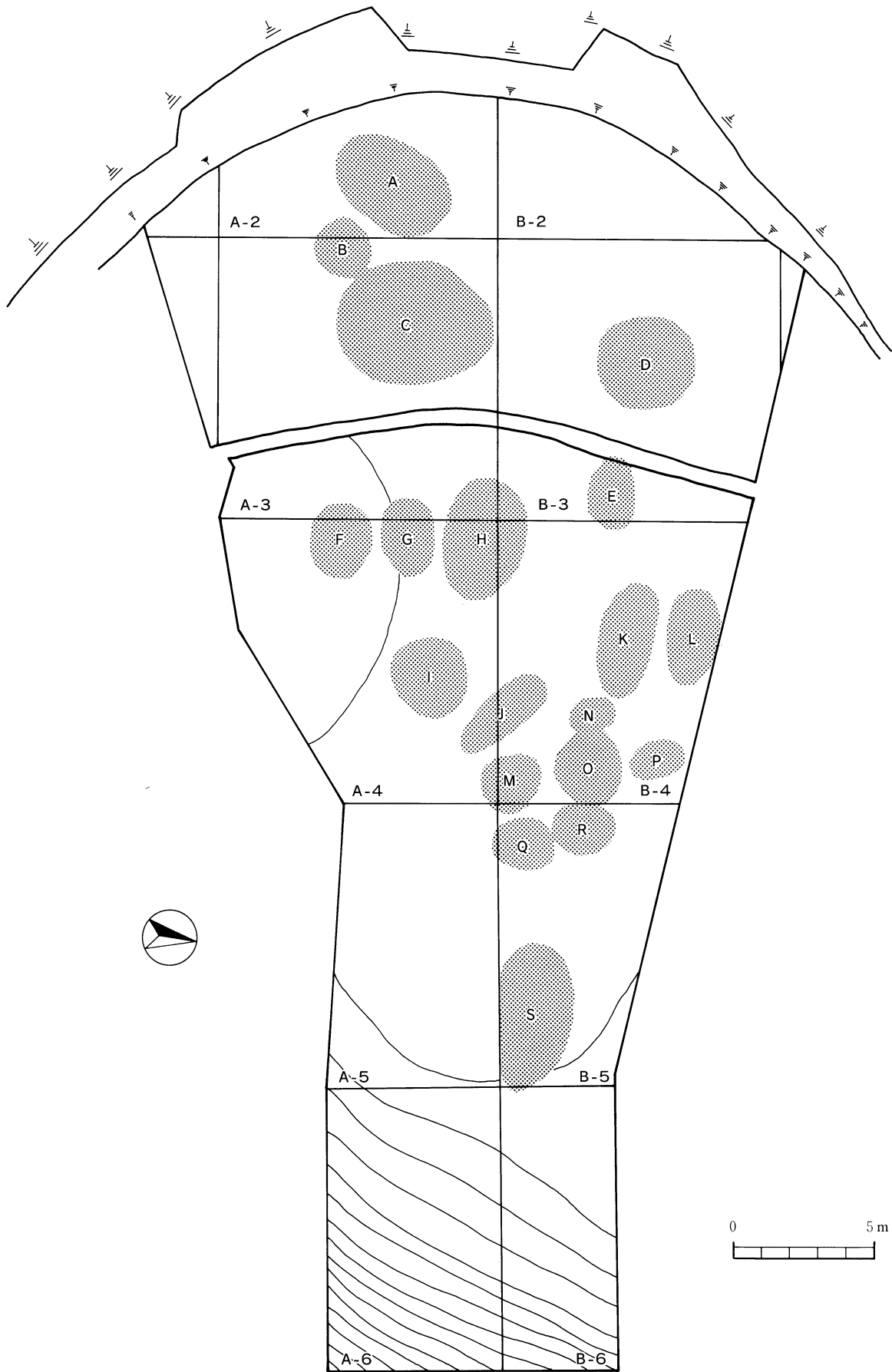
平成5年度は6月1日から7月15日まで緊急調査を行った。

道路敷きの約300㎡の調査であり、Ⅵ層の薩摩火山灰までは削平されていた。

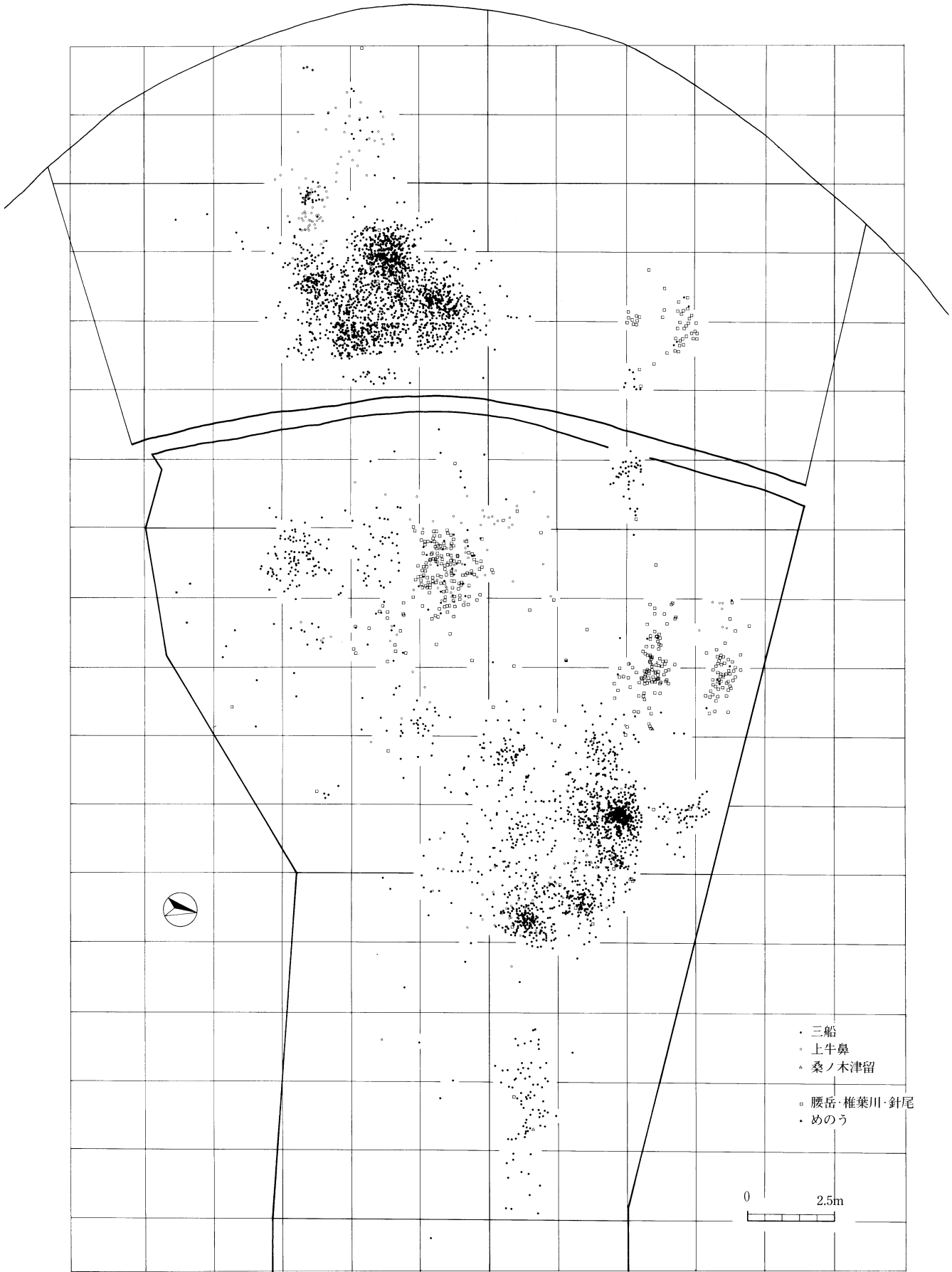
出土遺物は、Ⅶ層からのもので前回と合わせて約4600点の遺物が出土した。また、A-2区から20個の砂岩を利用した礫群が検出した。



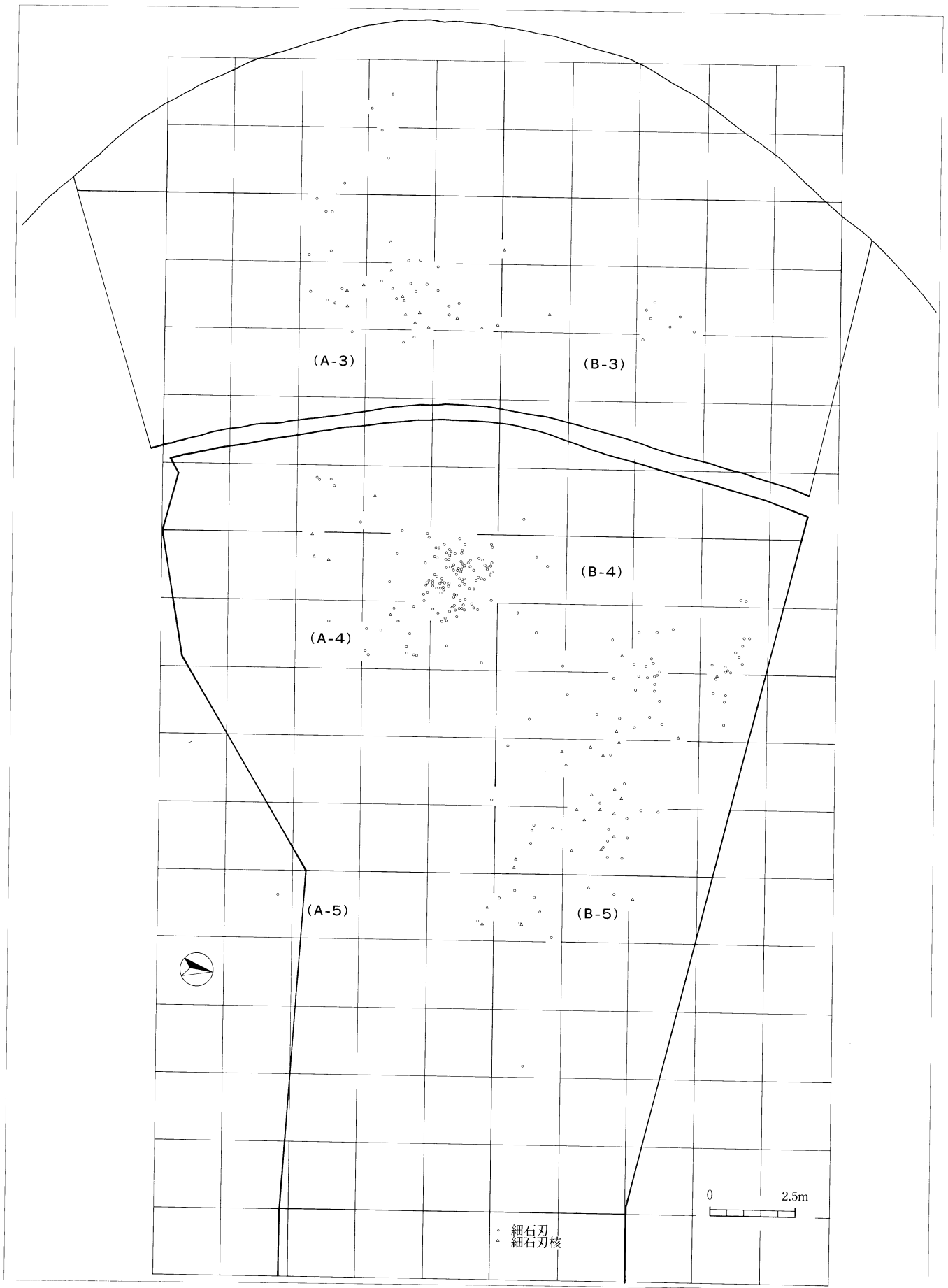
第8図 柘堀遺跡地形図



第9図 ブロック分布図



第10図 石材ブロック別分布図



第11図 細石刃・細石刃核出土分布図

## 第2節 旧石器時代

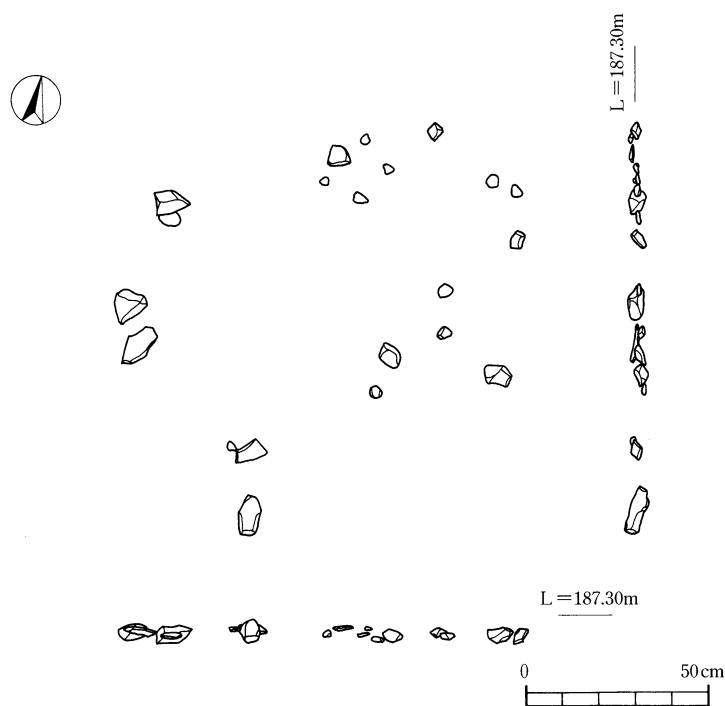
### 1 遺構

#### 礫群 (第12図)

A-2区Ⅶ層に検出され、約1mの範囲に21個の大小の砂岩製の角礫が点在している。礫群としての集中度は少なく、掘り込み、炭化物、焼石などは確認できなかった。

#### ブロック (第9図)

2区～5区にかけてⅦ層から遺物集中箇所(ブロック)がみられた。計19ヶ所のブロックが検出され、遺物出土数などは第4表にまとめた。



第12図 礫群

### 2 遺物

Ⅶ層から旧石器時代の遺物4578点が出土した。19ヶ所のブロック(遺物集中箇所)がみられ、それぞれ第4表に表した遺物が出土している。器種には、細石刃核48点、ブランク3点、細石刃246点、調整剥片4点、三稜尖頭器4点、台形石器1点、加工痕のある剥片4点、スクレイパー11点、剥片702点、碎片3555点であった。

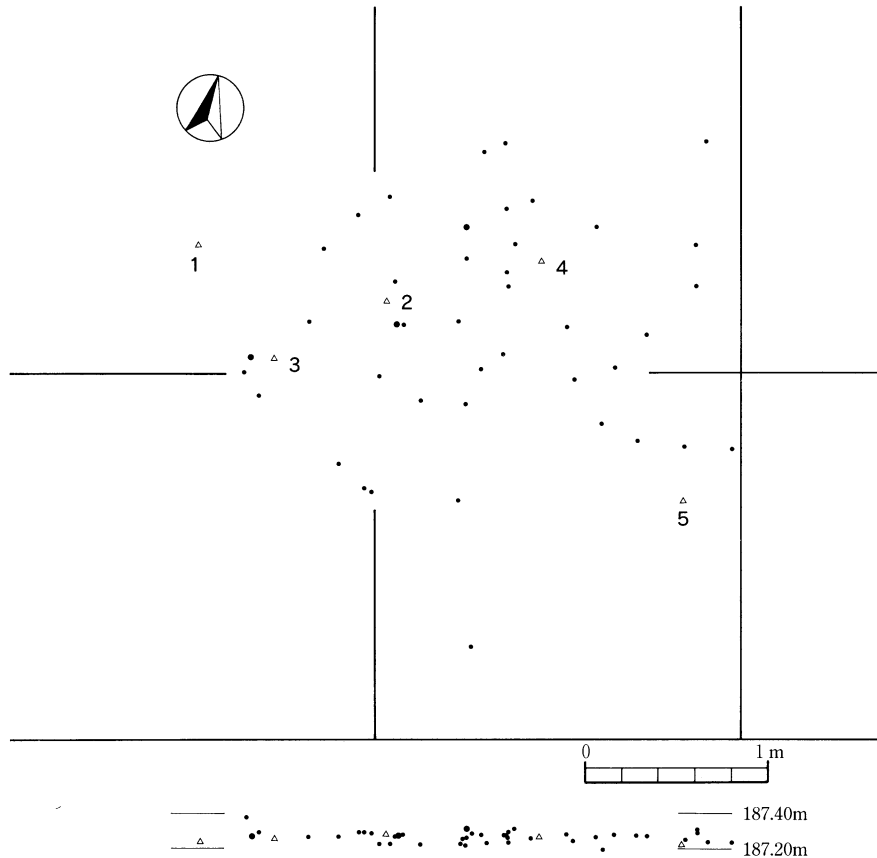
石材は、黒曜石・頁岩・チャート・硅質凝灰岩などであり、黒曜石は肉眼的観察により県内産の三船、上牛鼻・平木場、桑ノ木津留、県外産の腰岳、針尾などがみられた。

#### 石材

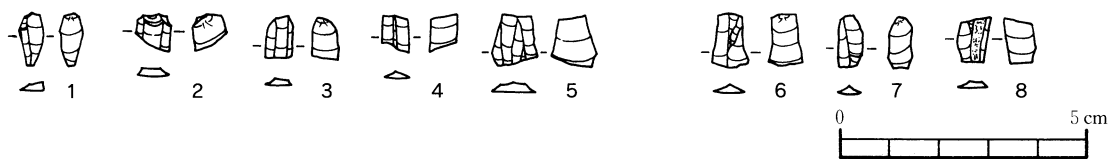
本遺跡の石器に用いられた石材には黒曜石、安山岩、硅質凝灰岩、頁岩、チャート等があり、黒曜石については肉眼的観察によって下記のとおり分類した。

黒曜石三船…黒色を呈する黒曜石であり、気泡が多く県内では根占町長谷、鹿児島市三船、大口

市日東・猩々・五女木などにあるが、本遺跡の黒曜石は、鹿児島市吉野町三船原産の特徴がみられるため三船原産とした。



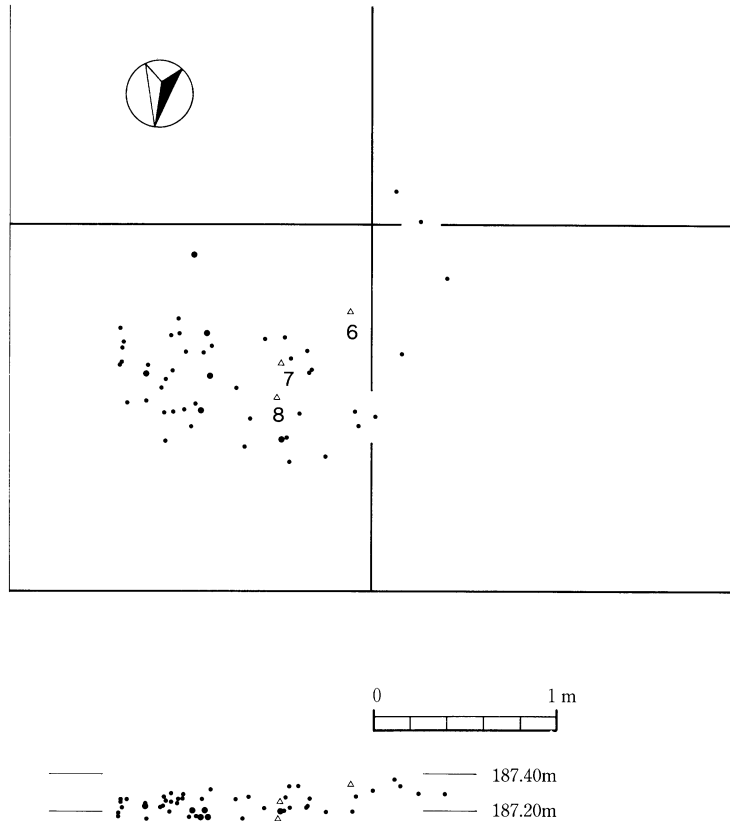
第13図 Aブロック遺物出土状況



第14図 A・Bブロック出土石器

三船の原石は、強く溶結した柱状節理の発達した吉野火砕流の中にレンズ状の黒曜石が含まれている。黒曜石は灰色っぽい黒い線がはいることもある。

黒曜石上半鼻…ガラス質が弱く、一見石炭を思わせるものである。風化が著しく進み、淡黒色を呈するが内面は真っ黒であり光を通さない。気泡は少なく軽石が若干混じる良質の黒曜石である。褐色のベルトが入ることもある。薩摩郡榎脇町上半鼻、日置郡市来町平木場の原石と推定される。黒曜石腰岳…ガラス質で黒色を呈するもので、気泡が少なく良質の黒曜石である。佐賀県腰岳の



第15図 Bブロック遺物出土状況

原石と推定される。

黒曜石針尾…ガラス質が弱く、灰褐色を呈し光を通さない。気泡は少なく良質の黒曜石である。長崎県針尾島周辺の原石と推定される。

黒曜石椎葉川…ガラス質が弱く、暗褐色を呈し光沢がなく光を通さない。気泡の少ない黒曜石である。佐賀県嬉野町椎葉川の原石と推定される。

### Aブロック (第13図)

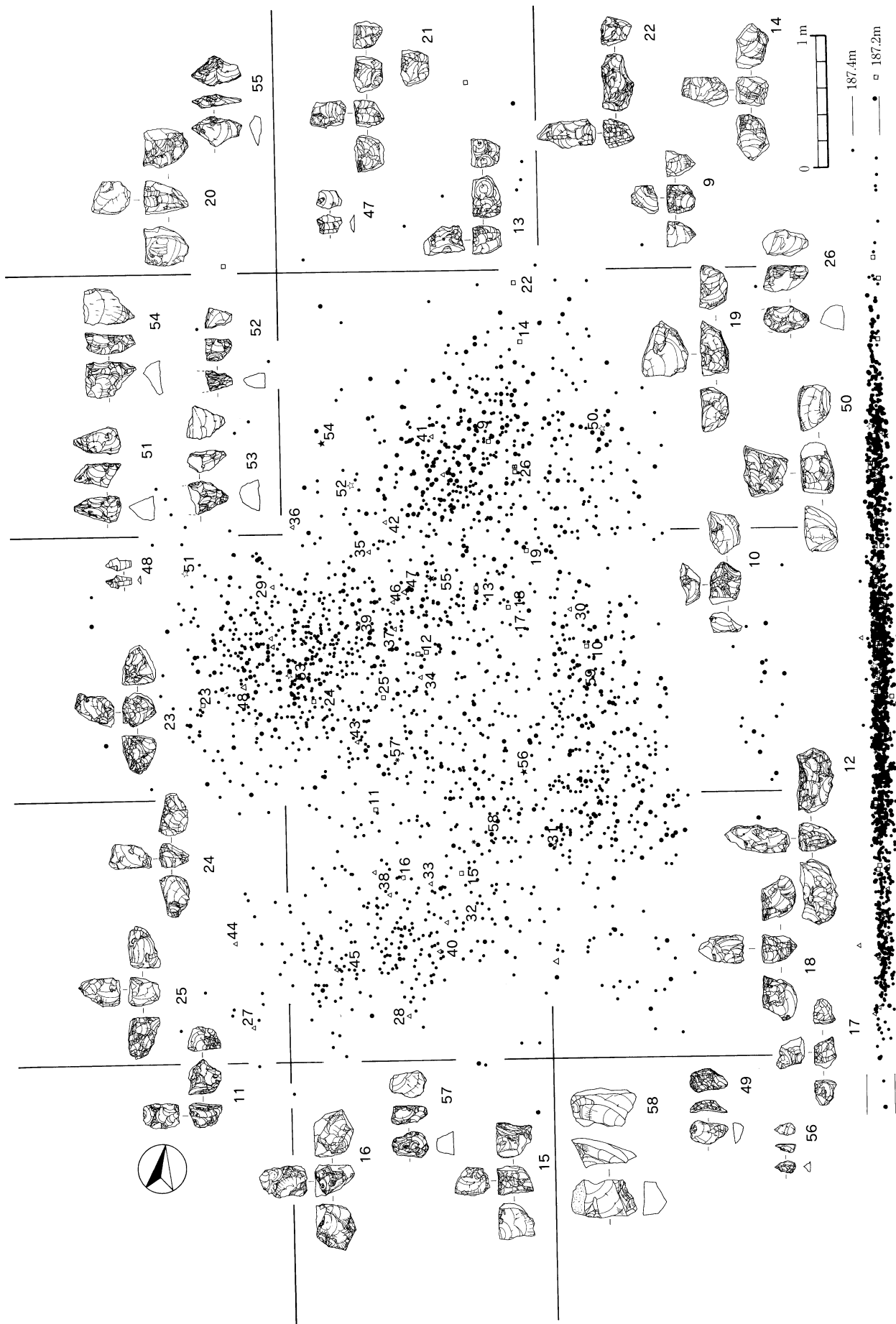
A-2区に検出され、約2.5mの円形の範囲に46点の遺物が出土した。

器種は、細石刃5点、剥片3点、碎片38点である。

石材は、県内産の三船16点、上牛鼻29点であるが、細石刃に1点だけ佐賀県嬉野町の椎葉川原産の黒曜石が出土している。

1～5は細石刃である。3が椎葉川原産の黒曜石を素材にしているが、その他は全て上牛鼻原産である。1は完形品であるが、他は分割されていて部位は、頭部1点、頭・中間部1点、中間部2点である。

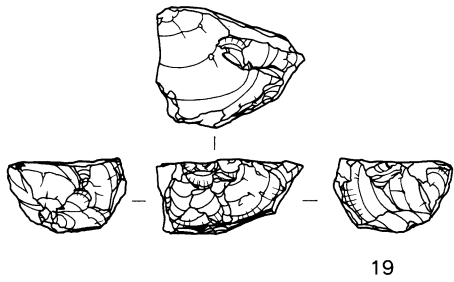




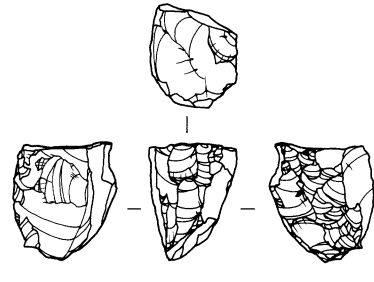
第16図 Cブロック遺物出土状況



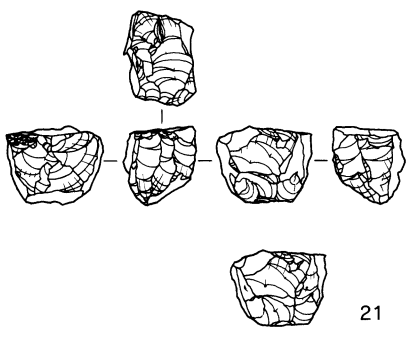
第17図 Cブロック出土石器（1）



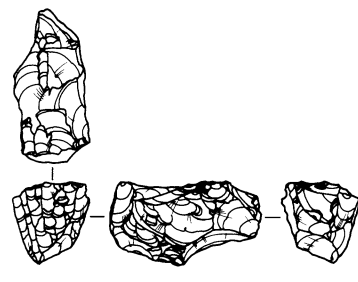
19



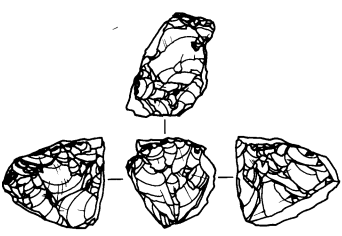
20



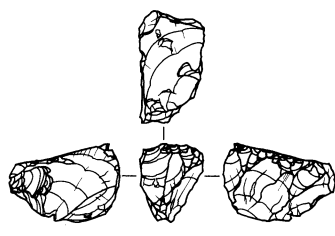
21



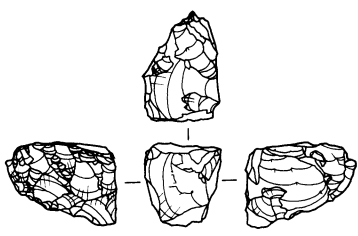
22



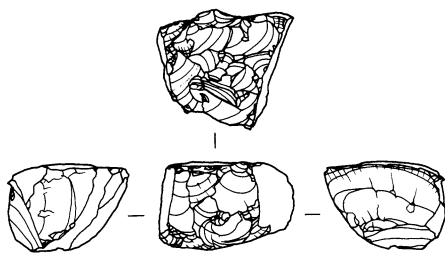
23



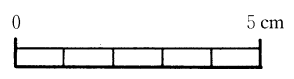
24



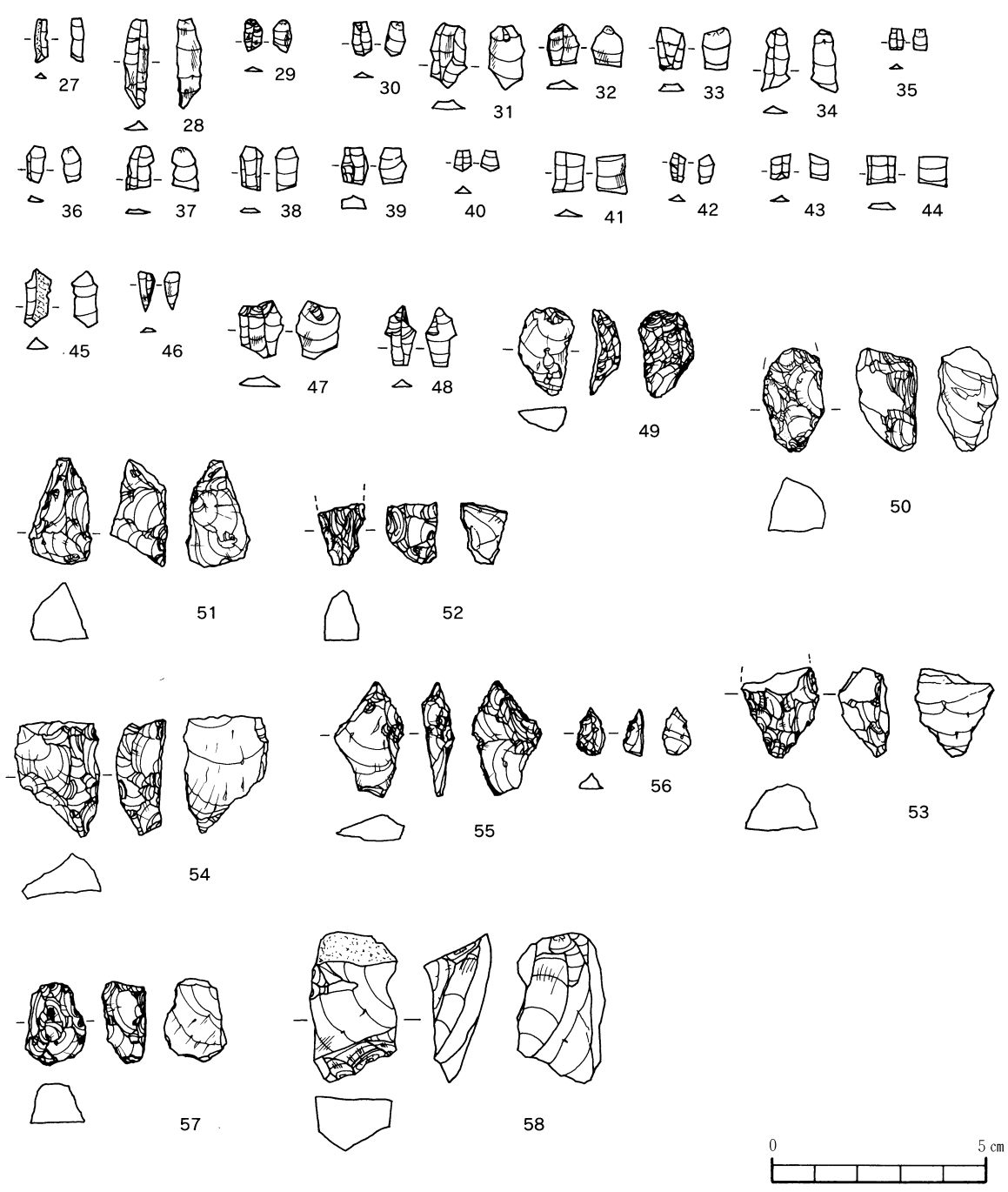
25



26



第18図 Cブロック出土石器 (2)



第19図 Cブロック出土石器 (3)

## Bブロック (第15図)

A-2, A-3区に検出され、約2mの円形の範囲に52点の遺物が出土した。  
器種は細石刃3点、剥片6点、碎片43点である。

石材は、県内産の上牛鼻が主で、三船原産の2点を除けば全て上牛鼻産の黒曜石である。  
細石刃は全て分割されていて、頭部を残すもの2点と中間部1点で上牛鼻原産の黒曜石を使用している。

## Cブロック (第16図)

A-3区に検出され、8m×5mの長円形の範囲に2069点の遺物が出土した。  
器種は細石刃核16点、ブランク2点、細石刃20点、調整剥片3点、三稜尖頭器4点、加工痕のある剥片3点、スクレイパー2点、使用痕のある剥片1点、剥片329点、碎片1688点である。  
石材は、佐賀県腰岳産の黒曜石も若干含まれるが、大半が県内産の三船の黒曜石である。

9~24は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。9は厚みのある剥片を素材にし、打面から簡単な成形を施している。打面は調整されていない。下縁部から剥出面に成形がなされている。

10は打面調整を施さないもので、主要部は欠損している。11は厚みのある剥片を素材とし、平坦な打面から行われる側面調整が、両側面から行われている。細石刃剥出に先立つて打面調整が施されている。12は礫を半割したものを素材とし、その時、得られた平坦面を打面にしている。側面は、打面からの調整剥離によって成形されている。細石刃剥離に先立つ打面調整を施し、側面は下縁からの調整により、舟底状の形態を呈している。13も礫を半割したものを素材にしたもので、その時得られた平坦面を打面に、打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。成形は打面両面からの調整剥離で行われている。14は打面が一部欠損しているが、礫を半割したものを素材にしている。打面からの調整剥片によって成形されている。下縁部も調整を行っている。15は、14同様の素材で、調整剥片によって形成されている。同時に下縁調整も施し、打面調整もなされている。16・17も同様の成形であるが、側縁部は打面からの調整剥片を施している。自然面を残し、打面調整は施されていない。18は一部欠損しているが、礫を半割した黒曜石を素材にし、打面からの調整剥片によって成形されている。打面調整は施されていない。19は下縁部を欠損しているが、やはり礫を半割した素材を用い、打面からの調整剥片により成形している。打面調整は行われている。20も15同様、礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。打面調整は施されていない。21も同様に平坦面を側面・打面にし、打面・側縁部からの調整剥片によって石核整形を施している。打面調整は施されていない。22は厚みのある剥片を素材とし、平坦な打面から行われる側面調整が、両側面から行われている。細石刃剥出に先立つて打面調整が施されている。23は礫を半割したものを素材とし、その時、得られた平坦面を打面にしている。側面は、打面からの調整剥離によって成形されている。細石刃剥離に先立つ打面調整を施し、側面は下縁からの調整により、舟底状の形態を呈している。24は礫を半割したものを素材にしたもので、その時得られた平坦面を打面に、打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。成形は打面両面からの調整剥離で行われている。25は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。打面調整は施されていない。

25・26はblankである。

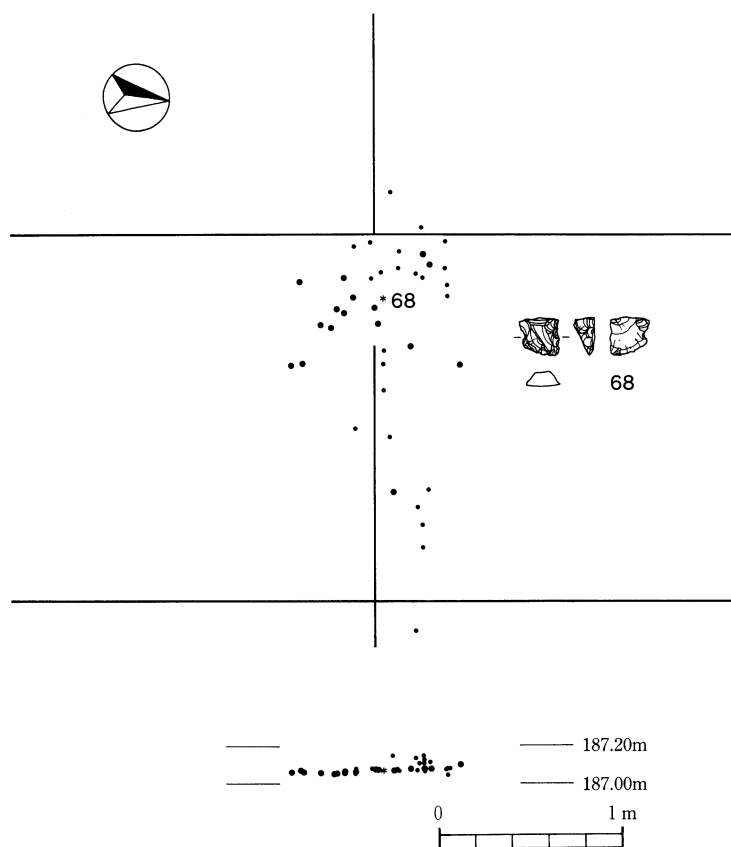
27～46は細石刃である。全て黒曜石（三船13点・上半鼻4点，腰岳3点）を素材にしている。部位は完形3点，頭・中間部9点，中間部6点，中間・先端部1点，先端部1点である。

47～49は調整剥片である。三船原産の黒曜石を素材にしたもので，全て打面再生剥片である。

50～53は三船原産の黒曜石を素材にした三稜尖頭器である。50は欠損しているが，一面に剥離面をもち，二面に調整剥離のあるもので，先端部は鈍い。断面はUをなすものである。51は両端部を欠損しているが，やはり，一面に剥離面をもち，二面に剥離面からの調整剥離のあるものである。断面三角形を呈する。52は一端部を欠損しているが，一面に剥離面をもち，二面に剥離面からの調整剥離のあるものである。調整剥片は丁寧に行われている。黒曜石の内部に入っている灰色の線の状態から51と同一個体の可能性もある。53は厚みのある縦長剥片を素材にしたもので，剥離面からの丁寧な調整剥片により器形を成形している。



第20図 Dブロック遺物出土状況

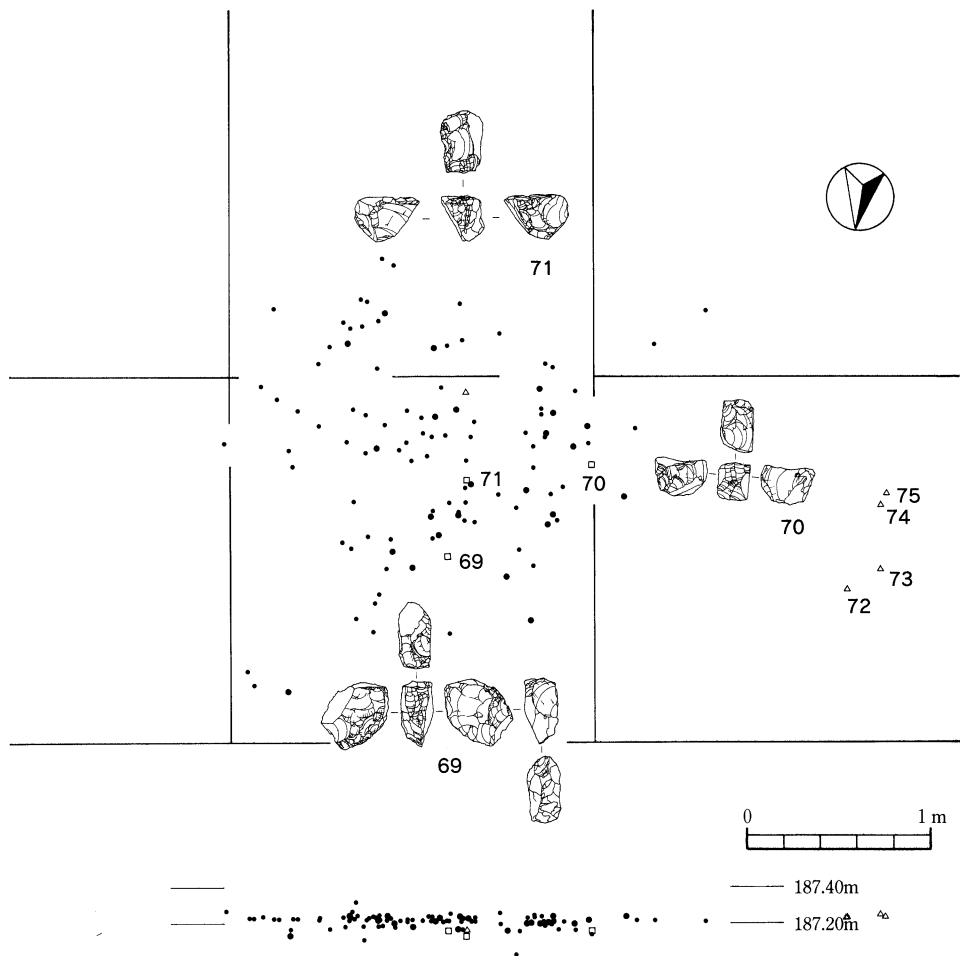


第21図 Eブロック遺物出土状況

54～56は加工痕のある剥片である。54は三船原産の黒曜石の縦長剥片を素材にしたもので、厚みのある部位にブランディングが施されている。55も三船産の黒曜石で側縁部にブランディングが施されている。56も三船産の黒曜石で、欠損しているが一部に調整剥離が施されている。

57・58は三船原産の黒曜石を素材にしたスクレイパーである。57は側縁部にブランディングを施したもので、刃部の角度からエンド・スクレイパーに分類される。58は横長剥片を素材にし、先端部に刃部を形成している。

59は縦長剥片であり、側縁部に使用痕が認められる。



第22図 Fブロック遺物出土状況

### Dブロック (第21図)

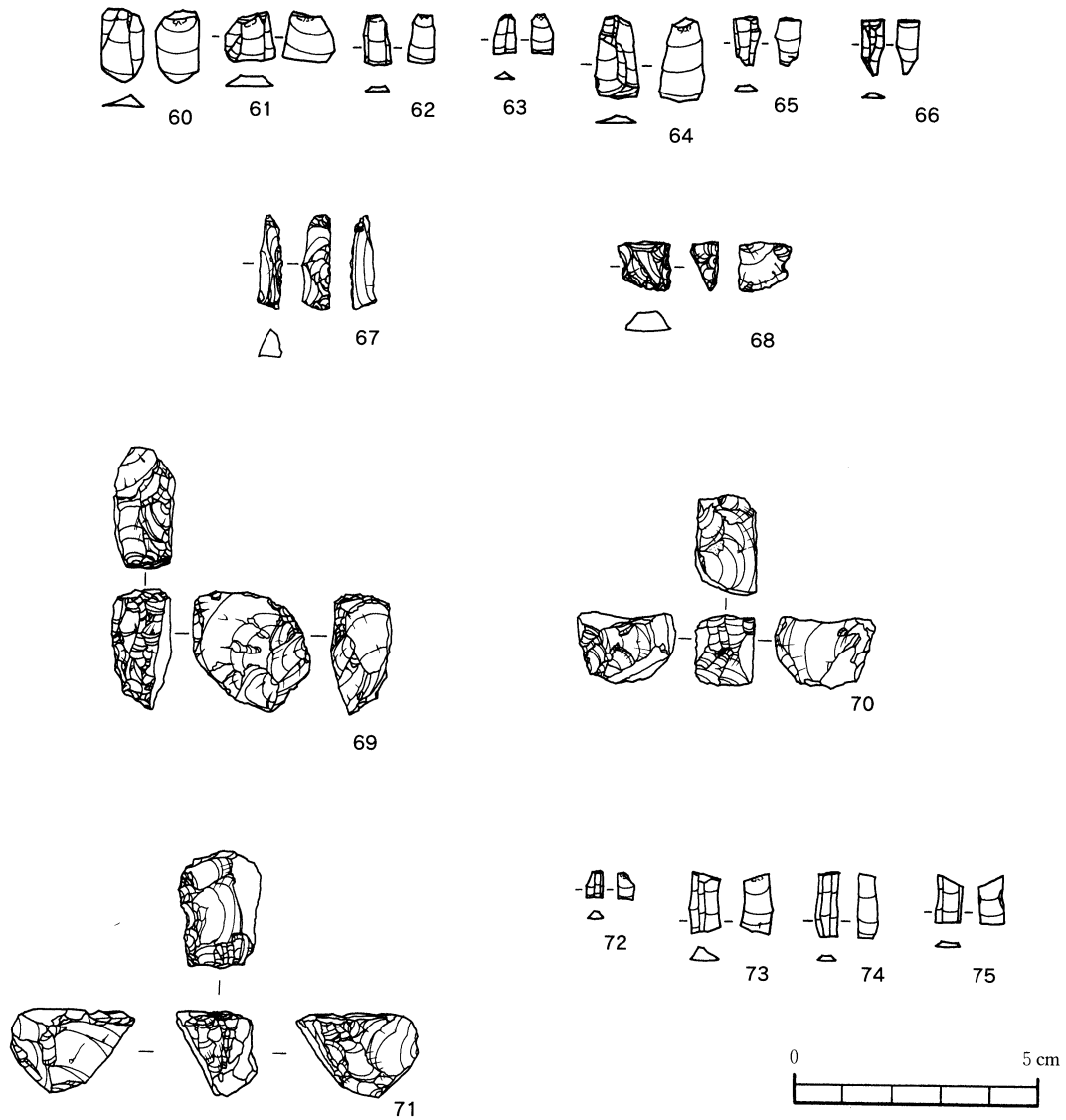
B-3区に検出され、3m×2mの長円形の範囲に64点の遺物が出土した。器種は細石刃7点、加工痕のある剥片1点、剥片22点、碎片34点である。

このブロックは石材に特徴がみられ、出土した黒曜石は長崎県針尾島原産の黒曜石が主で、三船原産のものが13点あるが、他は全て針尾原産のものである。

60～66は針尾原産の黒曜石を用いた細石刃である。部位は完形1点、頭部1点、頭・中間部3点、中間・先端部2点である。

67は針尾原産の黒曜石を素材にした加工痕のある剥片である。側縁部にブランディングを施したもので、打面調整のための打面調整剥片の可能性もある。





第23图 D·E·F出土石器

### Eブロック (第22図)

B-3区に検出され、2m×1mの長円形の範囲に41点の遺物が出土した。器種はスクレイパー1点、剥片15点、碎片24点である。石材は大半が県内の三船産の黒曜石である。

68は三船原産の黒曜石剥片を素材にしたスクレイパーである。二側縁部に片面からのプランティングが施されている。

### Fブロック (第23図)

A-3, 4区に検出され、3m×2mの長円形の範囲に112点の遺物が出土した。器種は細石刃核3点、細石刃4点、剥片23点、碎片82点である。石材は細石刃の3点を除き、全て三船原産の黒曜石である。

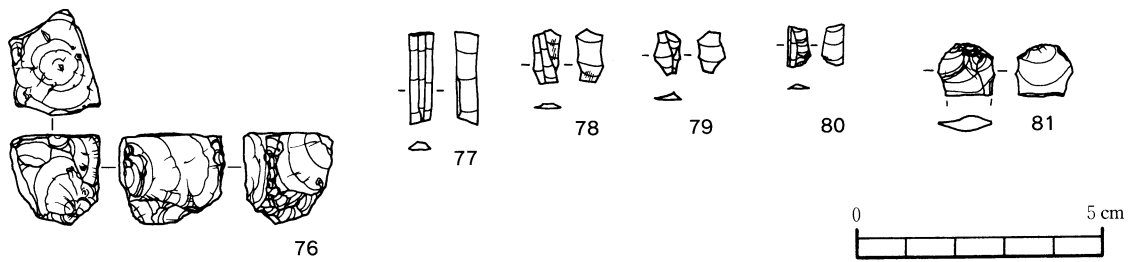
69~71は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。69は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。打面調整は施されている。70は打面を欠損しているが、やはり礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。打面調整は不明である。

71も礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。打面調整は施されている。

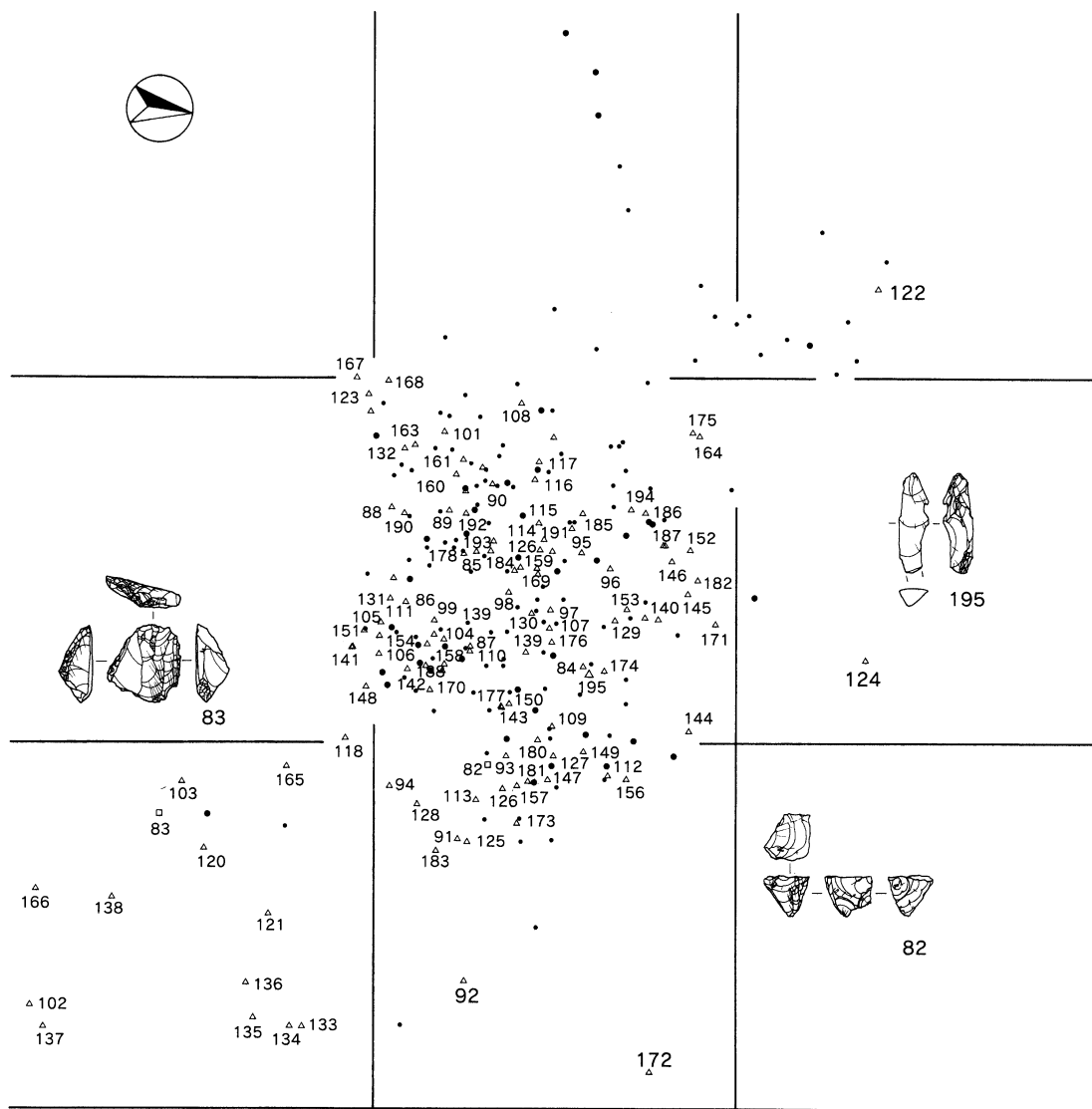
72~75は細石刃である。部位は、頭・中間部2点、中間部2点であり、石材は72が三船原産で、他は針尾原産の黒曜石である。



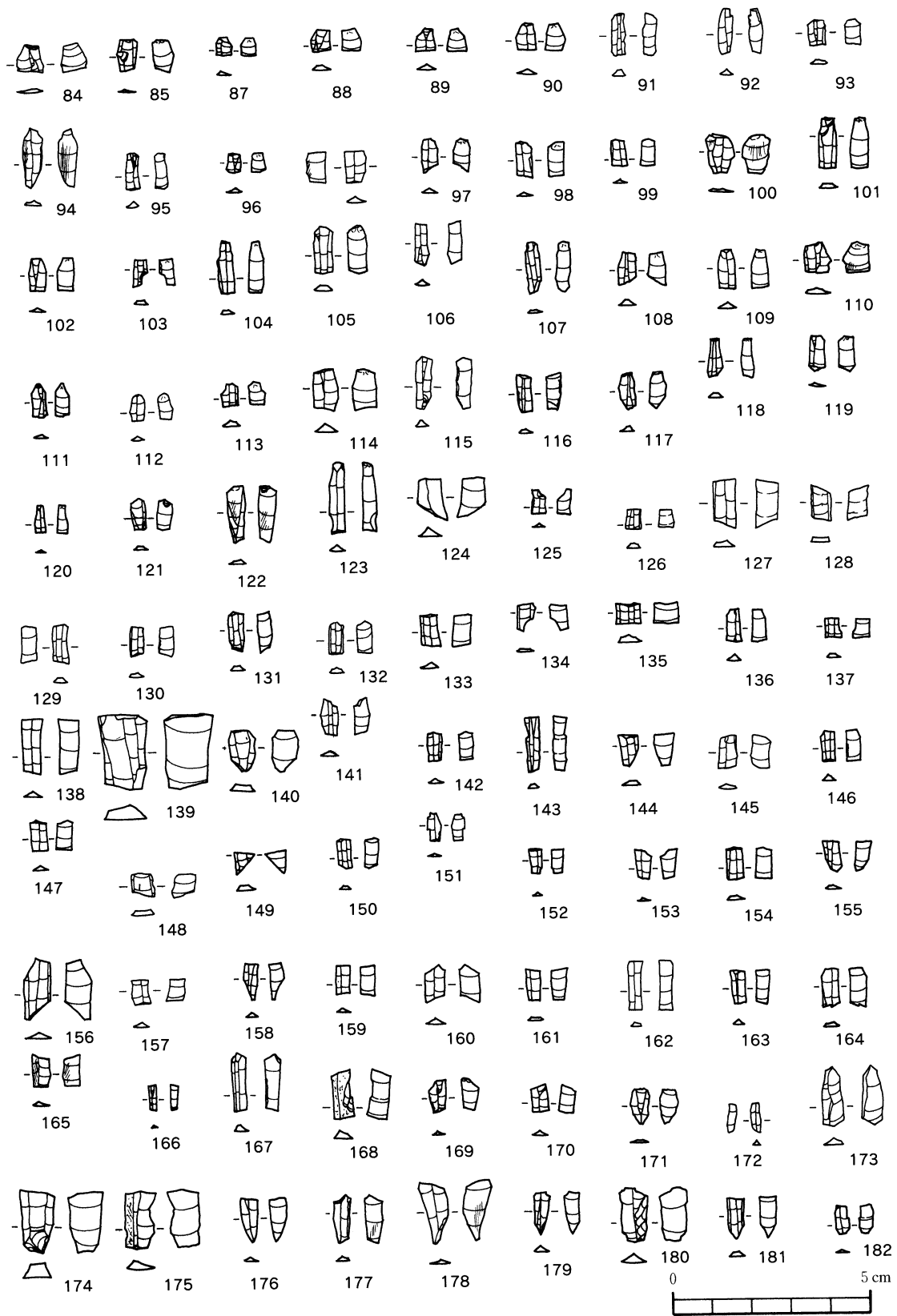
第24図 Gブロック遺物出土状況



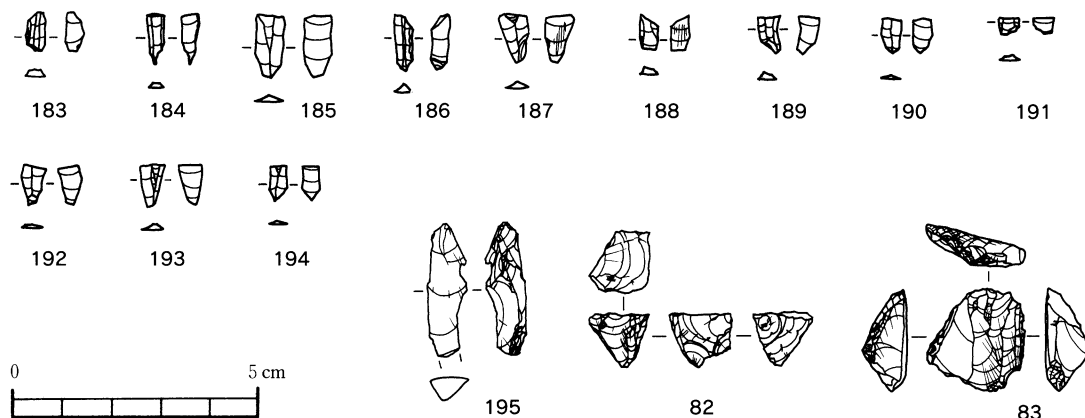
第25図 Gブロック出土石器



第26図 Hブロック遺物出土状況



第27図 Hブロック出土石器 (1)



第28図 Hブロック出土石器 (2)

### Gブロック (第25図)

A 3・4区に検出され、3 m×2 mの長円形の範囲に53点の遺物が出土した。

器種はブランク1点、細石刃4点、調整剥片1点、剥片9点、碎片38点である。

76は三船原産の黒曜石をブランクである。角礫を素材にし、一平坦面を打面にし、打面から調整剥離により成形を施しているものである。

77～80は黒曜石を石材に用いた細石刃である。部位は頭・中間部1点、中間部1点、中間・先端部1点、先端部1点である。石材は長崎県の針尾原産と県内の三船原産の黒曜石がある。

81は針尾原産の黒曜石を素材にした剥片である。平坦剥離によりバルブ部を残したものである。

### Hブロック (第27図)

A・B-3・4区に検出され、6 m×3 mの長円形の範囲に278点の遺物が出土した。

器種は細石刃核2点、細石刃122点 (図示111点)、調整剥片1点、剥片40点、碎片114点である。

石材は、針尾原産の黒曜石が主であるが、県内産のものや、腰岳の黒曜石も見られる。

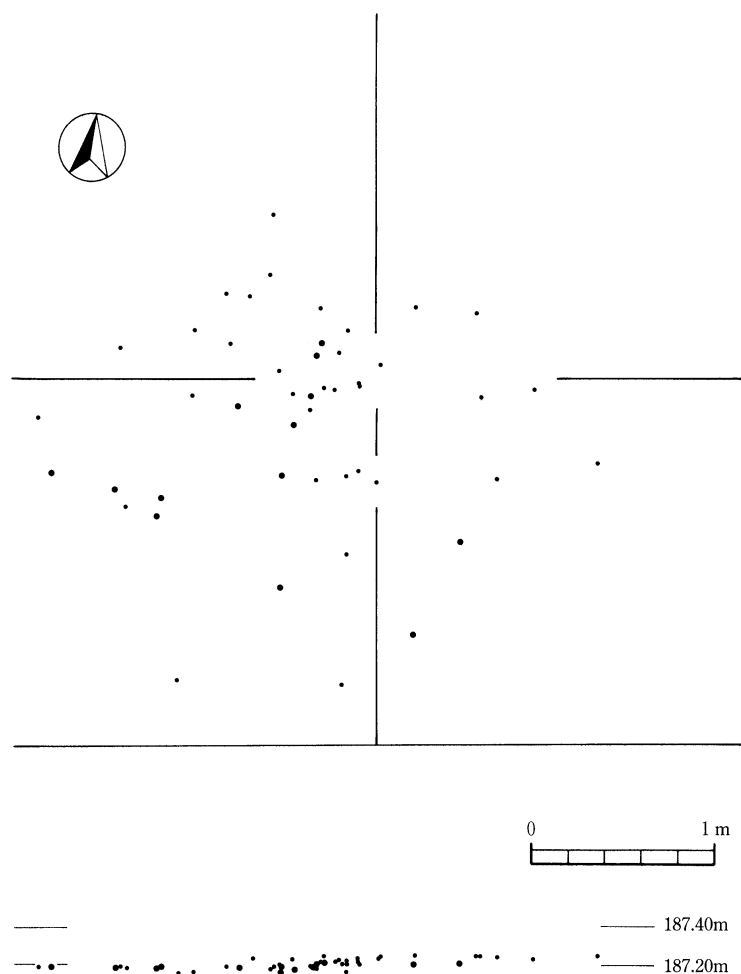
82・83は細石刃核である。82は三船の黒曜石を素材に用い、打面は欠損しているが、礫を素材にし、打面からの調整剥離で成形している。83は腰岳の黒曜石を素材にしたものである。

84～194は黒曜石を素材にした細石刃である。全て分割されていて、部位は頭部7点、頭・中間部33点、中間部47点、中間・先端部16点、先端部8点である。石材は針尾原産の黒曜石が83点で、全体の75%を占めている。その他は腰岳原産13点、上牛鼻原産11点、三船原産4点である。針尾原産の黒曜石を素材にしたことから、このブロックの細石刃の部位に中間部が多くなったものと思える。針尾の細石刃核が出土していないが、この素材の細石刃は長めに取れる傾向がある。

195は調整剥片である。

ブロック別 出土遺物石材

	黒 曜 石						そ の 他
	三 船	上牛鼻	腰 岳	針 尾	桑ノ木	椎葉川	
A	16	29				1	
B	2	49					
C	1996	13	2	11	49		
D	13			53			
E	40			1			
F	100			3			
G	50			1			鉄石英1
H	37	49	13	284			硅質凝灰岩1
I	39	4					
J	97		1	4			鉄石英1, 硅質凝灰岩1
K	14	2		136	2		
L	5	1		81			
M	126	4					
N	87			4			
O	628	8	1	1	6		
P	47	2		2			
Q	227	30		2			硅質凝灰岩1
R	195	9	1	4			硅質凝灰岩1
S	82	1	1	1			



第29図 Iブロック遺物出土状況

### Iブロック (第29図)

A-4区に検出され、2m×2mの円形の範囲に46点の遺物が出土した。器種は剥片13点、碎片33点である。石材は、三船原産の黒曜石が主であるが、上牛鼻原産の黒曜石も4点ほど出土している。

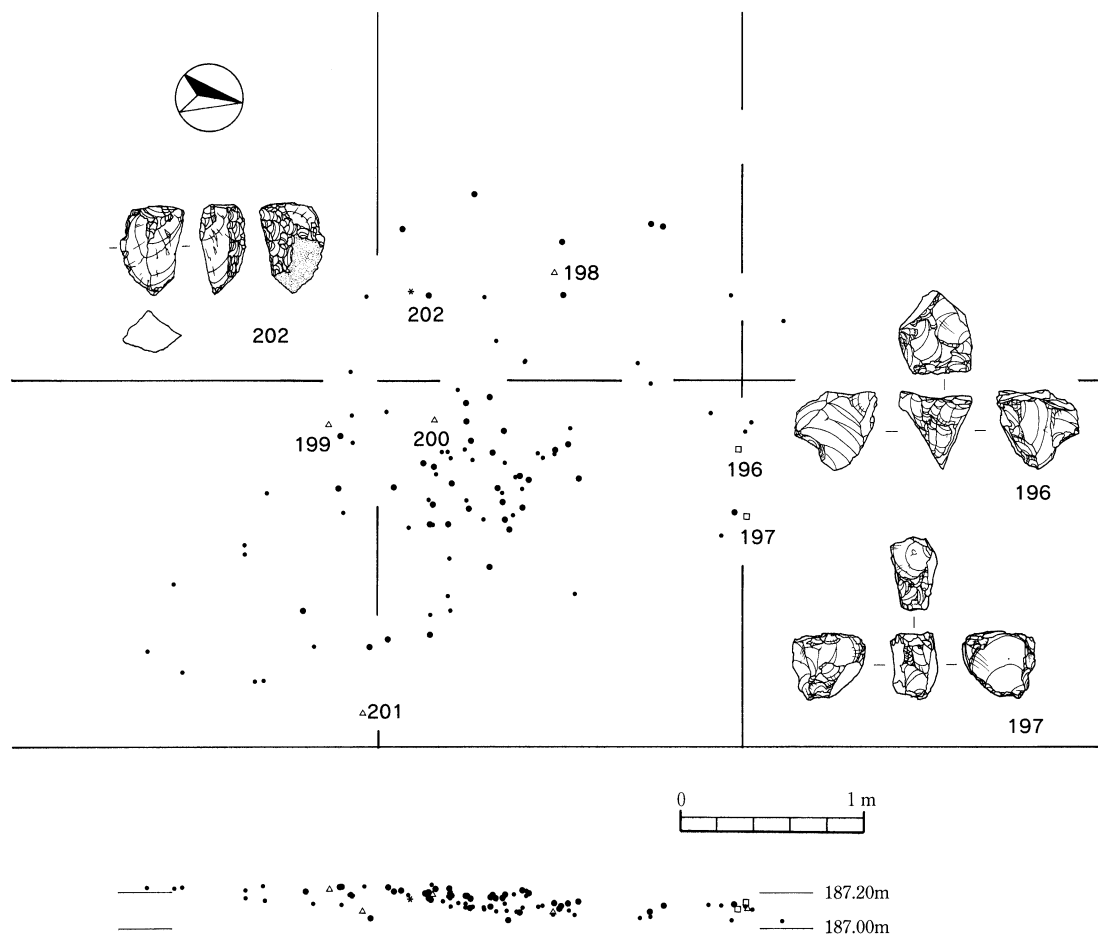
### Jブロック (第30図)

A・B-4区に検出され、4m×2mの長円形の範囲に101点の遺物が出土した。器種は細石刃核2点、細石刃4点、スクレイパー1点、剥片41点、碎片53点である。

石材は、三船原産の黒曜石が主であるが、腰岳・針尾産も見られ、また1点ではあるが、鉄石英・珪質凝灰岩も出土している。

196・197三船原産の黒曜石を石材に用いた細石刃核である。196の石核成形は平坦な打面から両側面に簡単に調整剥離が行われている。作業面は逆三角形を呈し、打面調整が施されている。197は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。下縁調整も行われ、打面調整も施されている。





第30図 Jブロック遺物出土状況

198～201は黒曜石を石材に用いた細石刃である。198・199は針尾産のもので、部位は頭・中間部と中間部である。200・201は腰岳原産の素材で、部位は中間・先端部と先端部である。

202は三船の黒曜石転石を素材にしたスクレイパーである。自然面を残した厚みのある剥片を素材にし、一側縁部に丁寧なブランディングを施している。

### Kブロック (第31図)

B-4区に検出され、4m×2mの長円形の範囲に149点の遺物が出土した。

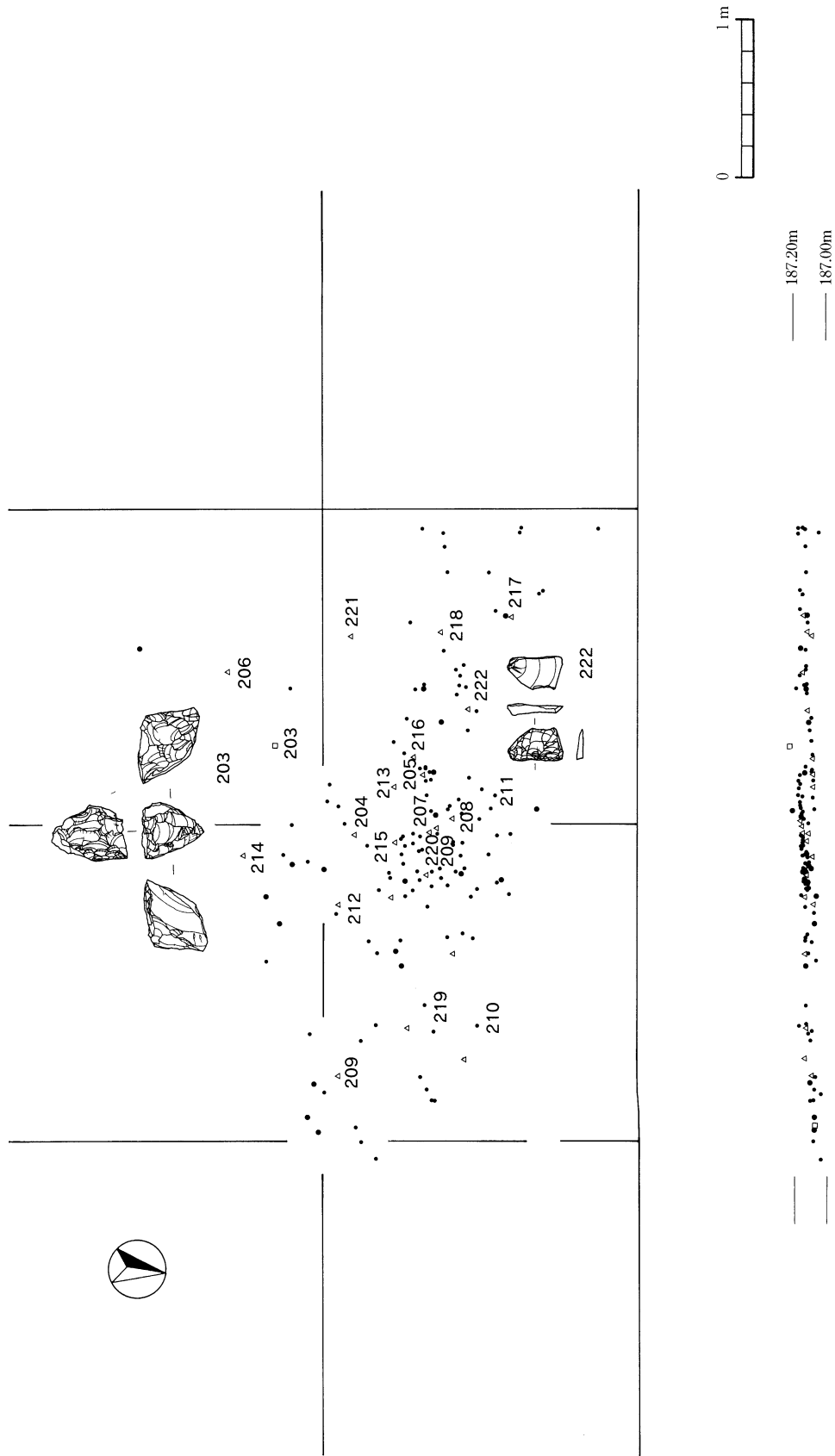
器種は細石刃核1点、細石刃18点、調整剥片1点、剥片19点、破片110点である。

石材は、長崎県針尾の黒曜石が主であるが、三船・上牛鼻産も若干みられる。

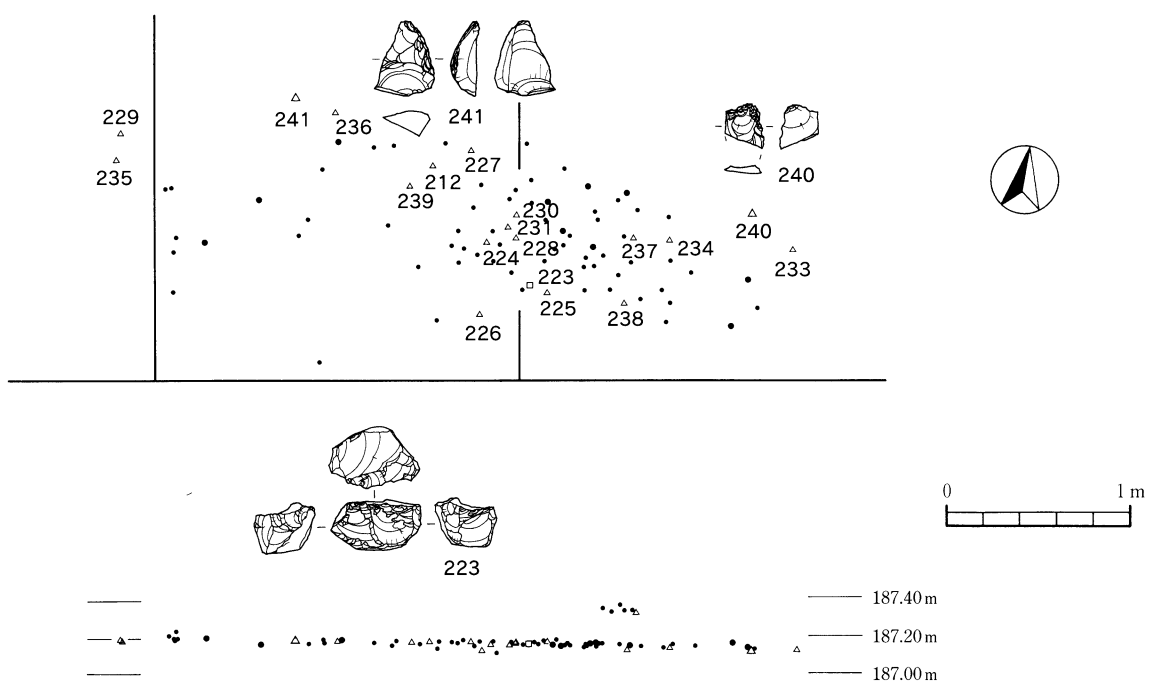
203は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。下縁調整も行われ、打面調整も施されている。作業面は逆三角形を呈している。

204～221は全て針尾原産の黒曜石を用いた細石刃である。細石刃は分割されていて、部位は頭部2点、頭・中間部4点、中間部5点、中間・先端部4点、先端部3である。

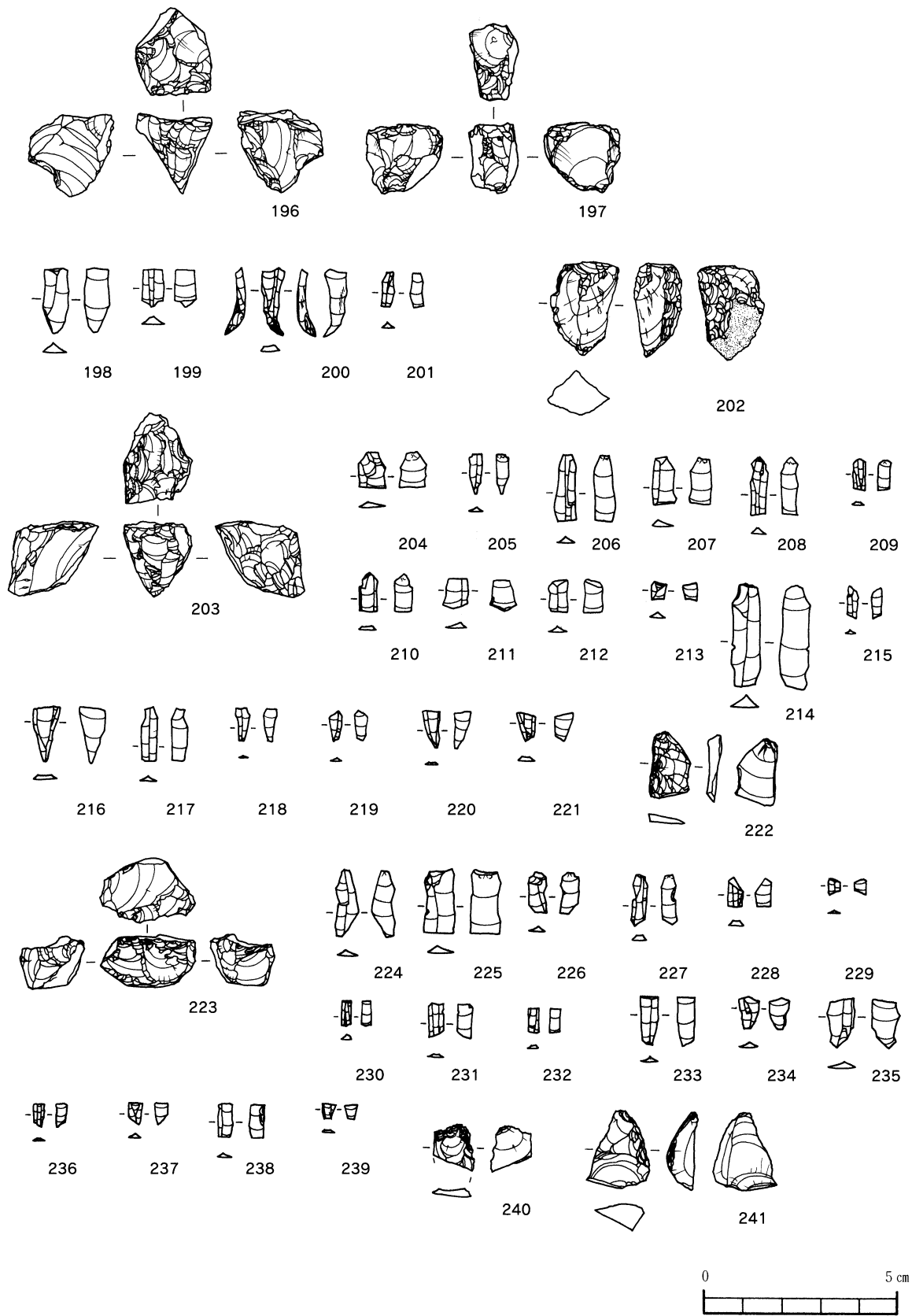
222は打面調整剥片である。



第31図 Kブロック遺物出土状況



第32図 Lブロック遺物出土状況



第33図 J・K・Lブロック出土石器

### Lブロック（第32図）

B-4区に検出され、4m×1.5mの長円形の範囲に86点の遺物が出土した。

器種は細石刃核1点、細石刃16点、調整剥片2点、剥片9点、碎片58点である。

223は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。打面を欠損しているが、礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。

224～239は全て針尾原産の黒曜石を素材にした細石刃である。224が完形で、後は半割し、部位は頭・中間部3点、中間部5点、中間・先端部4点、先端部3である。

240・241は針尾産の黒曜石を素材にした再生調整剥片である。

### Mブロック（第34図）

A・B-4区に検出され、4m×2mの長円形の範囲に130点の遺物が出土した。

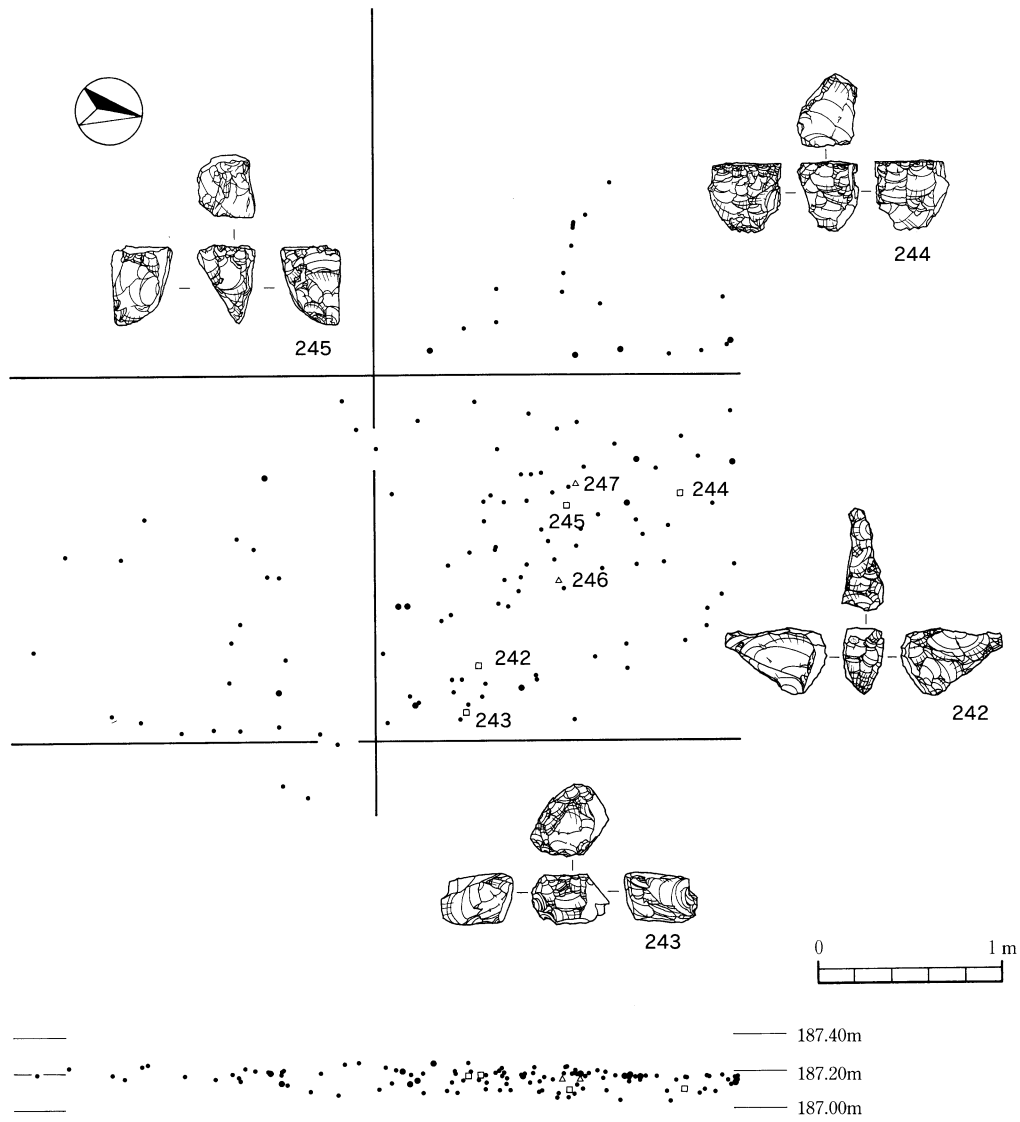
器種は細石刃核4点、細石刃2点、剥片12点、碎片112点である。

石材は、全て県内産のもので、上牛鼻産4点の外は三船原産の黒曜石である。

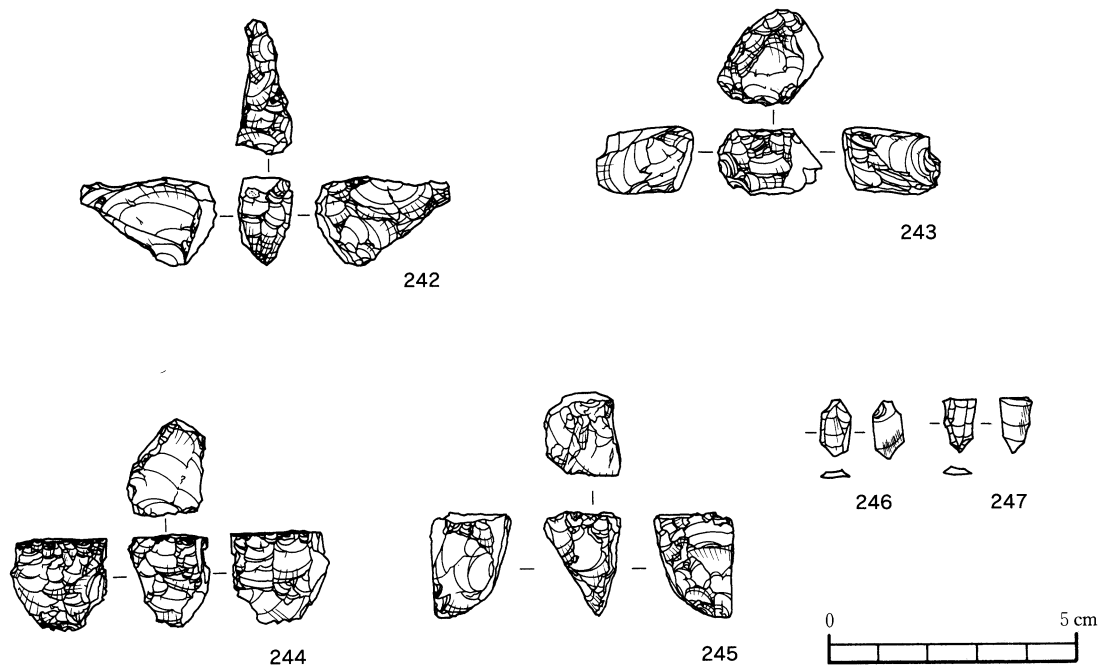
242～245は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。

242は打面・側面部が欠損したもので、礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面、側縁から調整剥片により成形している。243は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面にし打面側から調整剥片により成形している。打面調整も施されている。244は礫を半割したものを素材にし、平坦面を打面にして、打面からの調整剥片によって成形されている。打面調整は行われていないが、下縁調整を施している。245は244同様の形態であるが、断面形が逆三角形を呈している。

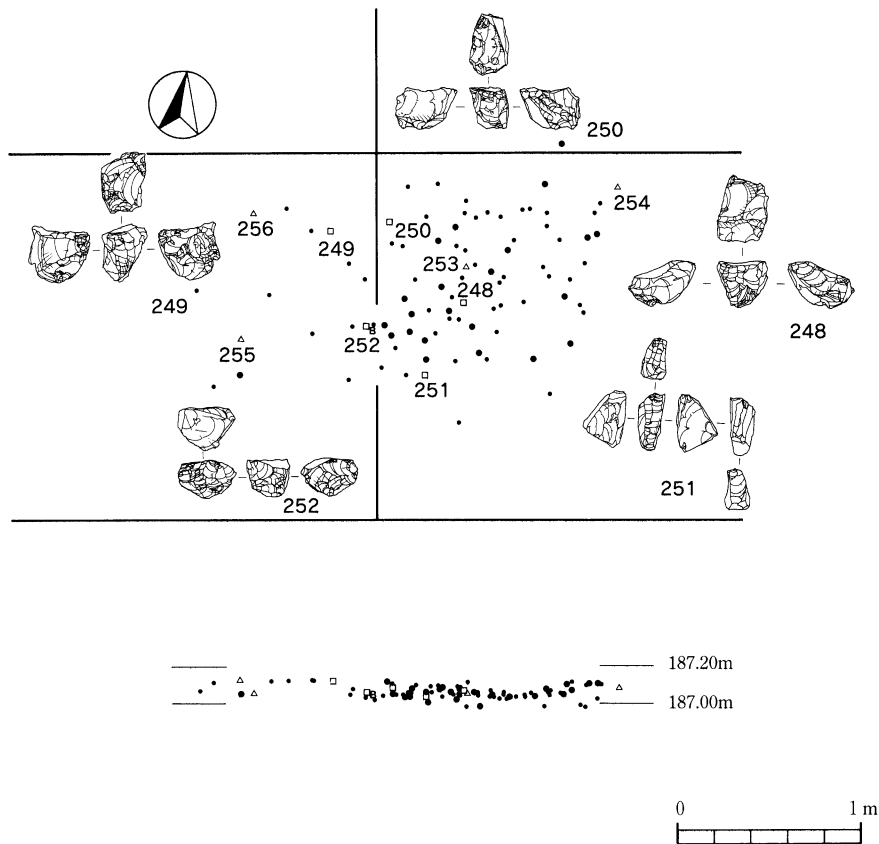
246・247の細石刃も三船原産の黒曜石である。部位は頭・中間部と中間・先端部である。



第34図 Mブロック遺物出土状況



第35図 Mブロック出土石器



第36図 Nブロック遺物出土状況

### Nブロック (第36図)

B-4区に検出され、3m×1.5mの長円形の範囲に91点の遺物が出土した。

器種は細石刃核4点、ブランク1点、細石刃5点、剥片23点、碎片58点である。

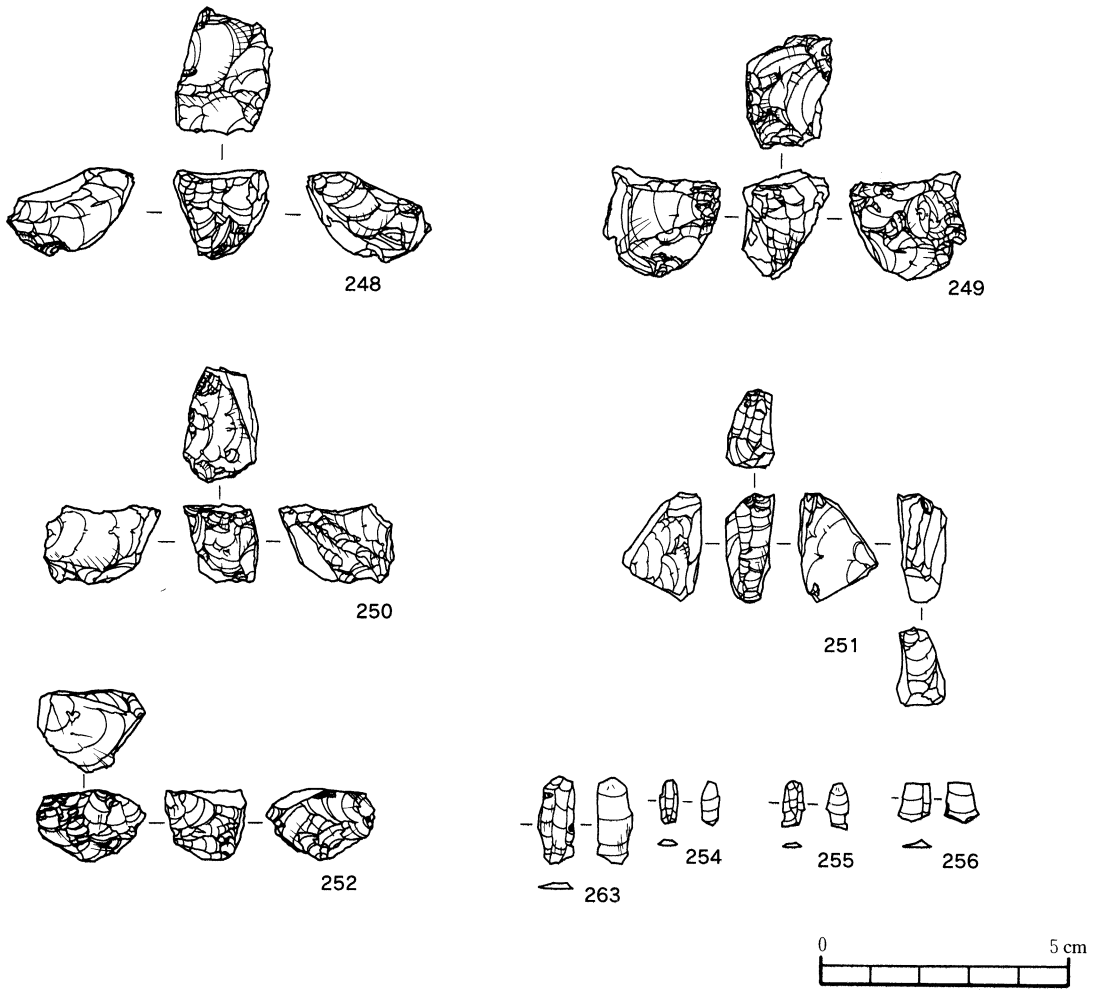
石材は、殆どが三船原産の黒曜石であるが、4点針尾原産の黒曜石もみられた。

248～251は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。248は249は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面から調整剥片により成形している。下縁調整も施され、打面調整が行われている。断面形は逆三角形を呈している。250は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面から調整剥片により成形している。打面調整も行われている。251はは細石刃剥出面は二面ある。

252は針尾原産の黒曜石を素材にしたブランクである。一部欠損しているが、礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面にし、打面から簡単な調整剥片により成形している。

253～256は細石刃である。三船産2点・針尾産3点である。全て分割されていて、部位は頭部・中間部3点、中間部2点である。

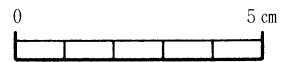
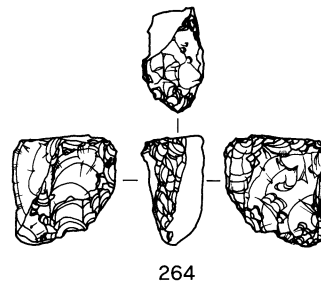
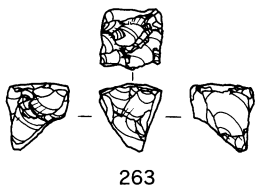
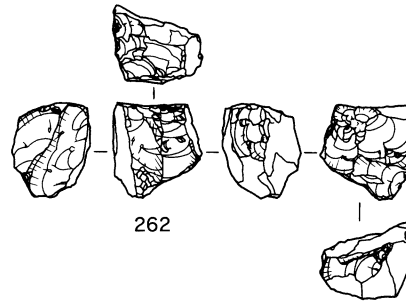
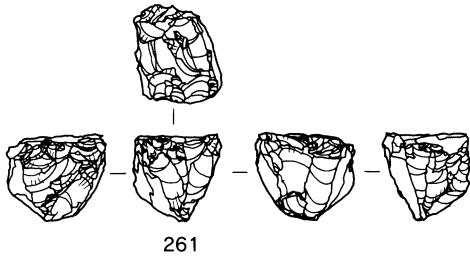
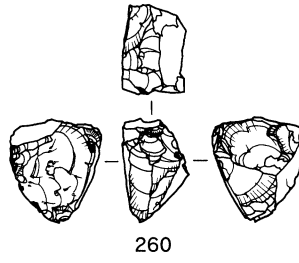
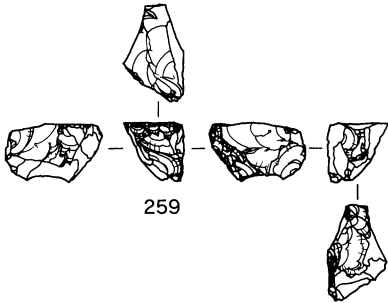
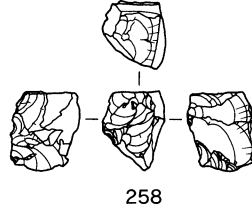
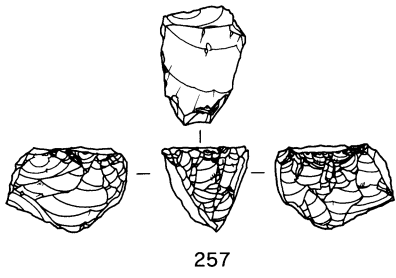




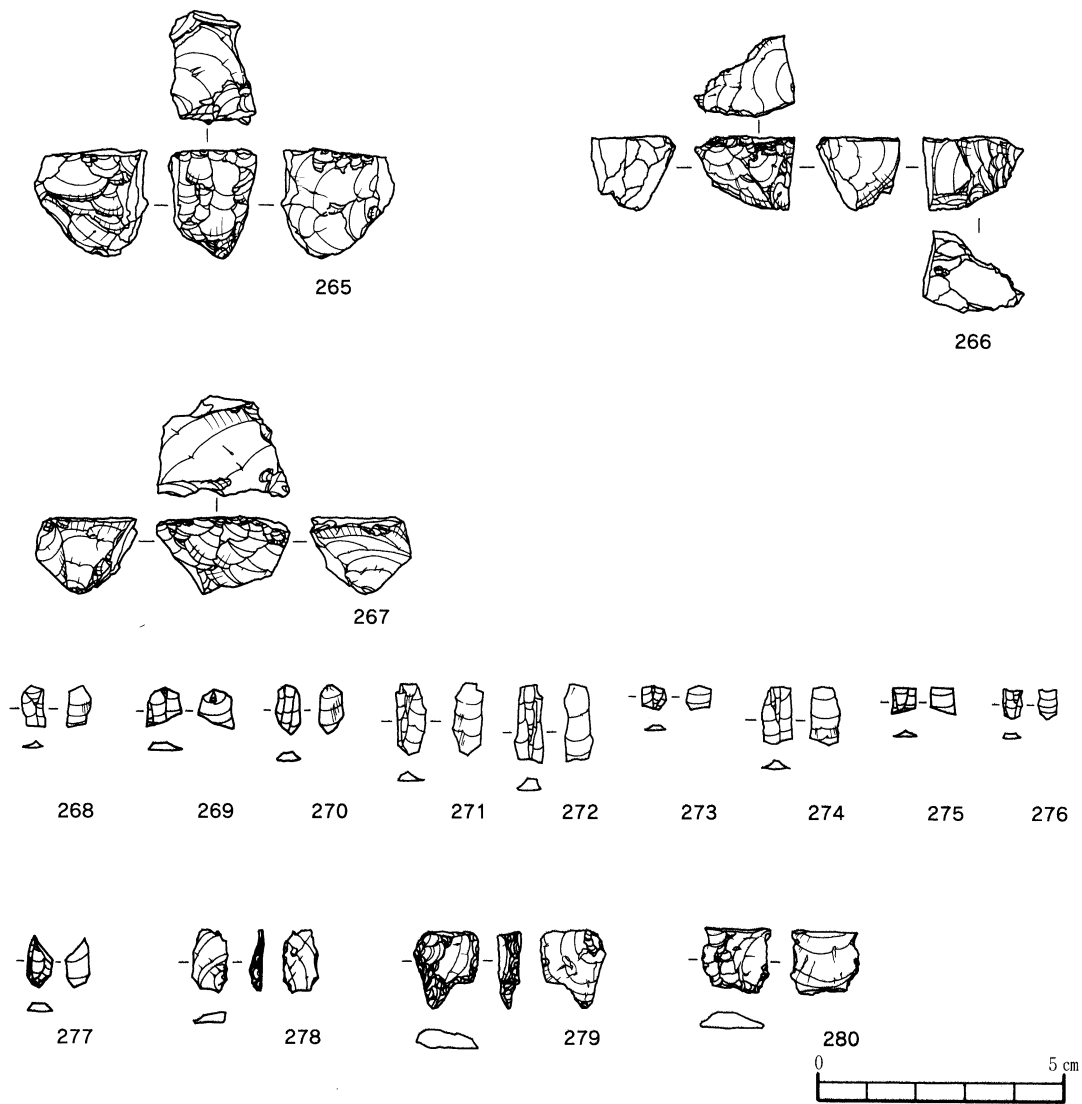
第37図 Nブロック出土石器



第38図 Oブロック遺物出土状況



第39図 Oブロック出土石器 (1)



第40図 Oブロック出土石器（2）

## 〇ブロック (第38図)

B-4区に検出され、3m×3mの円形の範囲に645点の遺物が出土した。

器種は細石刃核9点、ブランク2点、細石刃9点、加工痕のある剥片2点、スクレイパー1点、使用痕のある剥片1点、剥片85点、碎片536点が出土した。

257～265は細石刃核で、全て三船原産の黒曜石を素材にしている。257は細石刃剥出面が欠損している。礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面から調整剥片により成形している。打面からの調整剥離は丁寧に仕上げている。258は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし、打面から調整剥片により成形している。打面調整も行われている。259は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面にし、打面から簡単な調整剥片により成形している。260は打面が一部欠損しているが、厚みのある剥片を素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし、打面から調整剥片により成形している。打面調整も行われている。261は礫を半割し平坦な面を打面にし、打面からの丁寧な調整剥離を施して石核整形を行っている。細石刃剥出面は二面みられる。打面調整を行い、断面形は逆三角形を呈する。262は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面にし、打面から簡単な調整剥片により成形している。263は小型の細石刃核で、小礫を素材にし、打面および側面からの調整剥離により、石核成形を施している。打面調整はしている。284は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし、打面から調整剥片により成形している。打面調整も行われている。285は礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面から調整剥片により成形している。下縁調整は施されているが、打面調整が行われていない。

266・267はブランクであり、やはり三船の黒曜石を素材にしている。2点とも礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を側面・打面にし打面から調整剥片により成形している。しかし、製作途中で欠損したらしく細石刃剥出がみられない。

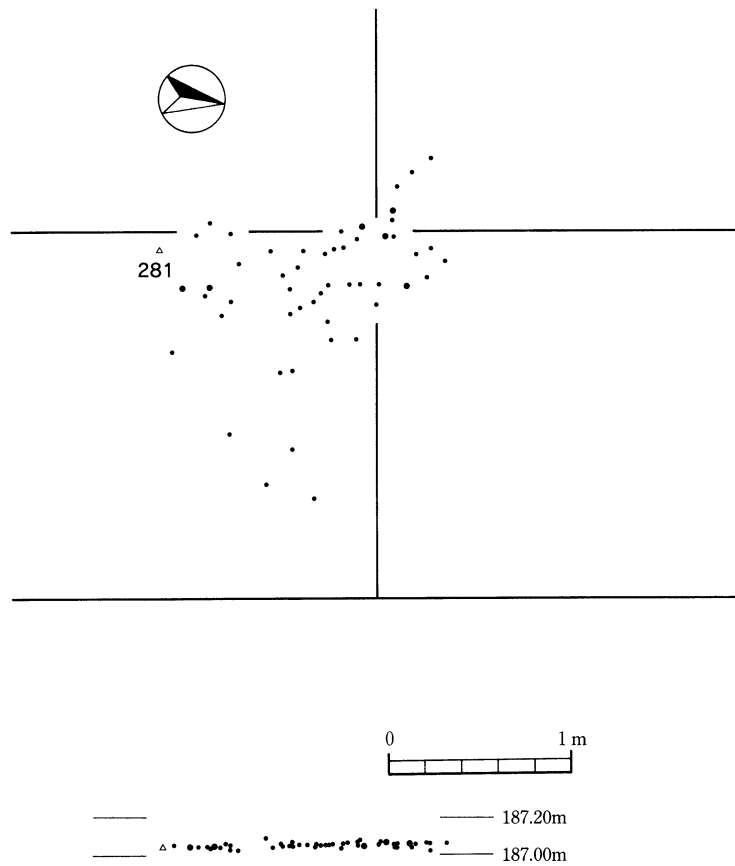
268～276は黒曜石を素材にした細石刃である。全て分割されていて、部位は頭部2点、頭・中間部3点、中間部3点、先端部1点である。石材は腰岳原産1点で、他は全て三船原産である。

277・278は加工痕のある剥片である。2点とも三船原産の黒曜石を素材にしている。

277は縦長剥片で側縁部にブランディングが施されている。278は横長の剥片で、台形石器を思わせるブランディングが一側縁部に施されている。

279はスクレイパーである。三船原産の黒曜石を素材に用い、一部欠落がみられるが、側縁部にブランディングを施し刃部を形成している。

280は剥片である。下部は欠損しているが、整形された縦長剥片である。両側縁部に使用痕が認められる。



第41図 Pブロック遺物出土状況

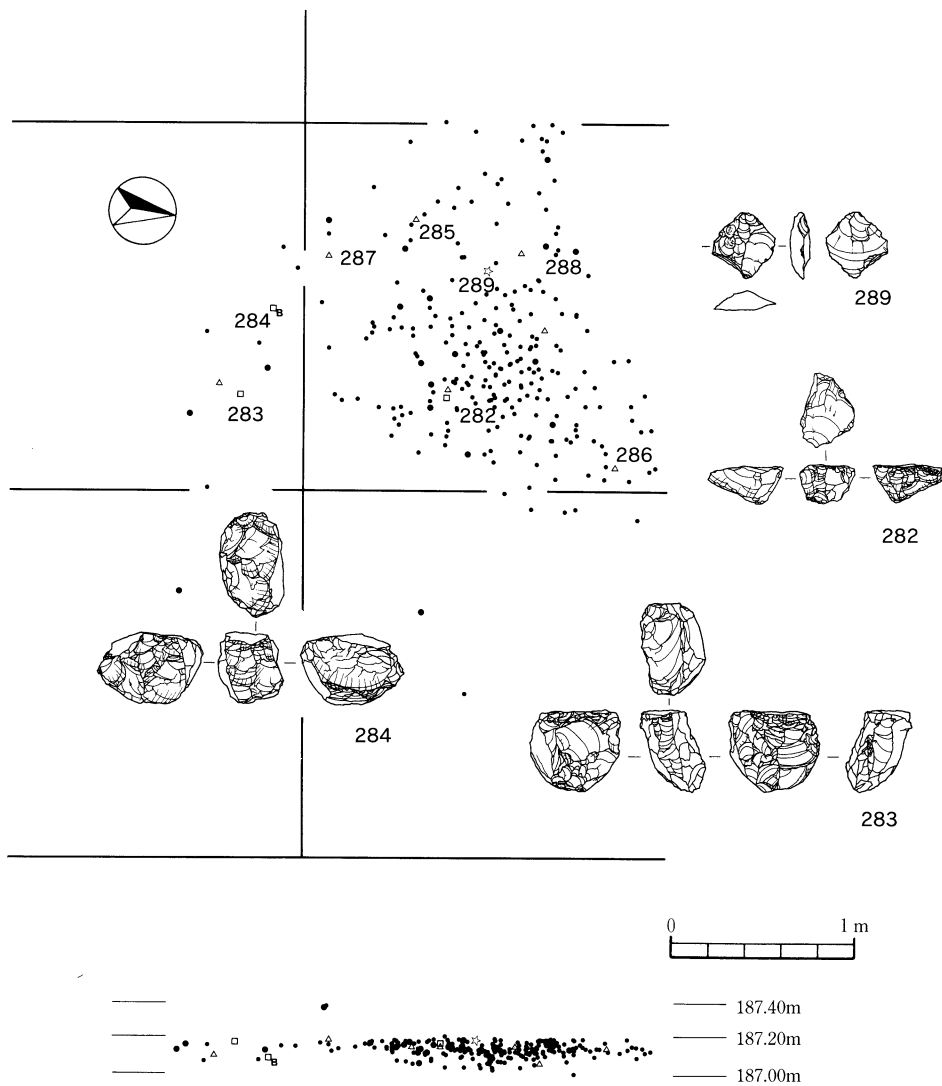
**Pブロック** (第41図)

B-4区に検出され、2m×1.5mの円形の範囲に51点の遺物が出土した。

器種は細石刃1点、剥片6点、碎片44点である。

石材は、三船原産の黒曜石が主で、上牛鼻・針尾原産の黒曜石も2点出土している。

281は長崎県の針尾原産の黒曜石を素材にした細石刃である。部位は先端部を折り取った頭部・中間部である。



第42図 Qブロック遺物出土状況

### Qブロック (第42図)

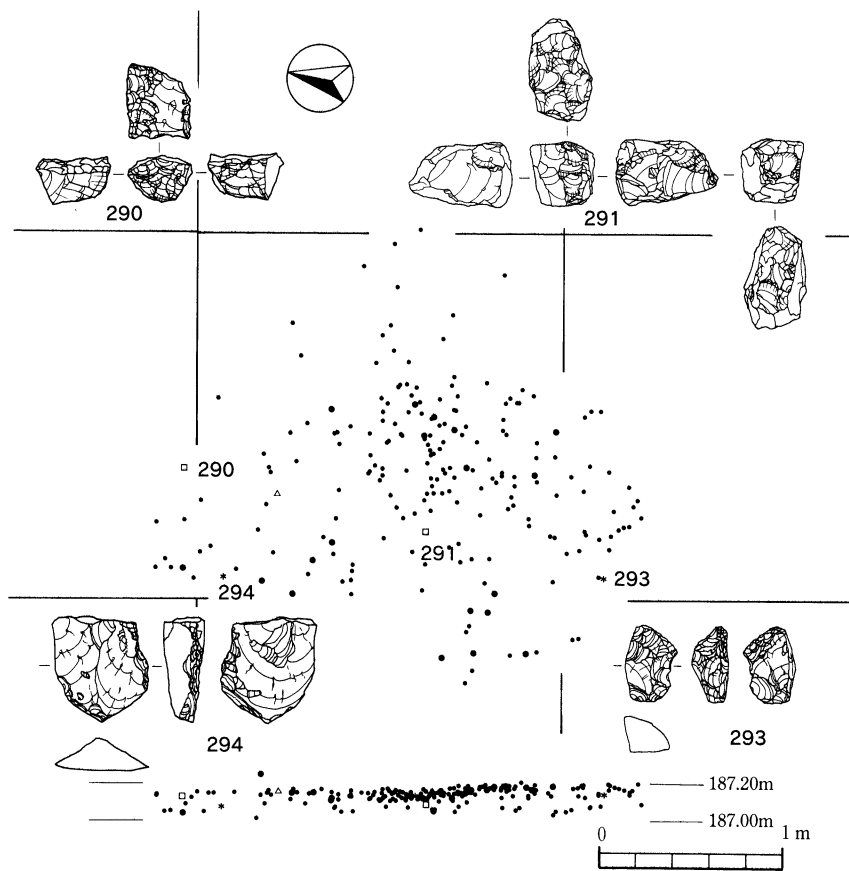
B-5区に検出され、3m×3mの円形の範囲に256点の遺物が出土した。

器種は細石刃核3点、細石刃4点、楔形石器1点、剥片19点、碎片229点である。

石材は、三船原産が主であるが、上牛鼻産30点と針尾産2点が出土している。また、硅質凝灰岩も1点出土した。

282～284は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。282は一部欠損しているが、礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面にし、打面から調整剥片により成形している。打面調整は行われていない。断面形は逆台形を呈している。283は側面が一部欠損しているが、礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面にし、打面から調整剥片により成形している。打面調整が施されている。284も礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面・側面にし、打面から調整剥片により成形している。打面調整は施されていない。

285～288は細石刃である。285は硅質凝灰岩を素材にしたもので、部位は頭部である。



第43図 Rブロック遺物出土状況

286～288は三船原産の黒曜石を素材にしたもので、分割され、部位は頭部、頭・中間部、先端部である。

#### Rブロック（第43図）

B-5区に検出され、2.5m×2.5mの円形の範囲に210点の遺物が出土した。

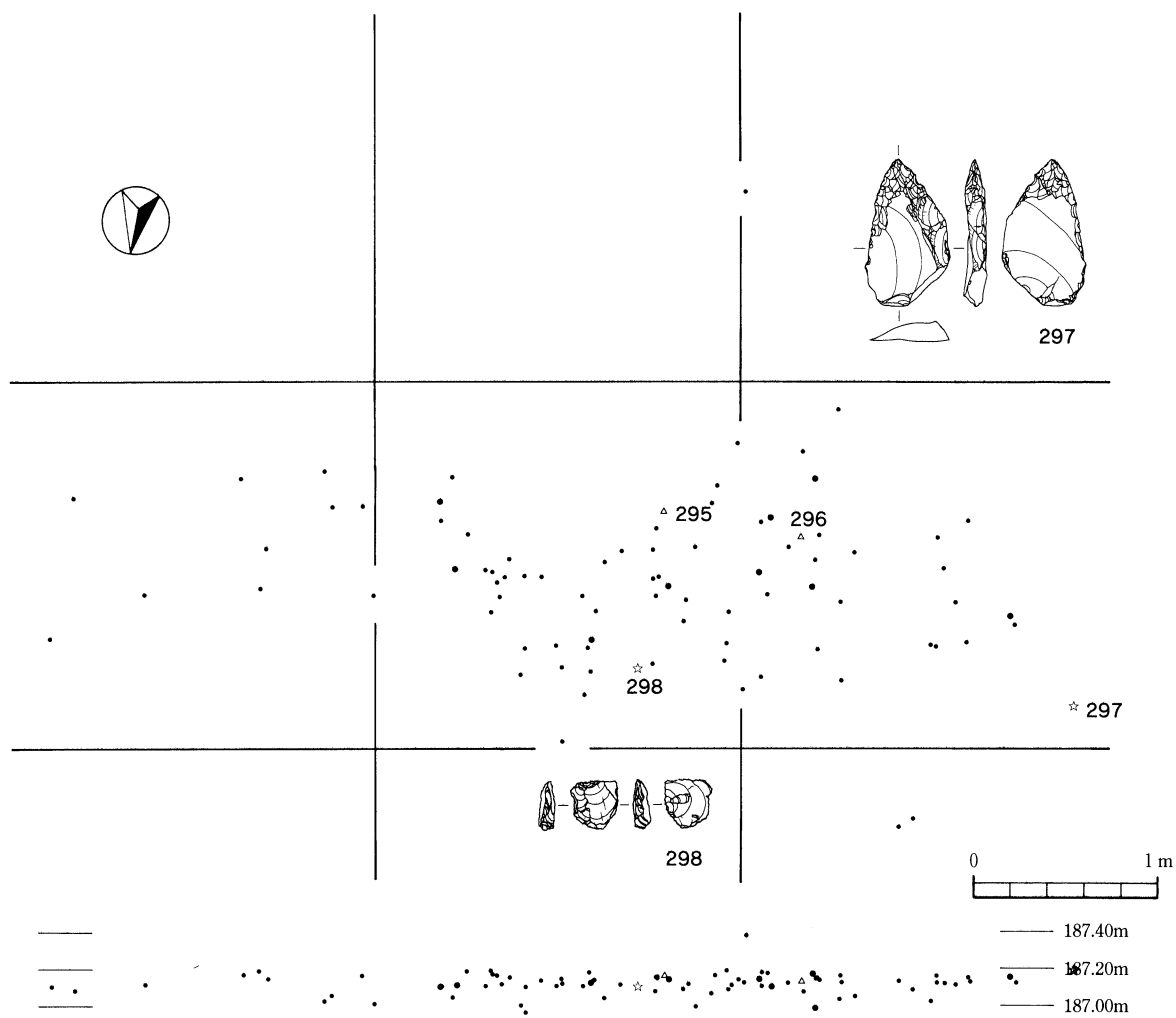
器種は細石刃核2点、細石刃1点、スクレイパー2点、剥片19点、碎片186点である。

290・291は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。礫を半割したものを素材にし、その時、得られた平坦面を打面・側面にし、打面から調整剥片により成形している。打面調整は施されている。

292は上牛鼻原産の黒曜石を素材にした細石刃である。部位は中間・先端部である。

293・294はスクレイパーである。293は針尾原産の黒曜石を素材にしたもので、側縁部にブランディングが施されている。294は三船原産の黒曜石を素材にしたもので、側縁部にブランディングを施し、刃部を形成している。





第44図 Sブロック遺物出土状況

### Sブロック (第44図)

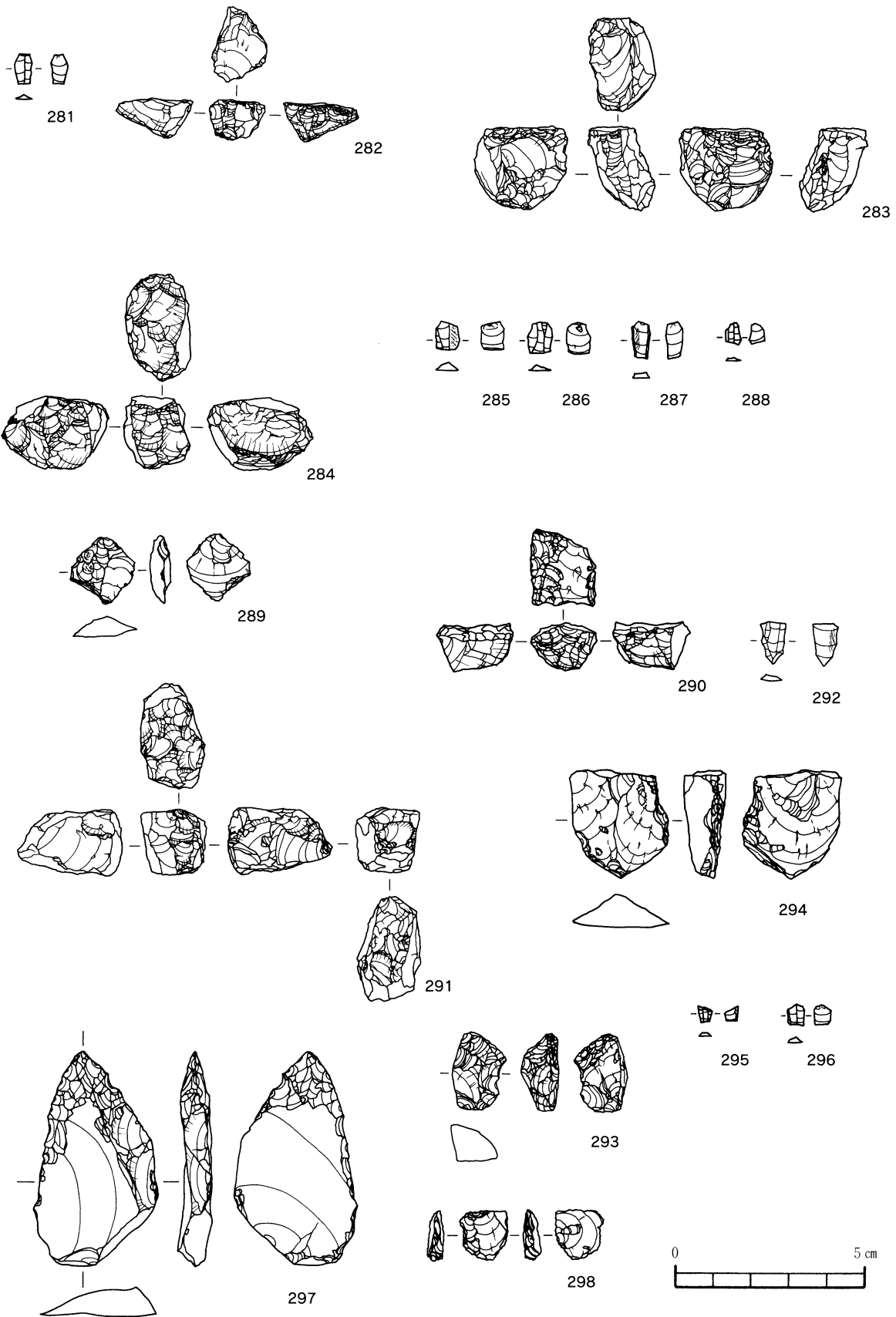
B-5区に検出され、5m×2mの長円形の範囲に87点の遺物が出土した。

器種は細石刃2点、石槍1点、台形石器1点、剥片9点、碎片74点である。

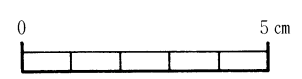
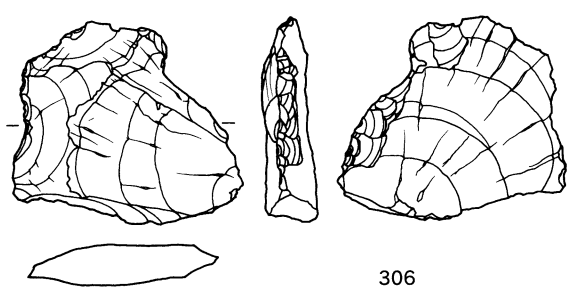
295・296は腰岳・三船原産の黒曜石を石材にした細石刃である。部位は中間部である。

297は頁岩製の石槍である。縦長剥片を素材にし、基部調整は見あたらないが、先端部付近を交互剥離により整形している。長さ5.6cm、幅3.4cm、厚さ0.9cmを測る。

298は三船原産の黒曜石を素材にした台形石器である。剥片を横位に利用し、両側縁はプランティングと平行剥離により整形されている。



第45図 P・Q・R・Sブロック出土石器



第46図 ブロック外出土石器

#### ブロック外（第46図）

ブロック外からは細石刃・スクレイパー・石鏃が出土している。

299～305は細石刃である。石材は三船産・上牛鼻産・針尾産・腰岳産を使用している。半割され、部位は頭・中間部4点、先端部3点である。

306は上牛鼻原産の黒曜石を素材にしたスクレイパーである。自然面を残した大型の剥片を用い、側縁部にブランディングが施されてものである。

307はA-5区Ⅶ層から出土した上牛鼻原産の黒曜石を素材にした石鏃である。先端部・側縁部が一部欠損しているが、側辺部はまっすぐで三角形を呈する。基部は平基で直線である。

第4表 柵堀遺跡石器器種別分類表

	MC	ブランク	MB	調整	Blade	三稜	knife	台形	加工	挿入	スクレー	使用痕	Core	Flake	chip	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
A			5											3	38	
B			3											6	43	
C	16	2	20	3		4			3		2	1		329	1688	
D			7						1					22	34	
E									1		1			15	24	
F	3		4											23	82	
G		1	4	1										9	38	
H	2		122	1										40	114	
I														13	33	
J	2		4								1			41	53	
K	1		18	1										19	110	
L	1		16	2										9	58	
M	4		2											12	112	
N	4	1	4											23	58	
O	9	2	9						2		1	1		85	536	
P														6	45	
Q	3		4											19	229	楔形石器 1
R	2		1								2			19	186	
S			2					1						9	74	石槍 1
ブロック外																石鏃 1
計	47	6	225	8		4		1	7		7	2		702	3555	4578

第5表 石器分類表（1）

番号	器種	石材	区	層	最大長	最大幅	厚さ	重量	備考	ブロック	注記番号
1	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 2	VII	1.1	0.5	0.1		完形	A	8183
2	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 2	VII	0.7	0.8	0.1		頭部	A	8025
3	細石刃	黒曜石椎葉川	A 2	VII	0.9	0.6	0.1		頭・中間部	A	8030
4	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 2	VII	0.7	0.5	0.1		中間部	A	8015
5	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 2	VII	1.1	1.0	0.2		中間部	A	8164
6	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	1.1	0.8	0.2		頭・中間部	B	7898
7	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	1.1	0.5	0.2		頭・中間部	B	8157
8	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	0.9	0.6	0.1		中間部	B	8000
9	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	(1.5)	(1.4)	(1.4)	3.2	一部欠損	C	5269
10	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	(2.2)	(1.1)	(1.1)	3.3	欠損	C	5359
11	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	1.9	1.7	1.7	4.4		C	5487
12	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	3.6	1.5	1.5	0.3		C	5555
13	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	2.1	1.5	1.5	0.1		C	5556
14	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	(2.4)	1.5	1.8	6.3	剥出面上部欠損	C	6078
15	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	(1.9)	1.5	1.9	6.5		C	6162
16	細石刃核	黒曜石三船	A 2	VII	1.9	1.6	2.2	9.3		C	6200
17	細石刃核	黒曜石三船	A 3	VII	1.2	1.8	1.4	2.4		C	6811
18	細石刃核	黒曜石三船	A 3	VII	(2.5)	1.6	1.9	6.7	一部欠損	C	6811
19	細石刃核	黒曜石三船	A 3	VII	(3.0)	2.4	1.5	12.0	剥出面欠損	C	6813
20	細石刃核	黒曜石三船	B 3	VII	1.8	1.7	2.4	9.1		C	6894
21	細石刃核	黒曜石三船	B 3	VII	1.8	1.4	1.5	4.9	二面剥出	C	6901
22	細石刃核	黒曜石三船	A 3	VII	3.1	1.8	1.7	8.2		C	7066
23	細石刃核	黒曜石三船	A 3	VII	1.8	2.4	1.5	7.8		C	7790
24	細石刃核	黒曜石三船	A 3	VII	2.3	1.4	1.5	5.2		C	7877
25	ブランク	黒曜石三船	A 2	VII	(2.3)	1.5	1.5	5.5	一部欠損	C	5517
26	ブランク	黒曜石三船	A 2	VII	2.6	2.5	2.5			C	5276
27	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	1.0	0.3	0.1		完形	C	7890
28	細石刃	黒曜石三船	A 2	VII	2.0	0.6	0.6		完形	C	5448
29	細石刃	黒曜石三船	A 2	VII	0.7	0.4	0.1		完形	C	6028
30	細石刃	黒曜石腰岳	A 2	VII	0.7	0.4	0.1		頭・中間部	C	5769
31	細石刃	黒曜石三船	A 2	VII	1.5	0.9	0.2		頭・中間部	C	5814
32	細石刃	黒曜石三船	A 2	VII	1.0	0.8	0.8		頭・中間部	C	6193
33	細石刃	黒曜石三船	A 2	VII	1.0	0.6	0.2		頭・中間部	C	6199
34	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	1.5	0.5	0.3		頭・中間部	C	6308
35	細石刃	黒曜石腰岳	A 3	VII	0.5	0.3	0.1		頭・中間部	C	6745
36	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	0.8	0.4	0.1		頭・中間部	C	6885
37	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	1.0	0.6	0.1		頭・中間部	C	7272
38	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	0.9	0.6	0.1		頭・中間部	C	7348
39	細石刃	黒曜石三船	A 2	VII	0.9	0.7	0.7		中間部	C	5537
40	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	0.5	0.4	0.2		中間部	C	6335
41	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	0.9	0.7	0.2		中間部	C	6873
42	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	0.6	0.4	0.2		中間部	C	6882
43	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	0.5	0.5	0.1		中間部	C	7656
44	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	0.7	0.7	0.1		中間部	C	7984
45	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	1.3	0.6	0.3		中・先端部	C	8210
46	細石刃	黒曜石腰岳	A 2	VII	0.9	0.4	0.1		先端	C	5961
47	調整剥片	黒曜石三船	A 3	VII	1.3	1.0	0.3	0.3		C	6272
48	調整剥片	黒曜石三船	A 3	VII	1.4	0.7	0.2	0.1		C	6227
49	調整剥片	黒曜石三船	A 2	VII	2.0	1.1	1.1	1.4		C	5441
50	三稜尖頭器	黒曜石三船	A 2	VII	(2.4)	1.4	1.4	4.9		C	5236
51	三稜尖頭器	黒曜石三船	A 2	VII	2.6	1.5	1.3	3.6			6035

第6表 石器分類表 (2)

52	三稜尖頭器	黒曜石三船	A 3	VII	(1.4)	(1.1)	1.2	1.7	5236と接合?	C	6429
53	三稜尖頭器	黒曜石三船	A 3	VII	(2.1)		1.7	1.1		C	6752
54	加工痕剥片	黒曜石三船	A 3	VII	2.8	1.9	1.0	4.8		C	7681
55	加工痕剥片	黒曜石三船	A 2	VII	2.7	1.7	1.7	2.0		C	5552
56	加工痕剥片	黒曜石三船	A 3	VII	1.2	0.7	0.5	0.2		C	7206
57	End-Scraper	黒曜石三船	A 2	VII	1.8	1.5	1.5	3.4		C	5490
58	Scraper	黒曜石三船	A 2	VII	3.4	2.1	1.5	9.5		C	6159
59	使用痕剥片	黒曜石三船	A 2	VII	2.0	1.9	0.8			C	5779
60	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.5	0.9	0.9		完形	D	5187
61	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.0	1.0	1.0		頭部	D	5170
62	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.9	0.4	0.4		頭・中間部	D	5188
63	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.8	0.4	0.4		頭・中間部	D	5195
64	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.7	0.8	0.8		頭・中間部	D	5199
65	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.0	0.5	0.5		中・先端部	D	5180
66	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.1	0.5	0.5		中・先端部	D	5186
67	加工痕剥片	黒曜石針尾	B 3	VII	1.9	0.5	0.5	0.6		D	5152
68	Scraper	黒曜石三船	B 3	VII	1.0	1.1	1.1	0.6		E	5117
69	細石刃核	黒曜石三船	A 4	VII	2.7	1.3	2.5			F	6590
70	細石刃核	黒曜石三船	A 4	VII	(1.6)	(1.2)	1.9	4.1		F	7163
71	細石刃核	黒曜石三船	A 4	VII	2.4	1.4	1.9	5.9	一部欠損	F	7166
72	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	1.1	0.6	0.2		頭・中間部	F	6567
73	細石刃	黒曜石針尾	A 3	VII	1.2	0.6	0.3		頭・中間部	F	6568
74	細石刃	黒曜石針尾	A 3	VII	1.3	0.5	0.1		中間部	F	6569
75	細石刃	黒曜石針尾	A 3	VII	1.0	0.6	0.1		中間部	F	6570
76	ブランク	黒曜石三船	A 2	VII	2.1	1.7	1.7	8.2		G	5596
77	細石刃	黒曜石三船	A 4	VII	1.0	0.5	0.1		頭・中間部	G	4655
78	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.8	0.5	0.1		中間部	G	3790
79	細石刃	黒曜石三船	A 3	VII	0.9	0.6	0.2		中・先端部	G	7160
80	細石刃	黒曜石針尾	A 3	VII	1.0	0.3	0.1		先端部	G	8287
81	調整剥片	黒曜石針尾	B 3	VII	1.2	1.2	1.2	0.3		G	5138
82	細石刃核	黒曜石三船	A 4	VII	1.3	1.3	0.1	1.4	一部欠損	H	3716
83	細石刃核	黒曜石腰岳	A 4	VII	2.3	0.6	2.1	2.4		H	4650
84	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.7	0.1		頭部	H	3722
85	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.5	0.1		頭部	H	3763
87	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.5	0.4	0.1		頭部	H	4669
88	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.6	0.5	0.5		頭部	H	5026
89	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	0.6	0.5	0.1		頭部	H	6539
90	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 3	VII	0.7	0.5	0.1		頭部	H	8285
91	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.1	0.4	0.2		頭・中間部	H	3249
92	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.2	0.4	0.2		頭・中間部	H	3709
93	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.5	0.1		頭・中間部	H	3717
94	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	1.5	0.5	0.1		頭・中間部	H	3720
95	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.1		頭・中間部	H	3729
96	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.4	0.4	0.1		頭部	H	4434
96	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	0.8	0.6	0.2		頭・中間部	H	3730
97	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.9	0.4	0.1		頭・中間部	H	3731
98	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.9	0.4	0.1		頭・中間部	H	3745
99	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.6	0.4	0.1		頭・中間部	H	3752
100	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	1.0	0.6	0.1		頭・中間部	H	3764
101	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.3	0.5	0.1		頭・中間部	H	3765
102	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		頭・中間部	H	3778
103	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		頭・中間部	H	3782
104	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.4	0.4	0.1		頭・中間部	H	4433

第7表 石器分類表(3)

105	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.2	0.5	0.1		頭・中間部	H	4663
106	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.1		頭・中間部	H	4664
107	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.3	0.4	0.1		頭・中間部	H	4681
108	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.5	0.2		頭・中間部	H	4693
109	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.5	0.2		頭・中間部	H	5017
110	細石刃	黑曜石三船	A 4	VII	0.8	0.6	0.1		頭・中間部	H	5020
111	細石刃	黑曜石針尾	A 3	VII	0.8	0.3	0.3		頭・中間部	H	5576
112	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		頭・中間部	H	6514
113	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.6	0.4	0.2		頭・中間部	H	6518
114	細石刃	黑曜石上牛鼻	A 4	VII	1.1	0.7	0.2		頭・中間部	H	6527
115	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.4	0.5	0.2		頭・中間部	H	6529
116	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.1		頭・中間部	H	6530
117	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.9	0.4	0.2		頭・中間部	H	6532
118	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.1		頭・中間部	H	6600
119	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		頭・中間部	H	6602
120	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.3	0.1		頭・中間部	H	6603
121	細石刃	黑曜石腰岳	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		頭・中間部	H	6605
122	細石刃	黑曜石腰岳	B 3	VII	1.4	0.5	0.1		頭・中間部	H	6955
123	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.8	0.4	0.2		頭・中間部	H	6977
124	細石刃	黑曜石上牛鼻	B 4	VII	1.1	0.6	0.2		中間部	H	3251
125	細石刃	黑曜石腰岳	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		中間部	H	3712
126	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.5	0.4	0.2		中間部	H	3714
127	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.3	0.7	0.2		中間部	H	3715
128	細石刃	黑曜石三船	A 4	VII	0.9	0.6	0.1		中間部	H	3718
129	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.1		中間部	H	3725
130	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	H	3733
131	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.1		中間部	H	3750
132	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.9	0.5	0.1		中間部	H	3767
133	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	H	3768
134	細石刃	黑曜石三船	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		中間部	H	3769
135	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.5	0.6	0.2		中間部	H	3770
136	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	H	3772
137	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.4	0.4	0.1		中間部	H	3775
138	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.3	0.5	0.1		中間部	H	3777
139	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.8	1.3	0.4		中間部	H	4444
140	細石刃	黑曜石上牛鼻	A 4	VII	1.0	0.7	0.2		中間部	H	4454
141	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	H	4662
142	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		中間部	H	4665
143	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.4	0.3	0.1		中間部	H	4667
144	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.5	0.1		中間部	H	4677
145	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.9	0.5	0.1		中間部	H	4679
146	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.2		中間部	H	4680
147	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		中間部	H	4724
148	細石刃	黑曜石三船	B 4	VII	0.6	0.5	0.1		中間部	H	4950
149	細石刃	黑曜石針尾	B 5	VII	0.6	0.5	0.2		中間部	H	5015
150	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		中間部	H	5018
151	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		中間部	H	5024
152	細石刃	黑曜石針尾	A 3	VII	0.6	0.3	0.3		中間部	H	5562
153	細石刃	黑曜石針尾	A 3	VII	0.6	0.6	0.6		中間部	H	5565
154	細石刃	黑曜石針尾	A 3	VII	0.7	0.4	0.4		中間部	H	5575
155	細石刃	黑曜石針尾	A 3	VII	0.8	0.4	0.4		中間部	H	5581
156	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	1.6	0.7	0.1		中間部	H	6513
157	細石刃	黑曜石針尾	A 4	VII	0.6	0.5	0.1		中間部	H	6516



第8表 石器分類表 (4)

158	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.9	0.3	0.1		中間部	H	6521
159	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		中間部	H	6526
160	細石刃	黒曜石腰岳		VII	1.0	0.5	0.1		中間部	H	6540
161	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	H	6544
162	細石刃	黒曜石針尾		VII	1.3	0.4	0.1		中間部	H	6545
163	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.9	0.4	0.1		中間部	H	6548
164	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.5	0.1		中間部	H	6555
165	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	H	6602
166	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.6	0.2	0.1		中間部	H	6610
167	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.4	0.4	0.2		中間部	H	6978
168	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	1.2	0.4	0.3		中間部	H	7158
169	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	0.8	0.5	0.1		中間部	H	8275
170	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	0.6	0.4	0.1		中間部	H	8278
171	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	0.9	0.5	0.1		中・先端部	H	3243
172	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.3	0.2		中・先端部	H	3250
173	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.5	0.6	0.1		中・先端部	H	3711
174	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.4	0.9	0.5		中・先端部	H	3719
175	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	1.4	0.8	0.3		中・先端部	H	3726
176	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.1	0.5	0.1		中・先端部	H	3735
177	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	1.2	0.9	0.1		中・先端部	H	3739
178	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	1.6	0.6	0.1		中・先端部	H	3758
179	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.2		中・先端部	H	4437
180	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	1.4	0.7	0.3		中・先端部	H	4671
181	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.5	0.1		中・先端部	H	4725
182	細石刃	黒曜石針尾	A 3	VII	0.8	0.3	0.3		中・先端部	H	5564
183	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		中・先端部	H	6519
184	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.0	0.4	0.1		中・先端部	H	6525
185	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.5	0.6	0.1		中・先端部	H	6528
186	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	1.2	0.4	0.2		中・先端部	H	6556
187	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	1.0	0.6	0.1		先端部	H	3241
188	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	0.7	0.4	0.2		先端部	H	3753
189	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.4	0.1		先端部	H	3762
190	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		先端部	H	4436
191	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.3	0.4	0.1		先端部	H	4451
192	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	0.8	0.5	0.1		先端部	H	4687
193	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.8	0.5	0.1		先端部	H	6524
194	細石刃	黒曜石針尾	A 4	VII	0.7	0.4	0.1		先端部	H	6968
195	調整剥片	黒曜石針尾	A 4	VII	2.7	0.8	0.5			H	3723
196	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.5	1.8	1.6	6.0		J	4939
197	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	(2.0)	(1.1)	1.7	4.9	一部欠損	J	4957
198	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.7	0.6	0.2		頭・中間部	J	7580
199	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.0	0.6	0.2		中間部	J	6680
200	細石刃	黒曜石腰岳	B 4	VII	1.0	0.7	1.2		中・先端部	J	3580
201	細石刃	黒曜石腰岳	A 4	VII	0.9	0.3	0.1		先端部	J	7570
202	Scraper	黒曜石三船	B 4	VII	2.5	1.2	1.1			J	3577
203	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	1.9	1.8	2.2	6.4		K	3265
204	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.9	0.7	0.1		頭部	K	6935
205	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.1	0.3	0.1		頭部	K	7530
206	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.7	0.5	0.2		頭・中間部	K	3695
207	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.2	0.5	0.2		頭・中間部	K	6660
208	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.5	0.4	0.1		頭・中間部	K	6920
209	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.0	0.5	0.1		頭・中間部	K	7911
210	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	K	6622

第9表 石器分類表 (5)

211	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.8	0.7	0.2		中間部	K	6666
212	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.8	0.5	0.2		中間部	K	6943
213	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.4	0.4	0.1		中間部	K	7526
214	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	2.7	0.7	0.3		中間部	K	7910
215	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.8	0.3	0.1		中・先端部	K	6655
216	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.5	0.7	0.1		中・先端部	K	7535
217	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	1.4	0.4	0.1		中・先端部	K	7550
218	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.8	0.3	0.2		中・先端部	K	7552
219	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.8	0.3	0.1		先端部	K	6623
220	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.9	0.4	0.1		先端部	K	6644
221	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.7	0.5	0.1		先端部	K	7558
222	調整剥片	黒曜石針尾	B 4	VII	1.8	1.1	0.3	0.6		K	7540
223	細石刃核	黒曜石三船	B 3	VII	2.5	1.5	1.5	4.5		L	5699
224	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.8	0.7	0.2		完形	L	5717
225	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.6	0.8	0.2		頭・中間部	L	5700
226	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.0	0.5	0.2		頭・中間部	L	5720
227	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.3	0.4	0.2		頭・中間部	L	5728
228	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.8	0.4	0.2		中間部	L	5705
229	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.4	0.3	0.1		中間部	L	5749
230	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.6	0.3	0.2		中間部	L	5714
231	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.9	0.4	0.1		中間部	L	5715
232	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.0	1.0	0.2		中間部	L	5730
233	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.2	0.4	0.4		中・先端部	L	5665
234	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.8	0.5	0.5		中・先端部	L	5674
235	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	1.2	0.7	0.1		中・先端部	L	5750
236	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.6	0.3	0.1		中・先端部	L	5735
237	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.5	0.3	0.3		先端部	L	5677
238	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.8	0.4	0.4		先端部	L	5682
239	細石刃	黒曜石針尾	B 3	VII	0.4	0.3	0.1		先端部	L	5731
240	調整剥片	黒曜石針尾	B 3	VII	1.2	1.1	1.1	0.3		L	5663
241	調整剥片	黒曜石針尾	B 3	VII	2.0	1.6	0.4	1.5		L	5748
242	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.8	1.8	1.1	4.2		M	3634
243	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	(2.1)	(1.3)	1.6	5.3	一部欠損	M	4910
244	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.1	1.5	1.9	6.2		M	6490
245	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	1.6	1.5	2.2	5.3		M	6495
246	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	1.1	0.6	0.1		頭・中間部	M	3623
247	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	1.0	0.6	0.1		中・先端部	M	3617
248	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.7	1.9	1.4	7.1		N	2202
249	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	(2.2)	1.9	2.0	7.9	一部欠損	N	3262
250	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.0	1.7	1.2			N	3543
251	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.0	1.0	2.1	3.5	一部欠, 二面	N	4170
252	ブランク	黒曜石針尾	B 4	VII	2.2	1.7	1.5	5.4		N	7518
253	細石刃	黒曜石三船?	B 4	VII	1.8	0.7	0.1		頭・中間	N	2205
254	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	0.9	0.4	0.1		頭・中間	N	2233
255	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.9	0.5	0.1		頭・中間部	N	3259
256	細石刃	黒曜石針尾	B 5	VII	0.4	0.3	0.1		中間部	N	6675
257	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.5	1.6	1.7	7.5		O	2140
258	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	1.6	1.3	1.1	2.9		O	2142
259	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	(2.0)	(1.3)	1.8	5.2		O	2151
260	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	1.9	1.5	2.1	5.2		O	2159
261	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.1	1.6	1.8	6.7	二面	O	2174
262	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.0	1.7	1.2	5.2		O	2253
263	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	(1.2)	1.4	1.4	2.0	一部欠損	O	3557

第10表 石器分類表 (6)

264	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.8	2.5	1.3	6.6		○	4856
265	細石刃核	黒曜石三船	B 4	VII	2.3	2.0	2.0	8.6		○	4930
266	ブランク	黒曜石三船	B 4	VII	(2.2)	1.5	1.4	4.4	一部欠損	○	4852
267	ブランク	黒曜石三船	B 4	VII	2.7	2.0	2.0			○	5037
268	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	0.8	0.5	0.1		頭部	○	3498
269	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	0.7	0.8	0.2		頭部	○	4820
270	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	1.2	0.6	0.1		頭・中間部	○	3446
271	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	1.5	0.6	0.2		頭・中間部	○	4105
272	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	1.6	0.6	0.3		頭・中間部	○	4872
273	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	0.5	0.4	0.1		中間	○	2161
274	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	1.1	0.6	0.1		中間部	○	4918
275	細石刃	黒曜石腰岳	B 4	VII	0.5	0.5	0.5		中間部	○	5064
276	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	0.5	0.4	0.1		先端部	○	3515
277	加工痕剥片	黒曜石三船	B 4	VII	1.0	0.5	0.5	0.1		○	5033
278	加工痕剥片	黒曜石上牛鼻	B 4	VII	1.3	0.8	0.3	0.2		○	5060
279	Scraper	黒曜石三船	B 4	VII	1.7	1.3	0.4	0.9		○	4156
280	使用痕剥片	黒曜石三船	B 4	VII	1.4	1.4	1.4	0.8		○	5041
281	細石刃	黒曜石針尾	B 2	VII	0.8	0.5	0.5			P	5621
282	細石刃核	黒曜石三船	B 5	VII	2.1	1.4	1.1			Q	4065
283	細石刃核	黒曜石三船	B 5	VII	(2.5)	(1.2)	2.4	9.5	一部欠損	Q	4080
284	細石刃核	黒曜石三船	A 5	VII	2.9	1.7	2.0	10.3		Q	6506
285	細石刃	珪質凝灰岩	B 5	VII	0.8	0.6	0.2		頭部	Q	4515
286	細石刃	黒曜石三船	B 5	VII	0.8	0.6	0.2		頭部	Q	4775
287	細石刃	黒曜石三船	B 5	VII	1.0	0.4	0.1		頭・中間部	Q	2395
288	細石刃	黒曜石三船	B 5	VII	0.5	0.4	0.1		先端部	Q	4528
289	楔形石器	黒曜石三船	B 5	VII	1.5	1.4	0.5	1.3		Q	2376
290	細石刃核	黒曜石三船	B 5	VII	(2.0)	1.8	1.2	4.4	一部欠損	R	5000
291	細石刃核	黒曜石三船	B 5	VII	2.8	1.7	1.8	9.3		R	6482
292	細石刃	黒曜石上牛鼻	B 5	VII	1.2	1.1	0.2		中・先端部	R	2315
293	Scraper	黒曜石針尾	B 5	VII	2.1	1.6	0.9	2.5		R	4051
294	Scraper	黒曜石三船	B 5	VII	2.9	2.5	1.1	6.7		R	6487
295	細石刃	黒曜石腰岳	B 5	VII	0.4	0.4	0.1		中間部	S	112
296	細石刃	黒曜石	B 5	VII	0.5	0.4	0.1		中間部	S	143
297	石槍	頁岩	B 5	VII	5.6	3.4	0.9			S	100
298	台形石器	黒曜石三船	B 5	VII下	1.3	1.3	0.5	0.8		S	153
299	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	0.9	0.5	0.1		頭・中間部		3699
300	細石刃	黒曜石上牛鼻	B 4	VII	1.1	0.7	0.2		頭・中間部		3700
301	細石刃	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	1.0	0.6	0.2		頭・中間部		4701
302	細石刃	黒曜石針尾	B 4	VII	0.7	0.4	0.1		頭・中間部		6945
303	細石刃	黒曜石三船	B 4	VII	0.8	0.4	0.1		先端部		4698
304	細石刃	黒曜石腰岳	B 4	VII	0.8	0.3	0.1		先端部		4706
305	細石刃	黒曜石針尾	A 3	VII	1.1	0.4	0.1		先端部		7170
306	Scraper	黒曜石上牛鼻	B 6	VII	4.7	4.3	1.0				4890
307	石鏃		A 5	VII	1.5	1.5	0.3				4900

### 第3節 縄文時代

#### 調査の概要と調査の方法

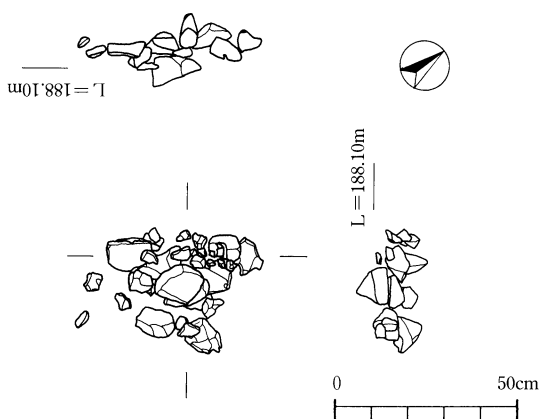
縄文時代の調査は、確認調査の結果を基に表土（耕作土）を除去し、わずかに残存するII層の調査終了後、調査区の全面にわたってIII層～V層の各層毎に調査を行った。

柵堀遺跡の縄文時代は、調査区のほぼ全域にわたってV・IV層の早期に該当する時期とIII層の前期・中期・後期・晩期に該当する土器を包含する遺物包含層が検出された。調査は該当層の掘り下げを順次行い、遺物・遺構の検出、写真撮影、実測、遺物取り上げと作業を進めた。なお調査前の地表面は比較的安定した地形を呈していた。しかし、土層図やV層面の等高線を参考に見ると、部分的に起伏に富んだ地形を呈する。特に7～10区にわたって埋設谷が検出された。谷部がアカホヤ火山灰の堆積によってある程度埋まり、更に後世の耕作などで現在の安定した地形となった経緯が推察される。また、そのような堆積状況のため、晩期以外の時期別の層位的分離は困難であった。

V・IV層を中心に遺物包含層とする縄文時代早期の出土遺物の分布状況は、1～6区を中心に調査区全域で遺物の散布が見られた。遺構には集石遺構6基をはじめ、石皿・磨石等が一方所に

まとまって検出された。また、縄文早期後葉の遺物が18・19区にまとまって検出された。その他、A-7区のIII層に集中して春日式土器が出土している。

10区から19区にかけて晩期の遺物が数多く出土した。晩期の遺物を伴う土坑・溝状遺構も検出されている。その他調査区の全域にわたって各時期の遺物が出土した。

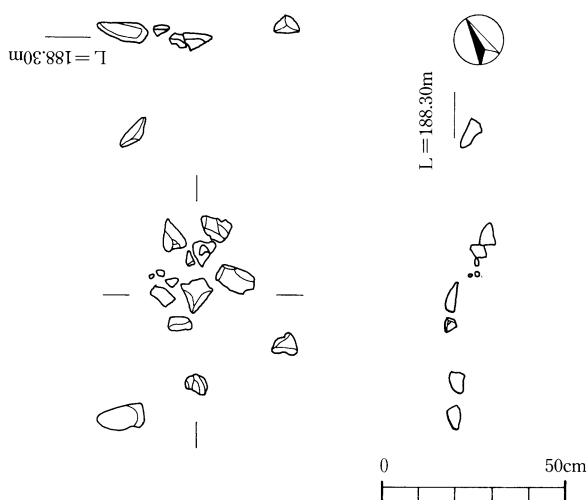


第47図 集石 (1)

#### 遺構

本遺跡のIII層からV層にかけて、集石と土坑が発見されている。

集石は6基が検出され、写真撮影・実測を行った。

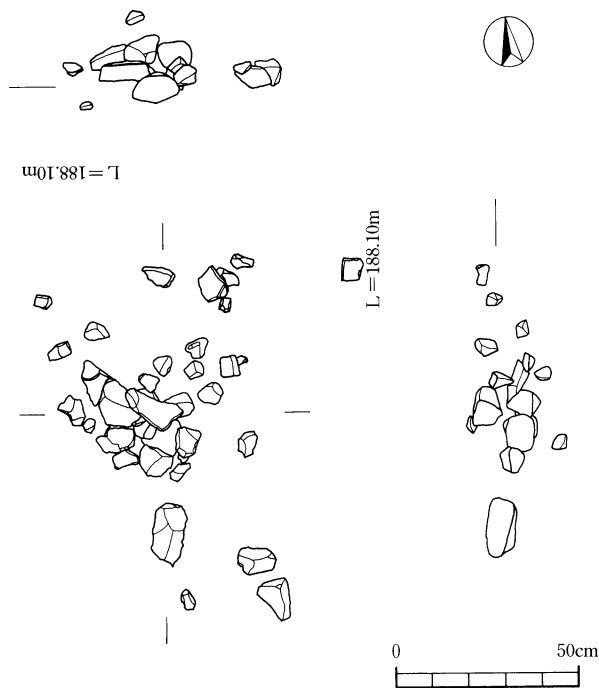


第48図 集石 (2)

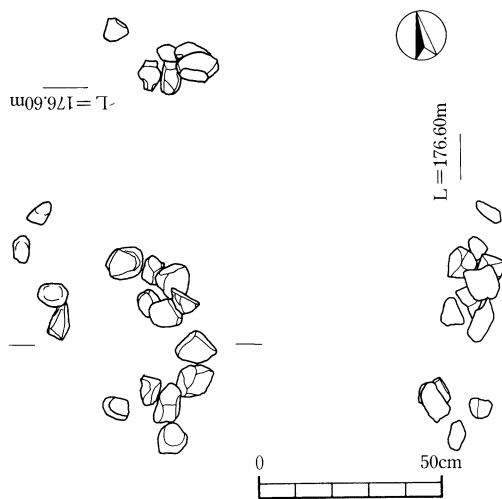
#### 集石遺構1 (第47図)

集石遺構1は南西に向かって緩やかに下るC-16区のIII層から検出された。安山岩を主体に、中心部に比較的大きな煉瓦状の礫を使用している。中心部に見られる小礫は同一個体で、礫の一部が砕けたものとおもわれる。人工的な掘り込みや炭化物等は見られなかった。

#### 集石遺構2 (第48図)



第49図 集石 (3)



第50図 集石 (4)

集石遺構2はA-4区の平坦面上に散布されたような形状で検出された。角礫を中心に16個で形成された小規模の集石遺構である。一応中心部が観察できるが、上下に石が重なるものは無い。人工的な掘り込みや炭化物等は見られなかった。

**集石遺構3 (第49図)**

集石遺構3はA-5区のV層の傾斜面上から検出された。本遺跡で最も規模が大きく、使用された礫は38個に上る。中心部に大きな礫を重ね、拳大の亜円礫がその隙間と周囲に散布している。レベル上では中心部の大型の礫が最も深い位置にあるが、人工的な掘り込みや炭化物等は見られなかった。

**集石遺構4 (第50図)**

集石遺構4はA-6区の東に向かって下る斜面上の、III層とIV層の境から検出された。亜円礫を中心に、周辺に散布した拳大の礫に比べて、中心部分に重なり合う礫は大きく、大きさもそろっているように思われる。石器や人工的な掘り込みや炭化物等は見られなかった。

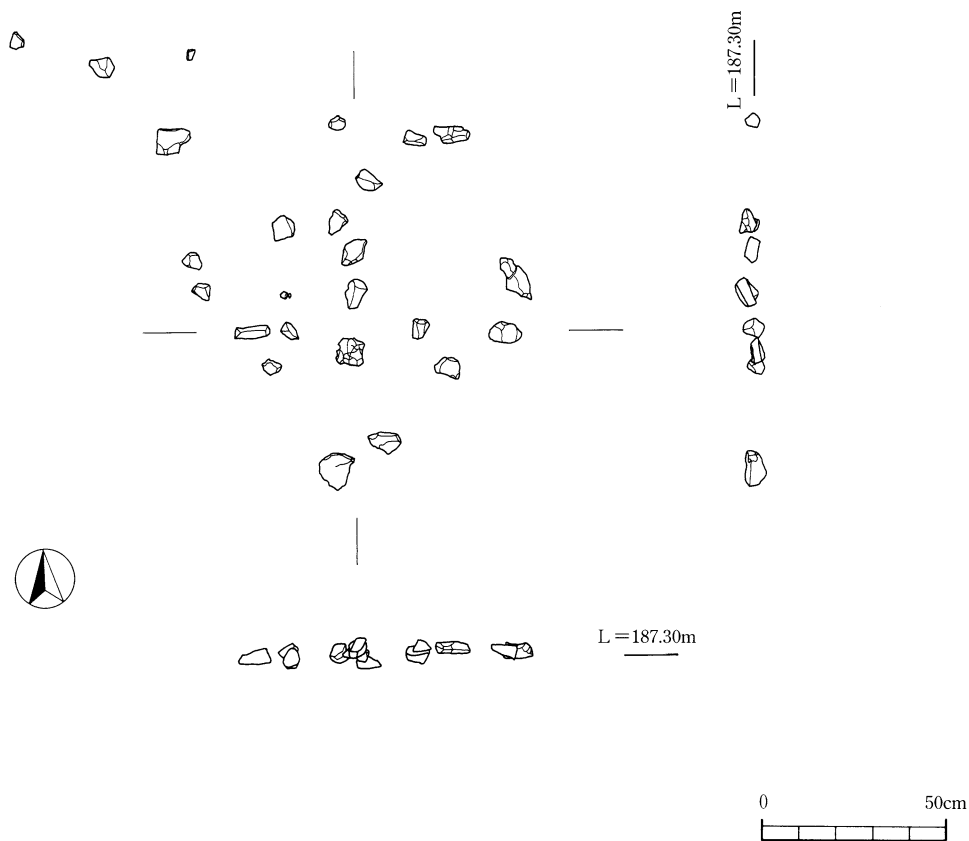
**集石遺構5 (第51図)**

集石遺構5はD-18・19区の平坦面のIV層から検出された。19

個の拳大の亜角礫が平坦面上に均一に散布されたような形状で検出された。礫の重なりは一対のみである。人工的な掘り込みや炭化物等もみられなかった。

**土坑群 (第52図)**

C18・19区の平坦なIII層から9基の土坑が一部重なって検出された。検出面から掘り込みは浅く、深いもので20センチほどであった。



第51図 集石 (5)

**土坑** 土坑は、単独のもの2基と土坑群1基 (11～18) を検出した。

**土坑1** (第53図)

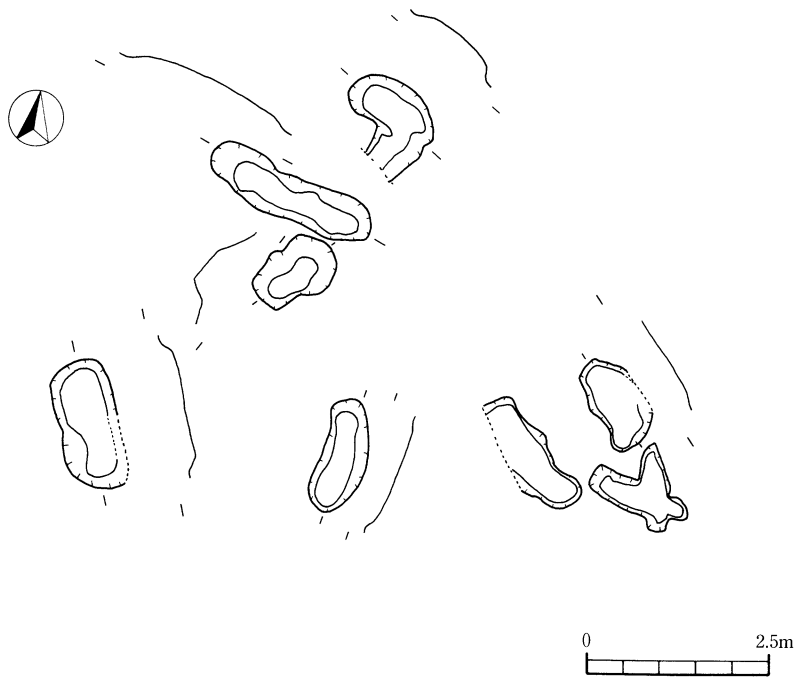
土坑1はB-16区の平坦な地形上のⅢ層上面から検出された。直径90cmほどのほぼ円形の土坑である。断面はレンズ状で、埋土もレンズ状に堆積している。遺物は出土しなかったが、しまった暗褐色の埋土の状況から晩期相当と判断した。

**土坑2** (第54図)

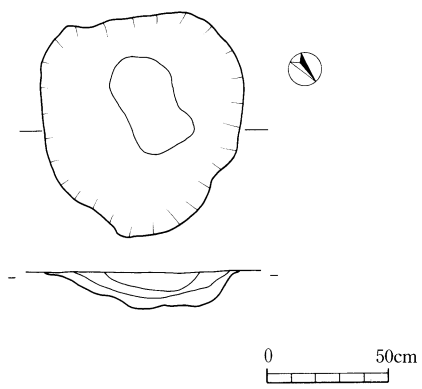
土坑2はB・C-16区の平坦地にある三日月型の土坑である。中心部が深く掘り込まれている。埋土はレンズ状に堆積している。埋土中から直径1～3mmの炭化物が検出された他、遺物が2点出土しており、黒川式土器とみられる。

**溝状遺構** (第55図)

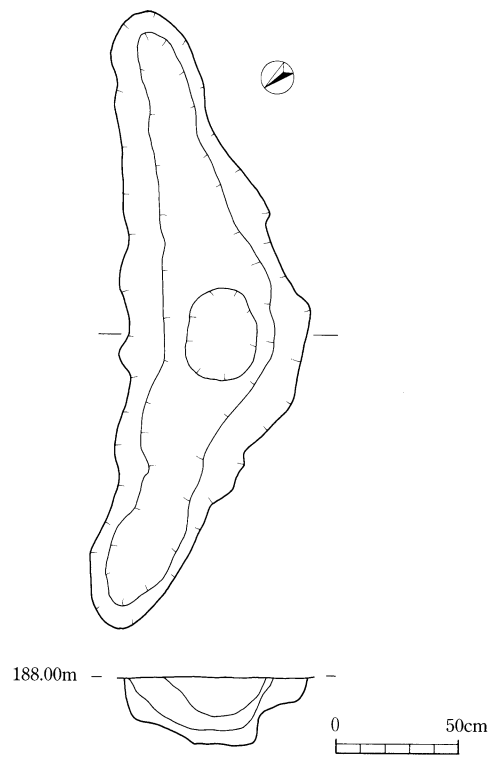
本遺跡からは溝状遺構が1条検出されている。重機の掘削やイモ穴等の耕作で大部分が削平されているが、今回はB-15区から北西方向に約24mほど検出できた。検出面での遺構の幅は約80cmで、検出面から最も落ち込む部分で深さ約20センチである。埋土中に晩期の土器を多く含む。断面の形状は安定しないが、埋土はレンズ状に堆積している。



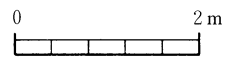
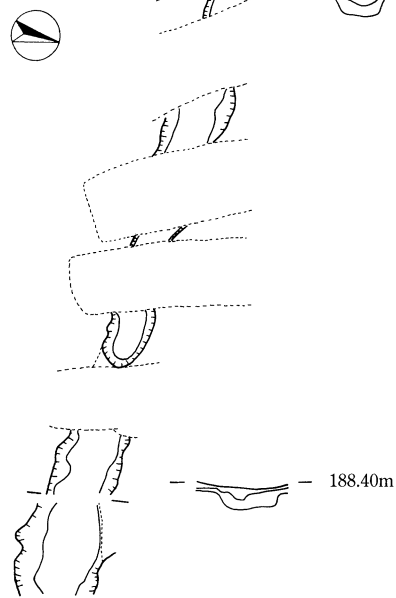
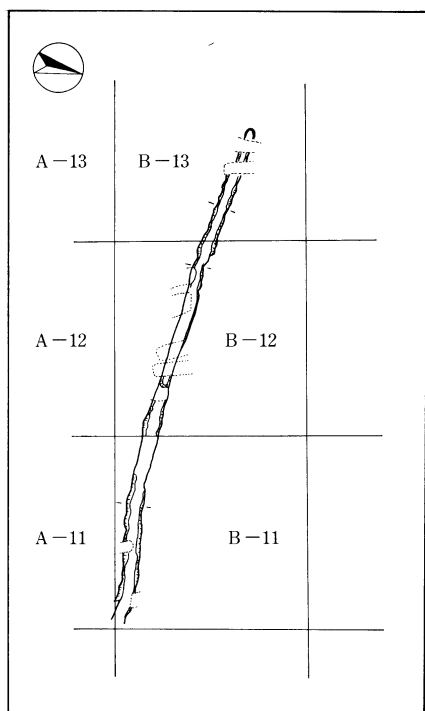
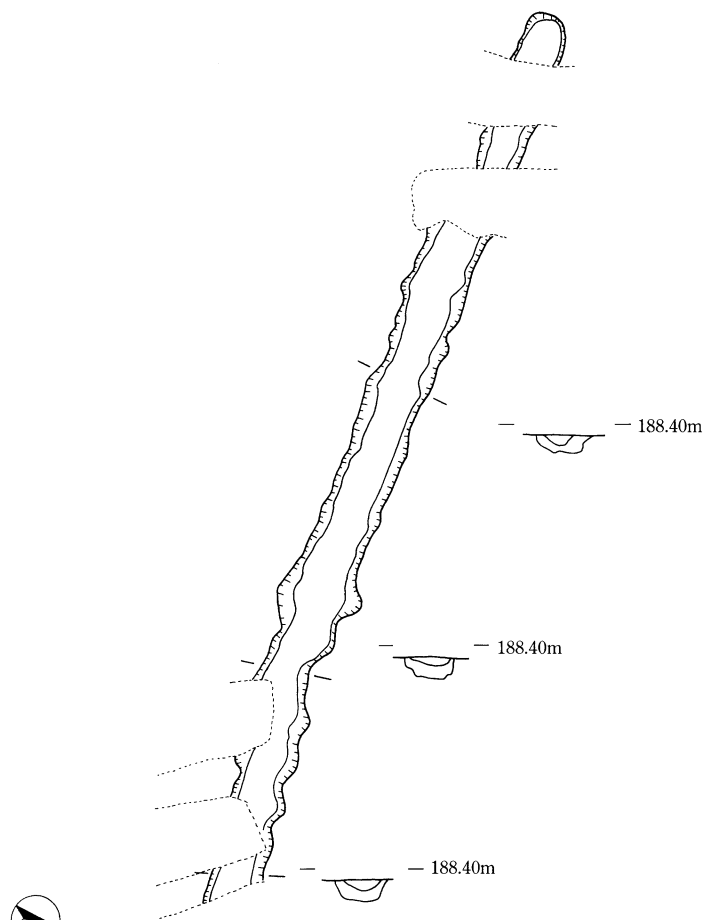
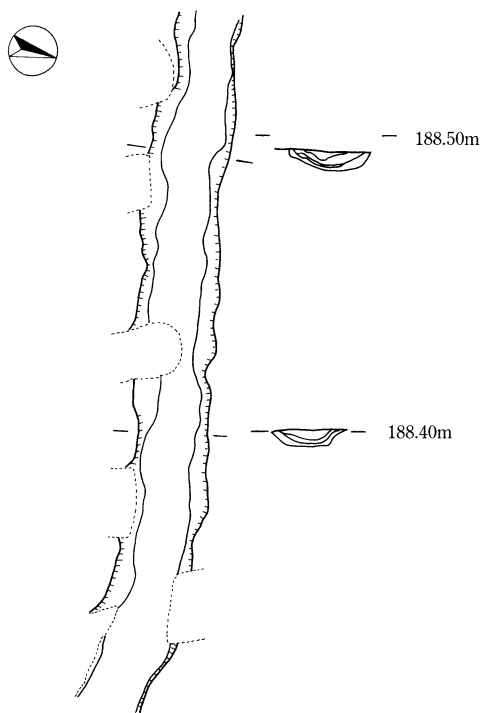
第52图 土坑群



第53图 土坑(1)



第54图 土坑(2)



第55図 溝状遺構



### 3 縄文時代

#### 遺物

#### 土器

縄文土器は遺物は主にⅤ層・Ⅳ層・Ⅲ層から出土した。縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期の遺物とみられ、土器の特徴により179点を図示した。

Ⅴ・Ⅳ層からは縄文時代早期と思われる土器が出土した。

(第56図 308～316)

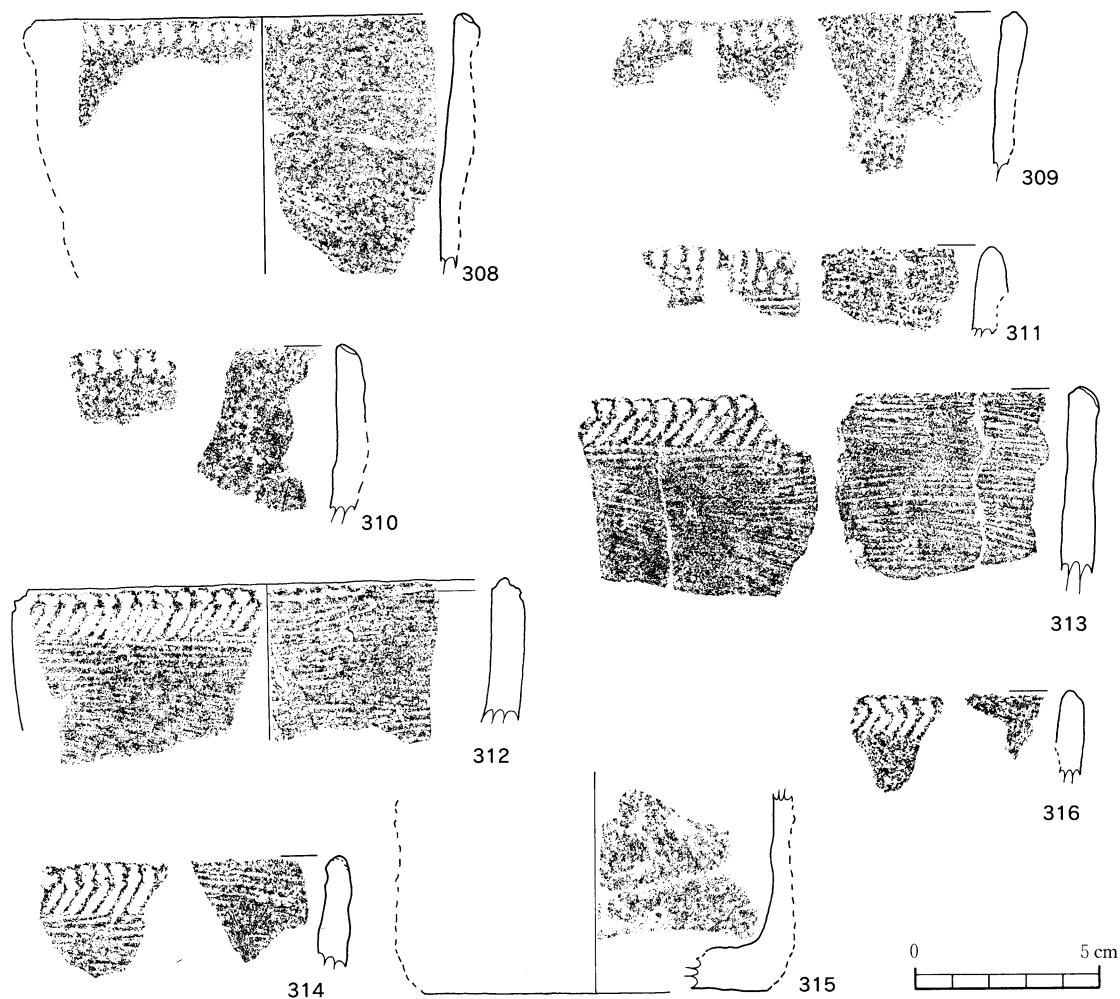
308は口縁部～胴部である。器形は円筒形で、両面ともナデ調整が施されているが、外面の多くが剥落している。口唇部は内傾し、貝殻腹縁による連続刺突文が施されている。309も口縁部～胴部であるが、外面の大部分が剥落している。口縁部内側に段を作り、口縁部外側からも貝殻の刺突文を巡らせているため口唇部は断面三角形を成す。310も口縁部～胴部であるが、外面の多くが剥落している。口唇部は内傾し、貝殻腹縁による連続刺突文が施されている。311は口縁部である。外面は貝殻条痕による調整がなされている。口縁部内側に外傾した段を作り、篋状施文具で刻目をいれることで小さな波状の口縁部を作り出す。更に刻目の直下には横位の貝殻刺突文を巡らせている。312は口縁部内側に外傾した段を作り、口縁部外側から竹管状の施文具で刺突し、更にその直下に貝殻を右肩上がり傾けた刺突文を巡らせている。両面とも貝殻条痕による調整がなされている。313も312とほぼ同じ文様を持つ。外面に煤が付着している。314は312の文様と比べて竹管状の施文具による刺突文が口縁部外側に張り出してきている。315は胴部から底部にかけて残存しているが、胴部の外面は全て剥落している。内面と底部の接地面はナデ調整が施され、底部の接地面は平坦である。胎土は白色粒を多く含む。316は口縁部の小片である。口縁部内側に外傾した段を作り、口縁部外側から貝殻刺突文が施されている。更にその直下に貝殻を右肩上がり傾けた刺突文を巡らせている。

(第57図 317～324)

317は貝殻条痕文土器の口縁部の小片である。器壁は非常に薄く、内面はナデ調整が施されている。外面は貝殻条痕による調整がなされている。口唇部は平坦面を作った上に篋状の施文具で細かく刺突を巡らせている。口縁部の直下には横位の貝殻刺突文を3条連ねて巡らせている。その下に楔状の突起を貼り付け、その左右に貝殻刺突が施されている。また、その左隣に貝殻刺突文が右上がりの斜位に施文されている。

318は円筒形貝殻条痕文土器の胴部である。外面は貝殻条痕による調整がなされた上に、貝殻腹縁による連続した刺突文が斜位に2条、不連続の刺突文が1条斜位に施されている。内面は縦位にナデ調整が施されている。319は円筒形貝殻条痕文土器の胴部小片である。外面は斜位の貝殻条痕による調整がなされた上に、縦位に波状の貝殻条痕が施されている。内面は縦位の条痕が観察される。320は円筒形貝殻条痕文土器の胴部から底部が残存している。外面は斜位の貝殻条痕による器面調整の上に縦位の貝殻刺突文が約7ミリ幅で施文されている。底部と胴部は剥離しているが胴部の剥離部分から上に向かって約1.5センチの沈線が約3ミリ幅で施文されている。内面は縦位の条痕が観察される。底部は平底でナデ調整が施されている。321は胴部である。器形は円筒形だが、湾曲にわずかなひずみがある、両面とも斜位の貝殻条痕による調整がなされている。

322は器厚の分厚い胴部である。外面は綾杉状に貝殻条痕文が施文され、その上から約3.5



第56図 縄文土器（1）

センチほどの貝殻刺突文をくの字状に連ねている。内面は縦位の条痕が観察される。胎土に白色の小礫を大量に含む。323は胴部である。器形は円筒形で外面は横位の貝殻条痕文を巡らせている。内面は縦位の条痕が観察される。324は円筒形貝殻条痕文土器の胴部である。両面とも斜位の貝殻条痕による器面調整がなされている。

(第58図325～331)

325の器形は円筒形で外面は横位の貝殻条痕文を巡らせている。内面は縦位の条痕が観察される。326は両面とも薄く貝殻条痕による調整がなされている。327も両面とも薄く貝殻条痕による調整がなされている。外面は斜位の条痕が施され、内面は横位の条痕の上にランダムに施文されたと思われる条痕が観察される。328は胴部だが、外面は縦位に貝殻条痕文が施されている。内面は縦位の条痕が観察される。329は角筒土器の角を含む胴部である。外面は横位の貝殻条痕文を巡らせ、角の部分に刺突文が施されている。331は角筒土器の角を含む胴部から底部である。外面は縦位の貝殻条痕文が見られ、角の部分に刺突文が施されている。底部の器厚が約4ミリと非常に薄い。

(第59図332～337)

332は口縁部である。口唇部の平坦面に篋状施文具で刻目が施されている。更に刻目の直下に

は斜位の貝殻刺突文を巡らせている。内面は横位のナデ調整が観察される。333から336は円筒形貝殻条痕文土器だが特徴的な土器である。内面は斜位の条痕で器面調整がなされ、胎土に多数の石英粒が観察できる。口唇部の平坦面には貝殻と思われる押引文が見られる。口唇部外側直下は口唇部の平坦と同じ施文具で押引文が施されている。その下に貝殻条痕を横位に3条巡らせている。更にその下に貝殻条痕を縦位に施文し、その下に貝殻条痕が横位に施文されている。外面は丁寧に器面調整がなされ、内面は斜位の条痕による調整がみられる。胎土は石英や小白粒を多く含み、内面から容易に観察できる。337は貝殻条痕による器面調整が施されているが、外面の調整がより粗い。

(第58図338~340)

338~340は同一個体である。338は大型の土器の胴部である。残存部から器形はバケツ状を呈すると思われる。外面は間隔を開けて斜位の貝殻条痕や貝殻による波状文が見られる。内面はナデや条痕による器面調整が施されている。339は胴部である。外面は荒い調整がなされ、貝殻条痕が数カ所に見られる。内面は貝殻条痕による器面調整が施されている。胎土に小礫を多く含む。

340は底部である。色調は淡茶褐色で、器形は接地面から垂直に1センチほど立ち上がり、それから屈曲して外側に大きく開く。両面とも粗い調整が施されている。

(第59図 341~342)

341と342は山形押型文が見られる。341は胎土に多くの金雲母を含む。器形は屈曲しており、外面は屈曲部の上面に縦位の山形押型文が入る。屈曲部から下部は表面が剥落しており、文様を観察する事はできない。342は穿孔痕を有し、胎土に石英を多く含む。外面の一部に山形押型文が斜位に観察される。内面に煤が付着している。

(第60図343~347)

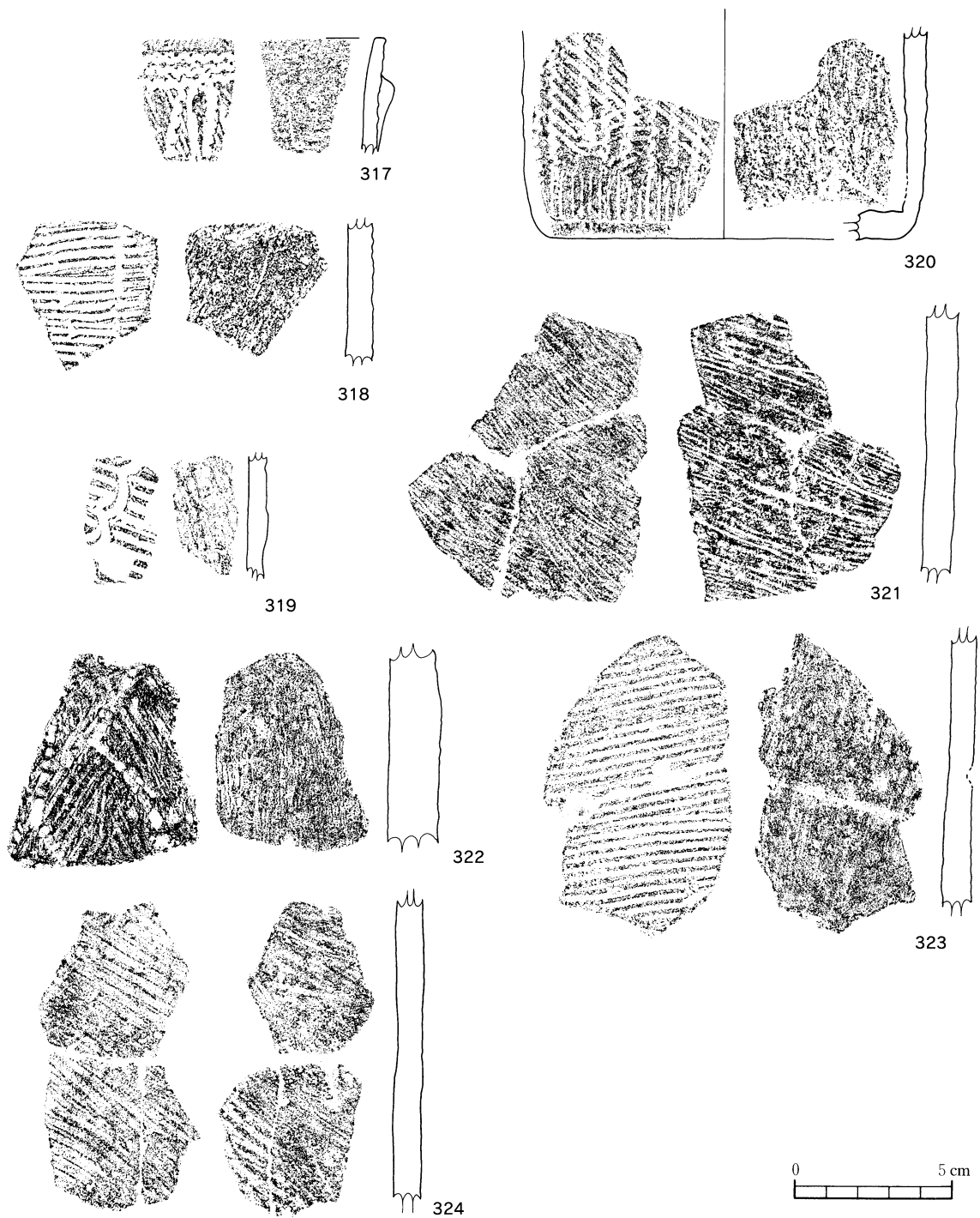
343から364は早期後葉の凹線文土器である。

343は口縁部から胴部に至る部分である。口縁部は大きく外反している。口唇部に平坦面が作られ、その部分に斜位の凹線が刻まれている。口唇部と口縁部の境の角の部分に刻目が入る。口縁部外面は綾杉状に凹線文が施される。口縁部と胴部の境に横位に3本の凹線を巡らせ、胴部は口縁部と同じく凹線文による同心菱形の文様が入る。内面に条痕が見られる。胎土には金雲母を多く含む。344は口縁部である。文様は343とほぼ同じだが、口縁部の開きが小さい。口唇部と口縁部の境の刻目が左側から刻まれている様子が観察される。また、一部に口唇部に刻目の文様帯を貼り付けたような痕跡が見られる。345は口縁部である。口唇部外側の一部が肥厚し、瘤状になった部分から下に縦位の刻目突帯が施されている。346は口唇部外側に刻目突帯文が貼り付けられている。

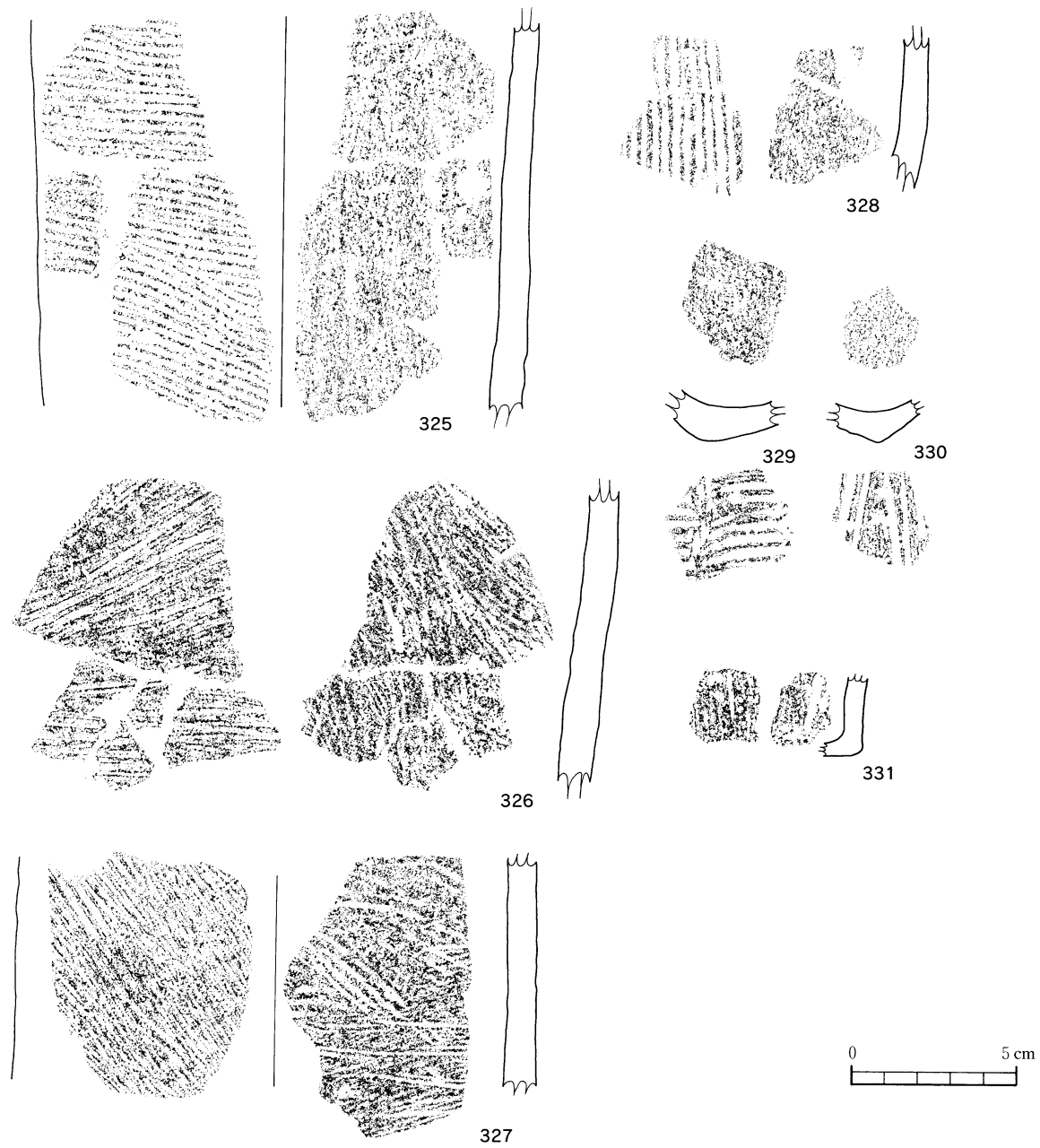
347は口縁部である。刻目部分がより密に施文され、文様帯が口唇部上部にせり上がってきている。

(第61図348~349)

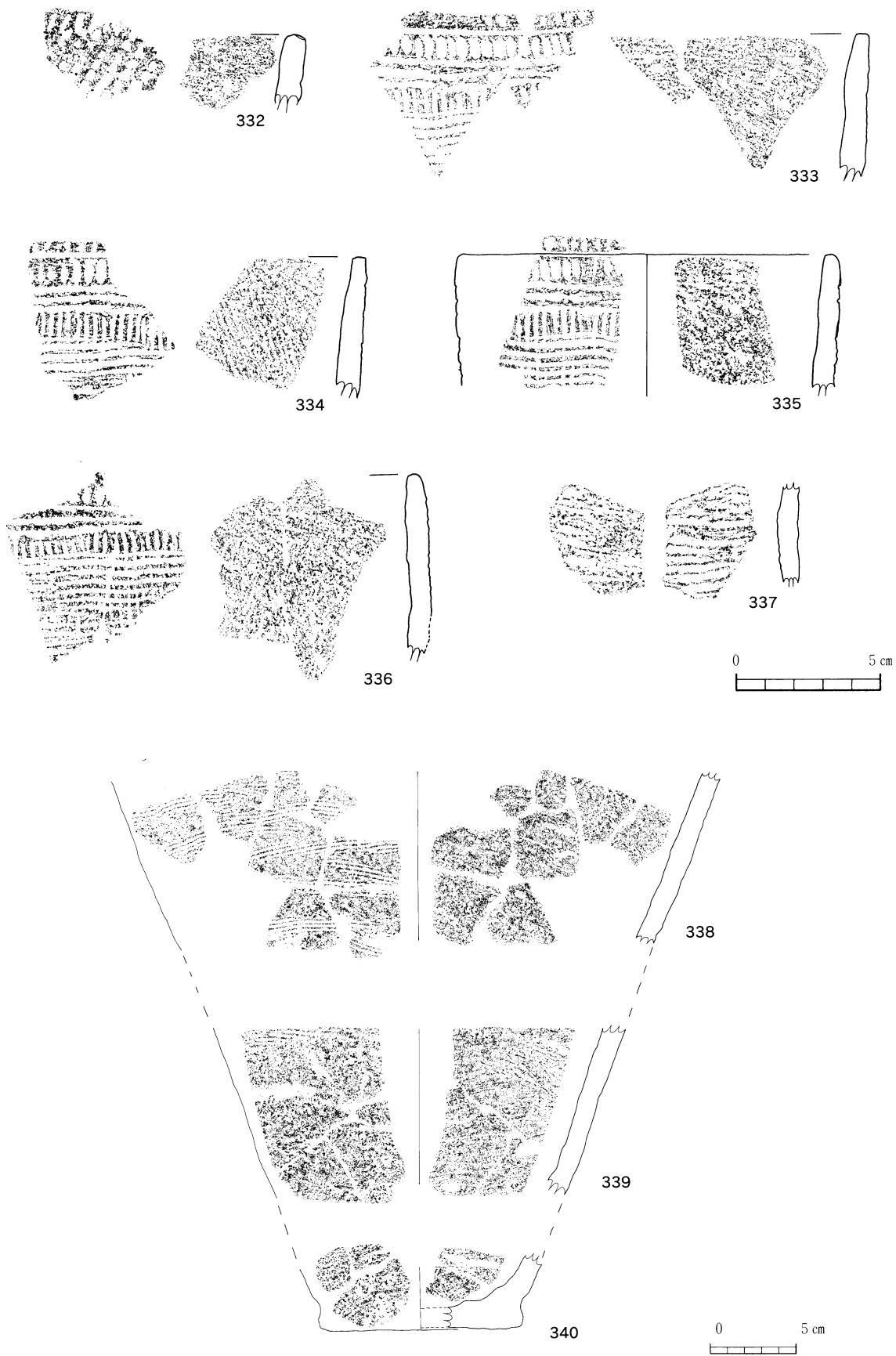
348は口縁部の小片である。文様のパターンは他と同じだが、細い沈線による施文がなされている。また口唇部の刻目が無い。349は口縁部である。口唇部の平坦面に斜位に凹線が刻まれ、口縁部外面には縦位の凹線が施される。350から362は胴部である。350は綾杉条の凹線文と横位に胴部を巡る3条の凹線文のほか縦位の刻目突帯が1条観察される。刻目突帯は胴部の横位の凹線文の部分から下に貼り付けられており、その先端は幾分瘤条に肥厚している。351は胴部の



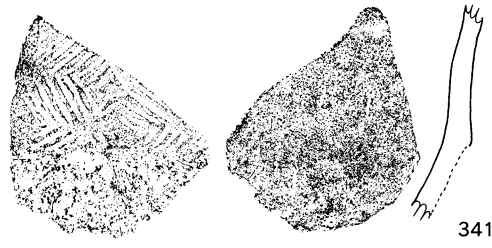
第57図 縄文土器 (2)



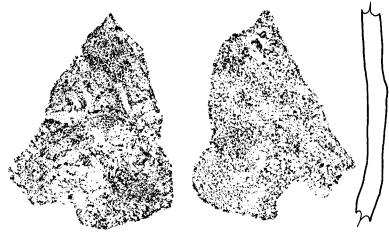
第58図 縄文土器 (3)



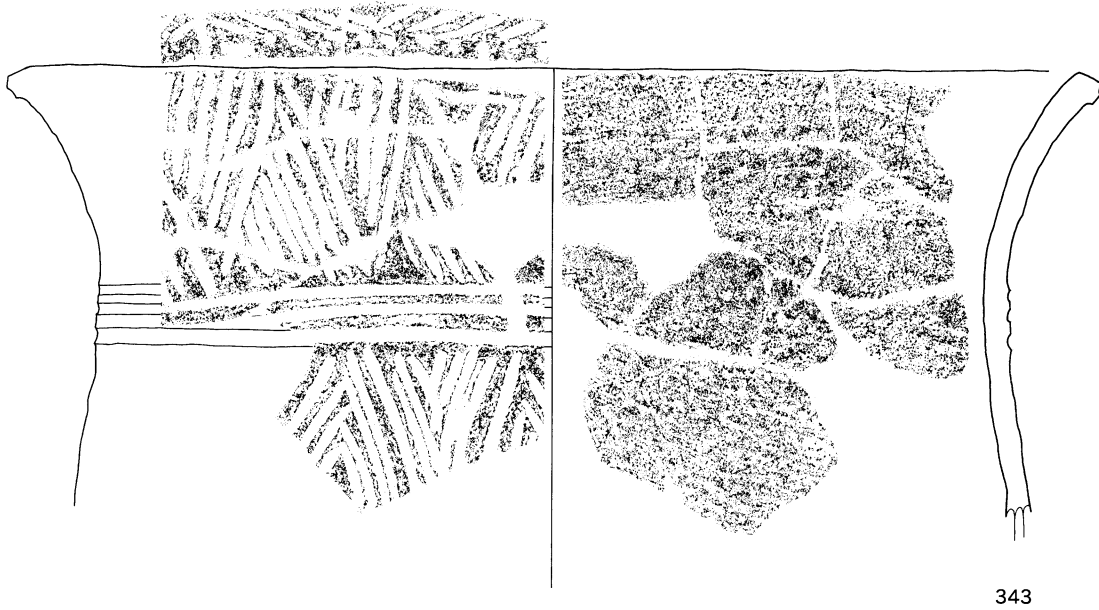
第59図 縄文土器 (4)



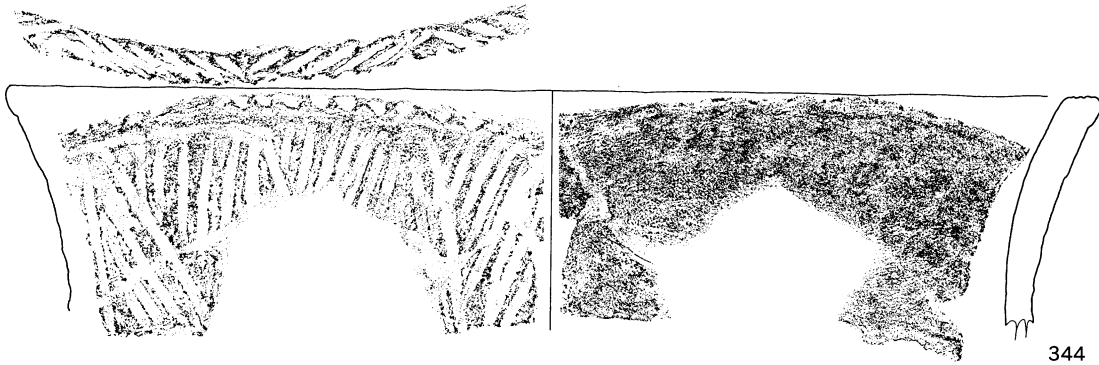
341



342



343



344



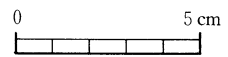
345



346



347



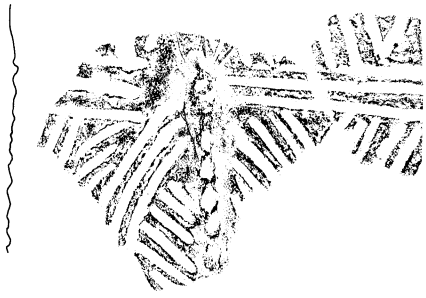
第60図 縄文土器 (5)



348



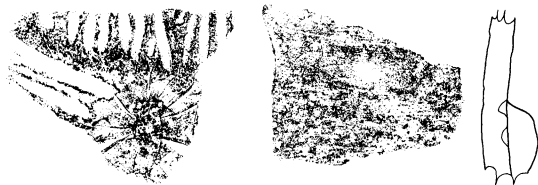
349



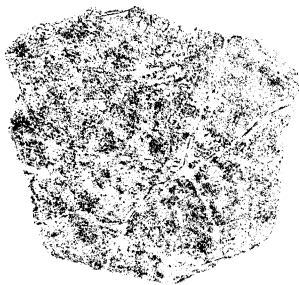
350



351



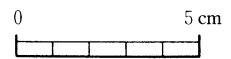
352



353

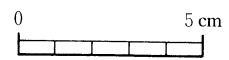
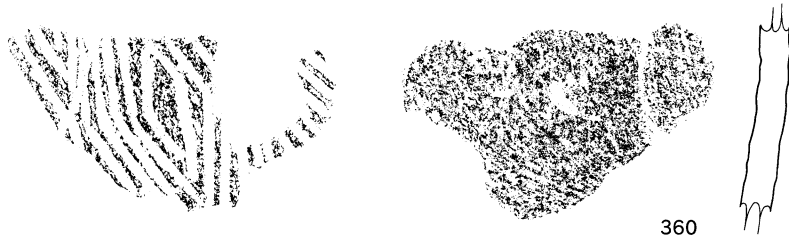
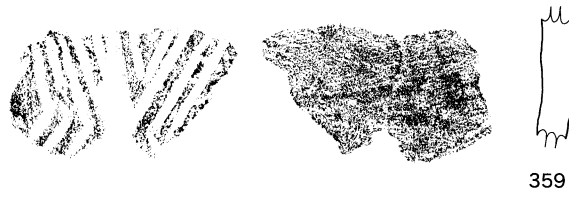
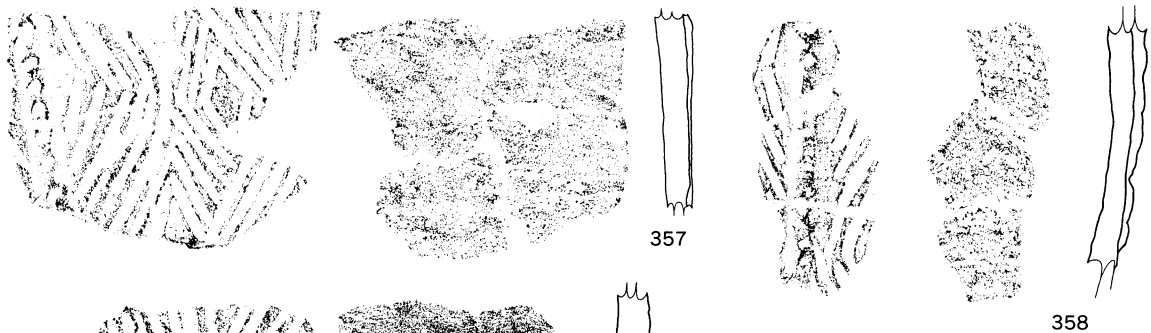
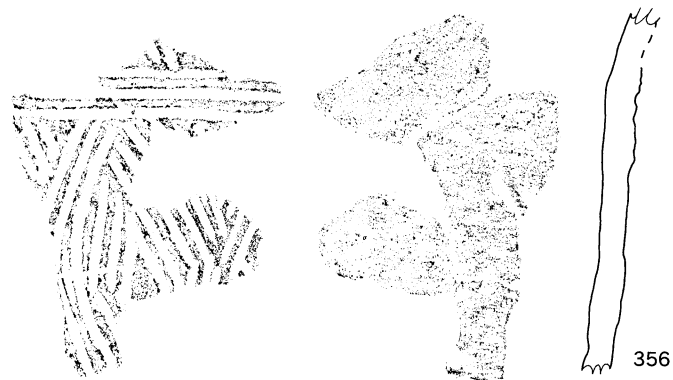


354

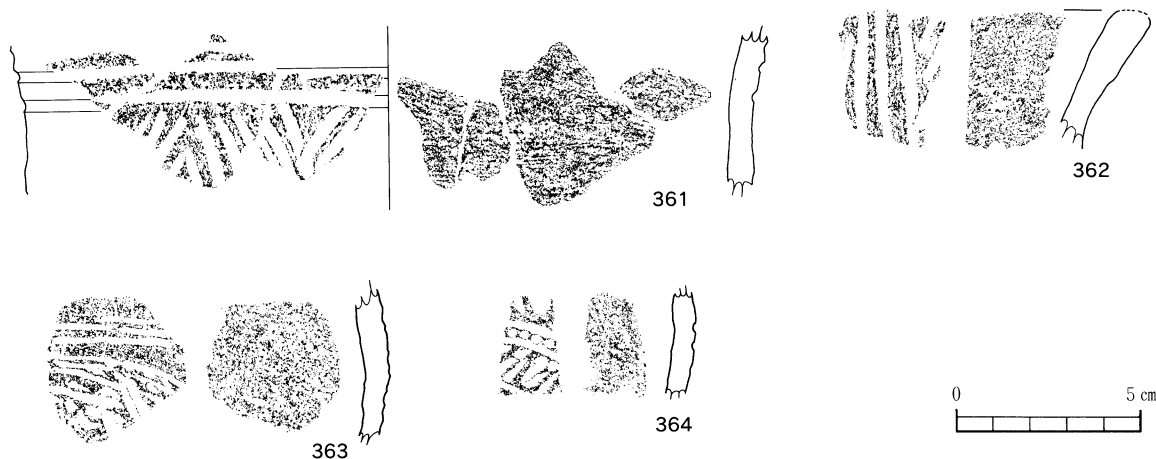


第61図 縄文土器 (6)





第62図 縄文土器 (7)



第63図 縄文土器 (8)

刻目突帯部分である。突帯は断面三角に成形されているが、その上部尖端には瘤状に膨らんだところを上から幾分押しつぶしたような痕が見られる。352は外面に煤が付着している。突帯の尖端部の瘤状の部分に刻目が入っている。353は綾杉状の凹線文と横位に3条の凹線文が胴部を巡っている。縦位の刻目突帯が1条見られるが、尖端は丸い瘤状に整形されている。その下の突帯は非常に細く、わずかに刻目が見られるものの、他のものに比べて見劣りがする。354は細い刻目突帯が施文された後に凹線文が施文された様子がかがえる。凹線文の間に一条の連点文が見られる。

(第62図355～360)

355は凹線文による同心菱形文が施文されている。356は3条の横位に胴部を巡る凹線文と綾杉文と3条の凹線文が見られる。内面は細かい条痕が観察される。357は刻目のはっきりした刻目突帯が施文されている。359は内面に細かい条痕が見られる。360は胴部の凹線文が見られる。内面の調整が幾分荒い。

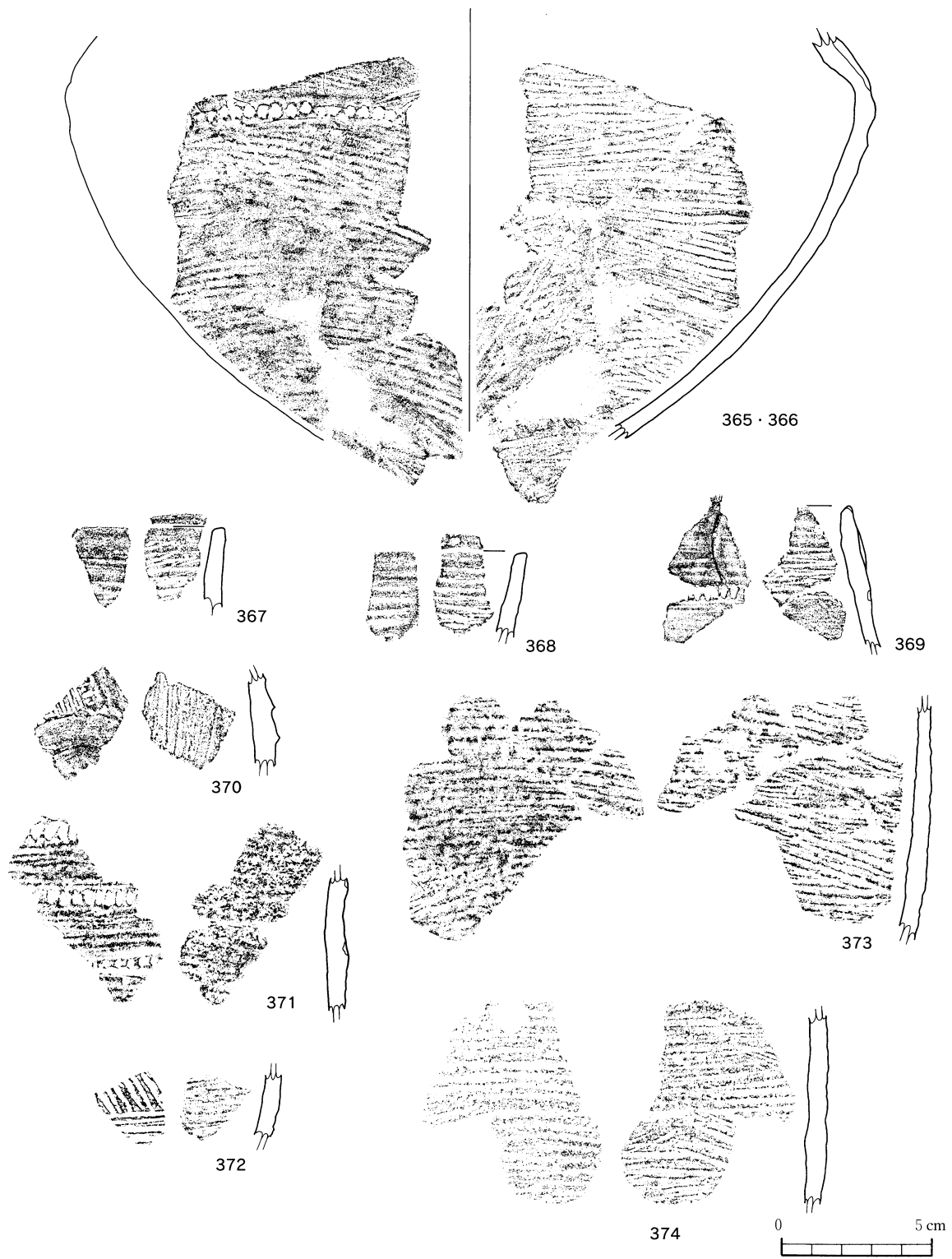
(第63図361～364)

361は3条の胴部を巡る凹線文が観察できる。362は口縁部と思われる。外面に綾杉状の凹線文が見られる。363と364は胎土に小白粒を多く含み、外面に沈線や連点文が見られる土器である。363は外面に沈線文と刺突文の他、沈線文と沈線文の間に連点文が施されている。364も曲線の沈線文と沈線文の間に連点文が施されている。

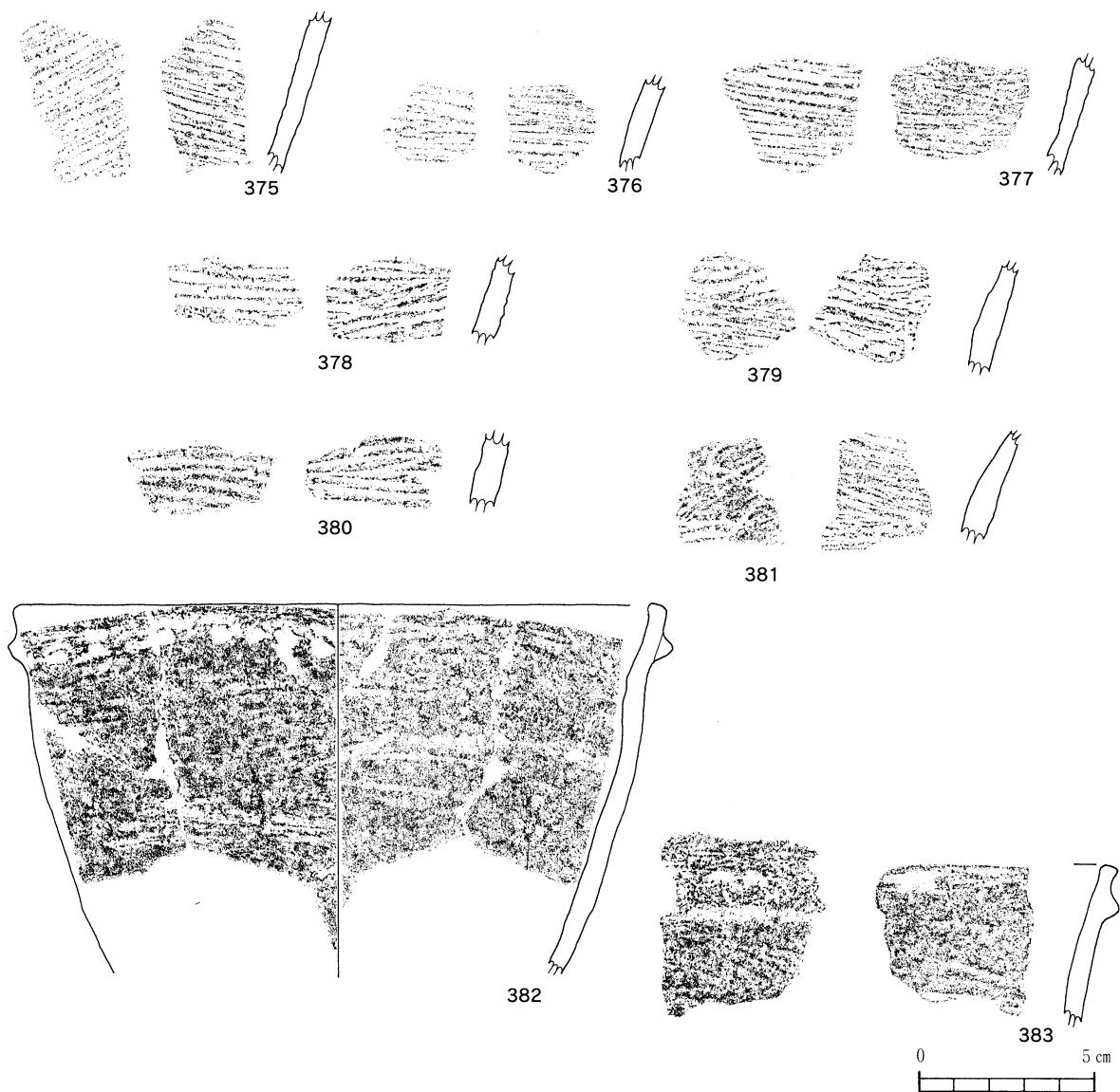
Ⅲ層から縄文時代前期と思われる遺物が出土した。そのうちの25点の実測・写真撮影を行った。

(第64図365～374)

365と366は同一個体である。両面とも貝殻条痕による調整がなされている。胴部の最も張り出した部分に密に刻目を施文した刻目突帯が施されている。胎土は小白粒を含み器厚は薄い。367は口縁部の小片である。両面とも貝殻条痕による調整がなされている。368も口縁部の小片である。両面とも貝殻条痕による調整がなされている。口唇部がわずかに内傾している。369も口縁部の小片であるが、口唇部直下から下に向かってやや左に湾曲した突帯が1条見られる。突帯の下端に尖った棒等で刺突したと思われる刺突文が底面に平行に連なっている。



第64図 縄文土器 (9)



第65図 縄文土器 (10)

370は胴部の湾曲した小片である。貝殻条痕による調整がなされた上から指頭で撫でたと思われる凹線が1条見られる。371は両面とも貝殻条痕による調整がなされており、外面に372と同じ施文具を使用したと思われる連続刺突文が、約2センチおきに平行に3条見られる。373は胴部の小片で、内面は貝殻条痕による調整が、外面は貝殻条痕による横位と斜位の条痕文が施されている。

(第65図375~383)

375から381は胴部の小片である。両面とも貝殻条痕による調整がなされている。382は口縁部から胴部で、B15区の溝状遺構内から出土した。胎土は石英粒を多く含み、表面から観察できる。器厚は薄く両面とも貝殻等による研磨がなされている。口唇部は扁平で平坦だが、口唇部外側直下に緩やかな波状の刻目突帯を1条巡らせている。383は382と非常に似ているが刻目突帯が直線的に貼り付けられている。

(第66図384～391)

384は調整の荒い浅鉢型の土器である。口縁部は口唇部を平坦に調整しているが所々に指頭で下方に押しつぶしたような凹みがある。口縁部内側には口唇部の調整の際に余った粘土が垂れ下がるように残存している。両面ともナデ調整が施されているが、凹凸が激しく胴部は制作時に積み上げた粘土帯の継ぎ目が明瞭である。底部は分厚く、断面から、底部の上に胴部の粘土帯を乗せて製作した様子が伺える。385は口縁部から胴部である。口唇部の断面は角の丸い平坦に調整されている。口唇部外側直下に貝殻による押引文が施されている。その下に凹線が2条と、同じ施文具で施文された3条の波状文がみられる。波状文の内の2条は途中で繋がっている。下の2条の波状文の間には貝殻でへの字状に刺突文が巡っている。内面はナデ調整が施されている。

386は胴部の小片である。385と同じ施文具で凹線文と貝殻刺突文が施文されている。387は外面に凹線文が施されている。内面はナデ調整が施されている。388は胴部である。外面に凹線による渦巻文が見られる。389は底部である。器形は接地面から鋭角気味に立ち上がり、湾曲して外反している。底部は上げ底になっている。胎土には多くの小礫が含まれている。

縄文時代後期と思われる遺物は主にⅢ層から出土した。出土遺物のうち3点の実測・写真撮影を行った。

(第66図390～391)

390は口縁部から胴部である。口唇部は平坦に調整され、口唇部外側直下に刺突文がある。頸部の最も括れる部分に2条の凹線があり、その間に斜位に刻目の入る突帯文が1条施文されている。391は口縁部の小片である。口縁部内側に外傾した段を作り、口縁部外側から貝殻で斜位に刺突している。内面はナデ調整が施されている。

(第67図392)

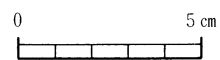
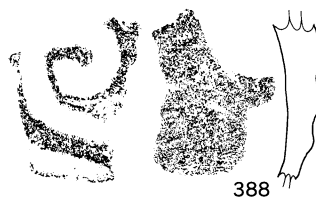
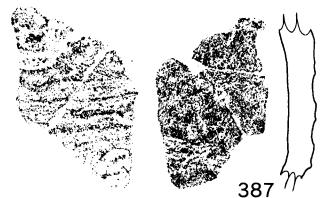
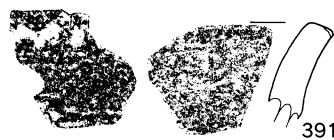
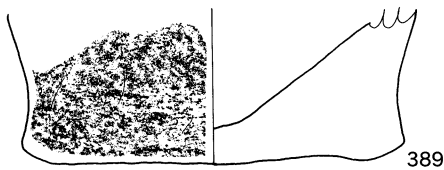
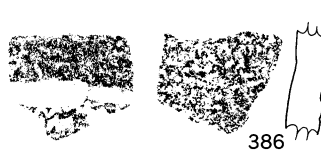
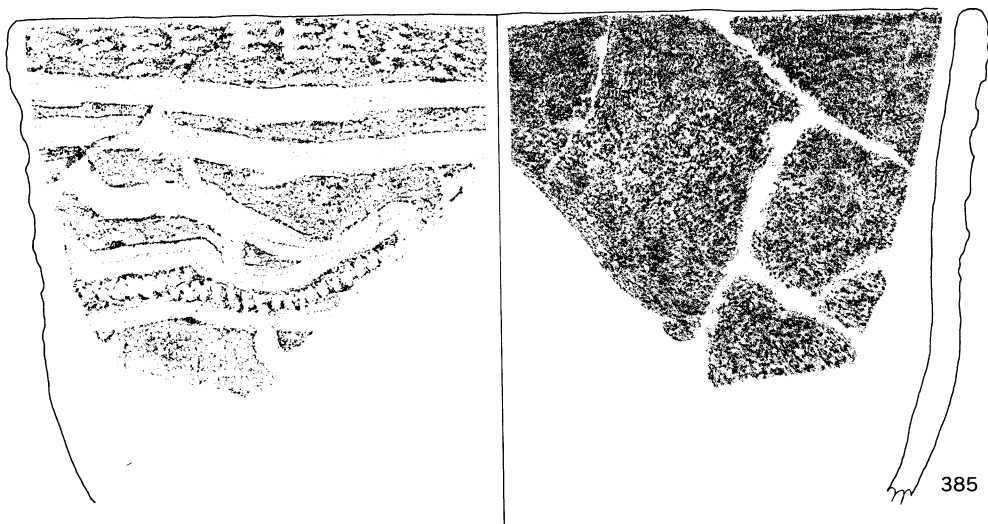
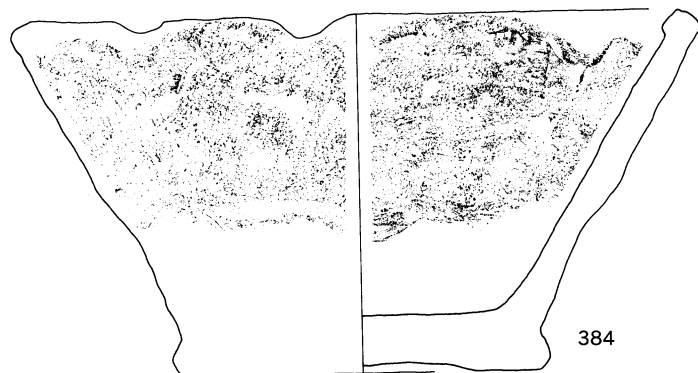
392は大型の土器の胴部である。両面とも粗いナデと条痕による器面調整で、外面に沈線と所々貝殻条痕が施されている。胎土は石英や角閃石を含み、色調は外面が暗茶褐色で内面は明茶褐色である。

縄文時代晩期と思われる遺物は主にⅡ・Ⅲ層から出土した。そのうち、93点の実測等を行った。

(第68図393～397・399・403)

393から414は深鉢である。

393は口縁部～胴部である。胎土は直径2ミリほどの小白粒を多く含むが、両面とも丁寧に調整され内面は貝殻条痕による調整がなされている。口縁部から2センチほどの部分に直径1.2センチほどの穿孔を外面から内面に向かって斜め下方に穿っている。口縁部外側に幅7ミリの凹線文がめぐっている。394は口縁部である。両面とも丁寧に調整されているが、口唇部に一部へこみが見られる。395も口縁部だが、調整は幾分粗い。口縁部の一部が突起状に盛り上がっていたと思われるが、剥落している。396は両面が貝殻条痕による調整がなされている。口縁部外側がわずかに括れ、口唇部は丸く肥厚している。397は口縁部から胴部下部分まで残存している。これも口縁部外側がわずかに括れ、口唇部は丸く肥厚している。胴部外側は緩やかに屈曲しているが、内面に屈曲は見られない。



第66図 縄文土器 (11)

(第69図393・398・401)

398は口縁部から胴部が残存している。胎土に大きいもので直径3ミリほどの石英や長石の粒を含む。両面とも横位に条痕が見られるが調整は非常に荒い。口縁部は平坦部を形成し、口唇部内側に1条のくぼみが巡っているが、これも調整は荒い。胴部の屈曲部と思われる部分で欠損している。399は口縁部だが垂直に立ち上がった器形をもつ。口唇部はやや扁平で口唇部直下の外側にかすかなくぼみが1条入る。内面は貝殻条痕による調整が施されている。

(第70図400・402・404～410)

400も口縁部である。両面は貝殻条痕による調整がなされている。断面を見ると口縁部外側がわずかにくびれ、口唇部は角の丸い扁平に調整されている。401は口縁部から胴部である。全体が条痕で丁寧に調整されている。口縁部は口唇部がわずかに外反している。402は両面は幾分荒い貝殻条痕で調整されている。口縁部はごくわずかに外反し、口唇部は扁平である。胎土に石英粒を多く含む。403は口縁部だが、401と同一個体の可能性がある。404は口縁部だが垂直に立ち上がった器形をもつ。口唇部は丸く、外面に煤が付着している。405の口唇部は丸くわずかに外反している。胎土に石英と小礫を多く含み、外面に煤が付着している。406は口縁部から胴部にかけて残存している。両面とも貝殻条痕による調整がなされている。口唇部の器形は垂直に立ち上がり、断面は扁平な部分と丸い部分がある。胎土に小白粒を多く含む。408は外面の荒い調整に対して内面の調整が丁寧になされている。口唇部の断面は丸いが摩滅が激しい。

409は胴部で、両面に磨きによる条痕がみられる。また、外面に煤が付着している。410も胴部である。貝殻条痕による調整がなされている。胎土に石英を多く含み、外面にその様子が観察できる。

(第71図411～414)

411から414は深鉢の底部である。残存部はまちまちだが4点とも接地面の直径はほぼ同じである。411は胴部下部から底部が残存している。接地面の円周部分が剥落しているが、中央の残存部には条痕が見られる。412の断面は丸みを帯びているが接地面は扁平に見える、接地面の中央部はわずかに上げ底であるのが確認できる。413は断面はやや扁平だが、接地面がわずかに丸みを帯びているためにやや安定性に欠ける。414は胎土に角閃石を含む。底部から胴部へ立ち上がる部分の挟りが指撫で成形されている。

(第72図415～418)

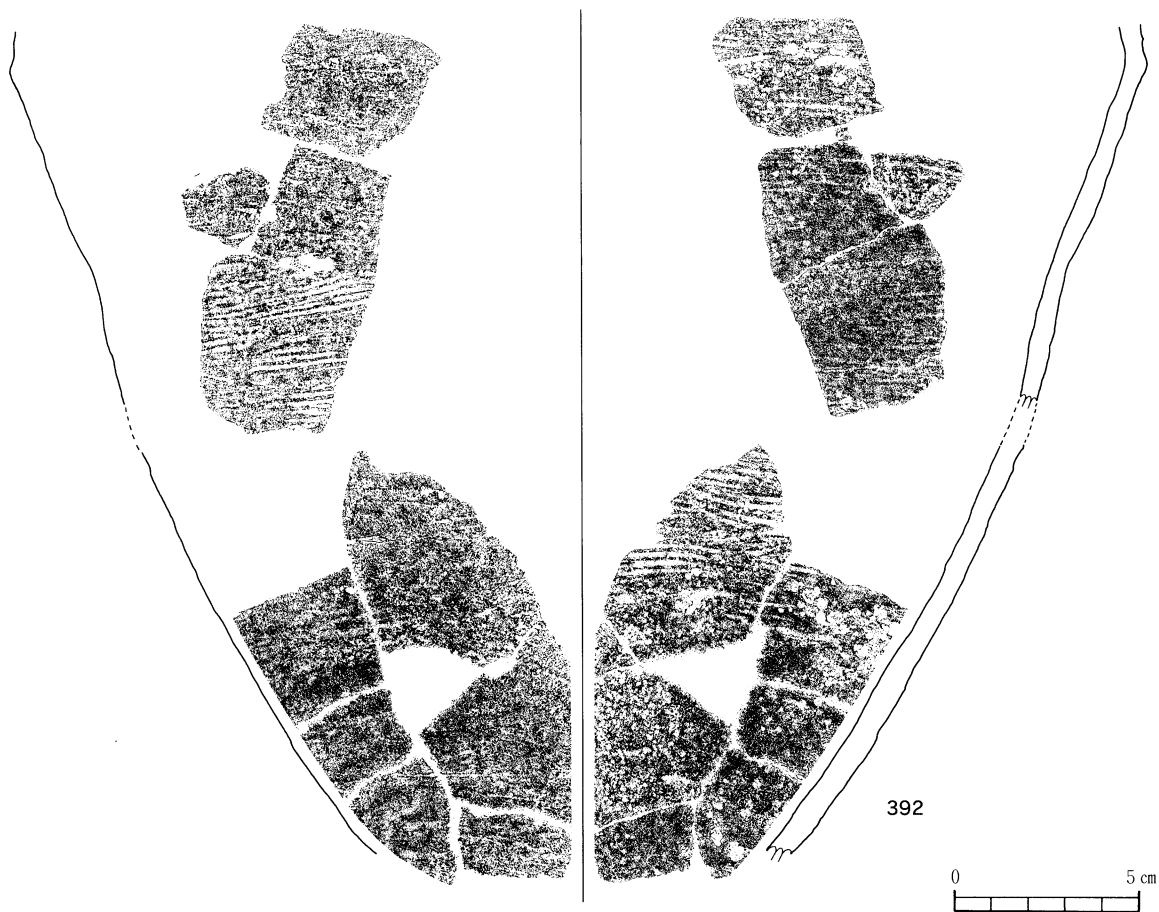
415から419は晩期の中鉢である。415は口縁部から胴部まで残存している。口唇部は扁平だが口縁部外側に余った粘土が垂れ下がった状態を呈している。断面をみると口縁部から胴部にかけて緩やかに湾曲している。外面の口縁部の調整は荒いが、胴部はナデ調整が施されている。内側は石英粒が多く含まれているのが観察できる。416は胎土にほとんど砂粒等を含まず、一見土師器を思わせる。外面が緩やかに屈曲しているが内に屈曲は見られない。417は口縁部である。胎土に石英粒を多く含むが、両面とも丁寧な磨きがかけられている。口唇部はやや尖り気味である。418は口縁部の小片である。器厚は薄く、両面は丁寧な器面調整がなされている。

(第73図 419～434)

419から438は晩期の浅鉢である。419は口縁部から胴部下部にかけて残存する。両面とも磨かれており、特に内面は丁寧に研磨されている。器形は、胴部の最も張り出した部分から頸部に向かって緩やかに内湾し、口縁部は極わずかに外反する。口唇部は内面が外に強く湾曲する形で薄く調整されている。口縁部外側に2条の沈線が見られる。420は全体が丁寧に研磨されている。

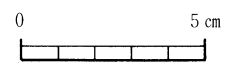
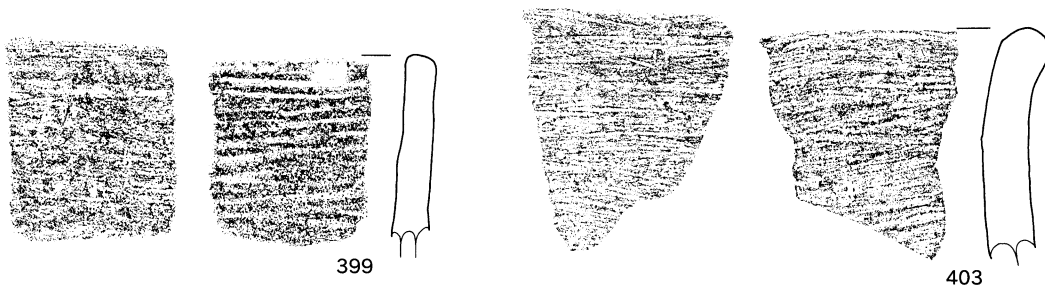
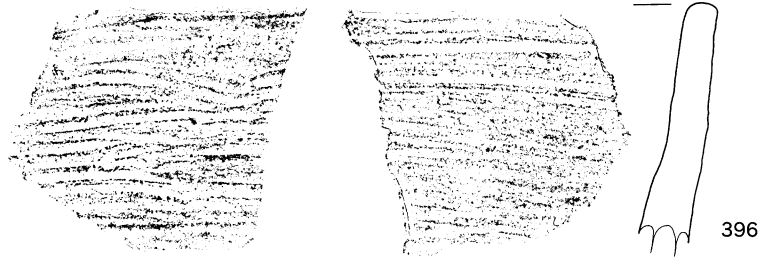
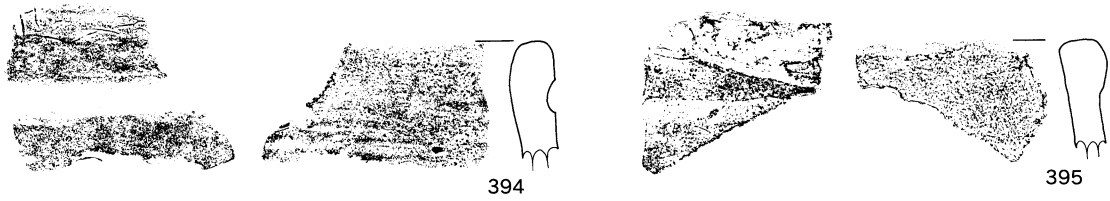
胴部と頸部に1条ずつ沈線が入り、赤色顔料による着色がなされている。頸部、胴部は鋭角に屈曲し底部に至る部分で欠損している。421は口縁部である。全体が丁寧に研磨され、口唇部は外反し、口唇部と口縁部の境は屈曲している。422から431は口縁部の小片である。422は両面を丁寧に研磨された土器である。口唇部は丸く調整され、外面の胴部との境と思われる屈曲部分に沈線が一条巡る。内面には口唇部尖端から約1センチの部分にクランク状の屈曲部が見られる。色調は淡灰褐色を呈する。423は暗灰褐色で丁寧に研磨されている。口唇部は扁平で、口縁部には1条の極めて細い沈線に赤色顔料で着色しているのが見られる。424は口唇部の一部が波状を呈しているがリボン状突起の部分と思われる。本遺跡でリボン状の突起が見られるのはこの1点のみである。425は黒褐色の研磨された土器である。口縁部外に屈曲部がある。426から428は内面に1条の沈線が見られる。429と430は外面に凹線文が見られる。431は淡褐色で口縁部外側が緩やかに屈曲している。内面に槌状の屈曲部が見られる。432は口縁部から胴部である。色調は暗茶褐色で全体が丁寧に研磨されている。外面の胴部にくの字状の屈曲があるが、内面は緩やかに湾曲している。口唇部の断面は角が丸く扁平である。口縁部の外面に極細い沈線が2条見えるが途中から撫で消されている。

433は底部である。433の色調は明茶褐色で全体が研磨されている。接地面は直径5.5センチほどでわずかに上げ底である。外面は接地面から底部の境は屈曲しているが、内面に屈曲部は

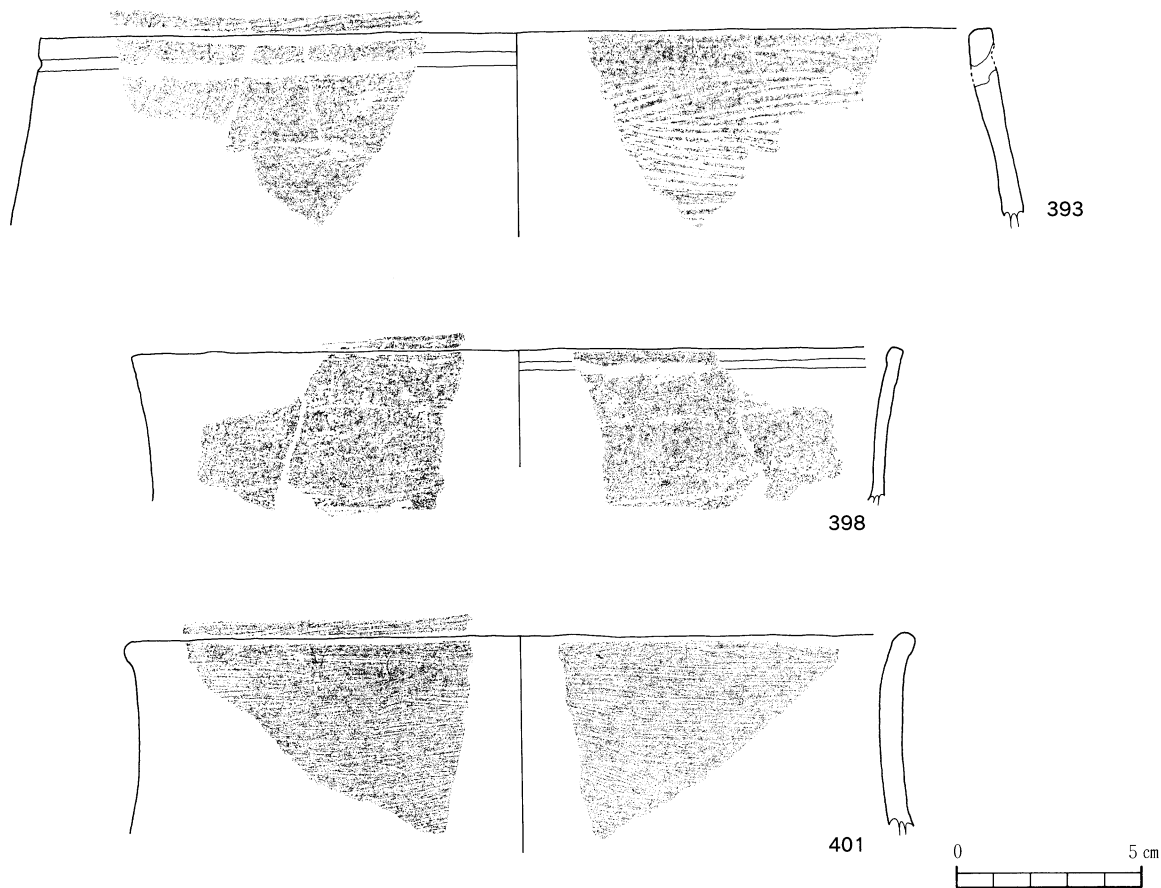


第67図 縄文土器 (12)





第68図 縄文土器 (13)



第69図 縄文土器 (14)

無い。434は口縁部の小片である。黒褐色で口縁部の外面に極細い沈線が1条見えるが、その沈線部にベンガラによる彩色が施されている。

(第74図435～441)

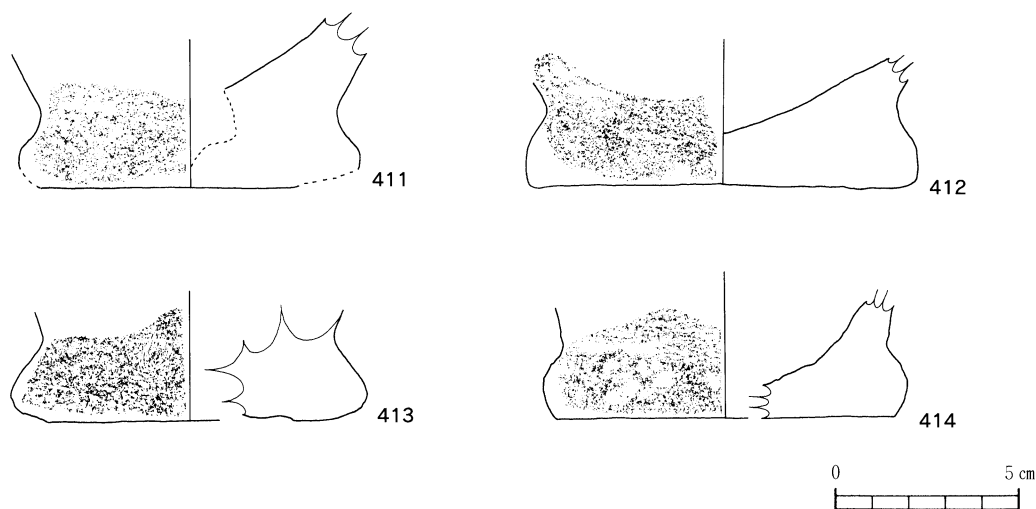
435は胎土に粒をほとんど含まず、一見土師器を思わせる。接地面からの立ち上がりも緩やかである。436の色調は外面は明褐色で接地面からほぼ垂直に立ち上がり、その後外反している。437は全体が丁寧に研磨されている。底部の接地面の中央は上げ底になっている。地面からの立ち上がり部分に凹線が見られる。438は口縁部から胴部にかけて残存している。口唇部は肥厚し、わずかに外側に張り出しており、全体が研磨されている。439は壺型土器の口縁部である。口唇部の断面は外傾し口縁部は外反している。口唇部から内面にかけて研磨されているが、外面は指押さえ痕が観察される。440はマリ型土器の口縁部と思われる。外面は淡褐色で丁寧に器面調整が施されている。441は壺型土器の頸部と思われる。胎土は石英粒を含むが両面とも研磨されている。

(第75図442～447)

442から455は粗製の浅鉢である。442は口縁部から胴部下部にわたって残存している。外面に煤が付着しているおり、直径約5ミリの穿孔が2カ所ある。残存部分では口縁部の一部が最も肥厚している。443は胴部の張り出しから口縁部にかけてわずかに内湾した器形を持ち、外面に煤が付着している。胎土に角閃石や白色粒を含む。444も外面には煤が付着している。口唇部は



第70図 縄文土器 (15)



第71図 縄文土器 (16)

丸く、全体がナデ調整が施されている。446は外面に煤が付着している。器面ナデ調整が施されているが、器厚が一定せず凹凸した印象を受ける。447は口唇部は扁平で、口縁部はわずかに外反している。また胎土に石英や角閃石などを多く含む。

(第76図448～456)

448の外面は黒褐色で口唇部が最も肥厚し、胴部の器厚が薄いのが特徴である。両面とも荒く条痕による調整が残り、石英・角閃石が外面から観察できる。449は外面に器面調整による条痕が多く残存しているのに対して、内面は丁寧に研磨されている。口唇部は角の丸い扁平で胴部に至るにつれて器厚が薄くなる。450は口唇部は扁平で器厚は一定している。両面とも荒いナデ調整が施されている。指頭によると思われる調整痕も観察できる。451は口唇部の断面は丸く、わずかに外反している。452の色調は暗褐色で調整は口唇部内面が比較的丁寧な調整の他は、荒いナデ調整が施されている。胎土に石英や白色の粒を多量に含む様子が内面から観察できる。口唇部は扁平で、1条の沈線が巡る。453の色調は黒褐色で外面はナデ調整、内面は研磨による調整が見られるものの、両面とも調整が荒く、多量の石英粒を表面から確認できる。454は口唇部の断面は内側に傾斜している。器厚は一定で、内面は研磨されている。455は口唇部の断面は丸く肥厚し、外側に張り出している。内面は丁寧に研磨されている。456の色調は黒褐色で胴部から口縁部にかけて、わずかに外反する。口唇部の断面は角の丸い扁平で幾分内側に傾く。器厚は一定だが、内面が丁寧に研磨されているのに比べて外面は荒いナデ調整が施され、多くの石英粒が観察できる。

(第77図457～464)

457の色調は淡褐色で表面の剥落が激しい。458は内面は丁寧に研磨されているが、外面は荒いナデ調整で凸凹している。459は口唇部の断面は扁平でわずかに外側に張り出している。外面には制作時の粘土帯を接着した痕がある。また外面は貝殻等で器面調整した後にナデ調整を行った様子が観察できる。内面から口唇部にかけては研磨されているが、わずかに凹凸がある。460は口唇部は扁平で口唇部から内面にかけて丁寧に研磨されている。外面は調整による細かい条痕が見られる。461は両面ともナデ調整が施されているが、器厚は一定している。462も両面とも



第72図 縄文土器 (17)

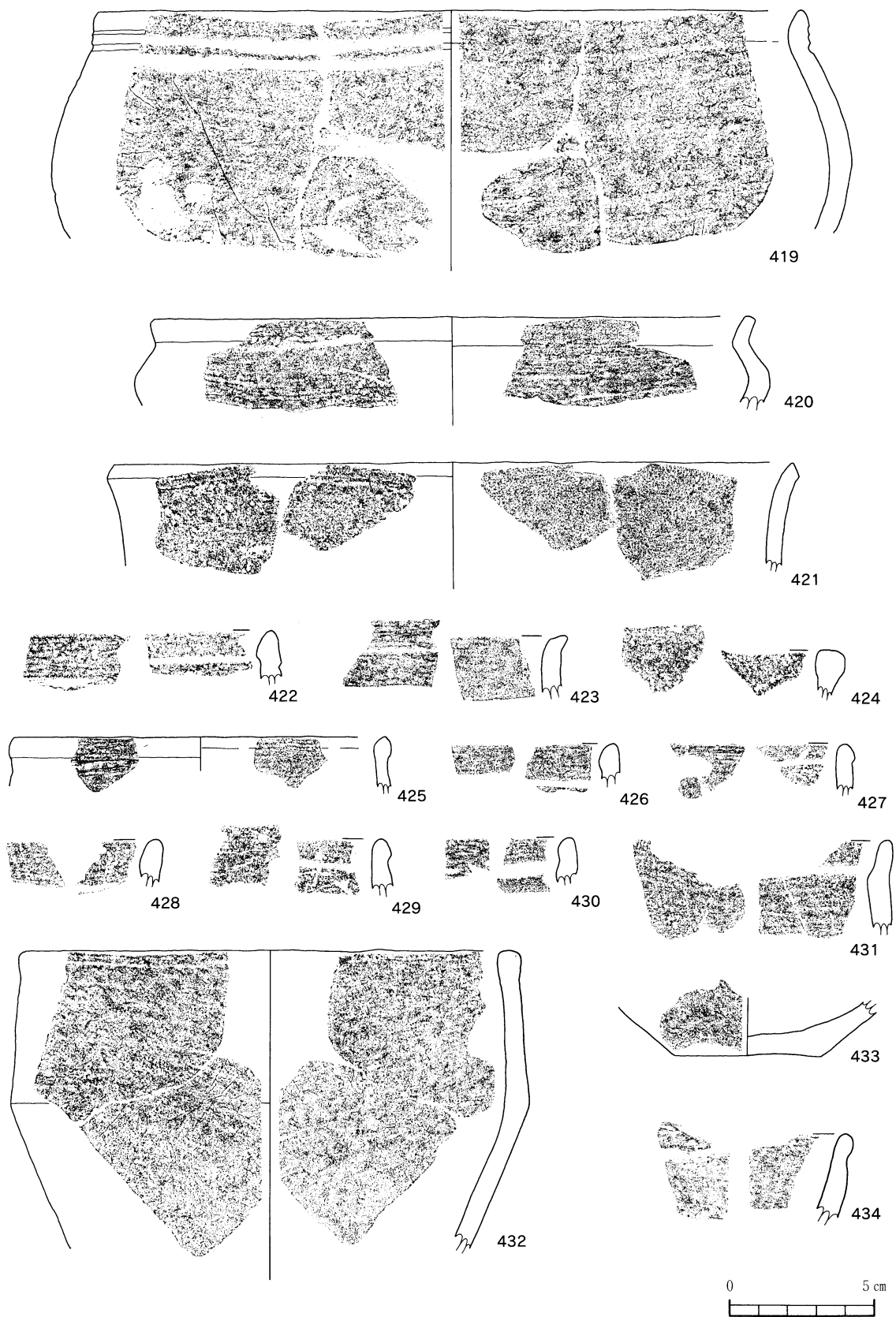
ナデ調整が施されているが、内面はより丁寧に研磨されている。463と464は胴部である。463は両面が研磨されているが、内面のほうがより調整の際の条痕が明確に見える。464の色調は暗茶褐色で、両面ともナデ調整が施されている。胎土に石英・角閃石を含む多量の砂粒を含むのが、両面から観察できる。

(第78図465～472)

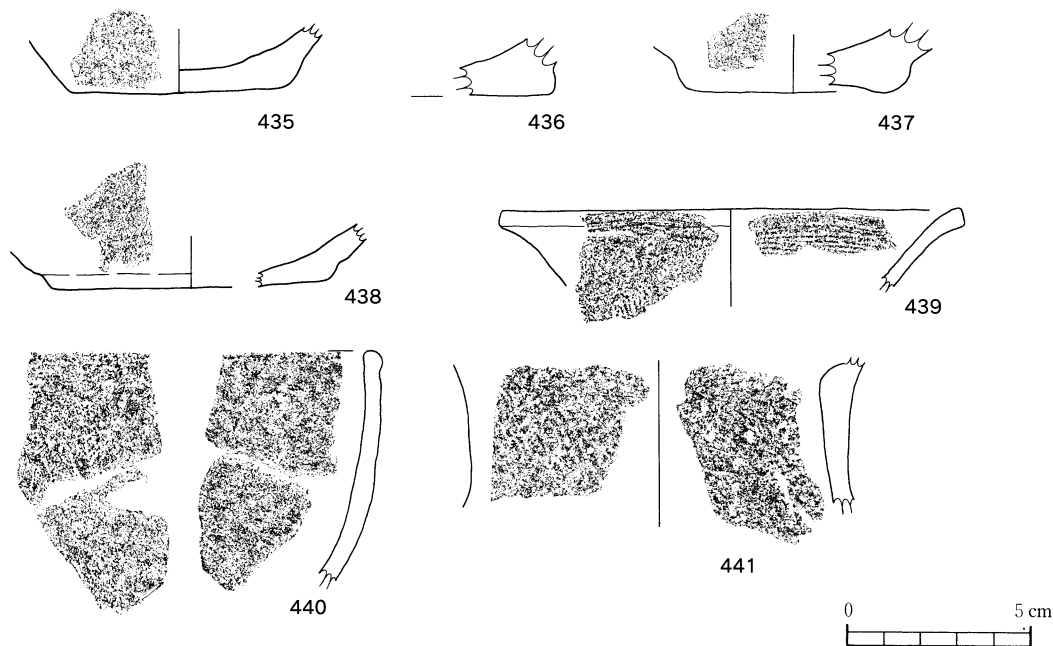
465から472は組織痕土器である。経糸がそれぞれ一定の間隔で編まれている。緯糸の太さは7点ともほぼ同じである。465は胴部である。残存部の下半分に編布圧痕が施されている。外面の上部は荒く研磨され、煤が付着している。内面は丁寧に研磨されている。466は口縁部である。外面は荒く研磨され、口唇部から約2.5センチ下の部分から編布圧痕が観察できる。口唇部から内面は丁寧に研磨されている。467は口縁部である。口唇部から3.5センチ下の部分から編布圧痕が観察できる。圧痕が施されている部分の器圧は5ミリほどで非常に薄いのが特徴である。口唇部から内面は丁寧に研磨されている。468は外面に編布圧痕が見られる。経糸は2センチ間隔で編まれているが、緯糸は乱れている。内面は丁寧に研磨されている。469の圧痕は浅めであるが、編布が斜めに引っ張られた様子が観察される。470は緯糸の密度にばらつきがある。471は経糸は約9ミリ間隔で編まれ、緯糸は1センチ内に約8本観察できる。内面は丁寧に研磨されている。472は外面に編布圧痕が観察できる。

(第78図473～475)

473は口縁部である。全体が研磨されているが、口唇部外側に、竹管等で左方向から刺突した文様が巡っている。474は口縁部である。口縁部の外側を削いだように外傾した口唇部を持つ。両面ともナデ調整が施されているが、外側に煤が付着している。475は胴部であるが、その上部



第73図 縄文土器 (18)



第74図 縄文土器 (19)

第11表 組織痕土器観察表

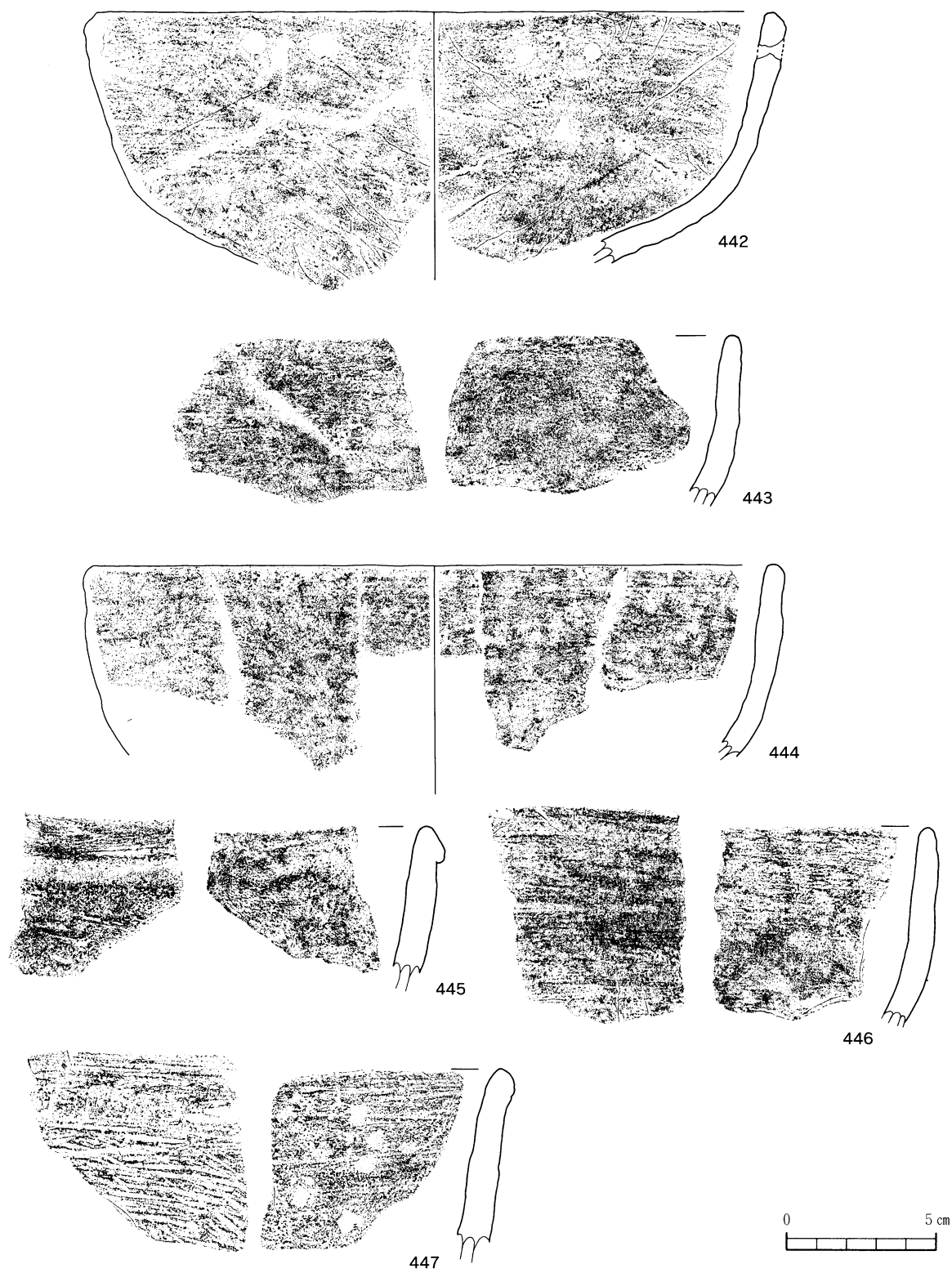
番号	経糸の間隔 (cm)	1cmあたりの緯糸の本数	緯糸の太さ (mm)	経糸の太さ (mm)	備考
465	1.3	6本	1.0	1.0	
466	0.7	7本	1.0	1.0	
467	1.0	6本	1.0	1.0	
468	1.5	5本	1.0	2.0	緯糸が乱れている
469	2.2	9本	0.5	2.0	
470	0.9	8本	0.5	2.0	緯糸に隙間がある
471	0.9	6本	0.5	2.0	
472	0.9	8本	0.5	1.5	

は粘土帯の接着面で欠損している。器面は両面とも荒く研磨されている。

(第79図476~482)

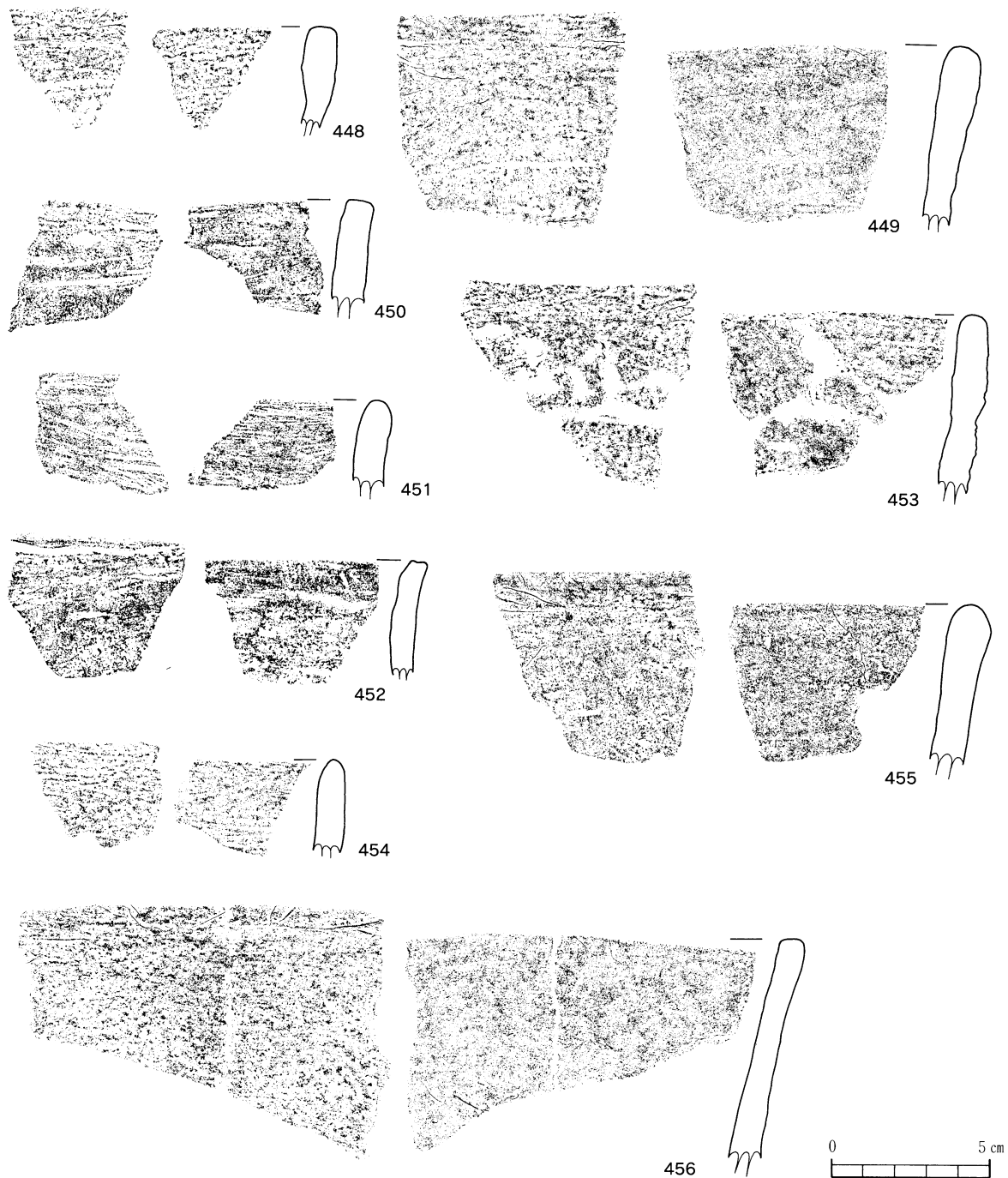
476から486は晩期の精製浅鉢である。476は口縁部から胴部下部まで残存している。全体が丁寧に研磨され、口縁部の外面に1条と胴部に2条の沈線があり、赤色顔料で着色されている。口唇部の断面は細く外側に張り出している。477は外面の色調は黒褐色で口縁部から胴部に至る括れ部分が赤色顔料で着色されている。478は口縁部だが摩耗が激しい。口縁部が外傾し、頸部で内側に屈曲して胴部に至る。

479は胴部から底部にかけて残存している。両面とも丁寧に研磨されている。胴部は制作時に粘土帯を外形接合した部分で欠損しているのが観察できる。底部の接地面から胴部の境に沈線が1条見られる。480は口縁部で、外面に張り出している。両面の口縁部と胴部の境に沈線が1条ずつ見られ、赤色顔料で着色されている。481は口縁部の小片である。口縁部から胴部にかけて

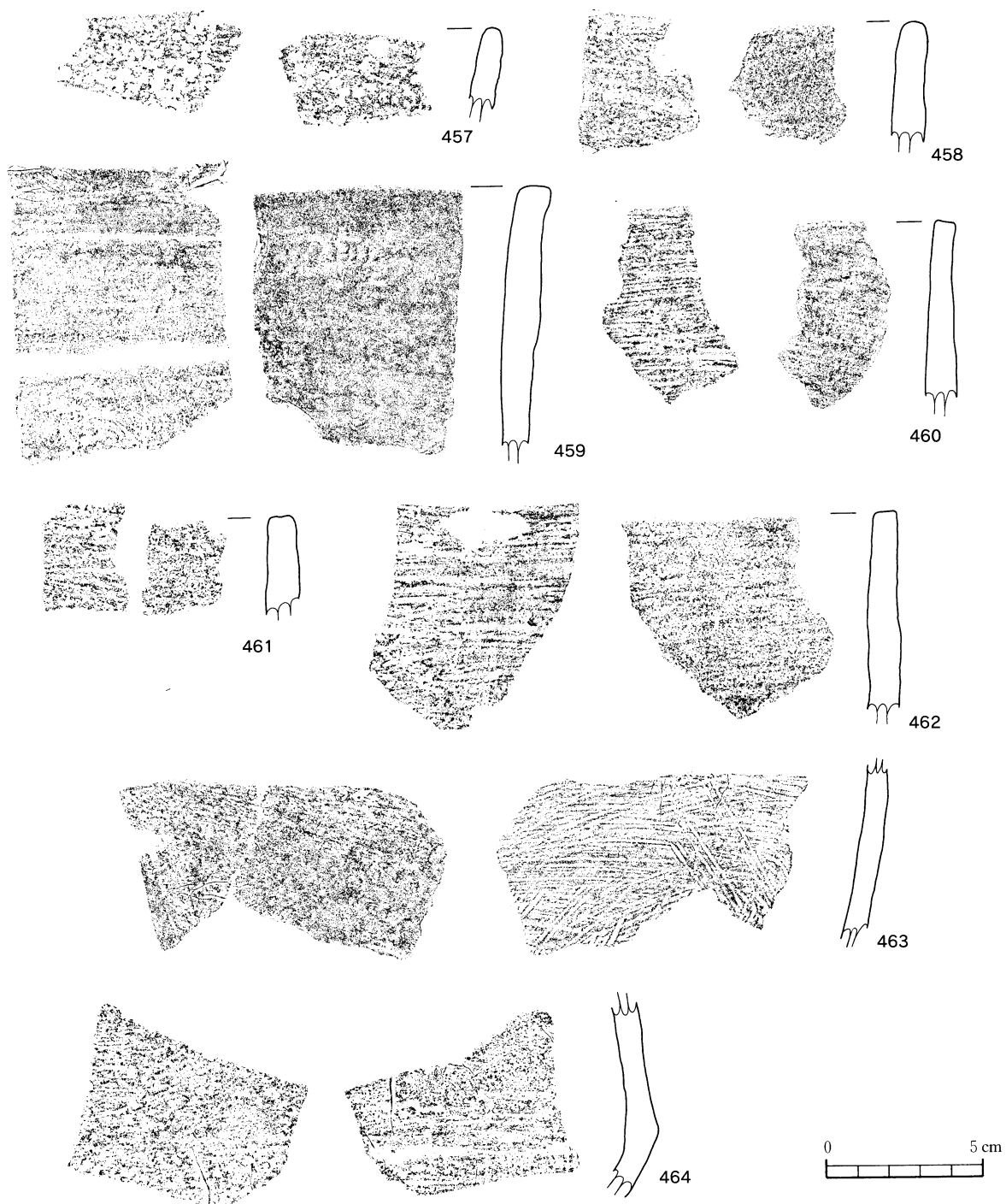


第75図 縄文土器 (20)

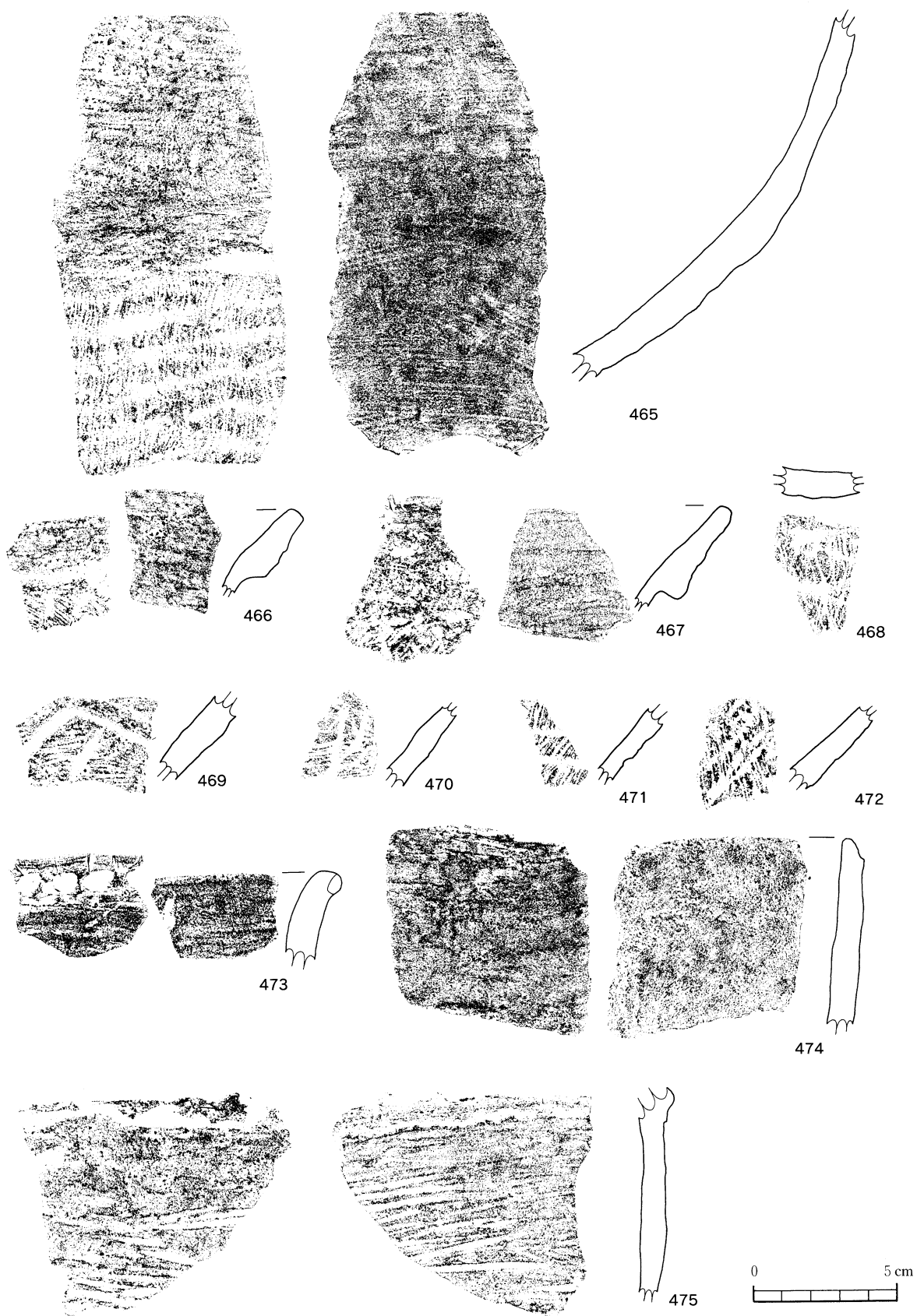




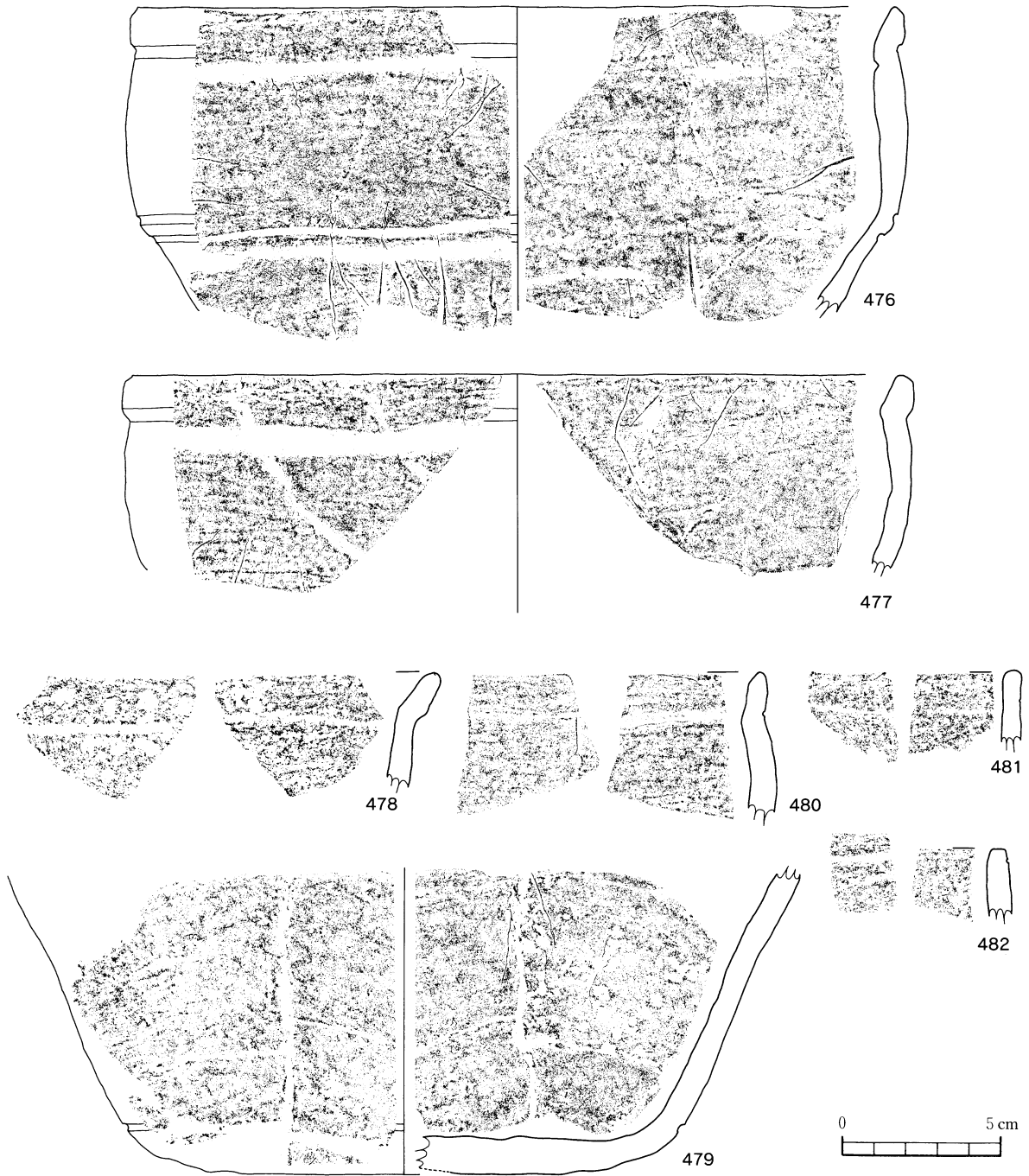
第76図 縄文土器 (21)



第77図 縄文土器 (22)



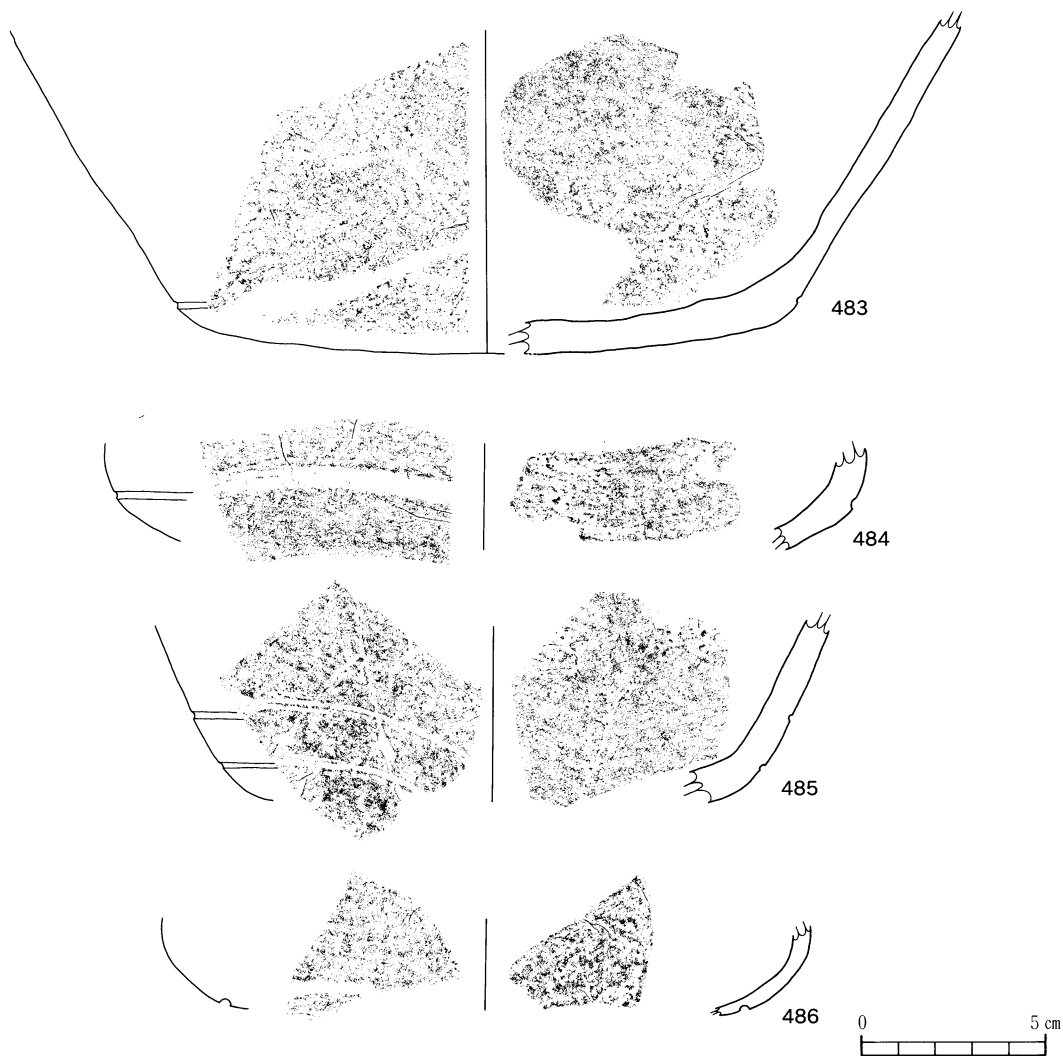
第78図 縄文土器 (23)



第79図 縄文土器 (24)

屈曲は無く、極細い沈線が1条みられる。482も屈曲は見られないが沈線が口唇部寄りにある。  
 (第80図483~486)

483は胴部から底部にかけて残存している。器形は479と非常に似ている。484は胴部である。外面の外湾した部分に沈線が1条みられる。485は外面に2条の沈線が見られる。内面は灰褐色で研磨されているが、表面に石英粒が観察される。486は器厚が非常に薄く、沈線が1条見られる。



第80図 縄文土器 (25)

第12表 縄文土器観察表(1)

挿図	番号	区・層	注記番号	部 位	外面調整	内面調整	胎 土	外面色調	内面色調	備 考
56	308	B 6・IV下	3049	口縁部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石	黒褐色	暗茶褐色	
56	309	B 6・IV	3047	口縁部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石	黒褐色	暗茶褐色	
56	310	B 6・IV下	3052	口縁部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石	黒褐色	暗茶褐色	
56	311	—	—	口縁部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石	黒褐色	暗茶褐色	
56	312	A 6・IV下	2995	口縁部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石	暗茶褐色	明茶褐色	
56	313	B 6・V	3270	口縁部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石	黒褐色	明茶褐色	煤付着
56	314	A 6・畑境	2295	口縁部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石	黒褐色	明茶褐色	
56	315	A 4・IV	1268	胴部～底部	—	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	暗茶褐色	
56	316	A 5・V	16	胴部～底部	貝刺突・貝条	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
57	317	A 9・IV	2940	胴部～底部	貝刺突・貝条	ナデ	石英・角閃石・長石	暗茶褐色	暗茶褐色	
57	318	B 4・IV	961	胴部	貝刺突・貝条	ナデ	石英・角閃石・長石	暗茶褐色	明茶褐色	
57	319	A 6・IV	3024	胴部	貝条	ナデ	石英・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	
57	320	C 2 8・横転	—	胴部～底部	貝刺突・貝条	ナデ・指オサエ	石英・角閃石	明茶褐色	茶褐色	
57	321	A 6・IV下	3296	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	暗茶褐色	
57	322	C 2 8・横転	—	胴部	貝刺突・貝条	貝条	石英・角閃石・小礫	暗茶褐色	暗茶褐色	
57	323	B 5・V	1566	胴部	貝条	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	暗茶褐色	
57	324	B 5・IV上	24.48	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石・小礫	明茶褐色	明茶褐色	
58	325	A 5・IV	1122	胴部	貝条	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
58	326	A 5・V	1576	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
58	327	B 6・IV下	3055	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
58	328	A 7・IV下	4231	胴部	貝条	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	黒褐色	
58	329	A 6・Ⅲ	3229	胴部 角	貝刺突・貝条	ナデ	石英	明茶褐色	茶褐色	
58	330	C 2 8・横転	—	胴部 角	貝刺突・貝条	ナデ	石英	明茶褐色	淡茶褐色	
58	331	C 2 8・横転	—	胴部～底部 角	ナデ	貝条	石英	明茶褐色	明茶褐色	
59	332	C 2 8・横転	—	口縁	貝押引・貝刺突	条痕	石英	明褐色	明褐色	
59	333	A 5・IV	1104	口縁	貝押引・貝刺突	条痕	石英・角閃石	明褐色	明褐色	
59	334	A 5・V	1493	口縁	貝押引・貝刺突	条痕	石英・角閃石	明褐色	明褐色	
59	335	B 4・IV下	1202	口縁部	貝条痕・貝押引	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
59	336	A 6・IV下	3381	口縁部	貝条・貝押引	貝条	石英・角閃石・長石	明茶褐色	明茶褐色	
59	337	D 2 0・Ⅲ上	314	胴部	貝条	貝条	石英	明茶褐色	明茶褐色	
59	338	C 1 8・IV上	215	胴部	貝条	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
59	339	C 1 8・IV上	1682	胴部	貝条	条痕	石英・角閃石・長石	明茶褐色	明茶褐色	
59	340	C 1 8・IV	196	底部	ナデ	ナデ	石英・角閃石・長石	淡茶褐色	淡茶褐色	
60	341	A 4・IV横転	1267	胴部	山形押型	ナデ	石英・金雲母	明褐色	明褐色	
60	342	A 9・Ⅲ	2956	胴部	山形押型	ナデ	石英・金雲母	明褐色	黒褐色	煤付着
60	343	D 1 9・IV	1891	口縁部	凹線	条痕・ナデ	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
60	344	D 1 9・IV上	242	口縁部	凹線	条痕・ナデ	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
60	345	B 1 6・IV	1796	口縁部	凹線	ナデ	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
60	346	D 1 8・Ⅲ	1409	口縁部	凹線	ナデ	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
60	347	D 1 9・IV	4283	口縁部	凹線	条痕	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
61	348	D 1 9・Ⅲ	4340	口縁部	凹線	ナデ	石英・金雲母	明褐色	明褐色	
61	349	D 1 9・Ⅲ	4269	口縁部	凹線	条痕	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
61	350	D 1 9・Ⅲ下	210	胴部	凹線・突帯	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
61	351	D 1 7・IV上	1679	胴部	凹線・突帯	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
61	352	B 7・IV	3850	胴部	凹線・突帯	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
61	353	C 1 9・IV	1885	胴部	凹線・突帯	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
61	354	C 1 9・IV	1887	胴部	凹線・突帯	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
62	355	D 1 9・IV	4282	胴部	凹線	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
62	356	D 1 9・IV	1886	胴部	凹線	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
62	357	D 1 9・IV	263	胴部	凹線・突帯	条痕	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
62	358	D 1 9・IV	208	胴部	凹線・突帯	条痕	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
62	359	D 1 9・Ⅲ下	207	胴部	凹線	条痕	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
62	360	D 1 9・IV	892	胴部	凹線	条痕	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
63	361	C 1 9・IV	1895	胴部	凹線	条痕	石英・金雲母	明茶褐色	明茶褐色	
63	362	B 7・Ⅲ	3876	胴部	凹線	条痕	石英・金雲母・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	

第13表 縄文土器観察表(2)

64	367	A 7・Ⅲ	2470	口縁部	貝条	貝条	石英	暗茶褐色	暗茶褐色	
64	368	A 7・Ⅲ	2485	口縁部	貝条	貝条	石英	暗茶褐色	暗茶褐色	
64	369	A 7・Ⅲ	3183	胴部	貝条・突帯・刺突	貝条	石英	黒褐色	暗茶褐色	
64	370	A 7・Ⅲ	2473	胴部	貝条・刻目突帯・凹線	貝条	石英	黒褐色	暗茶褐色	
64	371	A 9・Ⅲ	2954	胴部	貝条・刺突	貝条	石英	黒褐色	暗茶褐色	
64	372	A 7・Ⅲ	2887	胴部	貝条	貝条	石英	黒褐色	暗茶褐色	
64	373	A 8・Ⅲ	2906	胴部	貝条	貝条	石英	明茶褐色	明褐色	
64	374	A 7・Ⅲ	3127	胴部	貝条	貝条	石英	明茶褐色	明褐色	
65	375	A 7・Ⅲ	3927	胴部	貝条	貝条	石英	明褐色	明褐色	
65	376	A 7・Ⅲ	2686	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	
65	377	A 7・Ⅲ	3438	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	暗褐色	明茶褐色	
65	378	A 7・Ⅲ	2884	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
65	379	B 7・Ⅲ	2738	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
65	380	A 7・Ⅲ	2697	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
65	381	D 1 9・Ⅲ下	4252	胴部	貝条	貝条	石英・角閃石	明茶褐色	暗茶褐色	
65	382	B 1 5・溝	815	胴部	刻目突帯・ミガキ	ミガキ	石英・長石	灰褐色	淡灰褐色	
65	383	B 1 5・Ⅲ	646	胴部	刻目突帯・ミガキ	ミガキ	石英・長石	灰褐色	灰褐色	
66	384	B 1 0・Ⅲ	260	口縁部～底部	ナデ・凹線	ナデ・条痕	石英・角閃石	淡褐色	淡褐色	
66	385	D 1 9・Ⅲ	323	口縁部	凹線・刺突	条痕	石英・角閃石	暗茶褐色	明茶褐色	煤付着
66	386	D 2 0・イモ穴	—	胴部	凹線・刺突	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
66	387	B 7・Ⅲ	2407	胴部	凹線	ナデ	石英・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	煤付着
66	388	B 6・Ⅲ	2501	胴部	渦巻・凹線	ナデ・条痕	石英・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	
66	389	B 4・Ⅲ	2034	胴部～底部	ナデ	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	暗茶褐色	
66	390	—	—	口縁部	凹線・刺突・刻目突帯	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	暗茶褐色	穿孔
66	391	B 7・Ⅲ	2409	口縁部	刺突	ナデ	石英・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	
67	392	B 1 5・Ⅲ	44	口縁部～胴部	凹線・(沈線)貝条	ナデ・条痕	石英・角閃石	暗茶褐色	明茶褐色	
69	393	B 1 4・Ⅲ	880	口縁部	凹線	貝条	石英	暗茶褐色	明茶褐色	
68	394	B 1 4・Ⅲ	2033	口縁部	凹線	ナデ・条痕	石英	明褐色	暗褐色	
68	395	D 1 9・Ⅲ	3399	口縁部	凹線・条痕	ナデ	石英	暗褐色	暗褐色	
68	396	A 1 4・Ⅲ	845	口縁部	貝条	ナデ・条痕	石英	暗褐色	暗褐色	
68	397	D 1 8・Ⅲ	414	口縁部	ナデ・条痕	条痕	石英・角閃石	暗褐色	暗褐色	煤付着
69	398	D 1 6・Ⅲ	686	口縁部	ナデ・条痕	条痕	石英	暗褐色	暗褐色	
68	399	B 1 6・Ⅲ	52	口縁部	条痕	貝条	石英・角閃石	暗褐色	明褐色	
70	400	B 1 7・Ⅰ	492	口縁部	貝条	貝条	石英・角閃石	明褐色	明褐色	
69	401	B 1 7・Ⅲ	1788	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	明褐色	明茶褐色	
70	402	C 1 8・Ⅲ	710	口縁部	貝条	貝条	石英・長石	暗茶褐色	暗茶褐色	
68	403	C 1 6・溝	1697	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
70	404	D 2 0・Ⅲ上	318	口縁部	貝条	条痕	石英	明褐色	明褐色	煤付着
70	405	E 1 9・Ⅲ上	342	口縁部	条痕	—	石英	黒褐色	黒褐色	煤付着
70	406	B 1 5・Ⅲ	612	口縁部	条痕	貝条	石英・角閃石	暗褐色	暗褐色	
70	407	—	—	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	暗褐色	暗褐色	
70	408	C 1 8・Ⅲ	712	口縁部	条痕	貝条	石英	明褐色	明褐色	
70	409	B 1 7・Ⅲ上	1836	胴部	貝条	貝条	石英	暗褐色	暗褐色	煤付着
70	410	B 1 6・Ⅲ	516	胴部	条痕	貝条	石英・長石・角閃石	暗褐色	暗褐色	
71	411	B 1 7・Ⅲ	1789	底部	条痕	—	石英・角閃石	暗茶褐色	明茶褐色	
71	412	B 1 6・表	—	底部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	暗褐色	
71	413	C 1 7・Ⅲ	480	底部	条痕	条痕	石英	明茶褐色	—	
71	414	D 2 0・Ⅲ	2027	底部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
72	415	A 1 5・Ⅳ	1900	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	明褐色	明褐色	
72	416	D 1 8・Ⅲ	381	胴部	条痕	ナデ	石英	明茶褐色	明褐色	
72	417	E 2 1・Ⅰ	270	口縁部	条痕	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
72	418	A 7・Ⅲ	2462	口縁部	条痕	ナデ	石英・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	
73	419	D 1 9・落込	3350	口縁部	沈線・ミガキ	ミガキ	角閃石	明灰褐色	黒褐色	
73	420	表	—	口縁部	沈線・ミガキ	ミガキ	石英	黒褐色	黒褐色	ベンガラ付着
73	421	A 7・Ⅲ	2490	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
73	422	D 1 9・S k 2	3369	口縁部	沈線・ミガキ	ミガキ・沈線	角閃石	淡灰褐色	淡褐色	

第14表 縄文土器観察表 (3)

73	423	A 1 4・表	—	口縁部	ミガキ	ミガキ	角閃石	暗灰褐色	暗灰褐色	ベンガラ附着
73	424	B 1 6・Ⅲ	1325	口縁部	ミガキ	ミガキ	—	暗褐色	暗褐色	リボン状突帯
73	425	B 1 5・溝	1732	口縁部	ミガキ	ミガキ	—	黒褐色	黒褐色	
73	426	B 1 4・Ⅲ	2042	口縁部	ミガキ	ミガキ・沈線	—	淡灰褐色	明褐色	ベンガラ附着
73	427	B 1 7・Ⅲ	1880	口縁部	ミガキ	ミガキ・沈線	—	黒褐色	黒褐色	
73	428	B 1 5・Ⅲ	72	口縁部	ミガキ	ミガキ・沈線	—	淡褐色	淡褐色	
73	429	C 1 7・Ⅲ	464	口縁部	ミガキ・凹線	ミガキ・沈線	—	淡褐色	淡褐色	
73	430	B 1 5・溝	788	口縁部	ミガキ・凹線	ミガキ	—	淡褐色	淡褐色	
73	431	B 1 5・Ⅲ	648	口縁部	ミガキ	ミガキ・凹線	—	暗茶褐色	淡褐色	
73	432	B 1 5・Ⅲ	618	口縁部	ミガキ・沈線	ミガキ	—	暗茶褐色	暗茶褐色	
73	433	B 7・Ⅲ	2719	底部	ミガキ	ミガキ	石英	明茶褐色	暗茶褐色	
73	434	B 1 7・Ⅲ	1807	口縁部	ミガキ・沈線	ミガキ	—	黒褐色	黒褐色	ベンガラ附着
74	435	D 1 8・Ⅲ	372	底部	ナデ	ナデ	石英	暗茶褐色	明褐色	
74	436	B 1 5・Ⅲ	647	底部	ナデ	ナデ	—	暗茶褐色	黒褐色	
74	437	B 1 5・表	—	底部	ミガキ	ミガキ	—	明褐色	黒褐色	
74	438	B 1 0・表	—	底部	ミガキ・沈線	ミガキ	—	明褐色	淡褐色	
74	439	B 1 5・Ⅲ	1709	口縁部	ミガキ	ミガキ	—	淡褐色	暗茶褐色	壺
74	440	A 7・Ⅲ	2492	口縁部	指オサエ	条痕	—	淡褐色	暗褐色	マリ
74	441	B 1 3・Ⅲ	2062	頸部	ミガキ	ナデ	石英・角閃石	暗茶褐色	淡褐色	壺
75	442	D 1 9・Ⅲ	181	口縁部	条痕	条痕	角閃石	暗褐色	暗茶褐色	穿孔
75	443	D 1 9・Ⅲ	179	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	淡褐色	淡褐色	煤附着
75	444	D 1 9・Ⅲ	167	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	暗褐色	煤附着
75	445	B 1 6・Ⅲ	565	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	暗褐色	
75	446	D 1 9・Ⅲ	187	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	黒褐色	暗茶褐色	
75	447	C 1 7・Ⅲ	470	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	淡褐色	
76	448	B 1 6・Ⅲ	1923	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	黒褐色	淡褐色	
76	449	B 1 6・Ⅲ	540	口縁部	条痕	ミガキ	角閃石	黒褐色	明茶褐色	
76	450	C 1 7・Ⅰ	482	口縁部	条痕	ナデ	石英・角閃石	明茶褐色	暗茶褐色	
76	451	B 1 6・Ⅱ	527	口縁部	条痕	ナデ	角閃石	暗褐色	暗褐色	
76	452	B 1 7・Ⅲ	426	口縁部	ナデ	ナデ 条痕	石英	黒褐色	黒褐色	
76	453	C 1 7・Ⅲ	466	口縁部	条痕	ミガキ	石英・長石・角閃石	淡褐色	黒褐色	
76	454	D 1 8・Ⅲ	378	口縁部	条痕	ナデ	角閃石	暗褐色	淡褐色	
76	455	B 1 5・表	—	口縁部	条痕	ミガキ	石英・角閃石	黒褐色	明茶褐色	
76	456	B 1 8・Ⅲ	728	口縁部	条痕	ミガキ	石英・角閃石	淡茶褐色	暗褐色	煤附着
77	457	E 1 9・Ⅲ	365	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	黒褐色	淡褐色	
77	458	B 1 6・Ⅲ	1641	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	淡褐色	黒褐色	
77	459	B 1 5・Ⅲ	610	口縁部	条痕・ミガキ	ミガキ	石英	淡褐色	淡褐色	
77	460	B 1 4・Ⅲ	2032	口縁部	条痕	ミガキ	石英	暗褐色	黒褐色	
77	461	D 1 9・Ⅲ	325	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	黒褐色	淡褐色	
77	462	B 1 6・Ⅲ	503	口縁部	条痕	条痕	石英・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	
77	463	C 1 7・Ⅲ	468	胴部	ミガキ・条痕	ミガキ・条痕	石英	暗茶褐色	黒褐色	
77	464	B 1 6・Ⅲ	559	胴部	条痕	条痕	石英・長石・角閃石	暗茶褐色	暗茶褐色	
78	465	C 1 8・Ⅲ	450	胴部	条痕 組織痕(編布)	ミガキ・条痕	石英	淡茶褐色	黒褐色	煤附着
78	466	B 1 6・Ⅲ	159	口縁部	条痕 ミガキ組織痕(編布)	ミガキ・条痕	石英・長石・角閃石	暗褐色	淡褐色	
78	467	B 1 5・Ⅲ	635	口縁部	条痕 組織痕(編布)	ミガキ	石英・長石・角閃石	淡褐色	淡褐色	
78	468	B 1 5・Ⅲ	604	胴部	組織痕(編布)	ミガキ	石英	淡褐色	淡褐色	
78	469	B 1 5・溝	800	胴部	条痕 組織痕(編布)	ミガキ	石英・長石	淡茶褐色	淡褐色	
78	470	B 1 6・Ⅲ	599	胴部	組織痕(編布)	ミガキ	石英・角閃石	淡褐色	暗褐色	
78	471	B 1 5・表	—	胴部	組織痕(編布)	ミガキ	石英	黒褐色	暗褐色	
78	472	B 1 5・表	—	胴部	組織痕(編布)	ミガキ	石英・角閃石	淡茶褐色	淡褐色	
78	473	E 2 0・Ⅲ上	294	口縁部	ミガキ・刺突	ミガキ	石英・角閃石	灰褐色	灰褐色	
78	474	D 2 0・Ⅲ	3375	口縁部	ミガキ・条痕	ナデ	石英・長石	黒褐色	暗褐色	
78	475	C 1 7・イモ穴	—	胴部?	ミガキ・条痕	ミガキ	石英	淡茶褐色	明茶褐色	
79	476	D 1 8・Ⅲ	769	口縁部~胴部	ミガキ・沈線	ミガキ	石英・角閃石	灰褐色	淡灰褐色	ベンガラ附着
79	477	C 1 8・Ⅲ	951	口縁部~胴部	ミガキ・凹線	ミガキ	石英・角閃石	黒褐色	灰褐色	
79	478	C 1 8・Ⅲ	409	口縁部	ミガキ	ミガキ・条痕	石英・角閃石	灰褐色	灰褐色	



## 石器

本遺跡では、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層から、石鏃・石匙・磨石・石斧・砥石及び、その製作・使用に関連した剥片・碎片が出土した。ここでは表土採集資料も含めて、縄文時代早期・縄文時代前期・縄文時代晩期のものと思われる石器を図示した。各層位毎の器種・出土点数等については後述する。また石材については黒曜石、ハリ質安山岩、頁岩、チャート、瑪瑙、玉髓等がみられた。その中で比較的数の多い黒曜石は、肉眼的観察によって大きく5つに大別された。

A類ーガラス質が弱く、一見石炭を思わせるものである。風化が著しく進み、淡黒色を呈するが内面は真っ黒であり光を通さない。気泡は少なく、良質の黒曜石である。薩摩郡樋脇町上牛鼻、または日置郡市来町平木場産と推定される。

B類ー黒灰濃色で艶が無く内部も不透明でスリガラス状である。不純物を持たず良質の黒曜石である。長崎県針尾産のものと推定される。

C類ー黒色を呈し、ガラス質を多く含み、透明感がある。白色粒を多く含む。長崎県腰岳産と推定される。

D類ー黒褐色の梨肌を呈し、不純物をほとんど含まない。佐賀県椎葉川産の原石と推定される。

E類ー暗黒灰色の艶のないものである。光をほとんど通さず、白い微少の粒を含むが、良質の黒曜石といえる。原産地は不明である。

## 石鏃（第81図487～第82図521）

石鏃は本遺跡で35点が出土した。石材は黒曜石14点・ハリ質安山岩11点・頁岩1点・チャート2点・瑪瑙5点・水晶1点である。黒曜石の原産地は鹿児島県樋脇町上牛鼻産、長崎県針尾産、長崎県腰岳産、佐賀県椎葉川産、原産地不明である。石鏃の形態分類を、第15表を基に、先端・側辺・基部の形態について行った。また、長さ・最大幅・重さ・厚さを計測した。破損品については残存部を計測して（ ）を付けた。













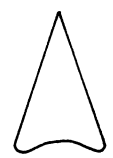
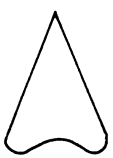

形態は様々で、特徴としては鋸歯状のもの（498・499・500・515）や基部の抉りを丸く調整するもの（490・496・505）があげられる。本遺跡は縄文時代早期～縄文時代晩期の土器を出土しているが層位的に遺物を取り上げることは困難であった。その他の特徴として、基部の抉りが浅いもの（507・508・520）がある。35点中一部欠損しているものは22点上る。欠損部分については、尖頭部のみの欠損が7点、脚部のみの欠損が11点、尖頭部と脚部の欠損が2点、側縁部の欠損が1点、脚部のみの出土が2点だった。

487と488はⅣ層から出土した遺物である。

487は暗灰褐色のチャート製で、脚部が外側に大きく張り出している。基部の調整は浅い。半透明のチャート製で、側縁がわずかに外湾しており、全体が細かく調整されている。また、基部は中央のみ丸く抉っている。488は側縁部のみ調整剥離が施され、表裏面とも調整前の剥離を残す。尖頭部・基部ともほとんど調整されないまま廃棄されている。

489・490はⅣ層の上位から出土した。489はハリ質安山岩製で、体長に対して断面は分厚い印象を受ける。尖頭部は鋭く、側縁部は直線的である側縁部が一部欠損している。490は半透明で灰色に黒っぽい筋のはいるチャート製で、側縁がわずかに外湾しており、全体が細かく調整されている。

第15表 石鏃分類表

先端	A 鋭い	B 普通	C 鈍い	D 円い		
						
側面	A 側辺が直線状	B 側辺が内湾する	C 側辺が外湾する			
			a 最大幅下端 	b 最大幅下方 	c 最大幅上方 	
基部	A 逆刺が鈍く 抉りが極めて深い	B 逆刺が円く 抉りが極めて深い	C 逆刺が鈍く 抉りが深い	D 逆刺が鈍く 抉りが浅い	E 逆刺が円く 抉りが浅い	F 片脚が極端に違う
						

また、基部は中央のみ丸く抉っているが、脚部の一部が欠損している。

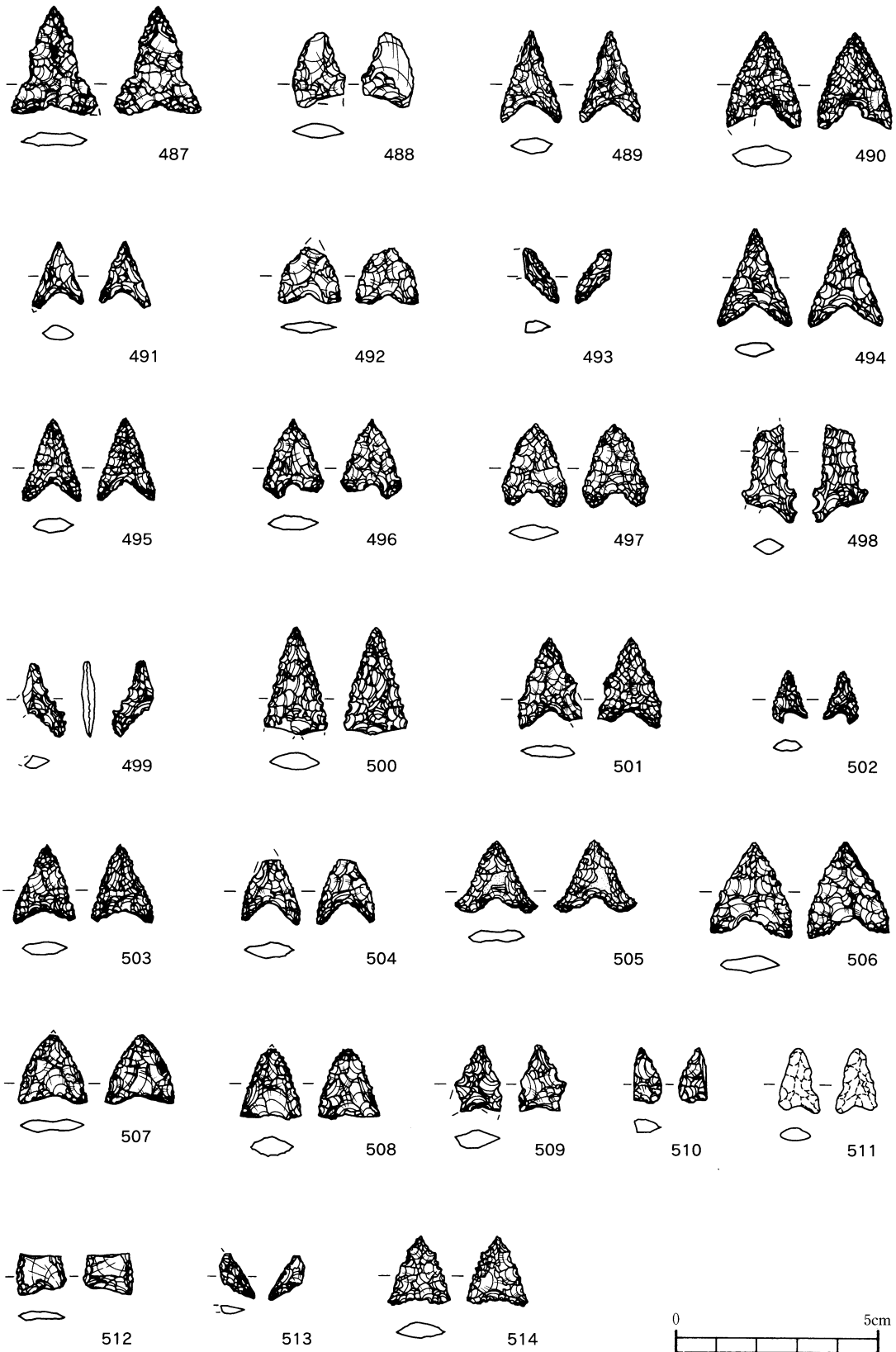
491から493はⅢ層の下部から出土した遺物である。491は小型の石鏃である。ハリ質安山岩製で調整は荒い。断面は分厚く、側面は鋭さに欠ける。492は尖頭部が欠損している。基部の抉りは浅く、両側縁がわずかに外湾している。剥離が奥まで届いているため断面は非常に薄い。493は脚部のみである。調整は丁寧になされているが、瑪瑙製で基部の抉りが深く、脚部が細いのが特徴である。

494から514はⅢ層から出土した遺物である。494は上牛鼻産の黒曜石製品で抉りが深い。片面の剥離調整は奥まで延びており、丁寧な仕上げが施されている。495は半透明の瑪瑙製で全体が細かく剥離調整がなされている。基部の調整も三角形を呈する。496は尖頭部が極端に鋭い。基部に小さい抉りを形成した円脚鏃である、片方の脚部の一部が調整作業中に欠損したものと思われる。497は半透明の瑪瑙製である。496と形状に近いが、形状全体がやや曲線を帯び、基部

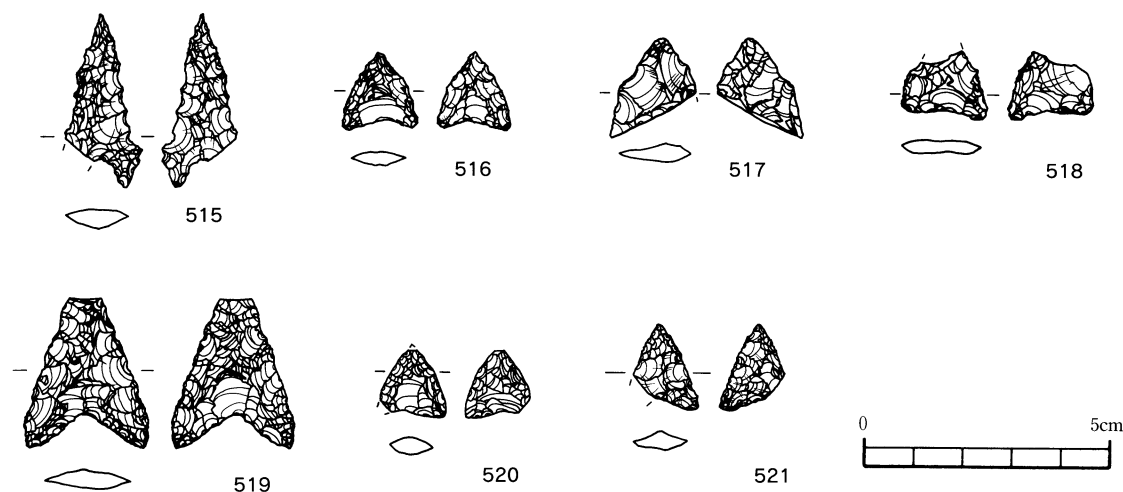
の調整もやや広い。498はハリ質安山岩製で全体が丁寧に調整されている。尖頭部と脚部の一部を欠損しているが、側縁部から脚部にかけて、鋸歯状に調整されている。脚部は側縁部より外側に張り出している。499は側縁が内湾し、鋸歯状を呈する。逆刺は鋭く、深く抉れている。500は腰岳産の黒曜石製である。基部が欠損しているが、側縁部は細かく鋸歯状に調整されている。501は針尾産の黒曜石製で両側縁の半ばに突起を持つ。502は小型の石鏃である。全体に細かく調整がなされているが、断面が分厚い。また左右の脚部の傾きが異なる。503は腰岳産の黒曜石製である、調整は細かく、基部の調整は浅い。504は尖頭部が欠損している。側縁部から脚部にかけて、やや外湾している。基部は深く調整されている。505は両脚部の外側が内湾している。基部の内側は両方とも外湾し、中央を丸く抉って調整されている。また、脚部の一部には自然面を残す。506は腰岳産の黒曜石製である。側縁部がやや膨らみ、両脚部は鋭いが、基部の抉りは浅い。490と大きさ、形状が似ているが、506の石材は佐賀県椎葉川産の黒曜石で、やや粗雑な調整である。507は尖頭部分が欠損している。側縁部がやや膨らみ、基部は凹基だが調整は浅く、器形は正三角形に近い。508はハリ質安山岩製で、側縁部は細かい調整が見られるが、分厚い印象を受ける。特に基部から押圧剥離調整が顕著にみられ、厚みを減らそうとした様子がうかがえる。尖頭部が欠損しており、基部の抉りは荒いが浅く、加工途中で廃棄されたものと考えられる。509は白色の不透明な瑪瑙製の小型の石鏃で基部が欠損している。調整は荒く、断面は厚い。510は側縁部が大きく欠損しているが、全体が調整されている。小型で基部の抉りは浅い。511は白色の不透明な瑪瑙製で、全体を調整後に研磨している。512は安山岩製で尖頭部が欠損している。調整は側縁部のみ行われ、表裏面とも調整前の剥離面を大きく残す。基部の調整はごく浅く入れられている。513は脚部のみである。針尾産の黒曜石製で、調整が細かくなされている。514は上牛鼻産の黒曜石製である。基部の抉りは浅く三角鏃に近い。側縁の一部に微細ながら鋸歯状の調整が見られる。

515・516はⅢ層検出の土層横転中からの出土である。515は頁岩製で尖頭部から両側縁にわたって鋭く調整されている。脚部は側縁部より外側に張り出し、抉りの幅は狭いU字状を呈する。516は小型で側縁がやや膨らみ、基部の調整がごく浅い、正三角形に近い石鏃である。517・518はⅢ層検出の溝の埋土中から出土した。527は腰岳産の黒曜石製で側縁部から脚部にかけて欠損している。全体が荒く調整されているが、押圧剥離は全て長く延びている。形状の調整をす以前に折断されたものとみられる。518はハリ質安山岩製で、尖頭部が欠損している。側縁部から脚部にかけては調整されているが、脚部は不揃いで基部の抉りは浅く、形状調整途中で廃棄されたものと思われる。

519はⅡ層から出土した。暗黒灰色で光沢のない黒曜石製だが原産地は特定できなかった。尖頭部が欠損した大型の石鏃だが、大きさに比べて断面は薄く調整されている。側縁も左右の対象に丁寧に交互剥離調整がなされている。520・521はⅠ層及び表面採集の遺物である。520は水晶製で基部にわずかな調整が入る小型石鏃である。形状・断面とも丸みを帯びた整形が成されている。521は腰岳産と思われる黒曜石製である。石材にやや白色粒が数カ所見られる。片方の脚部が欠損しているが、片面は丁寧に交互剥離が施されている。



第81図 石鏃 (1)



第82図 石鏃 (2)

#### 石匙 (第83図522~528)

7点が出土している。縦型・横型があり、身部の平面形は多様である。刃部の調整は、片面調整(片刃)と両面調整(両刃)があり、刃部の形態は、左右の挟りを結ぶ線を基準にした場合、外湾気味の平行する刃部(522・523・525・528)、先端で交わる斜行する一側縁に刃部を有するもの(525)、斜行する側縁と、平行する刃部をもつもの(526・527)がある。加工調整は身部全体に及ぶものは一点(525)のみで、ほとんどが側縁部のみの調整である。また、石材が黒曜石・瑪瑙・ハリ質安山岩など多種に及ぶのが特徴である。

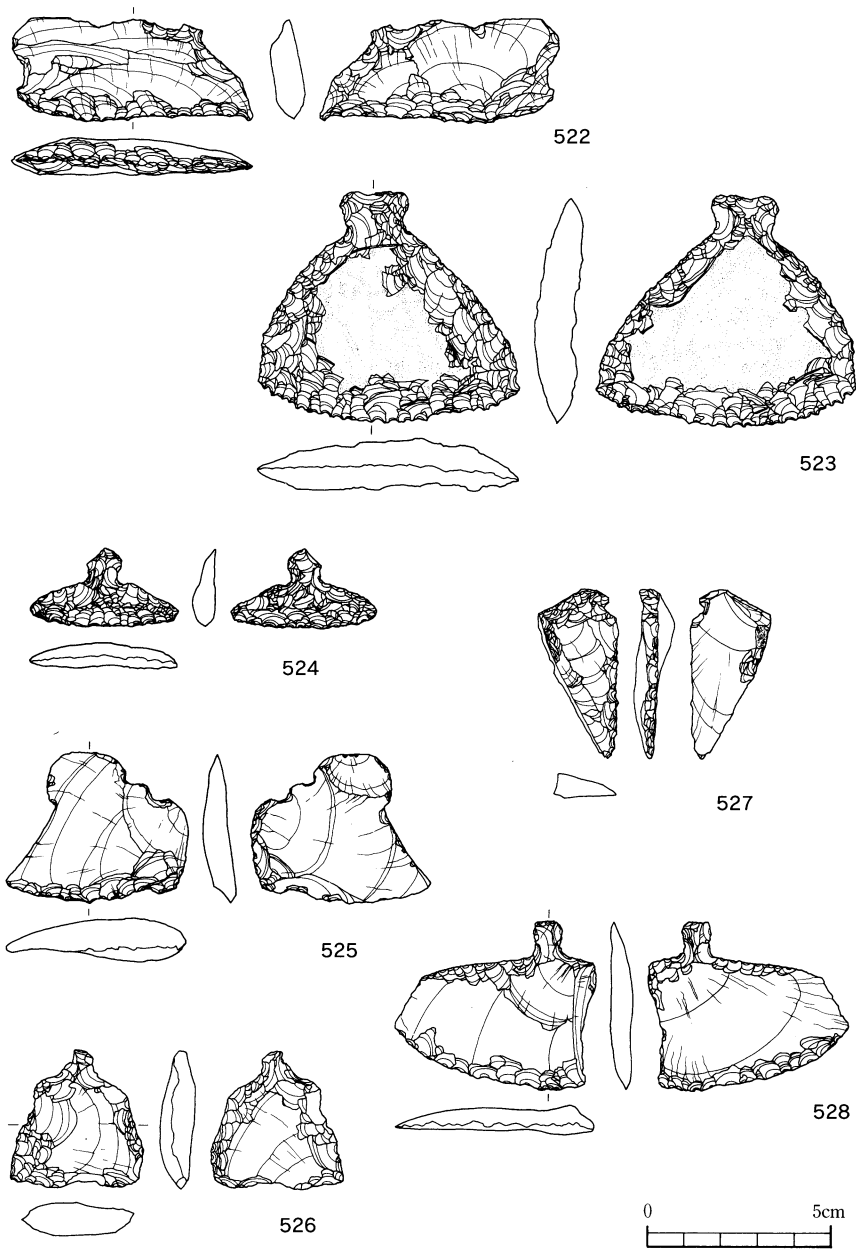
522はⅣ層の上部から出土した。ハリ質安山岩製で横型の石匙である。つまみ部は身部に対してごく小さく、調整は側縁部のみ施され、表裏面とも調整前の剥離面を大きく残す。また、つまみ部が最大幅の中心線からずれて調整されている。

523はⅢ層から出土した。乳白色の瑪瑙を素材に、横型に調整された最大幅7.1センチの大型の石匙である。つまみ部は身部に対して小さく、左右に両面からの調整で挟りが入る。刃部は両刃で外湾するが、調整は側縁部のみ施され、表裏面とも自然面を残す。身部は二等辺三角形で、その底部にあたる側縁部に、鋸歯状の加工が施されている。524はⅢ層から出土した、佐賀県椎葉川産とみられる黒曜石製の小型の石匙である。身部は扁平な二等辺三角形で、加工はほぼ表裏全面に及ぶ。525はⅢ層から出土した瑪瑙製の石匙である。鋭角の逆三角形型で、つまみ部の挟りは浅い。一側縁に片面調整を施し、刃部としている。526はⅢ層から出土した。頁岩製で、刃部は片刃である。つまみ部と思われる部分は丸く、調整前の剥片の形状をそのまま利用している。左右の挟りは小さく浅い。527は表土からの出土である。ハリ質安山岩製で身部は台形を呈する。つまみ部は身部に対して小さく、左右に両面からの調整で挟りが入る。

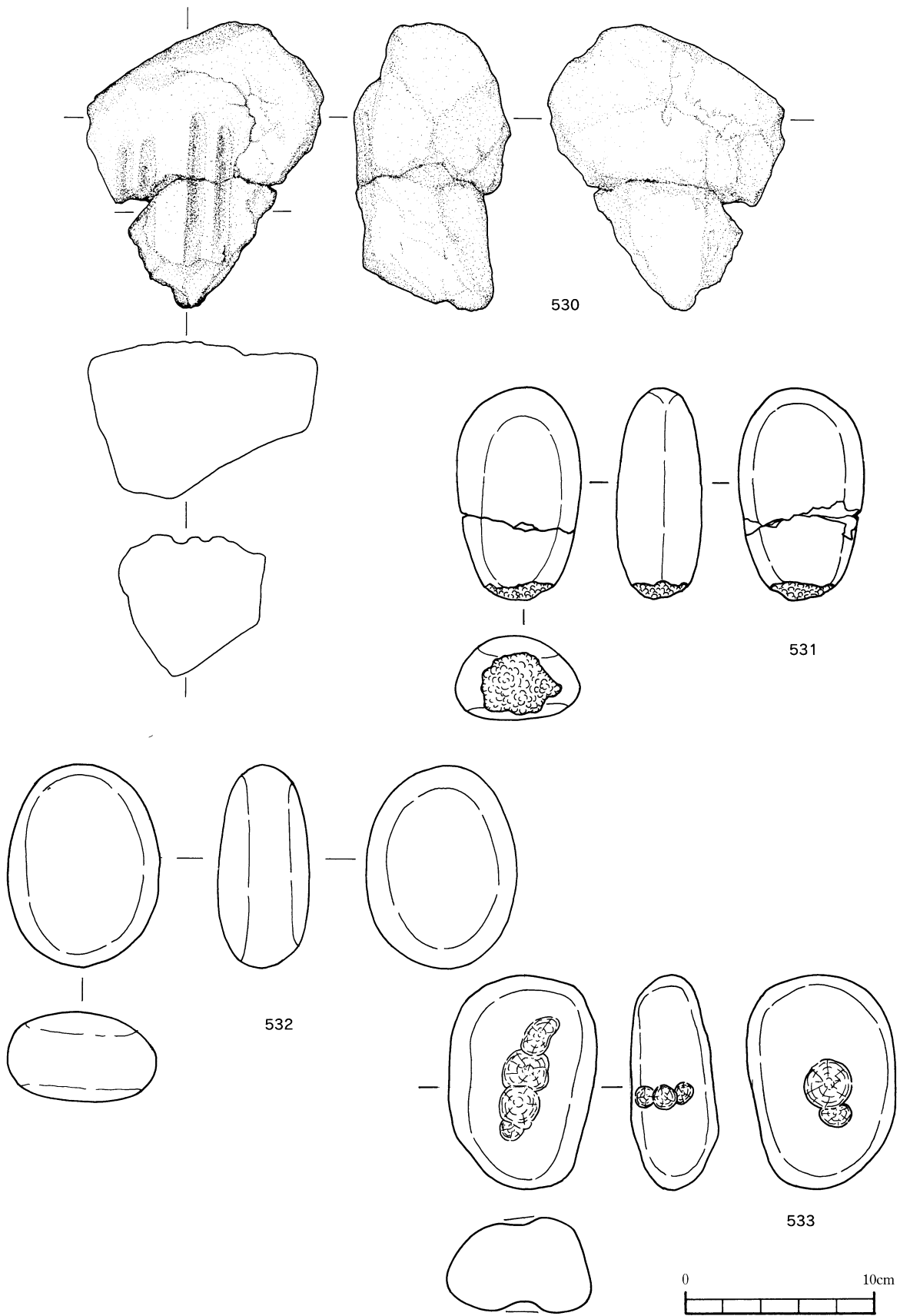
528は表土からの出土である。ハリ質安山岩製で横型の石匙である。つまみ部は身部に対してごく小さく、調整は側縁部のみ施され、表裏面とも調整前の剥離面を大きく残す。

第16表 石鑑計測表

番号	分類			石材	区	層	最大長	最大幅	厚さ	重量	備考
487	B	B	D	チャート	B 7	Ⅳ	2.6	2.1	0.3	1.0	
488	D	C c	D	ハリ質安山岩	C 18	Ⅳ	1.8	1.3	0.3	0.7	
489	B	A	A	ハリ質安山岩	D 19	Ⅳ上	2.3	1.5	0.3	0.6	
490	B	C a	B	チャート	B 6	Ⅳ上	(2.4)	1.8	0.5	1.6	
491	B	A	A	ハリ質安山岩	D 19	Ⅲ下	1.7	1.3	0.3	0.4	
492	D	C a	E	ハリ質安山岩	B 16	Ⅲ下	(1.4)	1.6	0.3	0.5	
493	—	—	A	瑪瑙	B 7	Ⅲ下	(1.5)	(0.6)	0.3	0.2	片脚
494	B	A	A	黒曜石上牛鼻	C 16	Ⅲ	2.4	1.8	0.3	0.7	
495	B	A	A	瑪瑙	A 7	Ⅲ	2.0	1.4	0.3	0.6	
496	A	C b	B	チャート	B 7	Ⅲ	2.0	1.5	0.3	0.7	
497	B	C b	B	瑪瑙	B 6	Ⅲ	2.1	1.6	0.4	0.9	
498	—	A	A	ハリ質安山岩	D 17	Ⅲ	(2.4)	(1.4)	0.4	1.0	
499	—	B	A	黒曜石 針尾	C 17	Ⅲ	1.8	(1.0)	0.3	0.3	
500	B	A	—	黒曜石 腰岳	C 17	Ⅲ	(2.7)	(1.6)	0.4	1.3	
501	B	A	C	黒曜石 針尾	A 6	Ⅲ	1.7	1.5	0.4	0.7	
502	B	A	B	黒曜石 針尾	A 13	Ⅲ	1.3	0.9	0.3	0.2	
503	A	A	D	黒曜石 腰岳	D 18	Ⅲ	1.9	1.5	0.3	0.6	
504	—	C a	A	ハリ質安山岩	B 17	Ⅲ	(1.6)	1.5	0.3	0.6	
505	C	B	A	黒曜石上牛鼻	C 17	Ⅲ	1.7	2.0	0.3	0.7	
506	B	A	E	黒曜石椎葉川	A 5	Ⅲ	2.3	2.1	0.4	1.3	
507	D	C a	D	ハリ質安山岩	B 16	Ⅲ	1.7	1.7	0.3	0.7	
508	D	A	D	ハリ質安山岩	B 7	Ⅲ	1.7	1.5	0.5	0.9	
509	C	A	D	瑪瑙	C 18	Ⅲ	1.7	(1.3)	0.4	0.6	
510	—	C b	E	黒曜石 針尾	B 16	Ⅲ	(1.4)	(1.3)	0.4	0.5	
511	D	B	F	瑪瑙	A 4	Ⅲ	1.5	1.0	0.3	0.4	
512	—	A	F	ハリ質安山岩	D 18	Ⅲ	(1.0)	1.3	0.2	0.4	
513	—	—	A	黒曜石 腰岳	A 7	Ⅲ	(1.3)	(0.7)	0.2	0.1	片脚
514	B	A	D	黒曜石上牛鼻	A 9	Ⅲ	1.7	1.5	0.4	0.7	
515	B	C b	A	頁岩	A 9	Ⅲ上	(3.5)	(1.6)	0.4	1.4	
516	A	C b	A	ハリ質安山岩	D 20	Ⅲ上	1.6	1.5	0.3	0.6	
517	C	A	—	黒曜石 腰岳	B 15	溝内	(2.2)	(1.4)	0.4	1.0	
518	—	C a	F	ハリ質安山岩	B 15	溝内	(1.4)	1.8	0.3	0.7	
519	—	A	C	黒曜石	A 7	Ⅱ	(3.1)	(1.1)	0.4	0.5	
520	D	C a	D	水晶	D 19	Ⅰ	(1.4)	(1.3)	0.4	0.5	
521	C	C a	D	黒曜石 腰岳	—	表層	1.8	(1.1)	0.4	0.5	

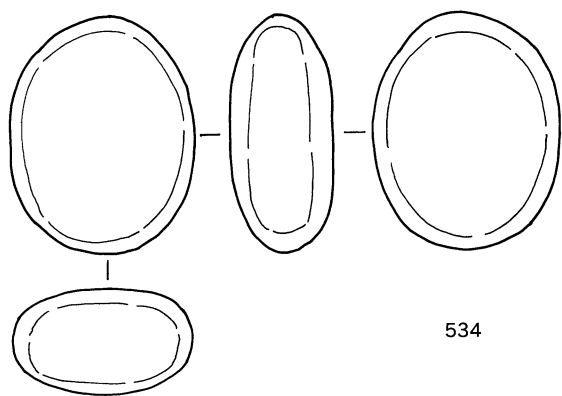


第83图 石匙

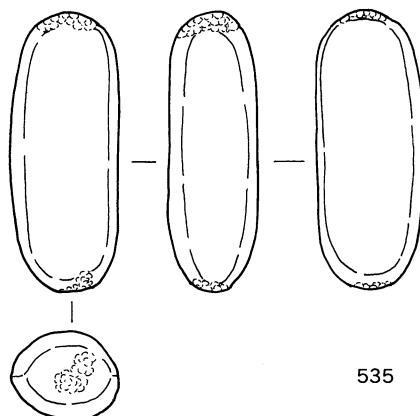


第84図 砥石・磨石

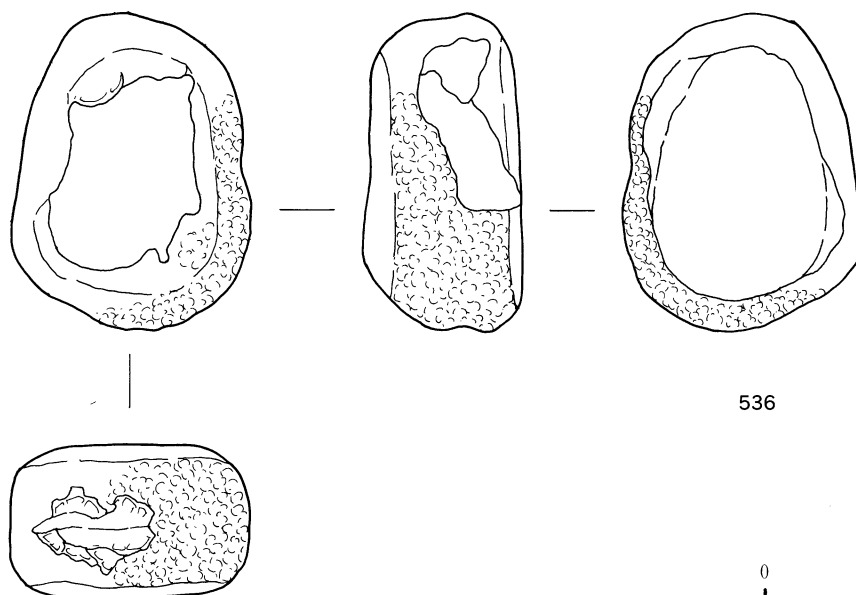




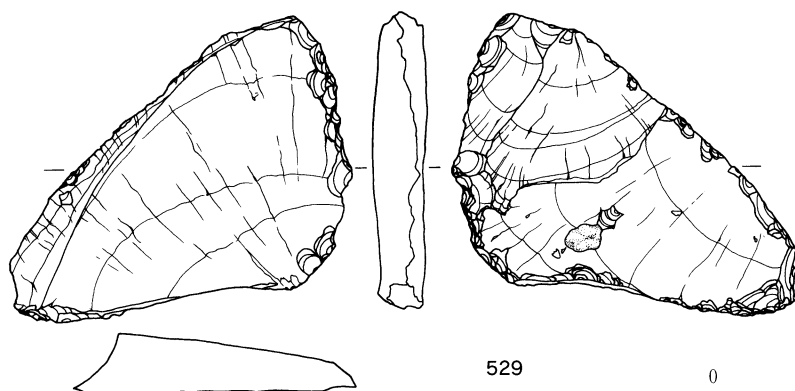
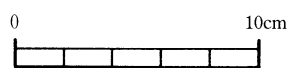
534



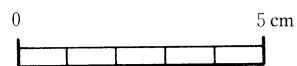
535



536



529



第85図 磨石・スクレイパー

第17表 石器観察表

番号	器種	石材	区・層	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
522	石匙	ハリ質安山岩	B17・IV上	(2.8)	6.6	1.0	18.5	
523	"	瑪瑙	B7・III	6.3	7.1	1.3	51.5	
524	"	黒曜石椎葉川	C18・III	2.1	4.1	0.6	3.4	
525	"	瑪瑙	－・III	4.7	2.2	0.7	6.7	
526	"	ハリ質安山岩	A10・III	4.2	5.0	1.2	18.2	
527	"	ハリ質安山岩	B6・表土	3.8	3.1	0.9	12.4	
528	"	ハリ質安山岩	－・表土	4.6	(5.5)	0.8	14.7	
529	スクレイパー	ハリ質安山岩	B16・III下	4.9	8.3	1.2	43.1	

#### スクレイパー (第85図 529)

1点が出土している。529はハリ質安山岩製で横長剥片のバルブを折断し、側縁の一部を両面から加工して刃部としている。刃部以外は、側縁部にブランチングが見られるのみで、身部のほとんどに調整前の剥離面が残る。

#### 有溝砥石 (530)

1点が出土している。2点出土したが接合したため一個体で図示している。350は荒い砂岩製で石の比較的平面な場所に4条の平行な断面の円い溝があり、この部分を使用したと思われる。溝の中程が最も深く抉れている。下面は上面に対して傾斜がある。形態より玉製作に使用されたと考えられる。縄文晩期の遺物と共併した。重量は1360gを測る。

#### 磨石

531は、楕円形の安山岩礫を石材とした敲石で端部に敲打痕が認められる。長さ11.2cm、幅6.4cm、厚さ4.7cmを測る。重量は370gである。532は、楕円状の安山岩礫を石材にした磨石で、重量は640gである。533は凹石である。石材は安山岩で一面に3ヶ所の凹み、裏面には2ヶ所、側面には1ヶ所の凹みがみられる。凹みはやや深く、研磨痕は認められない。重量は510gを測る。534は安山岩の河原石で重量420gを測る磨石である。535は楕円状の棒状敲石で両端部に敲打痕がみられる。石材は安山岩で重量290gを測る。536は大型の磨石で、重量1379gを測り、側辺部には敲打痕がみられる。石材は安山岩である。

### 3 弥生時代

弥生時代の遺構は検出されなかったが、表土中から出土した遺物から1点を図示する。弥生中期である。

#### 弥生土器 (第86図537)

537は甕の胴部である。色調は淡茶褐色で1条の突帯が見られる。

### 4 古墳時代

古墳時代については確認調査の結果を基に、表土を除去した後、わずかに残存するII層の遺物包含層を掘り下げ、遺物取り上げなどの調査を行った。古墳時代の遺構は検出されなかったが、III層・II層から成川式土器が出土した。その内の8点の図化・観察を行った。

#### 成川式土器 (第86図538~545)

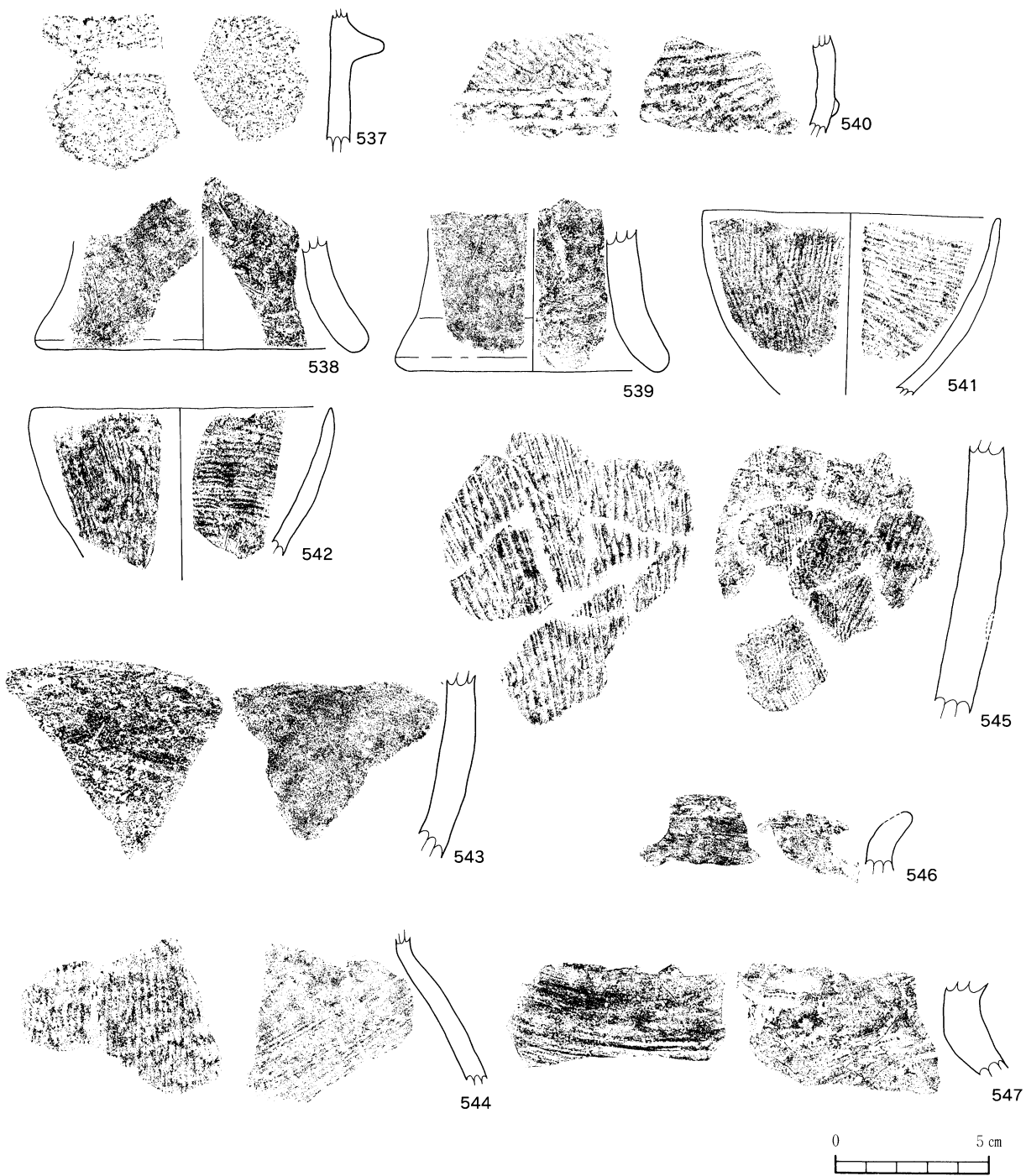
538から545は成川式土器である。いずれも小片であり、摩滅が激しい。538と539は甕の脚部である。538の器形は八の字のように末広がり、接地面は丸く調整されている。内面も丁寧に調整されている。539は538に比べて器形は立ち上がり気味で、外面に一部ヘラ磨きが見られる。540は胴部で浅い刻目のある突帯が見られるが摩滅が激しく判然としない。突帯の上下に横位に撫でた痕が見られ、突帯から下部にはヘラ磨きが観察される。

541と542は口縁部であり、同一個体の可能性もある。外面は縦位に、内面は横位にハケナデが入る。540の口唇部外面には約8ミリ幅で横位にナデ調整が見られる。

541は胴部である。両面に横位のナデ調整が見られる。542は壺の頸部から肩部に至る部分である。器厚は薄く、内面に横位のハケナデが見られる。543は壺の胴部と見られる。両面にハケナデが施されているが、内面のハケ目が非常に細い。

第18表 弥生～古墳時代出土遺物観察表

番号	区・層	部位	外面調整	内面調整	胎土	色調(外面)	色調(内面)	備考
537	—	胴部	ナデ	ナデ	石英	淡茶褐色	淡茶褐色	
538	A 7・Ⅲ	脚部	ナデ	ナデ	石英・角閃石	淡茶褐色	淡茶褐色	
539	A 6・Ⅱ下	脚部	ナデ	ナデ	石英・角閃石	淡茶褐色	淡茶褐色	
540	A 1 4・表	胴部	刻目突帯・ミガキ	ミガキ	石英・角閃石	淡茶褐色	暗褐色	
541	B 5・Ⅲ	口縁部	ナデ	ハケナデ	石英・角閃石	明茶褐色	明褐色	
542	B 5・Ⅲ下	口縁部	ナデ	ハケナデ	石英・角閃石	明茶褐色	明褐色	
543	E 1 9・Ⅲ	胴部	条痕	条痕	石英・角閃石	明茶褐色	淡灰褐色	
544	A 7・Ⅲ	肩部	ハケナデ	ハケナデ	石英・角閃石	明茶褐色	明茶褐色	
545	A 5・Ⅲ	胴部	ヘラミガキ	ナデ	石英	暗茶褐色	暗茶褐色	



第86図 弥生～古墳時代出土土器

## 5 古代～近世

古代の遺構は検出されなかったが、II層・I層（耕作土）から須恵器・土師器・瓦器などが出土している。

### 須恵器（第87図546～556）

546から556の11点は須恵器である。壺や甕が出土している。546は壺の口縁部である。外面・内面ともナデ調整が施され、胎土は砂粒を含む。

547は壺の頸部である。胎土の中に黒色で直径1mm程度のシミのような点が観察される。

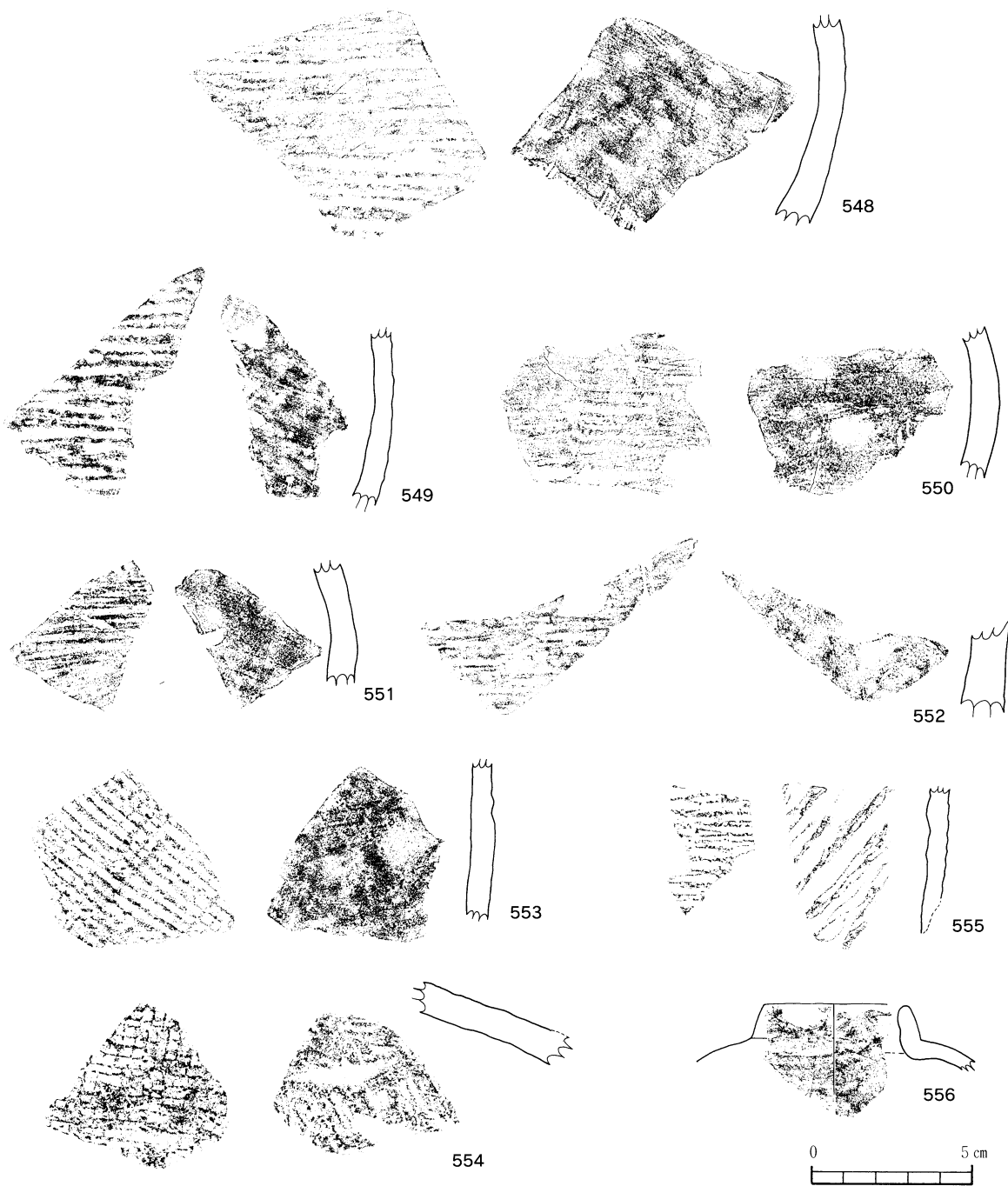
548から555は胴部で、外面は平行状叩き、内面はナデ調整を呈する。548と549の表面は格子状叩きを呈する。553は表面は赤褐色の自然釉が見られる。554の内面はわずかに平行状叩きが見られる。555は外面・内面共に平行状の叩きが入るが、特に内面は非常に荒い平行状叩きが施されている。556は短頸壺の頸部である。器面は外面・内面とも灰赤褐色で器面はナデ調整、胎土は砂粒を含む。

第19表 須恵器観察表

番号	区・層	部位	外面調整	内面調整	胎土	色調（外面）	色調（内面）	器種	備考
546	A 6・道	口縁部	ナデ	ナデ	石英	暗灰色	明灰色	壺	
547	A 5・I	肩部	平行状叩・ナデ	ナデ	石英	暗灰色	明灰色	壺	
548	—・表	胴部	平行状叩・ナデ	ナデ	石英	暗灰色	明灰色		
549	A 6・I	胴部	平行状叩・ナデ	ナデ	石英	暗灰色	明灰色		
550	B 8・表	胴部	平行状叩・ナデ	ナデ	石英	暗灰色	明灰色		
551	A 5・I	胴部	平行状叩・ナデ	ナデ	石英	暗灰色	明灰色		
552	A 5・I	胴部	平行状叩・ナデ	ナデ	石英	暗灰色	明灰色		
553	—・表	胴部	格子状叩・ナデ	ナデ	—	暗赤褐色	暗赤褐色		
554	A 8・表	胴部	格子状叩・ナデ	ナデ	石英・角閃石	青灰色	明灰色		
555	B 7・II	胴部	平行状叩・ナデ	平行状叩	—	暗赤褐色	暗灰褐色		
556	A 8・表	頸部部	ナデ	ナデ	—	暗灰褐色	暗灰褐色	壺	

### 土師器（第88図557～570）

14点を図示した。ほとんどが表土から出土し、摩滅が激しい。557は土師甕の口縁部である。口縁端部は丸みを帯び、外面・内面ともナデ調整が施されている。558から562は皿の口縁部である。558は白色を帯び、口唇部の断面は丸い。559の口唇部の断面は先細り、胎土に砂粒を多く含む。560の口唇部の断面は先が細る。胎土中に極微細な金雲母が含まれているらしく、光る粒がみられる。561の口唇部の断面は丸みを持つ。外面に煤が付着している。562も口唇部の断面は丸い。563から570は皿の底部である。564をのぞき、全て底部の切り離しは糸切りである。563の器形は底部から胴部へ急角度に立ち上がっており、胎土に砂粒を含む。564は摩滅が激しく、底部の切り離しの状況も観察しがたい。565は微細粒により器面に光るものが見られる。底部の約4分の1が残存しているが、糸切りの状況がはっきり観察できる。566は摩滅が激しいが



第87図 須恵器

胎土に微細粒を含み、外面内面のナデ調整の様子が確認できる。567は底部の調整が丁寧に施されている。568は摩滅が激しい。569は内面の調整が丁寧に施されているが胎土に微細粒が含まれる。570は明茶褐色で底部のみの出土である。半月状に残存しているが、底部周縁は意図的に割られたような形状を呈する。

**瓦器** (第88図571)

1点が出土している。571は瓦器の口縁部である。器面はナデ調整が施され、外面に煤が付着している。胎土は極わずかに微細粒を含む。

第20表 土師器観察表

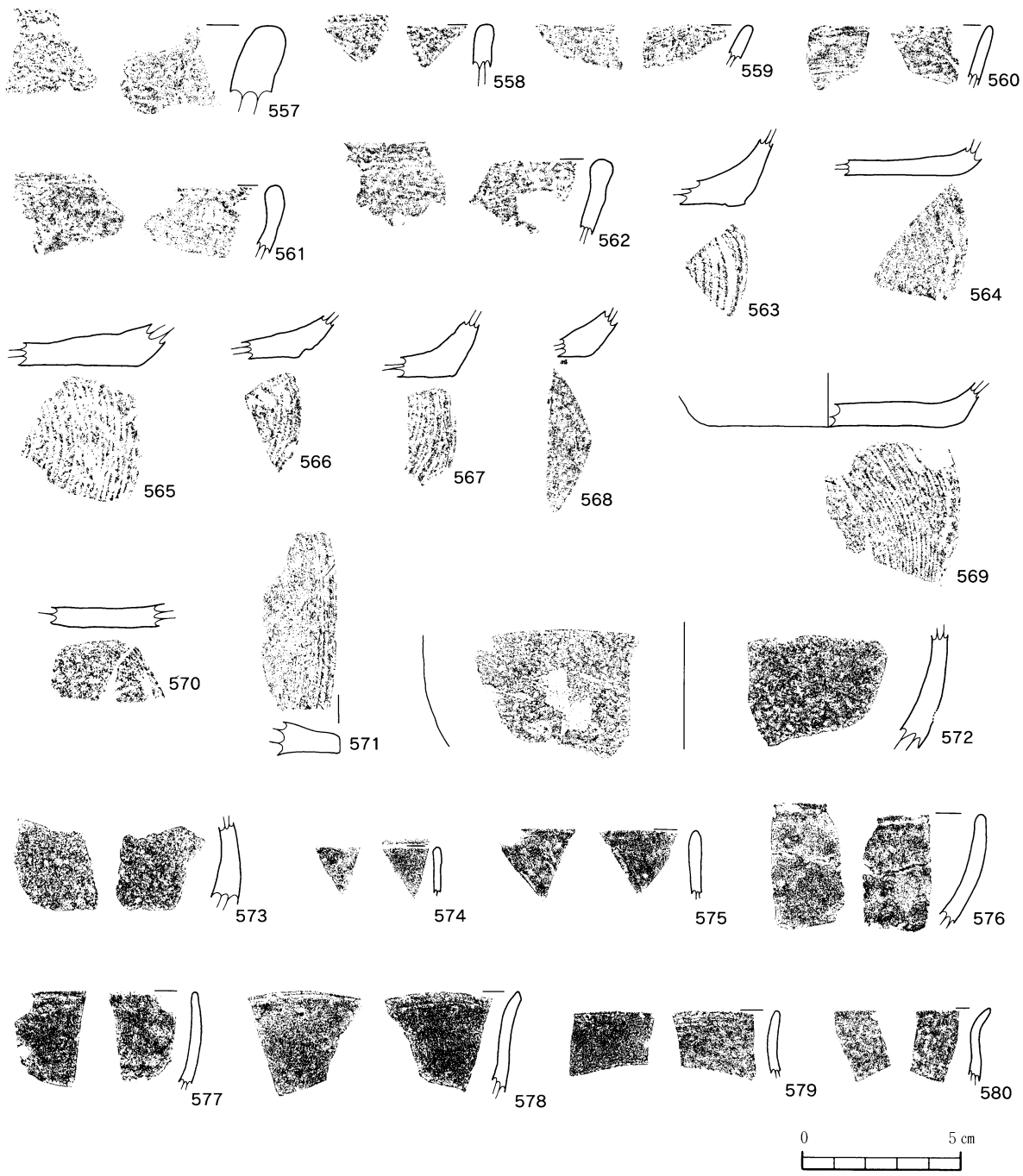
番号	区・層	部位	外面調整	内面調整	器種	備考
557	D20・I	口縁部	ナデ	ナデ	土師甕	
558	B6・ー	口縁部	ナデ	ナデ	皿	
559	D19・表	口縁部	ナデ	ナデ	皿	
560	B8・表	口縁部	ナデ	ナデ	皿	
561	C17・イモ穴	口縁部	ナデ	ナデ	皿	
562	B8・表	口縁部	ナデ	ナデ	皿	
563	B7・II	底部	ナデ・糸切底	ナデ	皿	
564	A8・II	底部	ナデ	ナデ	皿	
565	B9・II	底部	ナデ・糸切底	ナデ	皿	
566	B8・II	底部	ナデ・糸切底	ナデ	皿	
567	B8・II	底部	ナデ・糸切底	ナデ	皿	
568	A8・表	底部	ナデ・糸切底	ナデ	皿	
569	B7・II	底部	ナデ・糸切底	ナデ	皿	
570	B8・皿上	底部	ナデ・糸切底	ナデ	皿	
571	B7・II	口縁部	ナデ	ナデ	ー	

**青磁** (第88図572～576)

5点が出土している。572と573は胎土や釉薬の色、また共に器面に気泡をもつことから、同一個体ではないかと思われる。胎土内にも気泡が観察される。574から576は青磁の口縁部である。574は胎土の色が他に比べて幾分黒っぽい印象を受ける。575は内面に文様が見られる。576は器面に凹凸が見られる。発色は悪く灰色が強い。

**白磁** (第88図577～580)

4点が出土している。白磁577は白磁皿の口縁部である。釉薬を通して外面・内面共に横撫で見られる。578と579は口剥げの皿の口縁部である。2点とも器面の数カ所に小白粒を含み、胎土には微細粒を含む。580は端反りの碗の口縁部の小片である。器形が判断しづらいが、中国製の16世紀のもの可能性がある。



第88図 古代～中世出土遺物



第21表 古代～中世出土遺物観察表

番号	区・層	部 位	器 種	備 考
572	B 6・表	胴部	青磁	
573	B 6・表	胴部	青磁	
574	表	口縁	青磁	
575	A 6・II	口縁部	青磁碗	
576	A B 6～9・表	口縁部	青磁皿 明代	
577	B 7・表	口縁部	青磁皿	
578	B 8・表	口縁部	白磁口剥げ皿	
579	B 6・表	口縁部	白磁口剥げ皿	
580	B 10・表	口縁部	白磁	

#### 小結

後世の耕作などのため遺構の検出できなかつたが、青磁・白磁などの遺物が出土したことから、即座に当時の環境を判断するのは危険だが、調査区周辺に中世の何らかの施設があった可能性を示すものと思われる。

## 第6節 まとめ

柵堀遺跡では、旧石器時代から中世までの長い期間にわたる生活跡が検出され、それぞれの時期において重要な問題を提示している。以下、時代を追って簡単にまとめてみたい。

### 旧石器時代

550m<sup>2</sup>の範囲に19ヶ所のブロックが検出され、遺物4578点が出土した。器種は細石刃核47、ブランク6、細石刃225、調整剥片8、三稜尖頭器4、台形石器1、加工痕のある剥片7、スクレイパー7、剥片702、碎片3555点であった。以下、ブロック別にまとめてみたい。

#### Aブロック

A-2区で6m<sup>2</sup>の範囲に46点の遺物が点在して検出された。石器は細石刃・剥片・碎片である。黒曜石の石材は三船・上牛鼻産が主であった。

#### Bブロック

A-2・3区で4m<sup>2</sup>の範囲に52点の遺物が点在して検出された。石器は細石刃・剥片・碎片である。石材は地元の上牛鼻産が主である。

#### Cブロック

A-3区で40m<sup>2</sup>の範囲に2069点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・細石刃・ブランク・調整剥片・三稜尖頭器・加工痕のある剥片・スクレイパー・剥片・碎片である。黒曜石は腰岳産もあるが主体は三船原産のものである。

#### Dブロック

B-3区で6m<sup>2</sup>の範囲に64点の遺物が点在して検出された。石器は細石刃・加工痕のある剥片・剥片・碎片である。黒曜石は針尾産が主である。

#### Eブロック

B-3区で2m<sup>2</sup>の範囲に41点の遺物が集中して検出された。石器はスクレイパー・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Fブロック

A-3・4区で6m<sup>2</sup>の範囲に112点の遺物が点在して検出された。石器は細石刃核・細石刃・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Gブロック

A-3・4区で6m<sup>2</sup>の範囲に53点の遺物が点在して検出された。石器はブランク・細石刃・調整剥片・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Hブロック

A・B-3・4区で18m<sup>2</sup>の範囲に278点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・細石刃・調整剥片・剥片・碎片である。黒曜石は細石刃核が三船産であるが、細石刃は全て針尾産の黒曜石で、出土遺物の約半数が細石刃であることから、細石刃の剥出地点であったと想定される。

#### Iブロック

A-4区で4m<sup>2</sup>の範囲に46点の遺物が点在して検出された。石器は剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Jブロック

A・B-4区で8m<sup>2</sup>の範囲に101点の遺物が点在して検出された。石器は細石刃核・細石刃・スクレイパー・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Kブロック

B-4区で8m<sup>2</sup>の範囲に149点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・細石刃・調整剥片・剥片・碎片である。黒曜石は針尾産が主であり、三船・上牛鼻産も出土した。細石刃の剥出地点であったと想定される。

#### Lブロック

B-4区で6m<sup>2</sup>の範囲に86点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・細石刃・調整剥片・剥片・碎片である。黒曜石は針尾産が主であり、細石刃の剥出地点であったと想定される。

#### Mブロック

A・B-4区で8m<sup>2</sup>の範囲に130点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・細石刃・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Nブロック

B-4区で5m<sup>2</sup>の範囲に91点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・ブランク・細石刃・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Oブロック

B-4区で9m<sup>2</sup>の範囲に645点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・ブランク・細石刃・加工痕のある剥片・スクレイパー・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Pブロック

B-4区で3m<sup>2</sup>の範囲に51点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Qブロック

B-5区で9m<sup>2</sup>の範囲に256点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・細石刃・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Rブロック

B-5区で6m<sup>2</sup>の範囲に210点の遺物が集中して検出された。石器は細石刃核・細石刃・スクレイパー・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

#### Sブロック

B-5区で10m<sup>2</sup>の範囲に87点の遺物が点在して検出された。石器は細石刃・石槍・台形石器・剥片・碎片である。黒曜石は三船産が主である。

特徴のあるブロックは、D・H・K・Lブロックで、針尾原産の黒曜石が石材の主となるもので、今まで、地元原産地の黒曜石が主で県外産のものが若干含まれることはあったが、県外産の黒曜石が主体となる出土状況はなかった。このことは、細石刃が集中し、細石刃の剥出場所であったことを考えあわせると、他のブロックと違い、針尾産の黒曜石で細石刃を製作した人々の動きとみられる。これは、針尾産の細石刃核が出土しなかった事とも関連があると思われる。この遺跡は、石鏃・石槍・細石刃との組み合わせなど旧石器から縄文への移行期の遺跡として重要である。

#### 縄文時代

遺構として早期の集石が6基、晩期の土坑と溝状遺構が検出された。集石は十数個から数十個の礫が集中した状況で検出された。掘り込み等は認められず、集石下位は平坦面であった。土坑は単独のものも集中したものが検出された。埋土中の遺物は、晩期のものであるが、性格・用途などは不明である。B-11~13区にかけて、晩期の遺物が埋土された幅80cm、検出面からの

深さ20cmを測る溝状遺構が検出された。

遺物は、早期・前期・中期・後期・晩期のものがみられた。土器は、4～9区に早期の岩本式土器や前平式土器が、17～19区にかけて平椀式土器が集中して出土した。出土の多かった晩期の遺物は、13～20区にかけて集中した。その他、轟式土器・阿高式土器などがみられた。晩期の土器は、深鉢・鉢・浅鉢がみられ、精製土器や粗製土器が出土した。精製土器のうち数点には赤色顔料の塗布がみられた。また、8点の組織痕文土器が出土した。平織りや網目の圧痕はなく、全て編布の圧痕である。経糸、緯糸とも撚糸を使用し、経糸がそれぞれ一定の間隔で編まれ、緯糸の太さはほぼ同じに揃えている。これらは、南九州ではよく見られるものであるが、全国的には貴重なものであり、当時の製糸技術や布の製作・使用について知る上での好資料である。

石器は、石鏃・石匙・磨石・砥石などが出土した。530の砥石は砂岩製で平坦部に4条の溝があり、形態より玉製作に使用されたと考えられる。石材には、黒曜石・ハリ質安山岩・頁岩・チャート・瑪瑙・玉髓等が使用されている。

#### 弥生～古墳時代

弥生時代の甕形土器となりかを式土器が出土した。

#### 古代～中世

遺構は検出されなかったが、須恵器・土師器・瓦器・青磁・白磁が出土した。

にし の はら  
西ノ原 B 遺跡

## 第Ⅵ章 西ノ原B遺跡

### 第1節 調査の概要

台地上に任意にトレンチを3ヶ所（5m×2m）を設定し、平成3年5月に確認調査を行った結果、Ⅶ層から旧石器時代の剥片・碎片が出土した。

確認調査の結果に基づき、平成6年9月22日から11月21日まで緊急調査を行った。

南九州西回り自動車道建設工事図面のSTA.310とSTA.311を基準に10m間隔の区割りを設定し、北側から1～6区、西側からA～C区と名称した。

Ⅵ層から上面は削平され、また、遺物等も出土しなかったことからⅥ層の薩摩火山灰までは重機により排除作業を行ったが、A・B-1・2区のⅢ層から古墳時代の遺物が出土したため、1・2区はⅢ層からの調査、その他の区域は「薩摩火山灰」より下層の調査を行った。

約1300㎡の範囲で、約3000点の遺物が出土した。Ⅲ層上部からは、古墳時代の成川式土器片と壺が出土した。旧石器時代は、Ⅷ層に1ヶ所のブロックが検出され、台形石器、剥片、碎片が出土した。Ⅶ層からは13ヶ所のブロックが検出され、細石刃核・ブランク・細石刃・調整剥片・石刃・三稜尖頭器・ナイフ形石器・台形石器・加工痕のある剥片・抉り入り石器・スクレイパー・使用痕のある剥片・石核・剥片・碎片が出土した。また、A-5区Ⅶ層から93個の安山岩礫を利用した礫群が検出した。

### 第2節 旧石器時代

#### 1 遺構

西ノ原B遺跡から検出された遺構は、Ⅶ層の礫群1基とⅧ層のブロック（遺物集中箇所）1ヶ所とⅦ層のブロック13ヶ所（A～M）である。

#### 礫群（第90図）

A-5区Ⅶ層に検出され、約2m×1mの長円形の範囲に93個の大小の安山岩角礫が集中してみられた。礫群には掘り込みはみられず、また、炭化物や焼石なども確認できなかった。

#### 2 遺物

Ⅶ・Ⅷ層から旧石器時代の遺物2861点が出土した。Ⅷ層からは1ヶ所のブロックが、Ⅶ層からは13ヶ所のブロックがみられた。その出土一覧は第22表のとおりである。

器種は細石刃核7点、ブランク2点、細石刃45点、調整剥片5点、石刃1点、三稜尖頭器1点、ナイフ形石器4点、台形石器4点、加工痕のある剥片9点、抉り入り石器1点、スクレイパー8点、使用痕のある剥片2点、石核2点、剥片660点、碎片2129点である。

石材には、黒曜石、瑪瑙、砂岩、チャート等であり、黒曜石は肉眼的観察により、県内産の三船、上牛鼻・平木場、桑ノ木津留が、また、県外の椎葉川、針尾、腰岳などが出土した。

個々の遺物の説明はブロックごとに行いたい。



第89図 西ノ原B遺跡地形図

## 石材

西ノ原B遺跡の石器に用いられた石材には黒曜石、瑪瑙、砂岩、チャート等があり、黒曜石については肉眼的観察によって下記のとおり分類した。

黒曜石三船…黒色を呈する黒曜石であり、気泡が多く県内では根占町長谷、鹿児島市三船、大口市日東・猩々・五女木などにあるが、本遺跡の黒曜石は、鹿児島市吉野町三船原産の特徴がより多くみられるため三船産とした。

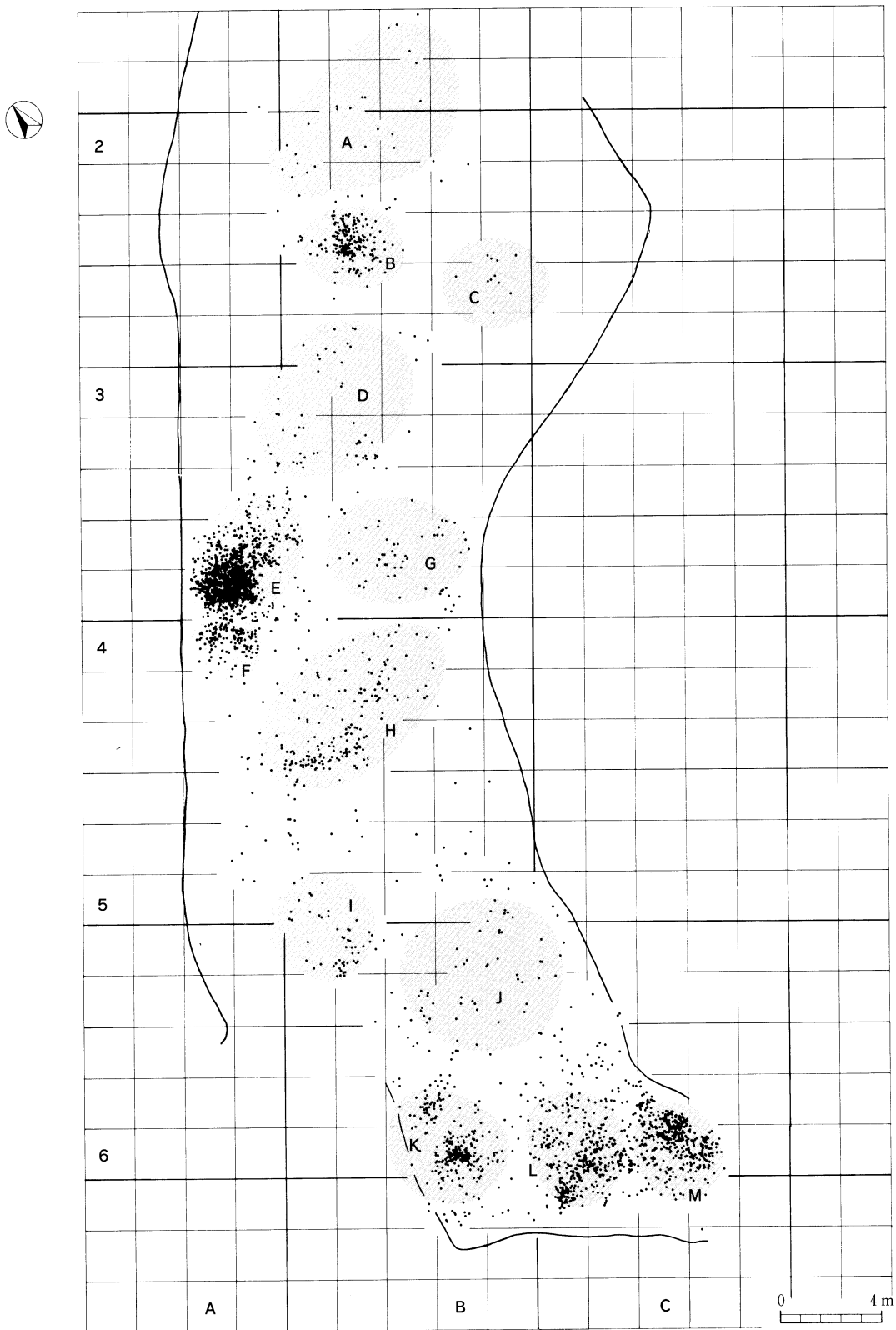
三船の黒曜石は、強く溶結した柱状節理の発達した吉野火砕流の中にレンズ状に黒曜石が含まれている。黒曜石は灰色っぽく黒い線がはいることもある。

黒曜石上牛鼻…ガラス質が弱く、一見石炭を思わせるものである。風化が著しく進み、淡黒色を呈するが内面は真っ黒であり光を通さない。気泡は少なく軽石が若干入る良質の黒曜石である。

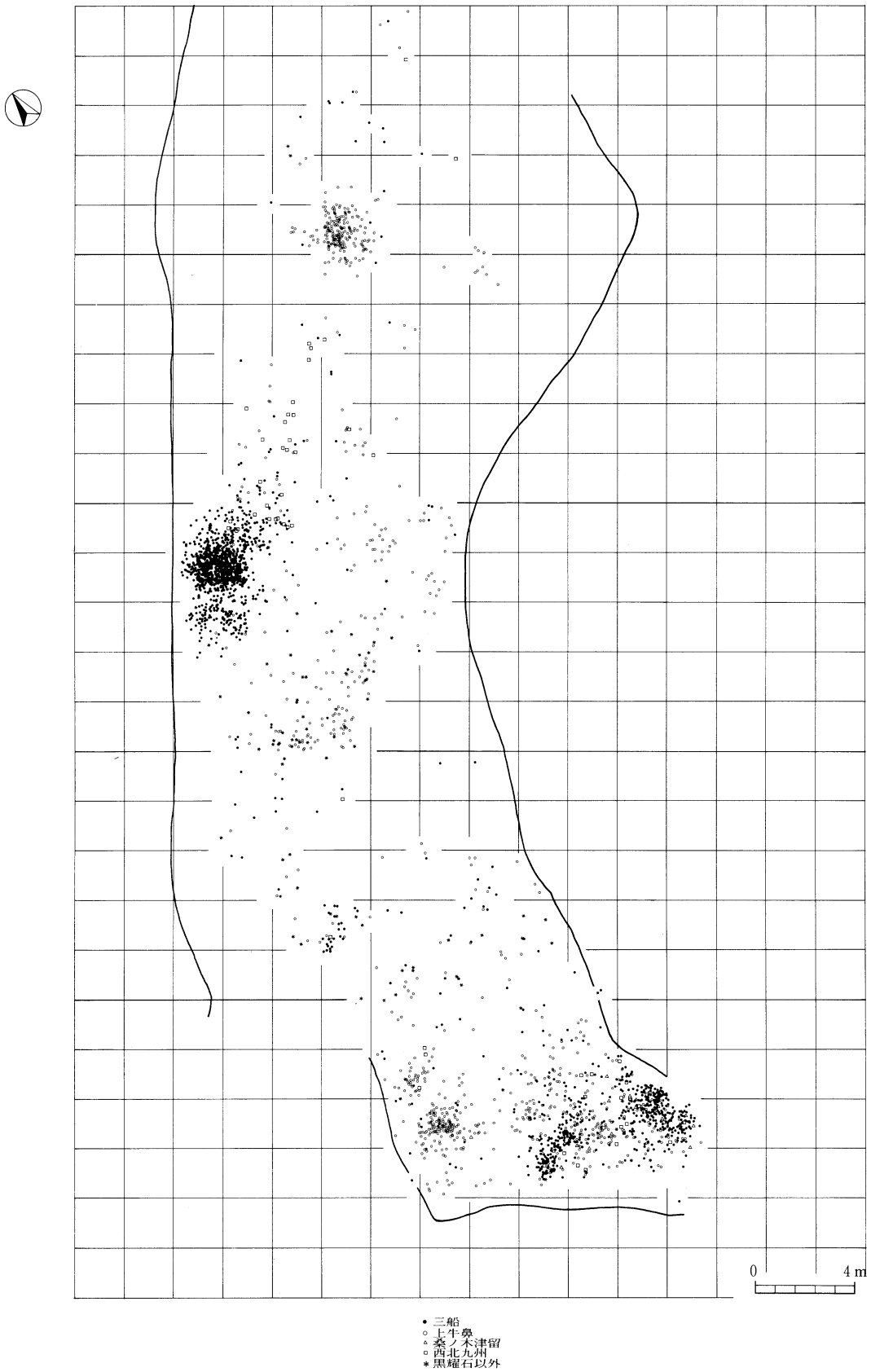


第90図 礫群

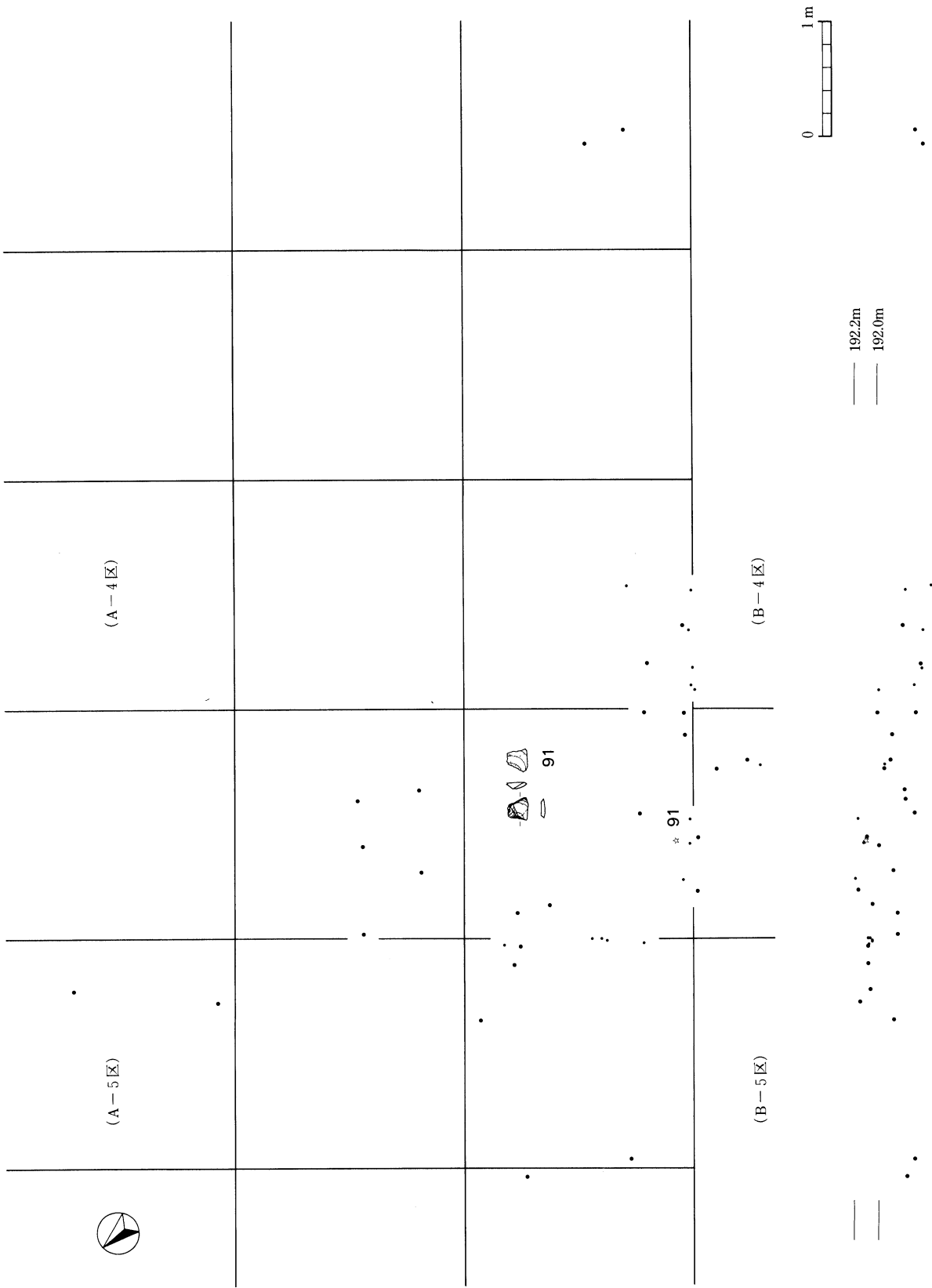




第91図 ブロック分布図



第92図 ブロック石材別分布図



第93図 VII層遺物出土状況

褐色のベルトが入ることもある。薩摩郡榎脇町上牛鼻、日置郡市来町平木場の原石と推定される。

黒曜石腰岳…ガラス質で黒色を呈するもので、気泡が少なく良質の黒曜石である。佐賀県腰岳の原石と推定される。

黒曜石針尾…ガラス質が弱く、灰褐色を呈し光を通さない。気泡は少なく良質の黒曜石である。長崎県針尾島周辺の原石と推定される。

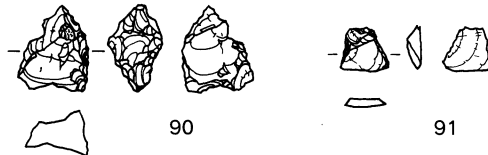
黒曜石椎葉川…ガラス質が弱く、暗褐色を呈し光沢がなく梨肌で光を通さない。気泡の少ない黒曜石である。佐賀県嬉野町椎葉川の原石と推定される。

#### Ⅷ層ブロック（第93図）

A・B-4・5区に検出され、5m×2mの長円形の範囲に42点の遺物が出土した。器種は台形石器1点、剥片26点、碎片15点である。

91はⅧ層から出土した台形石器である。チャートの剥片を横位に利用し、両側縁はブランディングと平坦剥離により整形されている。

90はブロック外のA-4区の落ち込みから出土したもので、厚手の黒曜石剥片を利用している。一側面の軽く内弯した部分に細かい剥離をもつ刃部を形成している。



第94図 Ⅷ層出土石器

#### Aブロック（第95図）

B-1・2区に検出され、6m×6mの円形の範囲に21点の遺物が点在していた。器種は石核2点、剥片8点、碎片11点である。

#### Bブロック（第96図）

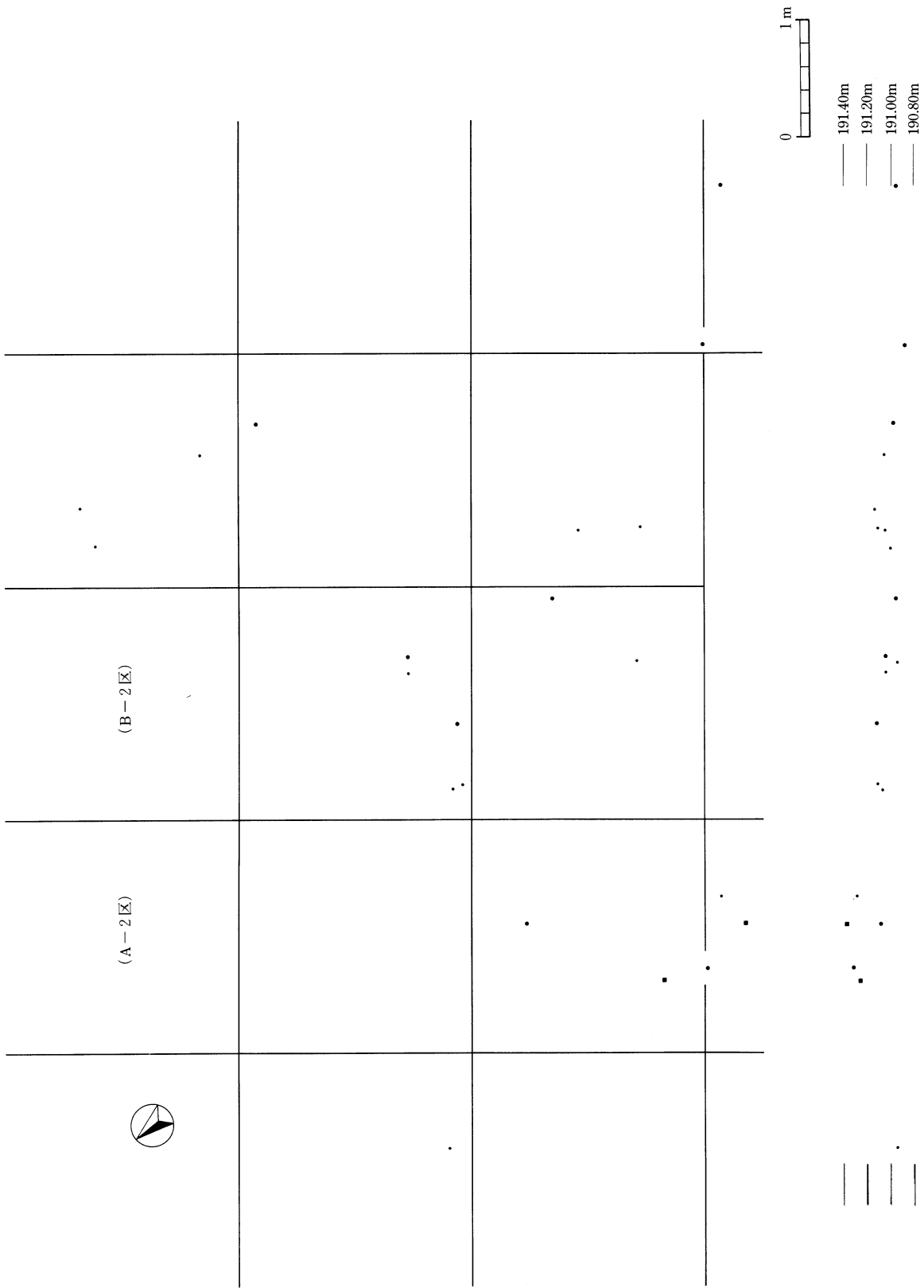
B-2区に検出され、3m×3mの円形の範囲に224点の遺物が出土した。器種は細石刃1点、スクレイパー1点、剥片35点、碎片187である。

1は黒曜石製の細石刃で部位は中間・先端部である。2は厚みのある黒曜石を用いたスクレイパーである。細かい剥離をもつ刃部が一側面にあり、刃部は軽く内弯している。

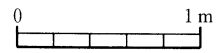
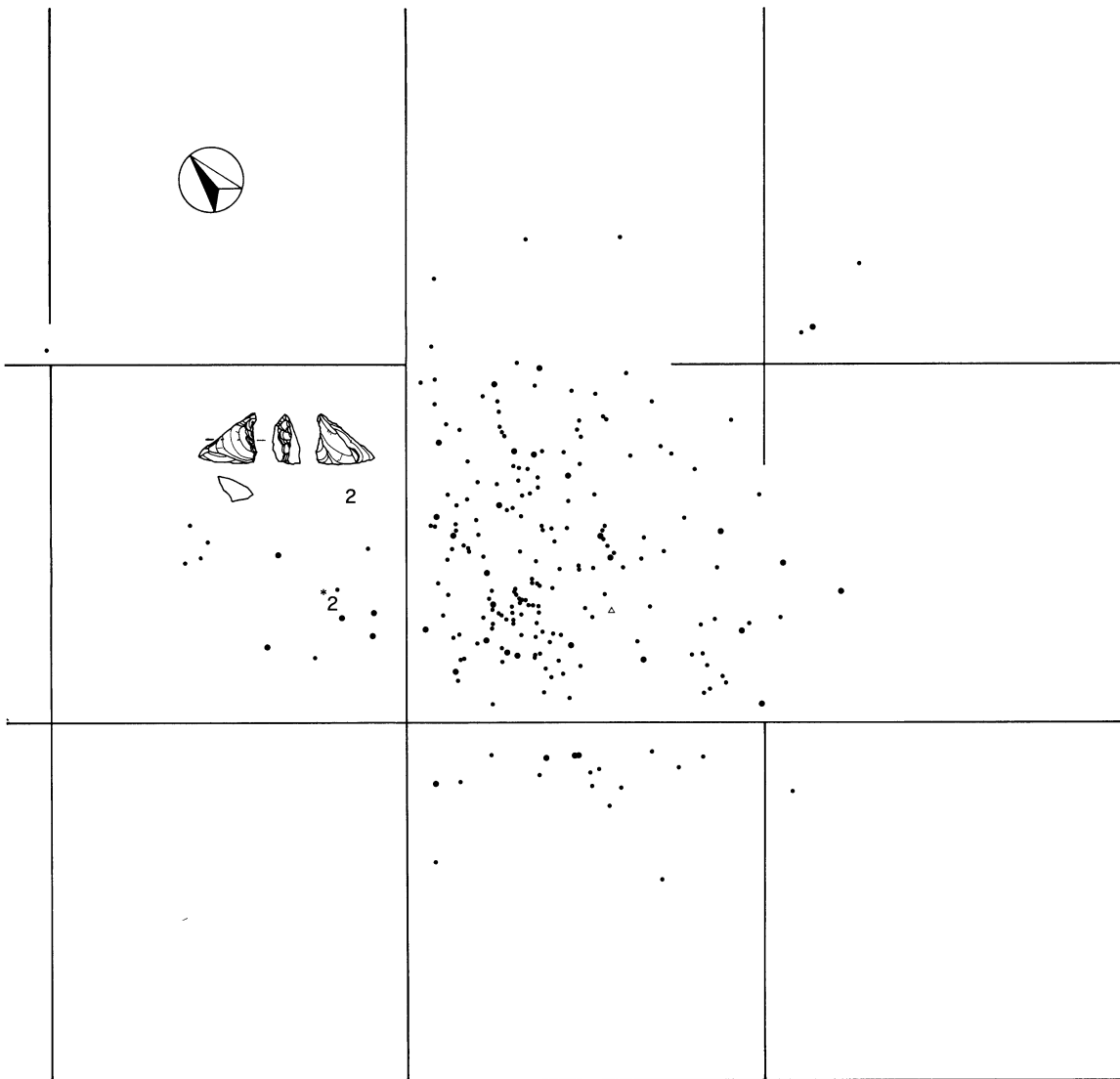
#### Cブロック（第98図）

B-2区に検出され、2m×1mの範囲に9点が点在していた。器種は剥片5点、碎片4点である。

石材は、全て上牛鼻原産の黒曜石である。



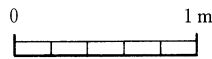
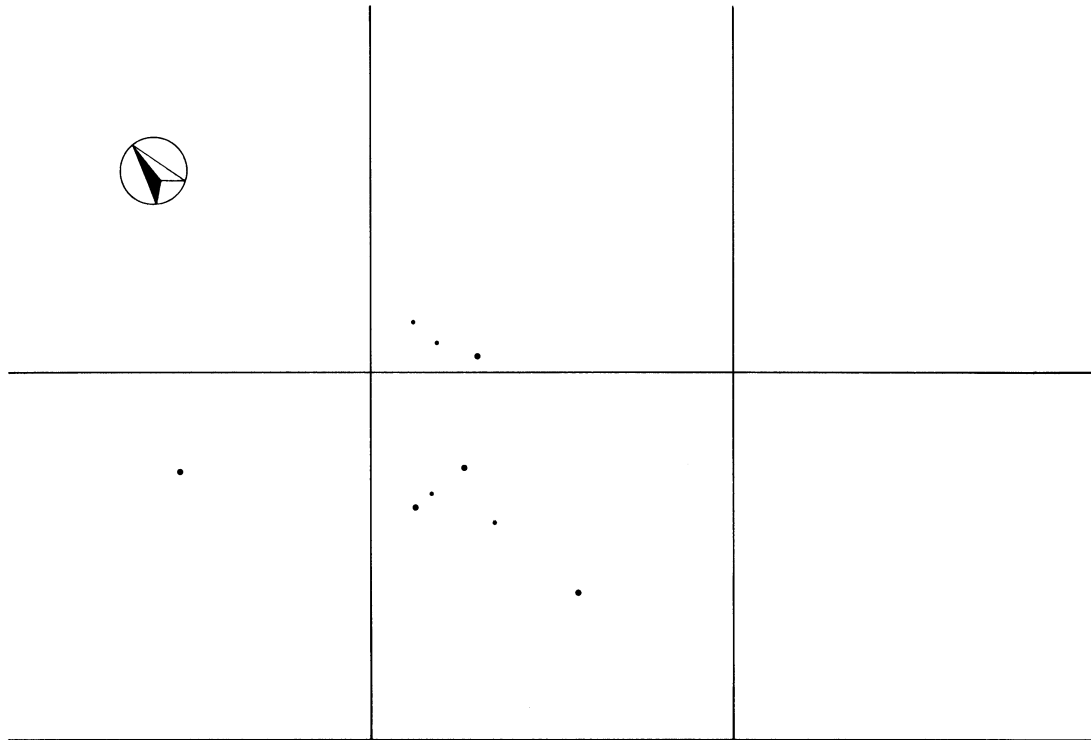
第95図 Aブロック遺物出土状況



第96図 Bブロック遺物出土状況



第97図 Bブロック出土石器



第98図 Cブロック遺物出土状況

**Dブロック (第99図)**

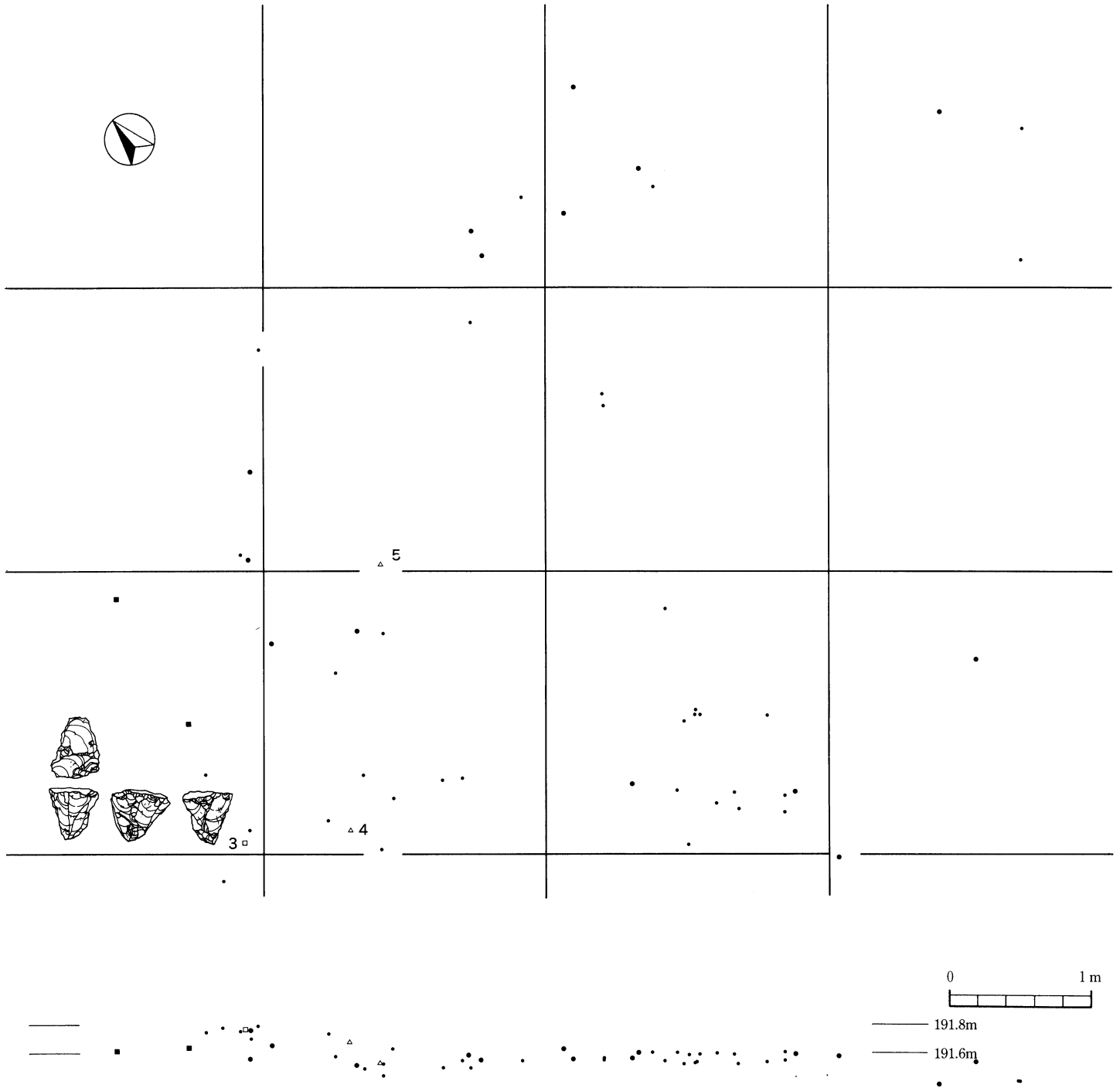
B-2・3区に検出され、6m×6mの円形の範囲に51点の遺物が点在して出土した。

器種は細石刃核1点、細石刃2点、剥片14点、碎片34点である。

石材は、全て黒曜石で、椎葉川原産の黒曜石が15点出土している。

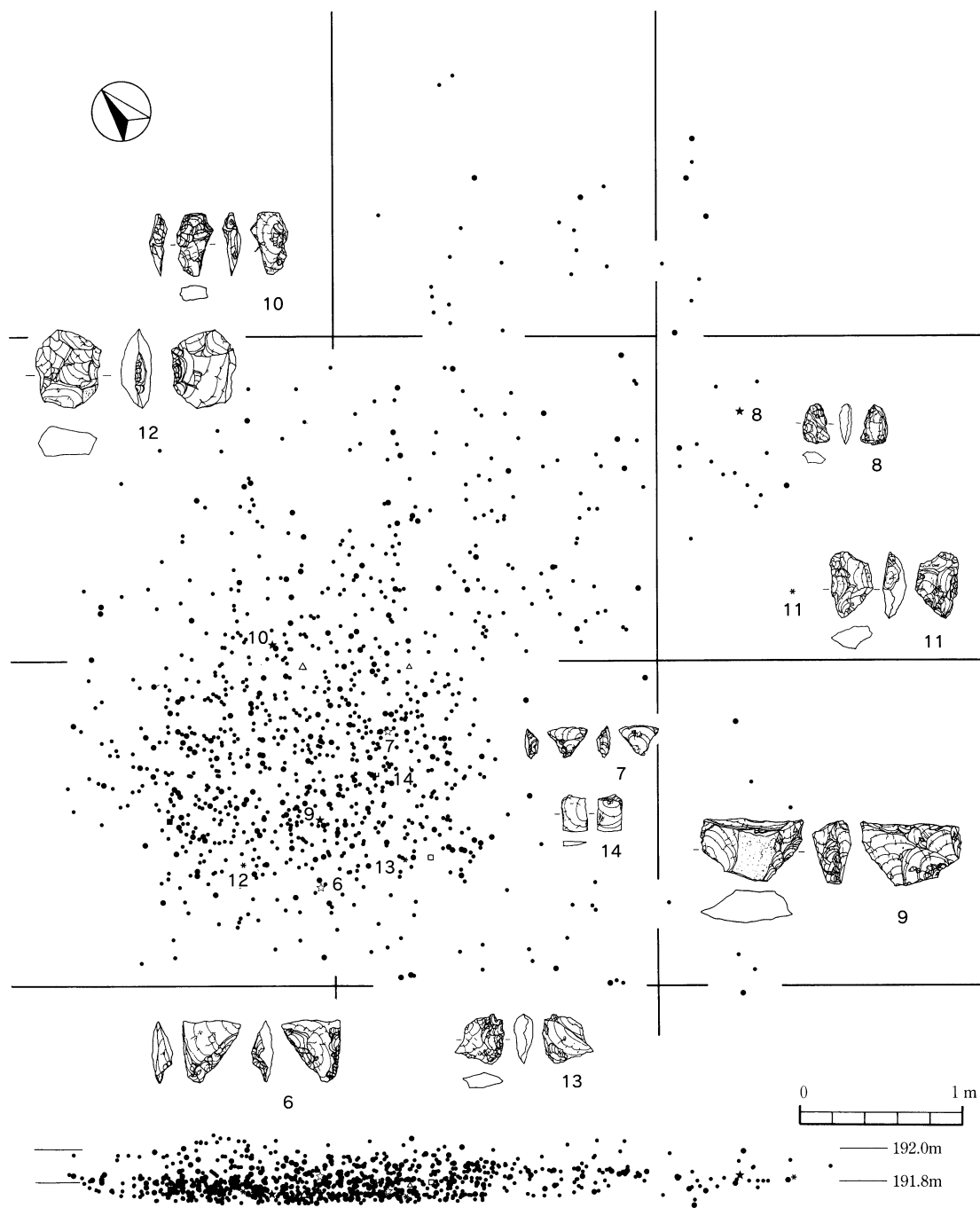
3は細石刃核で黒曜石を用いている。石核調整は作業面から両側縁に簡単に行われている。作業面は逆三角形を呈する。

4・5は細石刃で椎葉川の黒曜石を用い部位は頭部と中間部である。

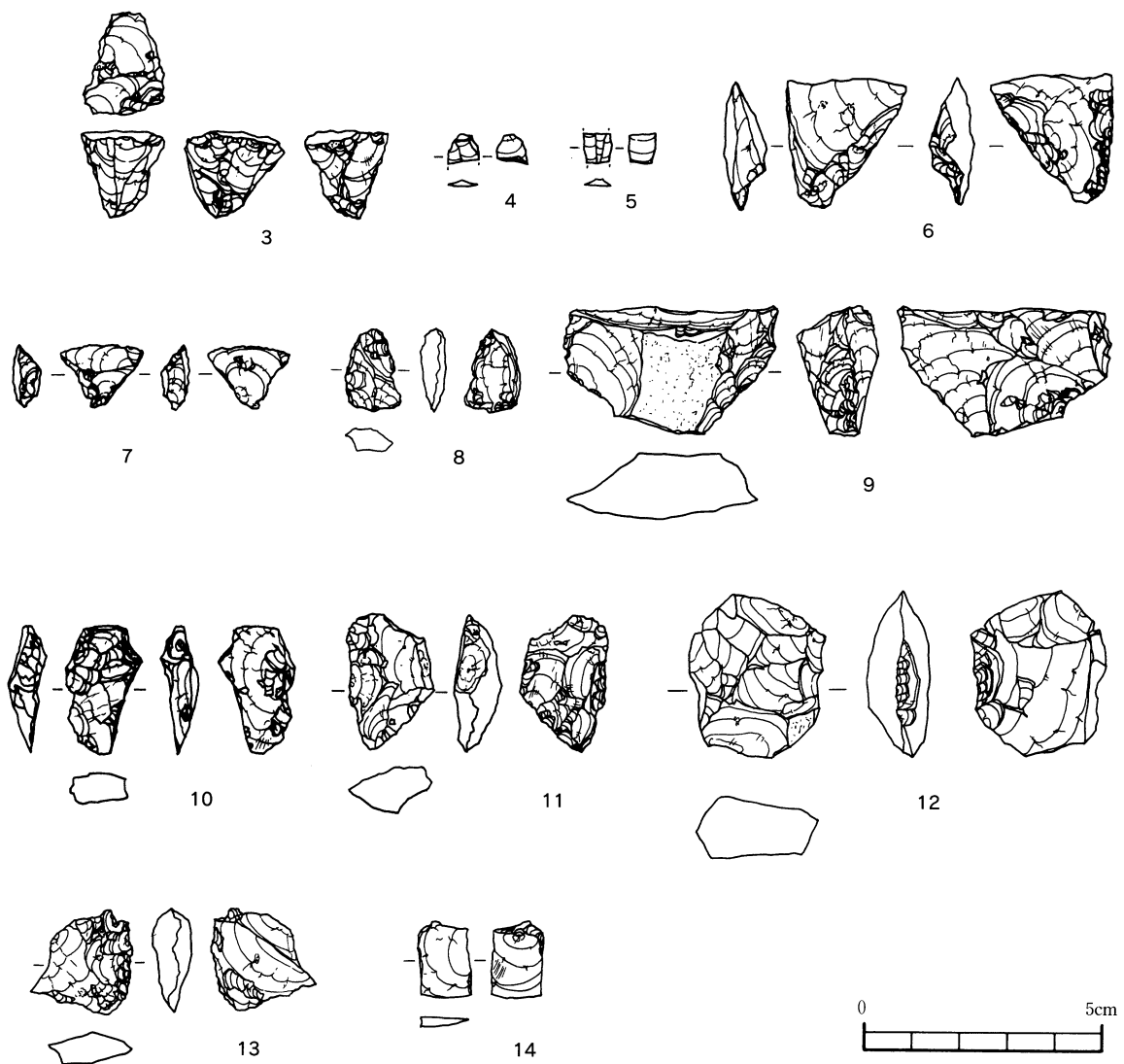


第99図 Dブロック遺物出土状況





第100図 Eブロック遺物出土状況



第101図 D・Eブロック出土石器

### Eブロック (第100図)

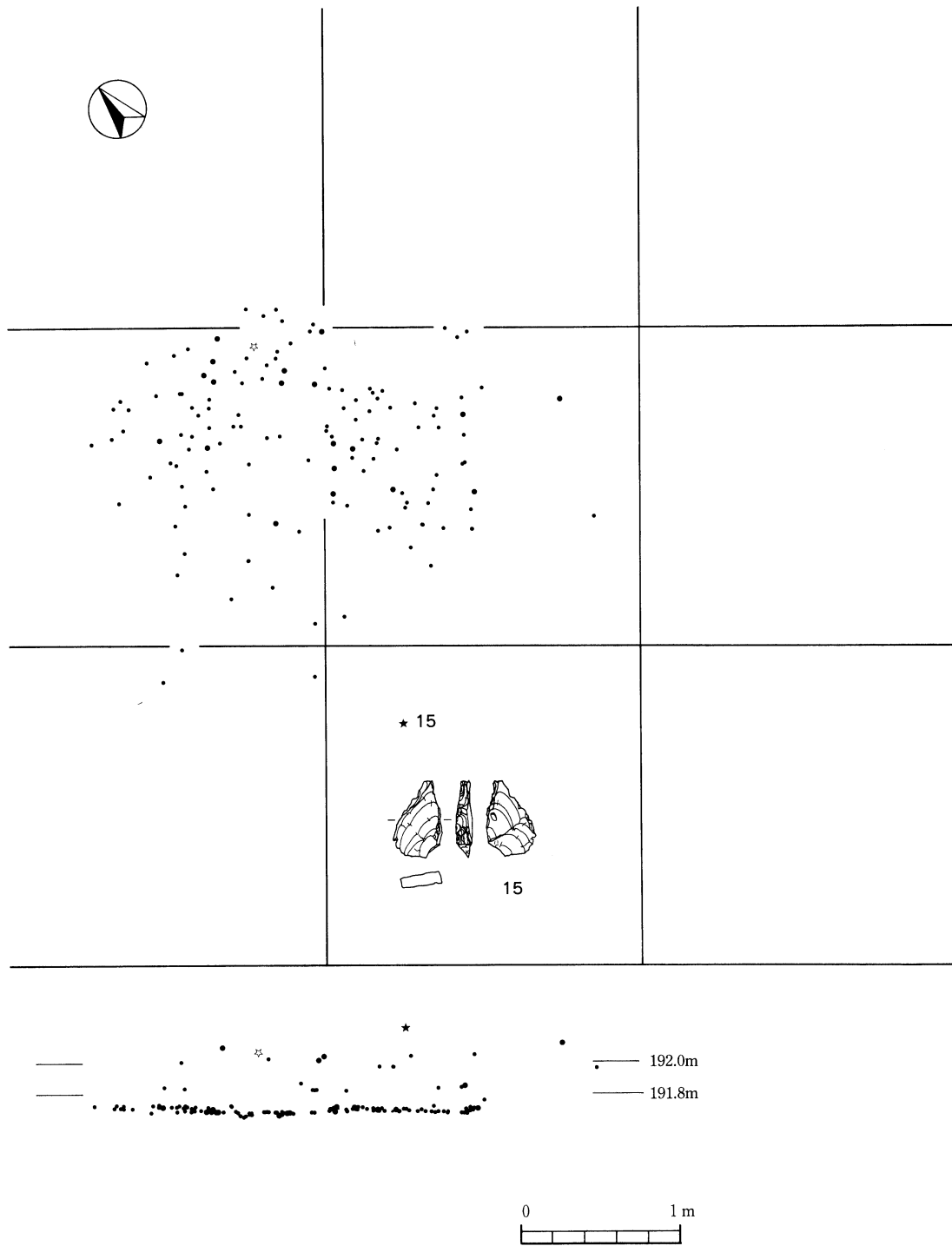
A・B-3区に検出され、6m×4mの長円形の範囲に1007点の遺物が出土した。

器種は台形石器2点、加工痕のある剥片3点、スクレイパー3点、使用痕のある剥片1点、剥片172点、碎片826点である。

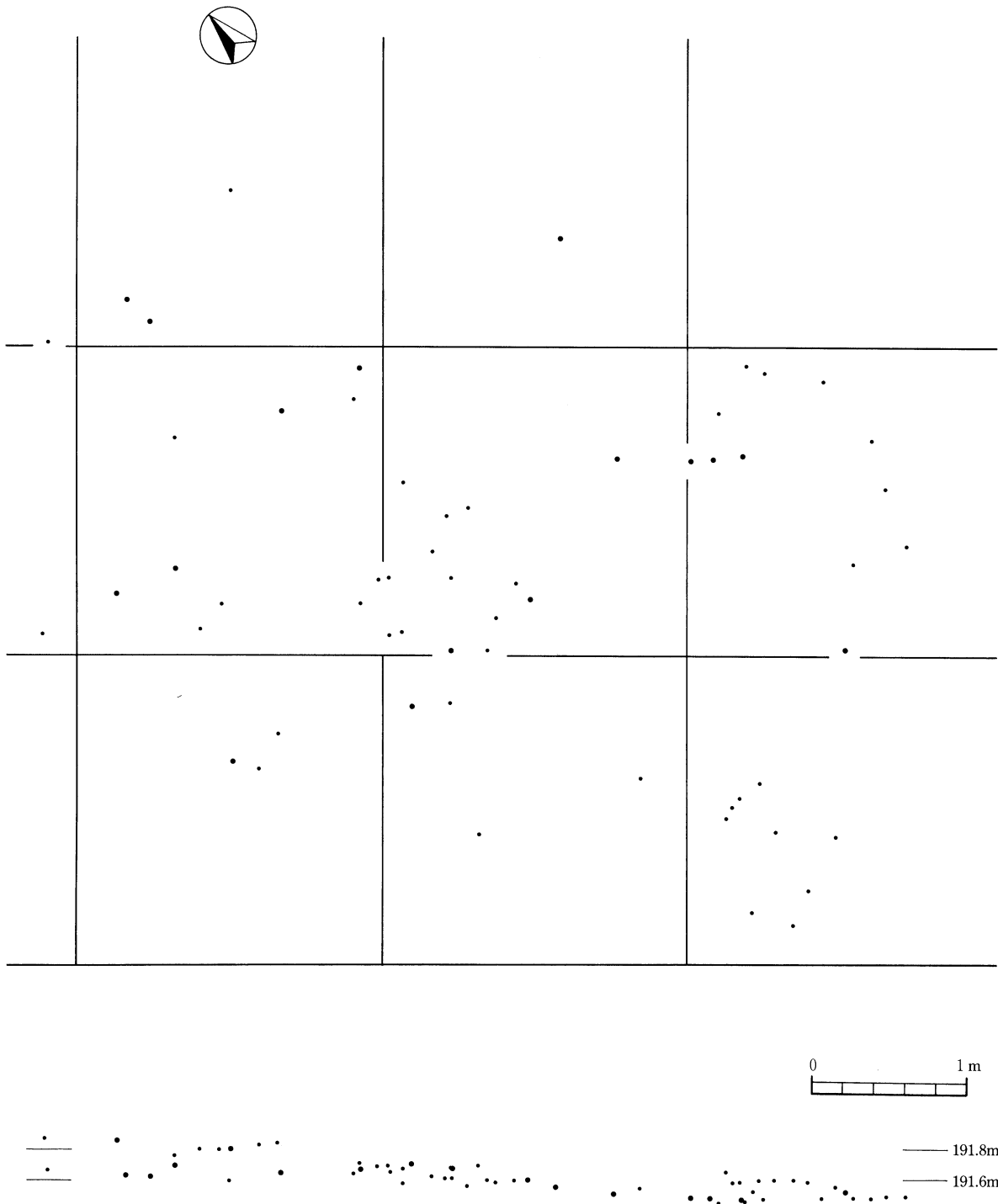
6・7は台形石器である。6は黒曜石の大型剥片を横位に利用し、両側縁はブランディングと平端剥離により整形されている。7は黒曜石剥片を利用し、両側縁は平坦剥離により整形されている。

8・9・10は加工痕のある剥片である。8は黒曜石を石材に用い、側縁部が交互剥離により整形されている。9は黒曜石の大型剥片を用い片面からの調整剥離を施しているものである。10は横長剥片の黒曜石を用いたもので、側辺部にブランディングがみられる。

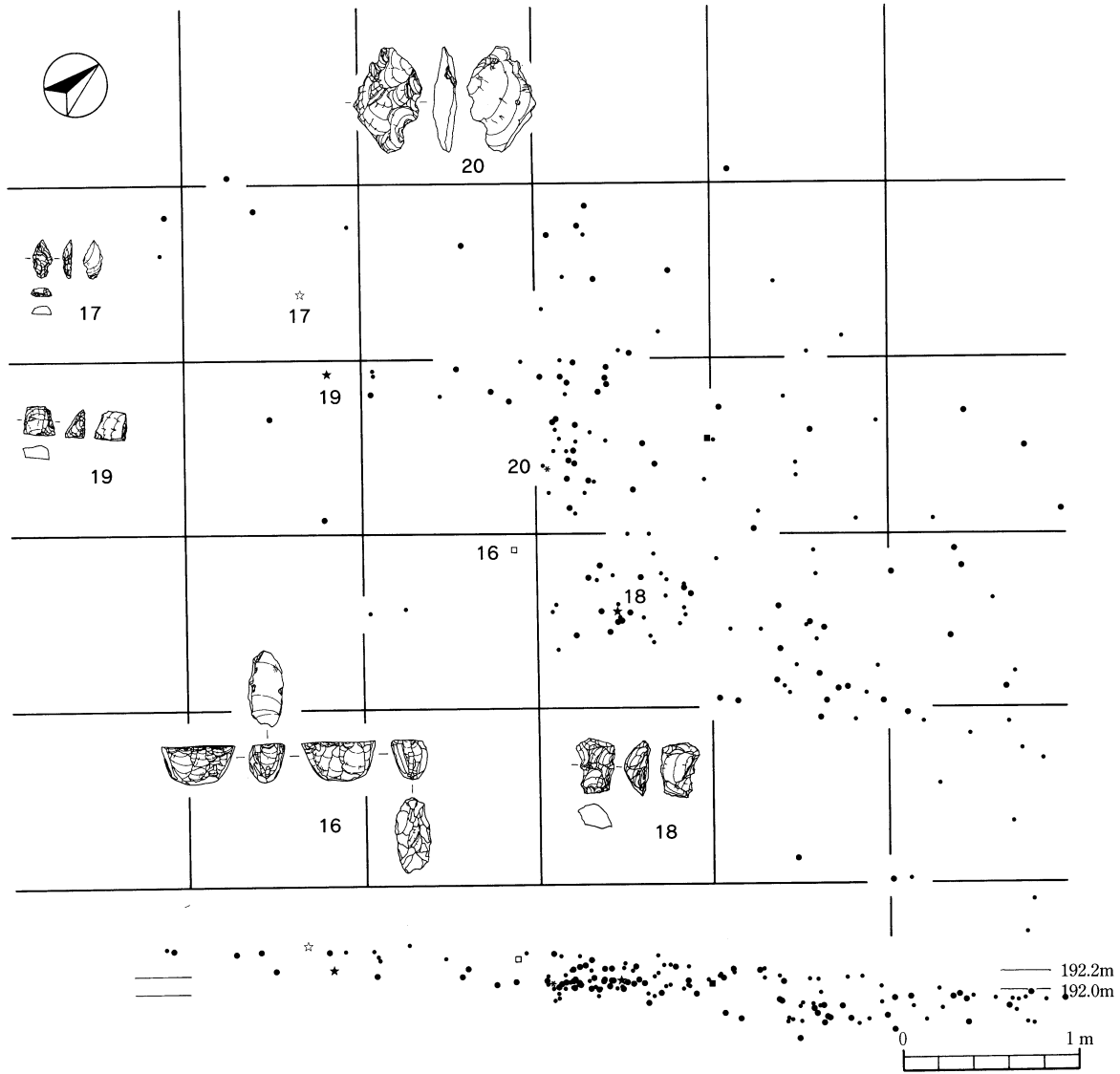
11・12・13は黒曜石製のスクレイパーである。11は側面に交互剥離による整形が施されている。



第102図 Fブロック遺物出土状況



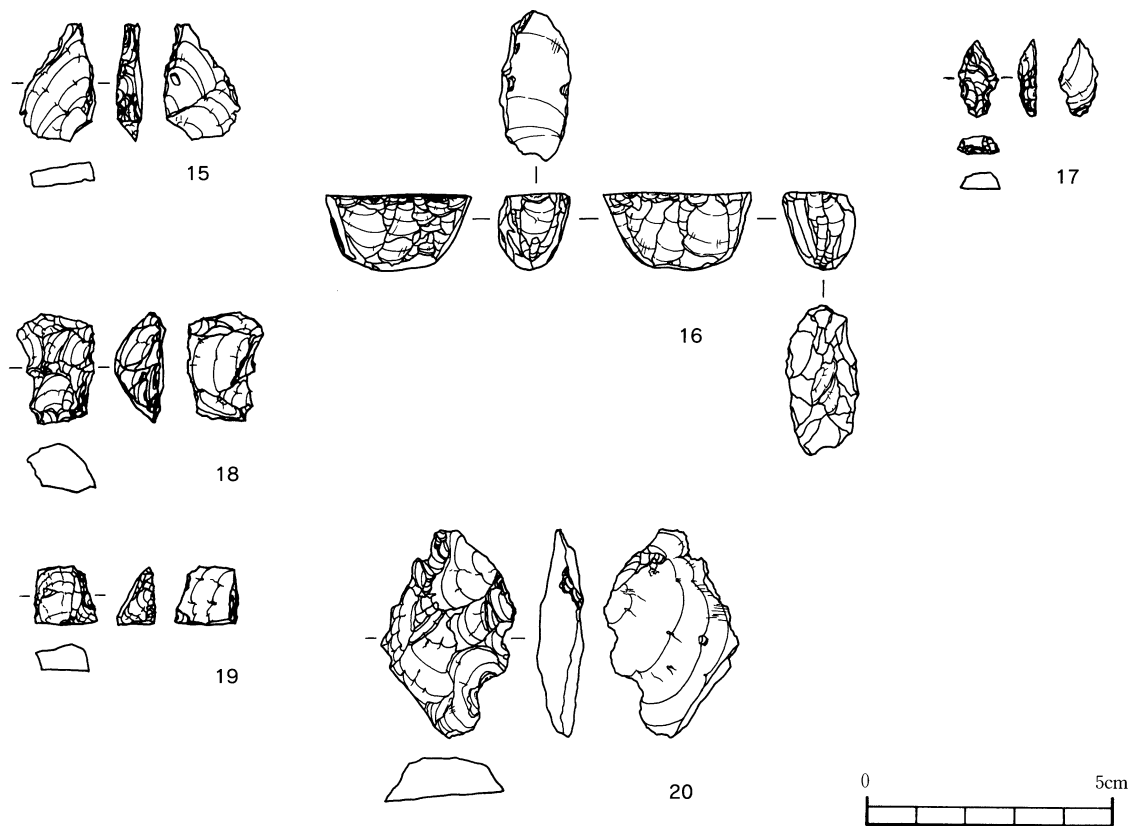
第103図 Gブロック遺物出土状況



第104図 Hブロック遺物出土状況

12は大型剥片を横位に利用したもので、一側辺部にブランディングを施している。13も側縁部にブランディングを施したスクレイパーである。

14は使用痕のある剥片である。黒曜石の縦長剥片を用い、平坦剥離により整形され、側縁部に顕著な使用痕が認められる。



第105図 F・Hブロック出土石器

#### Fブロック (第102図)

A-4区に検出され、2mの円形の範囲に135点の遺物が出土した。

器種は加工痕のある剥片1点、剥片19点、碎片115点である。

15は加工痕のある剥片である。上牛鼻産の黒曜石を用い、一部欠損しているが、側縁部にブランディングが施されている。

#### Gブロック (第103図)

B-3区に検出され、5m×5mの円形の範囲に58点の遺物が点在していた。

器種は剥片16点、碎片42点である。

#### Hブロック (第104図)

A・B-4区に検出され、6m×3mの長円形の範囲に164点の遺物が出土した。

器種は細石刃核1点、ナイフ形石器1点、加工痕のある剥片2点、抉り入りのある石器1点、剥片75点、碎片84点である。

16は針尾原産の黒曜石を用いた細石刃核である。礫を半割したものを素材とし、その時、得

られた平坦面を打面にしている。側面は、打面からの調整剥離によって成形されている。細石刃剥離に先立つ打面調整は施されていない。舟底状の形態を呈している。

17は三船原産の黒曜石を用いた小型のナイフ形石器である。横長剥片を素材にし、片側側縁はブランディングにより整形し、基部調整も施されている。

18・19は加工痕のある剥片である。18は上牛鼻原産のやや厚手の黒曜石剥片を素材にし、一側縁部にブランディングが施されている。19は一部欠損しているが、三船原産の黒曜石剥片を用いたもので、やはり側縁部にブランディングが施されている。

20は上牛鼻原産の黒曜石を素材にしたもので、横長剥片を使用している。側縁部に深いノッチを2ヶ所施している。

### Iブロック (第106図)

B-4・5区に検出され、5m×3mの長円形の範囲に48点の遺物が点在して出土した。器種は調整剥片1点、ナイフ形石器1点、スクレイパー1点、使用痕のある剥片1点、剥片14点、碎片30点である。

21は三船原産の黒曜石を利用した打面調整のための剥片である。

22は瑪瑙の剥片を素材にした小型のナイフ形石器である。縦長剥片を利用し、片側側縁はブランディングにより丁寧な整形を施し、また、基部調整も丁寧に行われている。

23は瑪瑙の剥片を素材にしたスクレイパーで、磨耗しているが、側縁部にブランディングが施されている。

24も瑪瑙を素材にしたもので、厚手の横長剥片であり、側縁部に使用による痕跡が認められる。稜は磨耗している。

25・26は剥片である。ともに上牛鼻原産の黒曜石を使用している。

### Jブロック (第107図)

B-5区に検出され、8m×8mの円形の範囲に83点の遺物が点在して出土した。器種は細石刃核2点、細石刃1点、ナイフ形石器2点、台形石器1点、剥片40点、碎片37点である。

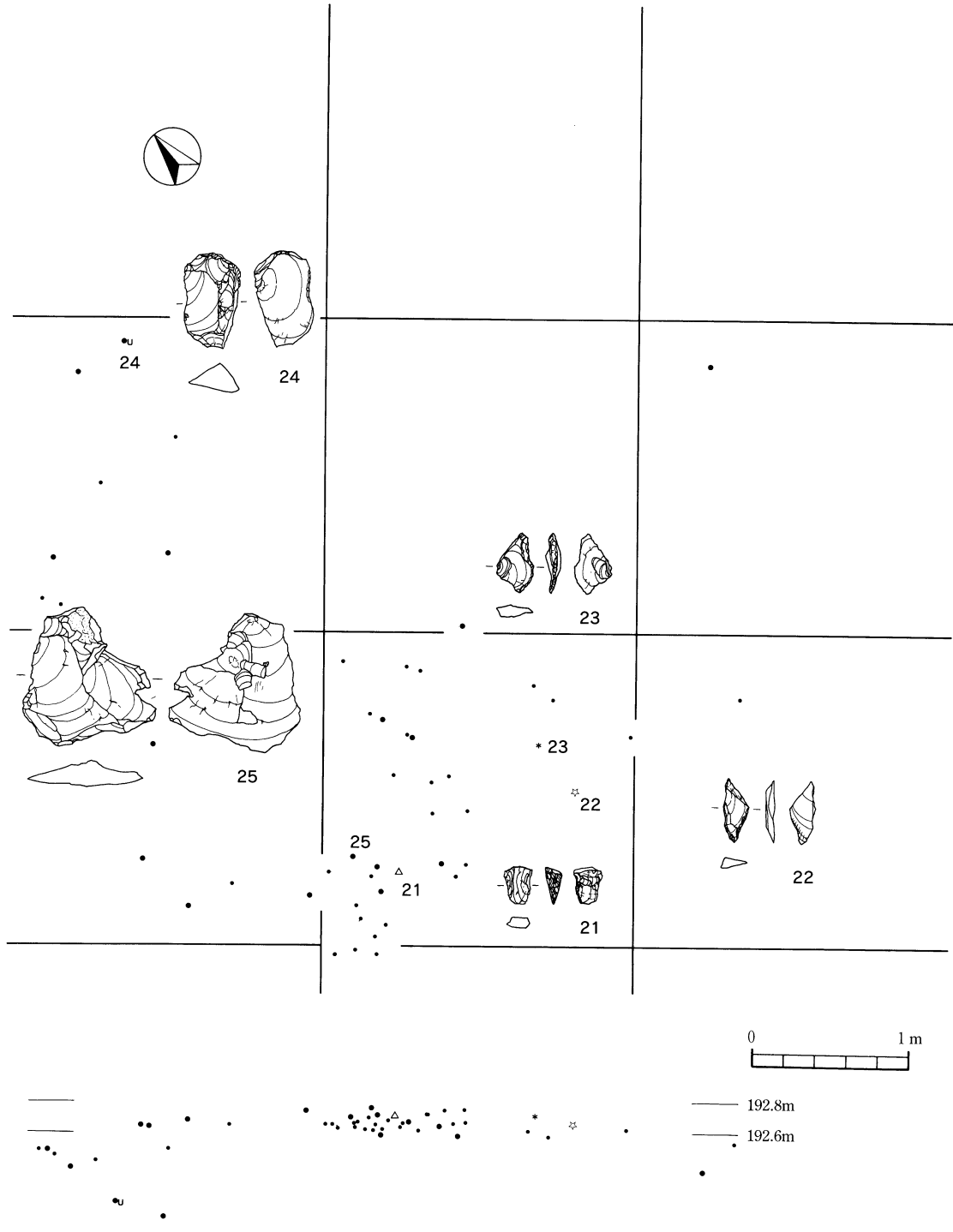
27・28は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。

27は小礫を素材にした小型の細石刃核で、礫の一端を加撃して打面を作り、打面から簡単な整形を行っている。細石刃の剥離面は円周の約半分にあたり、自然面を残し、打面調整は施していない。28は打面からの整形を行い、打面調整は施されていない。

29は三船原産の黒曜石で、頭部と先端部を切断した細石刃である。

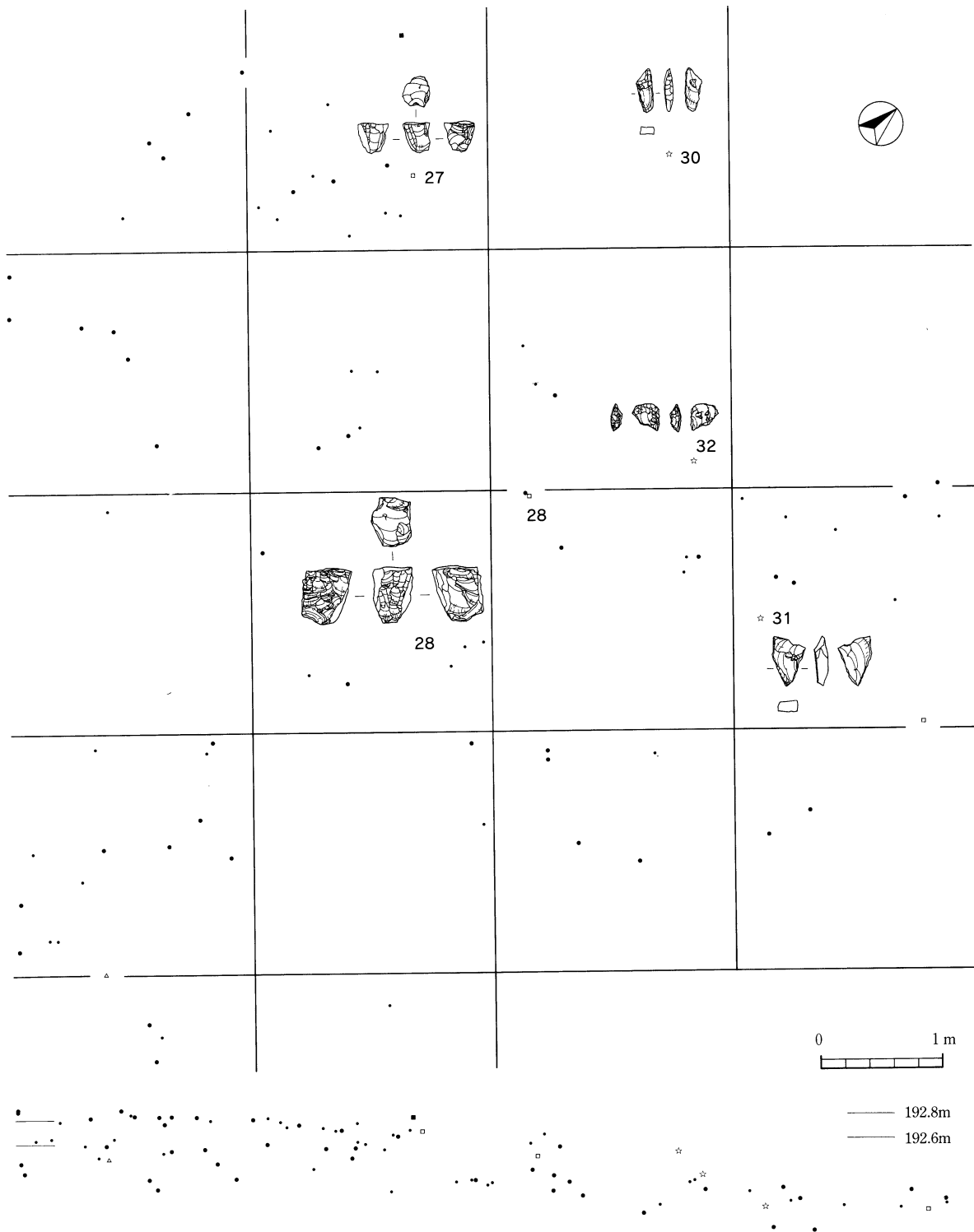
30・31は三船原産の黒曜石の剥片を素材にしたナイフ形石器である。30は縦長剥片を利用し、片側側縁は両方からのブランディングにより丁寧な整形を、基部は片面からのブランディングを施している。腹面のバルブは平坦剥離により除去されている。31は背面・基部とも両面からのブランディングを丁寧に行っている。

32は三船原産の黒曜石剥片を素材にした台形石器である。両側面はブランディングと平坦剥離により整形されている。

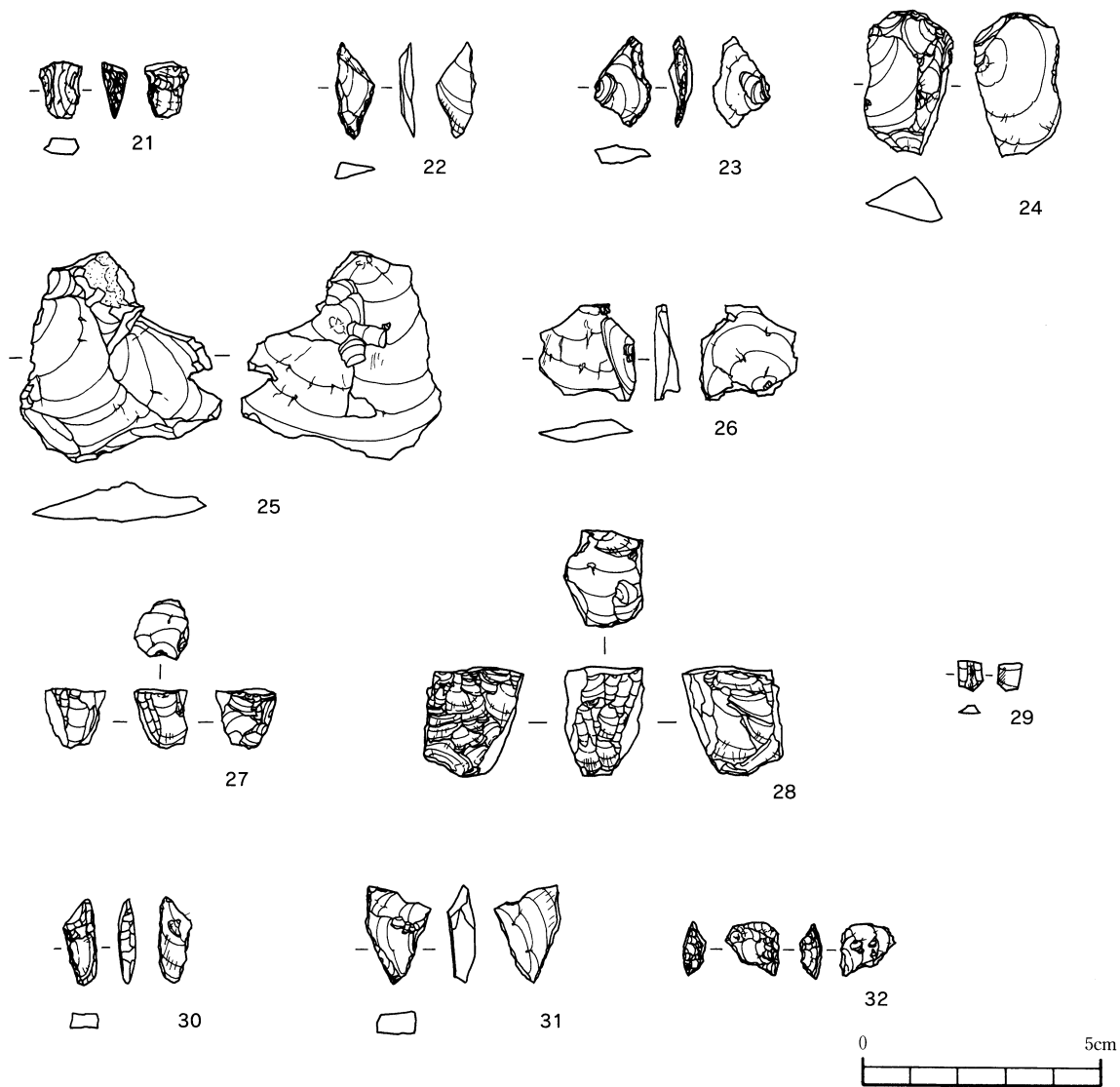


第106図 Iブロック遺物出土状況





第107図 Jブロック遺物出土状況



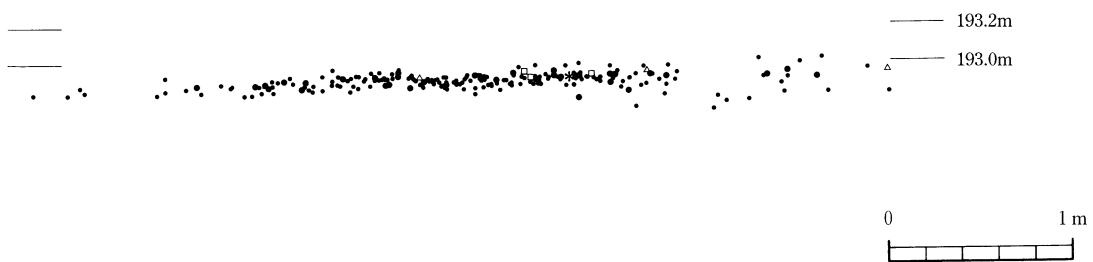
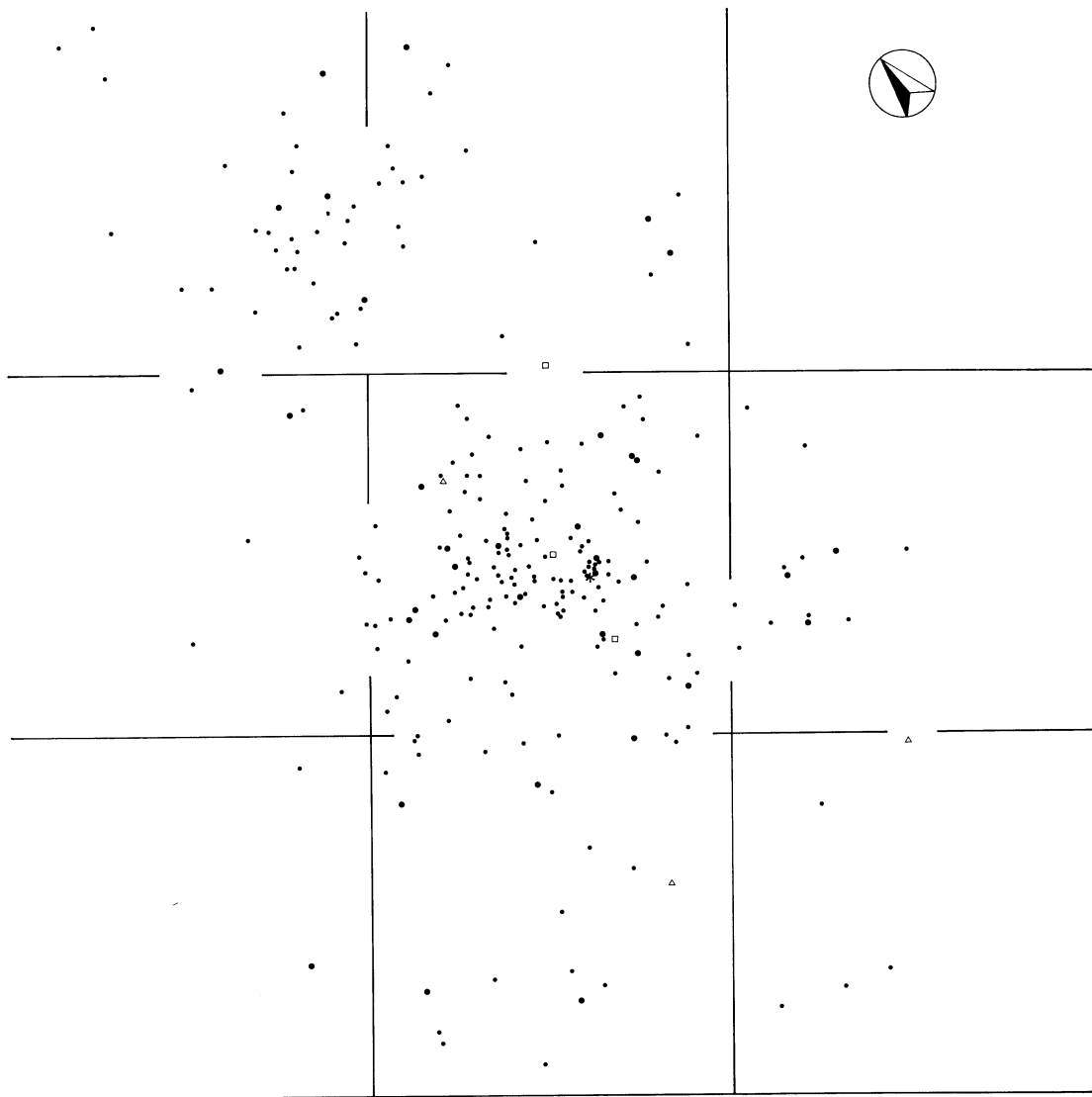
第108図 I・Jブロック出土石器

### Kブロック (第109図)

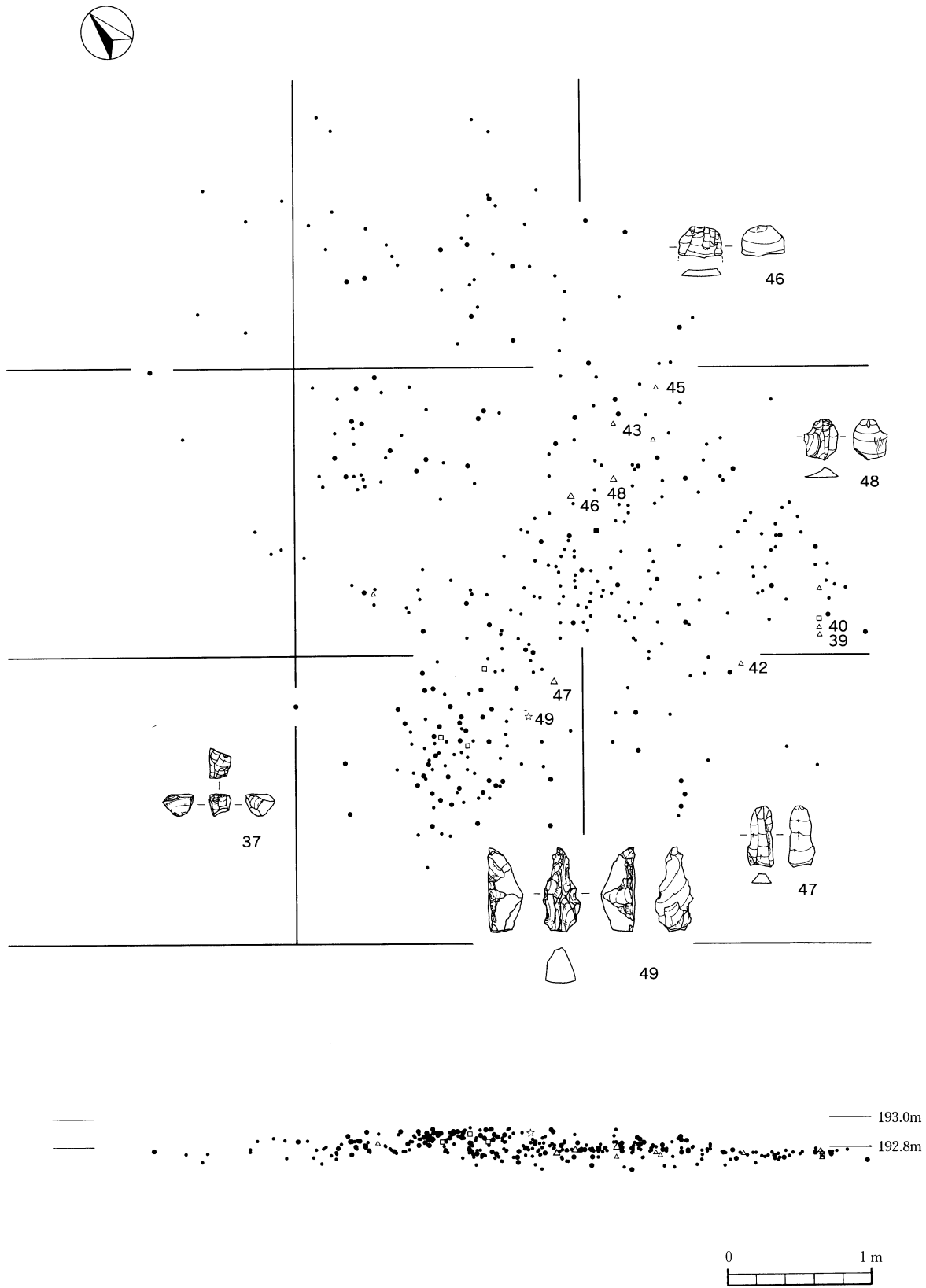
B-5・6区に検出され、6m×4mの長円形の範囲に246点の遺物が出土した。

器種は細石刃3点、土器1点、剥片36点、碎片206点である。

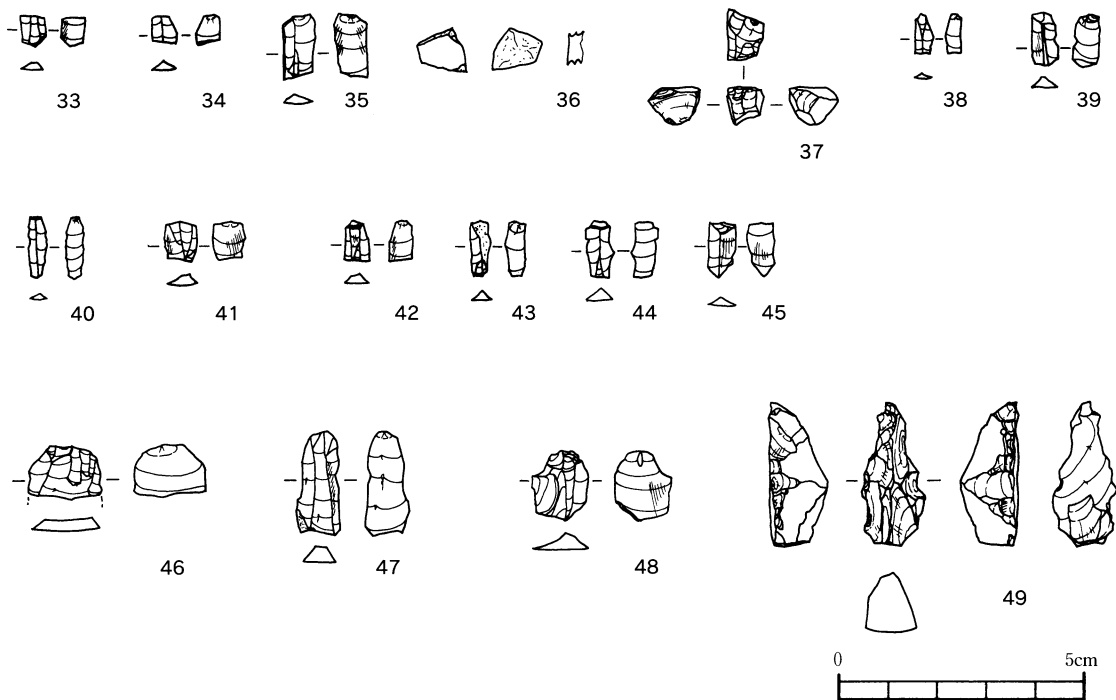
33～35は上半鼻原産の黒曜石を用いた細石刃である。部位はそれぞれ中間部、頭部、頭部・中間部である。36は西ノ原B遺跡で薩摩火山灰下位から出土した唯一の土器片である。表面は暗茶褐色を呈し、貝殻条痕?調整の後丁寧なナデ整形を施したものである。胎土は石英粒を含み、良質である。



第109図 Kブロック遺物出土状況



第110図 Lブロック遺物出土状況



第111図 K・Lブロック出土石器

### Lブロック (第110図)

B・C-5・6区に検出され、6m×4mの長円形の範囲に367点の遺物が出土した。器種は細石刃核1点、細石刃8点、調整剥片3点、三稜尖頭器1点、剥片93点、碎片261点である。

37は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。石核調整は作業面から両側面に簡単に行われている。二面の細石刃剥出があるが、欠損部が多く形態が不明な面も残る。

38～45は細石刃である。石材は上牛鼻原産の2点(40・43)を除いて全て三船原産の黒曜石であり、部位は完形1、頭部・中間部3、中間部1、中間・先端部2、先端部1である。

46～48は調整剥片である。

49は上牛鼻原産の黒曜石で、厚みのある縦長剥片を素材にしている三稜尖頭器である。一面に剥離面をもち、二面に調整剥離のあるもので、先端部は鋭い。

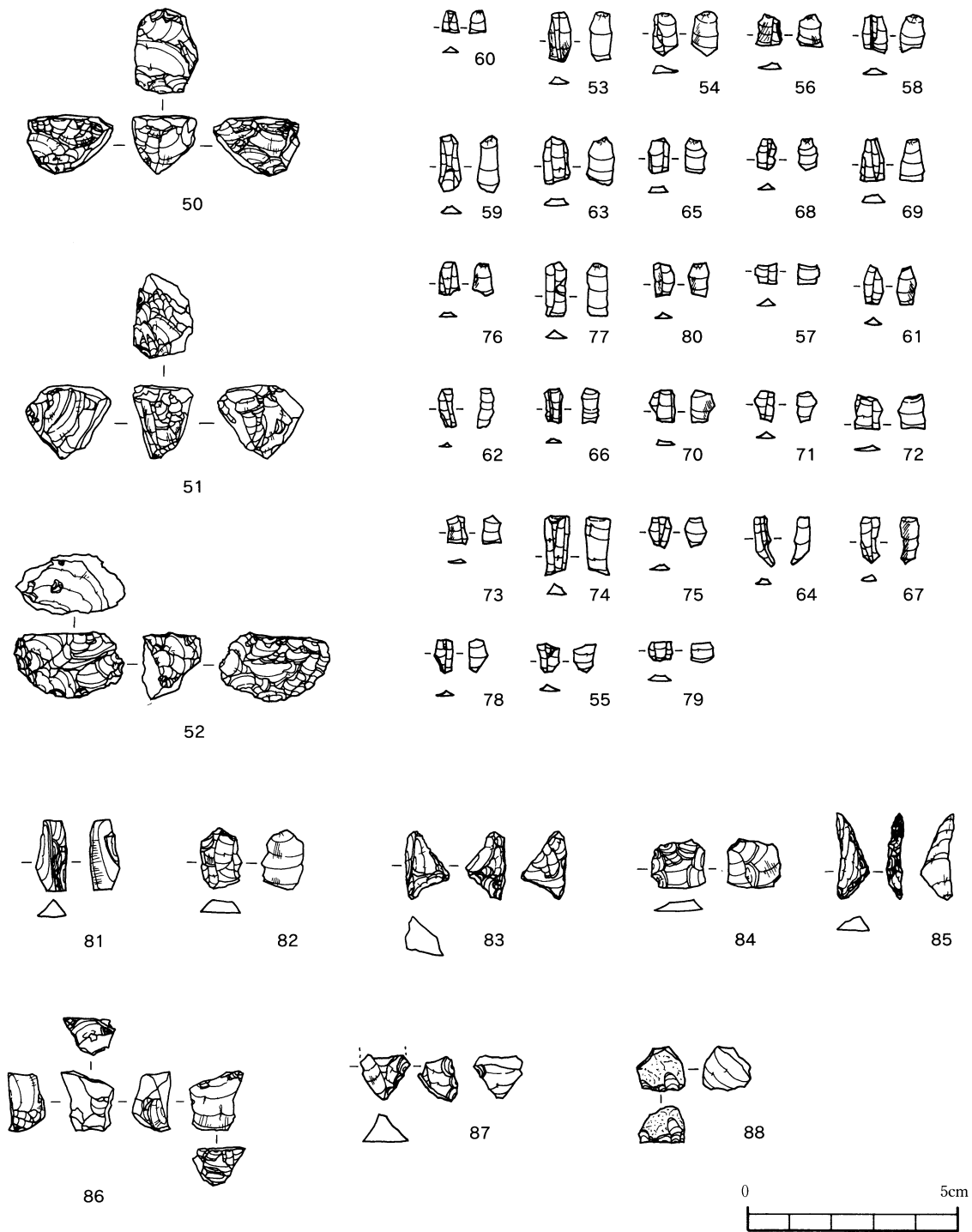
### Mブロック (第112図)

C-5・6区に検出され、6m×3mの長円形の範囲に405点の遺物が出土した。器種は細石刃核2点、ブランク1点、細石刃28点、調整剥片2点、加工痕のある剥片3点、スクレイパー3点、敲石1点、剥片73点、碎片292点である。

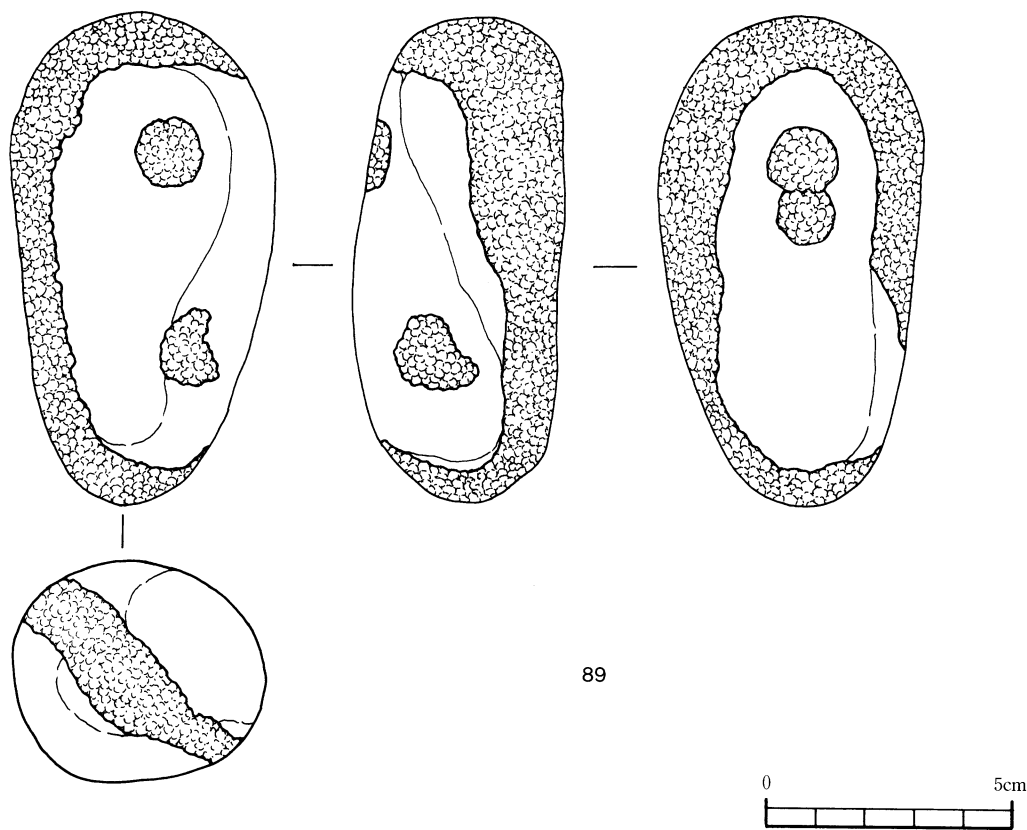
50・51は三船原産の黒曜石を素材にした細石刃核である。50は厚みのある剥片を素材とし、平坦な打面から行われる側面調整が、両側面から行われている。細石刃剥出に先立つて打面調整が施されている。51も50同様な成形を行っている。打面調整は丁寧に行い、下縁部にも調整が施されている。



第112図 Mブロック遺物出土状況



第113図 Mブロック出土石器



第114図 Mブロック出土敲石

52はblankである。厚みのある三船原産の黒曜石を素材にし、打面調整を施しているが石材の質が悪く細石刃剥出がなされなかったものと思われる。

53～80は細石刃であり、石材は黒曜石（三船24，上牛鼻2，腰岳2）である。全て分割されていて、部位は頭部4点，頭・中間部7点，中間部7点，中間・先端部4点，先端部3点である。

81・82は調整剥片である。三船原産の黒曜石を素材に用いたものである。81は剥出面調整剥片で，82は再生調整剥片である。

83～85は三船原産の黒曜石を素材にした加工痕のある剥片である。83は厚みのある剥片を用いたもので，一側縁部にブランディングが施されている。84は縦長剥片を使用し，側縁部に調整剥離を施したものである。85は欠損していて全体が判明しないが，厚みのある側縁部にブランディングが施されている剥片である。

86～88はスクレイパーである。やはり三船産の黒曜石を素材にし，86は厚みのある剥片を使用し，側面にブランディングが施されている。87・88も同様のものである。88は自然面を残している。

89は敲石である。砂岩で長円形の河原石を素材に用いたもので，両端部に敲打痕がみられる。表裏面にも敲打痕が一部みられる。重量は295 gを測る。



ブロック別出土遺物石材

123	黒 曜 石						そ の 他
	三 船	上牛鼻	桑ノ木	腰 岳	針 尾	椎葉川	
A	13	7				1	頁岩 1
B	217	7					
C		9					
D	10	26				15	
E	962	28	1			12	瑪瑙 2, 泥岩 3, 頁岩 1
F	134	1					
G	10	47					瑪瑙 1
H	21	104			1	1	チャート 3 6, 瑪瑙 1
I	28	11					玉髓1,蛋白石2,瑪瑙5,チャート1
J	24	56					瑪瑙11, 玉髓 1, 鉄石英 1
K	21	219	1		1		鉄石英 3
L	208	145	8			4	瑪瑙 2
M	318	59	18	2			姫島 7, 瑪瑙 1, 水晶 1
VIII	5	29					チャート 4, 頁岩 4

第22表 石器器種別一覧表

	MC	ブランク	MB	調整	Blade	三稜	knife	台形	加工	抉入	スクレー	使用痕	Core	Flake	chip	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
A													2	8	11	
B			1								1			35	187	
C														5	4	
D	1		2											14	34	
E								2	3		3	1		172	826	
F									1					19	115	
G														16	42	
H	1						1		2	1				75	84	
I				1			1				1	1		14	30	
J	2		1				2	1						40	37	
K			3											36	206	
L	1		8	2	1	1								93	261	
M	2	1	28	2					3		3			73	292	敲石 1
計	7	1	43	5	1	1	4	3	9	1	8	2	2	600	2129	2819
VIII								1						26	15	42

2861 点

第23表 石器分類表(1)

番号	器種	石材	区	層	最大長	最大幅	厚さ	重量	備考	ブロッカ	注記番号
1	細石刃	黒曜石上牛鼻	B 2	VII	0.6	0.3	0.1		中・先端部	B	1981
2	Scraper	黒曜石上牛鼻	A 2	VII	1.8	1.4	0.8	1.0		B	2005
3	細石刃核	黒曜石三船	A 3	VIIa	2.1	1.7	1.5	4.4		D	745
4	細石刃	黒曜石椎葉川	A 3	VIIa	0.6	0.7	0.2		頭部	D	230
5	細石刃	黒曜石椎葉川	A 4	VIIa	0.6	0.6	0.1		中間部	D	740
6	台形石器	黒曜石三船	A 4	VII	3.2	2.7	0.9	3.8		E	1881
7	台形石器	黒曜石三船	A 4	VIIb	1.7	1.3	0.5	0.8		E	2727
8	加工痕剥片	黒曜石三船	A 4	VIIa	1.8	1.2	0.5	0.9		E	98
9	加工痕剥片	黒曜石三船	A 4	VIIb	4.5	2.6	1.6	18.4		E	2676
10	加工痕剥片	黒曜石三船	A 4	VIIb	2.8	1.6	0.7	2.6		E	2901
11	Scraper	黒曜石三船	A 4	VIIa	2.8	1.8	0.9	4.0		E	111
12	Scraper	黒曜石三船	A 4	VIIb	3.2	3.1	1.2	12.1		E	2687
13	Scraper	黒曜石三船	A 4	VIIb	2.4	2.0	0.8	2.2		E	2912
14	使用痕剥片	黒曜石三船	A 4	VII	1.6	1.1	0.3	0.5		E	1916
15	加工痕剥片	黒曜石上牛鼻	A 4	VIIa	2.4	1.5	0.5	0.6		F	969
16	細石刃核	黒曜石針尾	B 5	VIIa	3.0	1.6	1.3	7.8		H	369
17	ナイフ形石器	黒曜石三船	A 5	VIIa	1.6	0.8	0.4	0.4		H	36
18	加工痕剥片	黒曜石上牛鼻	B 3	VII	2.3	1.6	1.0	3.0		H	2014
19	加工痕剥片	黒曜石三船	A 5	VII						H	2069
20	抉入石器	黒曜石上牛鼻	A 4	VII	4.2	2.7	0.8	8.1		H	2034
21	調整剥片	黒曜石三船	B 5	VIIa	1.2	0.9	0.5	0.5		I	27
22	ナイフ形石器	瑪瑙	B 5	VIIb	1.9	0.8	0.3	0.4		I	11
23	Scraper	瑪瑙	B 5	VIIa	1.2	1.5	0.5	0.6		I	12
24	使用痕剥片	瑪瑙	A 5	VIIb	3.1	1.8	0.9	4.4		I	2073
25	剥片	黒曜石上牛鼻	B 5	VIIa	4.8	4.0	1.1	14.0		I	30
26	剥片	ハリ算安山岩	B 5	VIIa	2.1	2.4	0.5	1.7		I	8
27	細石刃核	黒曜石三船	B 5	VII	1.4	1.0	1.3	1.7		J	677
28	細石刃核	黒曜石三船	B 5	VII	2.4	1.9	1.6	8.8		J	716
29	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIb	0.6	0.5	0.2		中間部	J	2083
30	ナイフ形石器	黒曜石三船	B 5	VIIa	1.8	0.7	0.4	0.4		J	336
31	ナイフ形石器	黒曜石三船	B 5	VII	2.1	1.4	0.5	1.2		J	700
32	台形石器	黒曜石三船	B 5	VII	1.2	0.9	0.5	0.5		J	715
33	細石刃	黒曜石上牛鼻	B 6	VIIa	0.4	0.3	0.1		中間部	K	400
34	細石刃	黒曜石上牛鼻	B 6	VIIa	0.4	0.5	0.2		頭部	K	504
35	細石刃	黒曜石上牛鼻	B 6	VIIa	1.2	0.6	0.2		頭・中間部	K	777
36	土器片		B 6	VIIa						K	427
37	細石刃核	黒曜石三船	B 6	VIIa	1.1	0.8	0.8			L	910
38	細石刃	黒曜石三船	B 6	VIIa	0.8	0.3	0.1		中間部	L	888
39	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.1	0.5	0.2	0.5	頭・中間部	L	1180
40	細石刃	黒曜石上牛鼻	C 6	VIIa	0.7	0.4	0.1		先端部	L	1325
41	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIb	0.8	0.7	0.2		頭部	L	1326
42	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.8	0.5	0.2		頭・中間部	L	1333
43	細石刃	黒曜石上牛鼻	C 6	VIIa	1.1	0.4	0.2		完形	L	1352
44	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.2	0.4	0.2		頭・中間部	L	1353
45	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.2	0.6	0.2		中・先端部	L	1355
46	調整剥片	黒曜石三船	B 6	VIIa	1.5	1.1	0.3	0.5		L	1470
47	調整剥片	黒曜石椎葉川	B 6	VIIb	2.1	0.9	0.4	0.7		L	3137
48	石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.4	1.1	0.4	1.6		L	1158
49	三稜尖頭器	黒曜石上牛鼻	B 6	VIIa	2.9	1.3	1.2	3.4		L	297
50	細石刃核	黒曜石三船	C 6	VIIa	2.0	1.5	1.4	4.1		M	1216

第24表 石器分類表 (2)

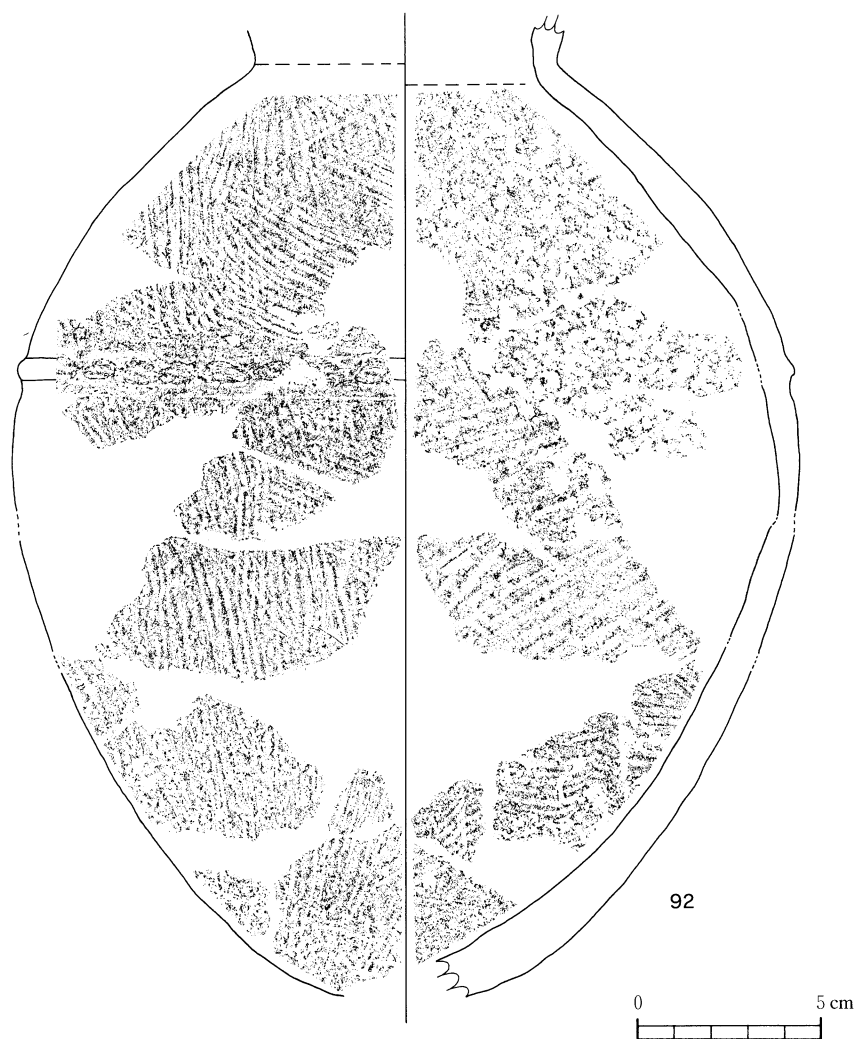
51	細石刃核	黒曜石三船	C 6	VII	1.9	1.4	1.8	4.6		M	1733
52	ブランク	黒曜石三船	C 6	VIIb	2.7	1.9	1.4	5.7		M	3147
53	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.2	0.6	0.2		頭・中間部	M	1200
54	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.0	0.6	0.1	0.5	頭・中間部	M	1202
55	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.6	0.5	0.2		先端部	M	1206
56	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.7	0.6	0.2		頭・中間部	M	1227
57	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.5	0.5	0.2		頭部	M	1233
58	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.9	0.6	0.2		頭・中間部	M	1361
59	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.3	0.5	0.2		頭・中間部	M	1362
60	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	0.5	0.4	0.2		頭部	M	1372
61	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.8	0.5	0.1		中間部	M	1383
62	細石刃	黒曜石上牛鼻	C 6	VII	0.9	0.3	0.1		中間部	M	1679
63	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	1.1	0.6	0.2		頭・中間部	M	1692
64	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	1.2	0.4	0.1		中・先端部	M	1695
65	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	0.8	0.5	0.2		頭・中間部	M	1713
66	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	0.8	0.4	0.1		中間部	M	1717
67	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	1.1	0.5	0.2		中・先端部	M	1741
68	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	0.7	0.4	0.2		頭部	M	1744
69	細石刃	黒曜石三船	C 6	VII	1.0	0.5	0.2		頭・中間部	M	1750
70	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIb	0.7	0.6	0.1		中間部	M	2134
71	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIb	0.7	0.4	0.1		先端部	M	2153
72	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIb	0.7	0.6	0.1		頭部	M	2181
73	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIb	0.7	0.5	0.1		中間部	M	2189
74	細石刃	黒曜石上牛鼻	C 6	VIIb	1.4	0.6	0.3		中間部	M	2191
75	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.7	0.5	0.2		先端部	M	2449
76	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.8	0.5	0.1		頭・中間部	M	2451
77	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.3	0.5	0.2		頭・中間部	M	2456
78	細石刃	黒曜石三船	C 6	VIIa	0.8	0.4	0.1		中・先端部	M	2472
79	細石刃	黒曜石腰岳	C 6	VIIa	0.5	0.5	0.1		中間部	M	2777
80	細石刃	黒曜石腰岳	C 6	VIIb	0.8	0.5	0.2		頭・中間部	M	3156
81	調整剥片	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.7	0.7	0.5			M	1201
82	調整剥片	黒曜石三船	C 6	VIIb	1.4	1.0	0.4	0.4		M	2126
83	加工痕剥片	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.6	1.3	1.0	1.1		M	1320
84	加工痕剥片	黒曜石三船	C 6	VIIa	1.1	1.2	0.3			M	1369
85	加工痕剥片	黒曜石三船	C 6	VIIb	2.1	0.9	0.4	0.3		M	2199
86	Scraper	黒曜石三船	C 6	VIIb	1.4	1.2	0.8	1.2		M	2188
87	Scraper	黒曜石三船	C 6	VIIb	1.3	1.2	0.7	0.6		M	2131
88	Scraper	黒曜石三船	C 6	VIIb	1.3	1.1	0.8	0.8		M	2195
89	敲石	砂岩	C 6	VIIb	10.2	5.2	4.3	295		M	2150
90	Scraper	黒曜石三船	A 4	落込	1.8	1.7	1.0	1.5		X	727
91	台形石器	チャート	A 4	VIIb	1.0	0.8	0.3	0.3		VIII	2386

### 第3節 古墳時代

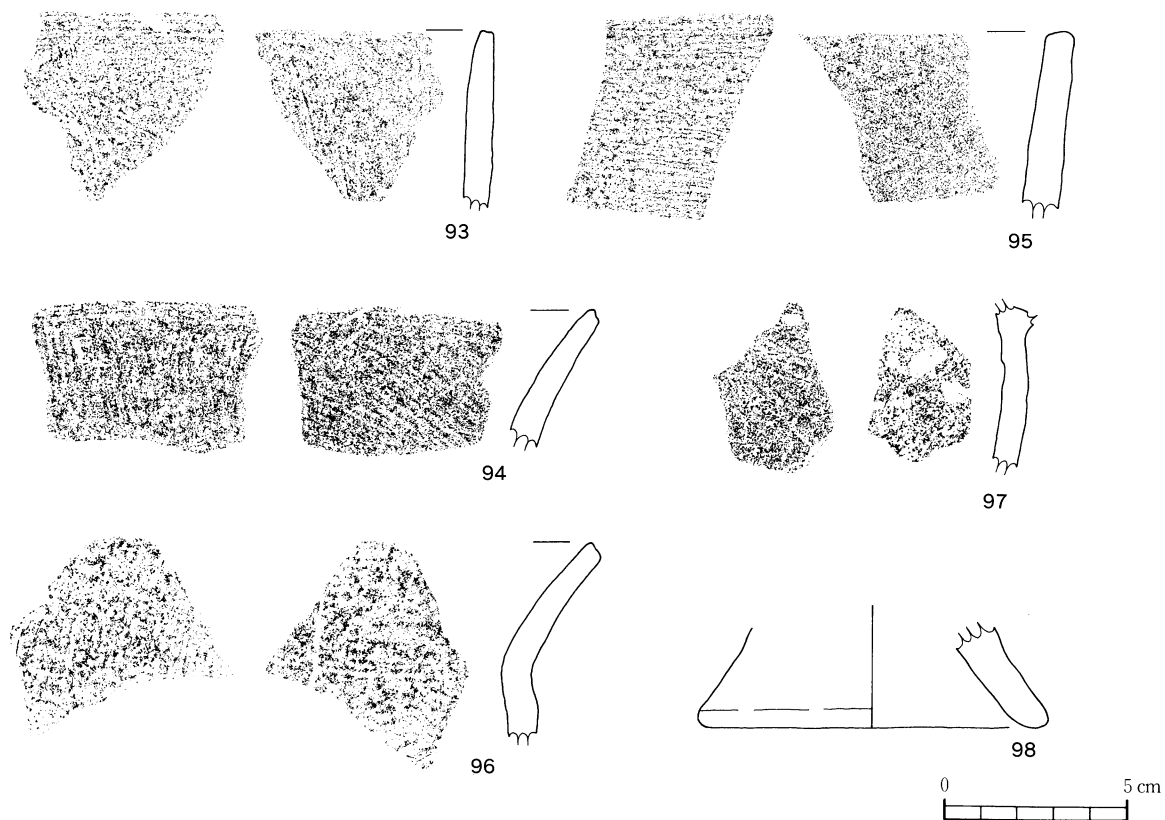
#### 1 遺物

92～98は成川式土器である。92が壺形土器，93～98は甕形土器と思われる。

92は外面赤褐色で，割合に細かい刷毛目を縦および斜め方向にやや荒く施している。頸部はシャープに口縁部へとつながっており，頸部から口縁上面にかけて刷毛目を上方に掻き上げている。胴部の最大径の上部には幅6mm程度の突帯を巡らし，割合に幅の狭い棒状の施文具で浅い刻みを付している。突帯の上下両側は横方向のナデ調整が行われている。煤の付着もみられることから，煮炊きにも使用したと考えられる。内面も色調は赤褐色であるが，調整は全体的に粗雑である。突帯付近は斜め方向の刷毛目がみられるが，頸部にかけては指頭によると思われるやや粗い調整がみられるのみである。胎土には極めて粗い砂粒を多く含んでおり，そのことも内面が粗く調整されている印象を強くしている。焼成は良好であるが，断面は黒褐色をしている。器形は卵形に近く，底部は丸底または丸底に近い平底と考えられる。



第115図 古墳時代出土土器（1）



第116図 古墳時代出土土器（2）

93～96は口縁部である。95は外面淡黄色，それ以外は赤褐色である。93と95は口縁が若干外反するもののほぼ直口し，調整は外面横方向，内面は縦方向の刷毛目を主としており，非常に丁寧である。それに対し，94と96は外反する器形で，調整は外面はいずれも頸部から跳ね上げているが，内面は淡黄色で剥離痕がみられる。

97は胴部付近と思われるものの破片であるが，幅10mm程の突帯が付く。外面は濁った淡黄色，内面は淡黄色で剥離痕がみられる。

98は上げ底の底部の脚部である。外面赤褐色で横方向のナデ調整，内面は淡黄色で縦方向のナデ調整が施されている。

#### 第4節 まとめ

西ノ原B遺跡では、旧石器時代ナイフ形石器文化から細石刃文化と古墳時代の遺物が出土した。特に旧石器時代の遺物は大量に出土した。ブロックごとに若干まとめてみたい。

##### 旧石器時代

約1300m<sup>2</sup>の範囲に礫群1基と14ヶ所のブロックが検出され、遺物2861点が出土した。礫群はⅦ層から検出され、ブロックはⅧ層が1ヶ所、Ⅶ層が13ヶ所検出された。

石器は、細石刃核7、ブランク1、細石刃43、調整剥片5、三稜尖頭器1、ナイフ形石器4、台形石器4、加工痕のある剥片9、スクレイパー8、剥片600、碎片2129点であった。

石材は、黒曜石・瑪瑙・砂岩・チャートなどであり、黒曜石は肉眼的観察により、県内産の三船、上牛鼻・平木場、桑ノ木津留が、また、県外の椎葉川、針尾、腰岳、姫島などが出土した。姫島の黒曜石は肉眼的観察により区別したが、科学的測定による同定の必要がある。以下、ブロック別にまとめてみたい。

##### Aブロック

B-1・2区の約30m<sup>2</sup>の範囲に21点が散在して検出された。石器は、石核・剥片・碎片が出土している。石材は頁岩1と黒曜石は三船・上牛鼻産であった。

##### Bブロック

B-2区の約10m<sup>2</sup>の範囲に224点が集中して検出された。石器は、細石刃・スクレイパー・剥片・碎片が出土している。黒曜石は三船産が主である。

##### Cブロック

B-2区の約2m<sup>2</sup>の範囲に9点が点在して検出された。石器は、剥片と碎片である。上牛鼻産の黒曜石だけであった。

##### Dブロック

B-2・3区の約35m<sup>2</sup>の範囲に51点が点在して検出された。石器は、細石刃核・細石刃・剥片・碎片が出土している。三船・上牛鼻産と椎葉川産の黒曜石であった。

##### Eブロック

A・B-3区の約24m<sup>2</sup>の範囲に1007点が集中して検出された。石器は、台形石器・加工痕のある剥片・スクレイパー・使用痕のある剥片・剥片・碎片が出土した。三船産の黒曜石が主であったが、瑪瑙・泥岩・頁岩もみられた。

##### Fブロック

A-2区の約4m<sup>2</sup>の範囲に135点が集中して検出された。石器は、加工痕のある剥片・剥片・碎片が出土している。黒曜石は三船産が主であった。

##### Gブロック

B-3区の約25m<sup>2</sup>の範囲に58点が点在して検出された。石器は、剥片・碎片が出土している。黒曜石は上牛鼻産が主で三船産もみられた。

##### Hブロック

A・B-4区の約20m<sup>2</sup>の範囲に164点が点在して検出された。石器は、細石刃核・ナイフ形石器・加工痕のある剥片・剥片・碎片が出土している。黒曜石は上牛鼻が主であるが、チャートも36点ほど出土した。

##### Iブロック

B-4・5区の約15m<sup>2</sup>の範囲に48点が点在して検出された。石器は、調整剥片・ナイフ形石

器・スクレイパー・使用痕のある剥片・剥片・碎片が出土している。黒曜石は三船・上牛鼻産であるが玉髓・蛋白石・瑪瑙・チャートもみられた。

#### Jブロック

B-5区の約60m<sup>2</sup>の範囲に83点が点在して検出された。石器は、細石刃核・細石刃・ナイフ形石器・台形石器・剥片・碎片が出土している。黒曜石は上牛鼻産が多く、三船産もある。また、瑪瑙・玉髓・鉄石栄もみられた。

#### Kブロック

B-5・6区の約25m<sup>2</sup>の範囲に246点が集中して検出された。石器は、細石刃・剥片・碎片と土器が出土している。黒曜石は上牛鼻産が主であった。鉄石栄もみられた。

#### Lブロック

B・C-5・6区の約25m<sup>2</sup>の範囲に367点が集中して検出された。石器は、細石刃核・細石刃・調整剥片・三稜尖頭器・剥片・碎片が出土している。黒曜石は三船・上牛鼻産が主で、瑪瑙もみられた。

#### Mブロック

C-5・6区の約18m<sup>2</sup>の範囲に405点が集中して検出された。石器は、細石刃核・ブランク・細石刃・加工痕のある剥片・スクレイパー・敲石・剥片・碎片が出土している。黒曜石は三船産が主であるが、姫島産の黒曜石もみられた。瑪瑙・水晶もみられた。

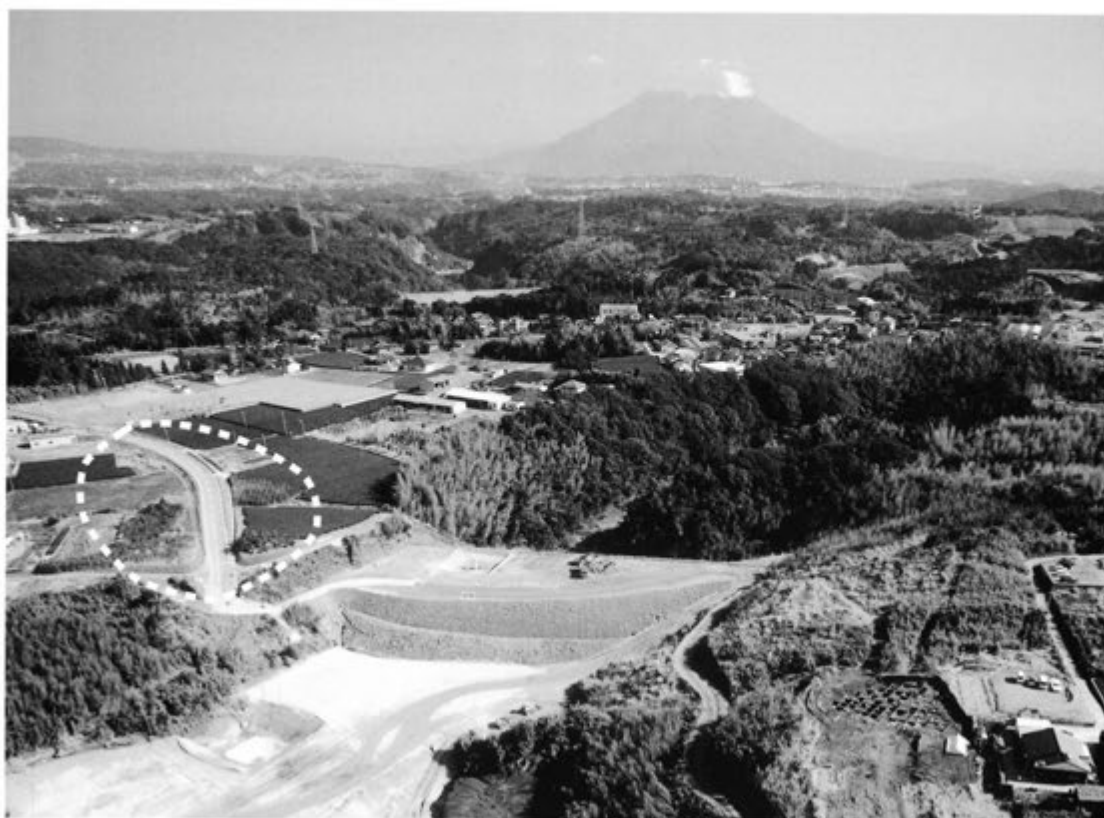
#### VIIIブロック

A・B-4・5区の約10m<sup>2</sup>の範囲に42点が点在して検出された。石器は台形石器・剥片・碎片である。黒曜石は上牛鼻が主で、チャート・頁岩も出土した。

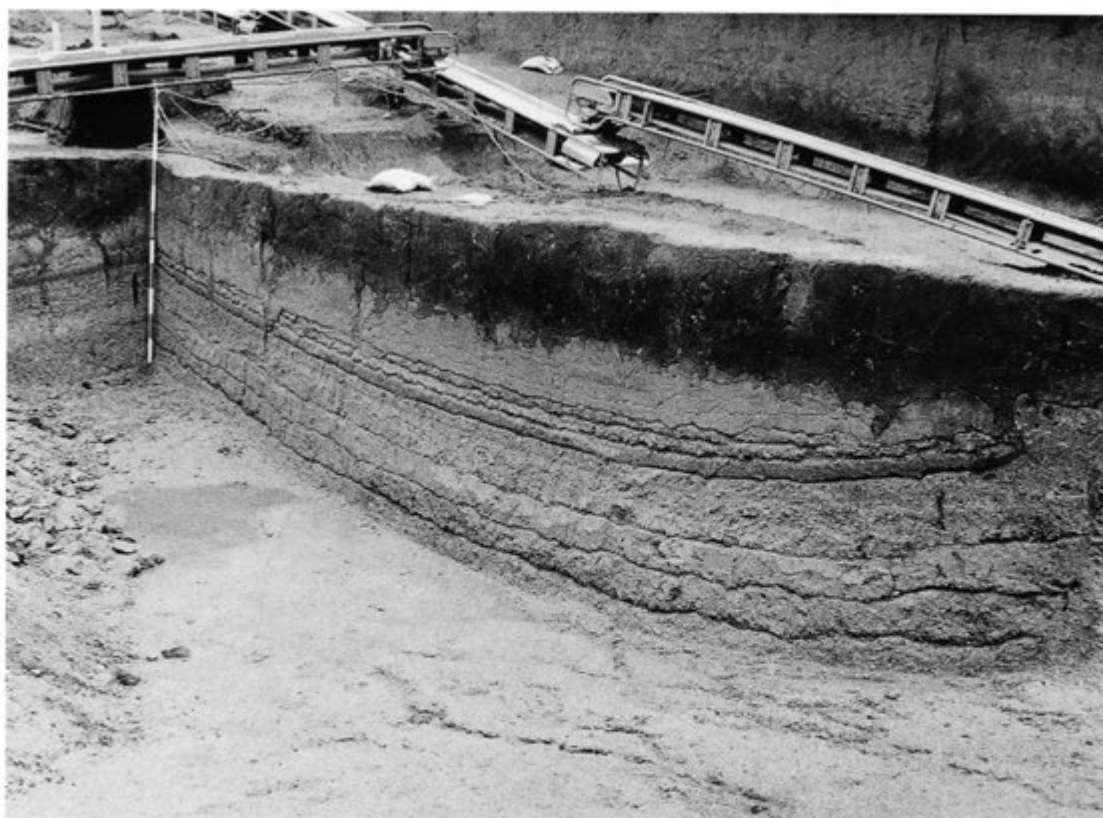
以上の成果から、ブロックにより特徴がみられることが判明した。細石刃を伴うブロック (B・D・H・J・K・L・M) と細石刃を伴わないブロック (A・C・E・F・G・VIII層)、細石刃とナイフ形石器が共伴するブロック (H・J) に分類できる。



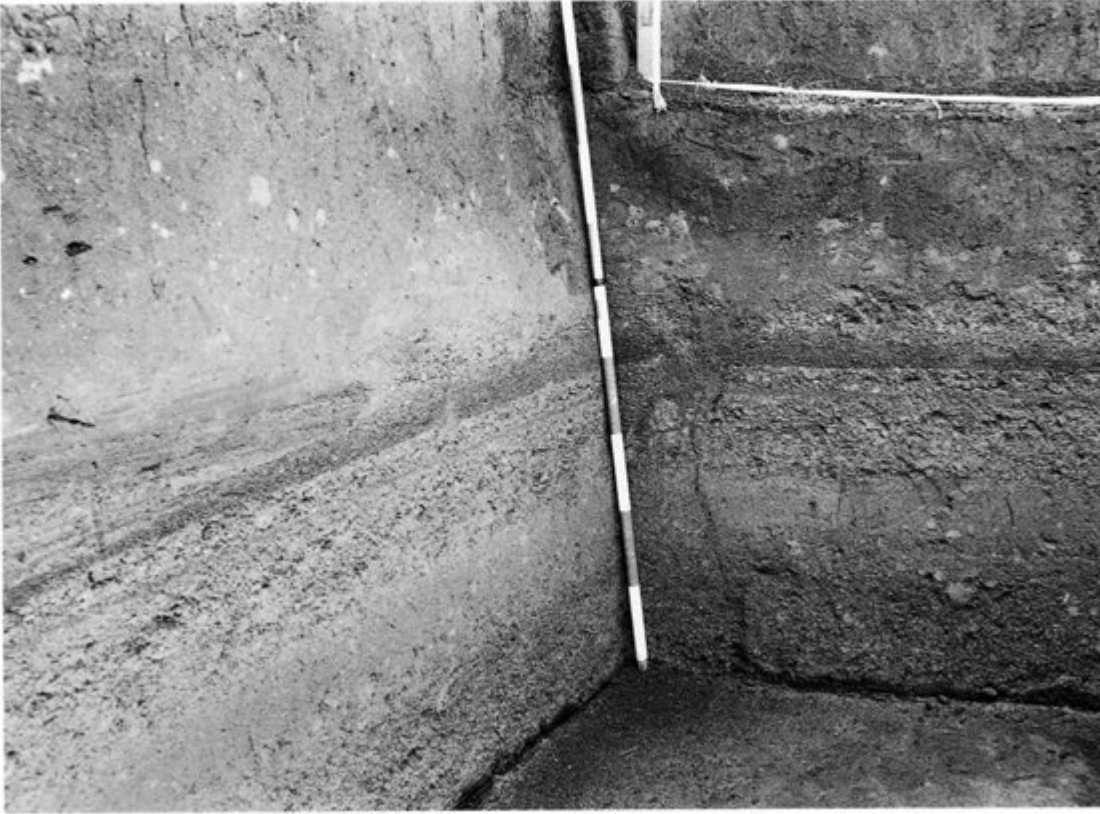
# 版 圖



栢堀遺跡遠景



土層（薩摩火山灰）



土層



遺物出土状況（旧石器時代）



遺物出土状況（旧石器時代）



集石1号



集石 2号



集石 3号



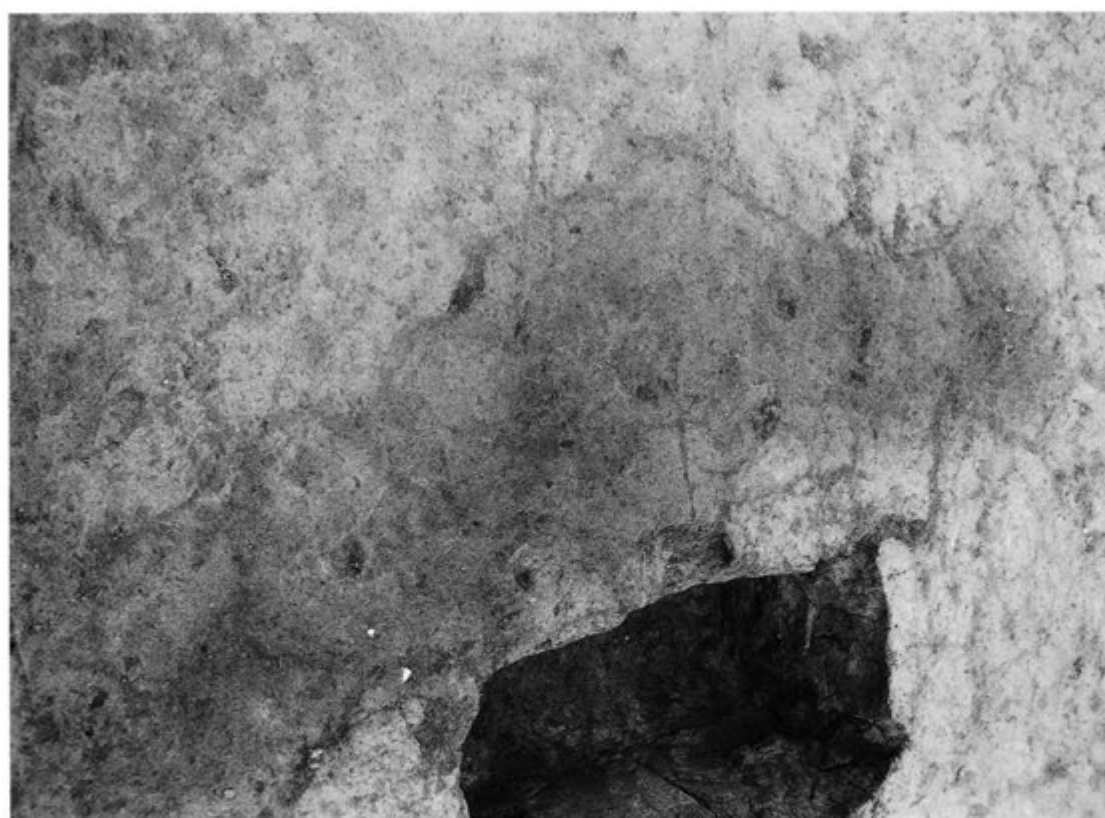
集石5号



土坑群完掘状况



土坑 1



土坑 2 検出状況

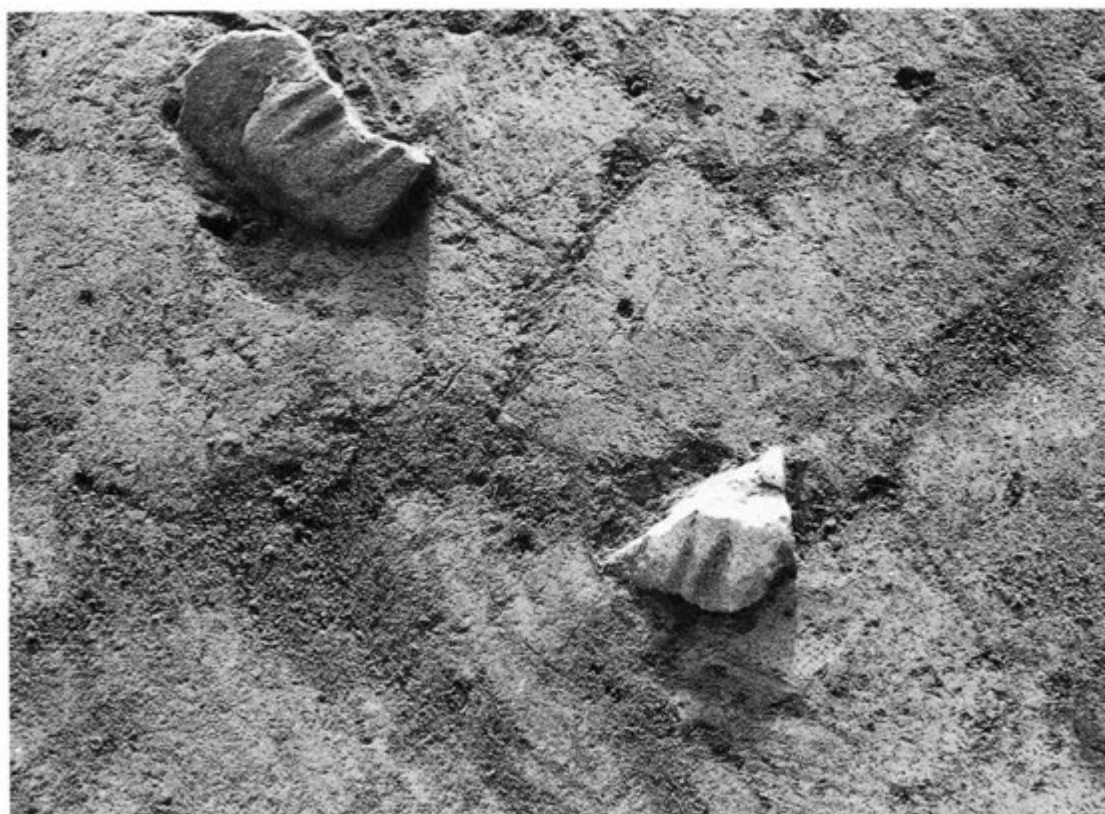


溝状遺構検出状況



溝状遺構





砥石出土状况



石匙出土状况



石槨出土状況



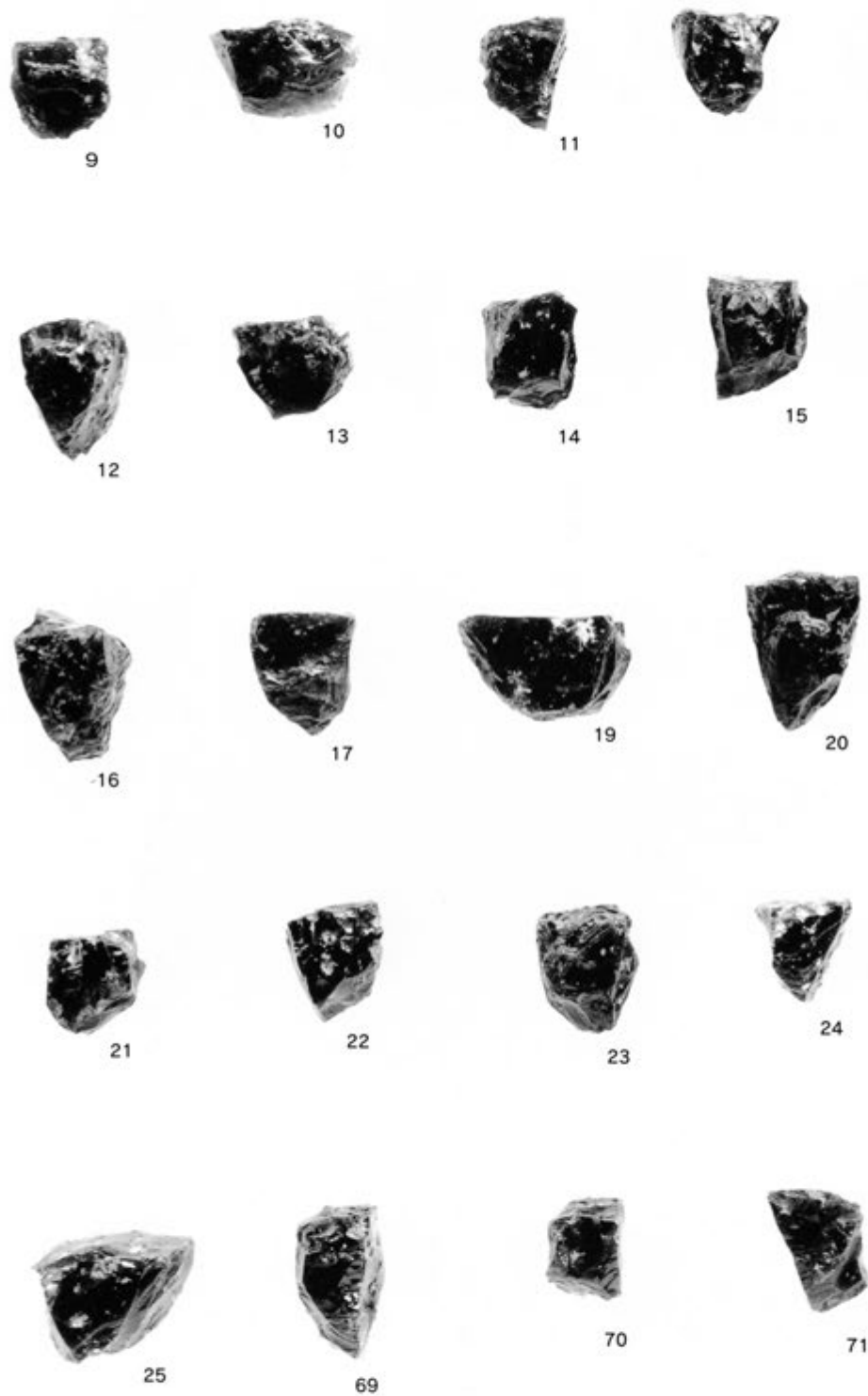
確認調査発掘風景



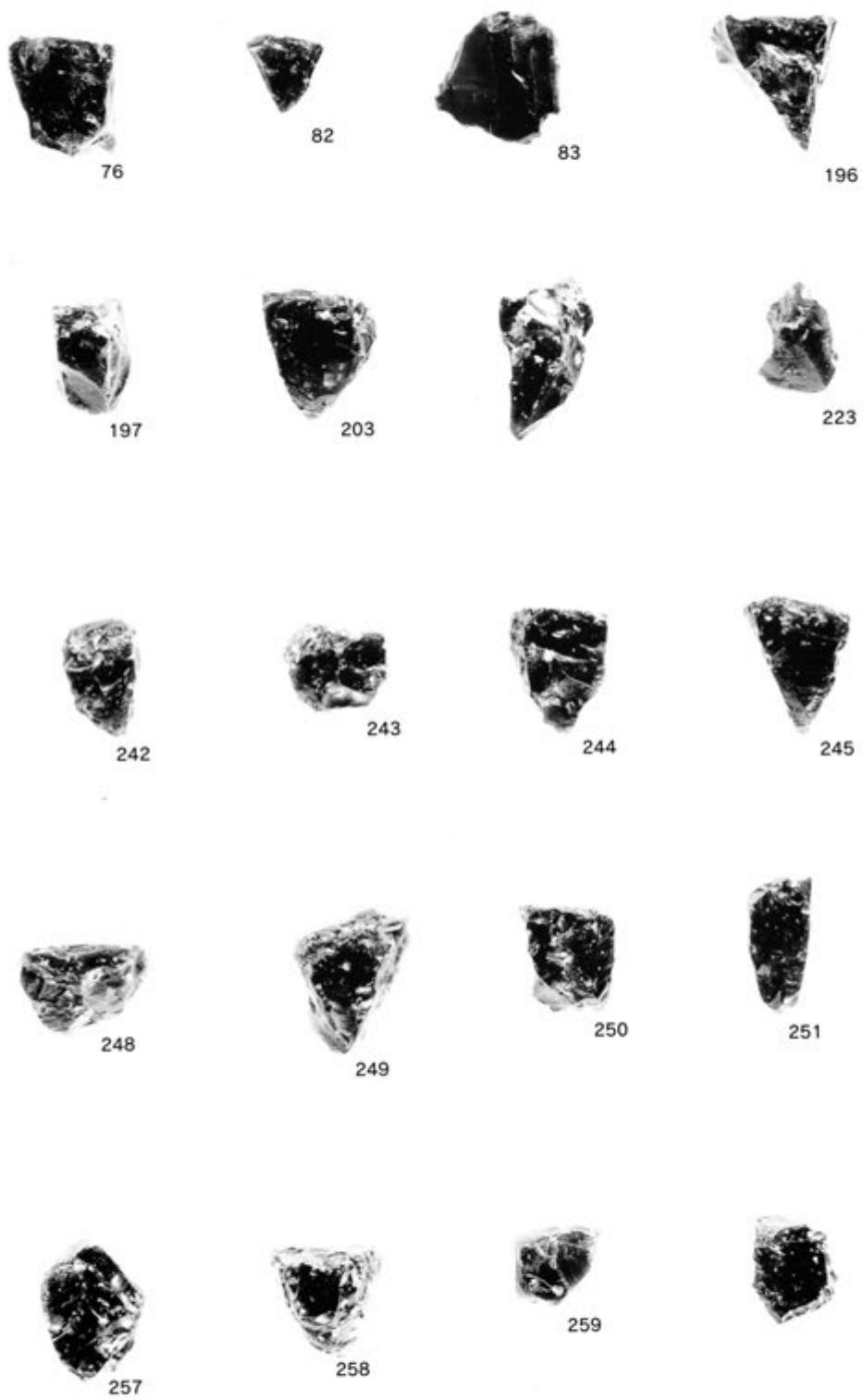
旧石器発掘風景



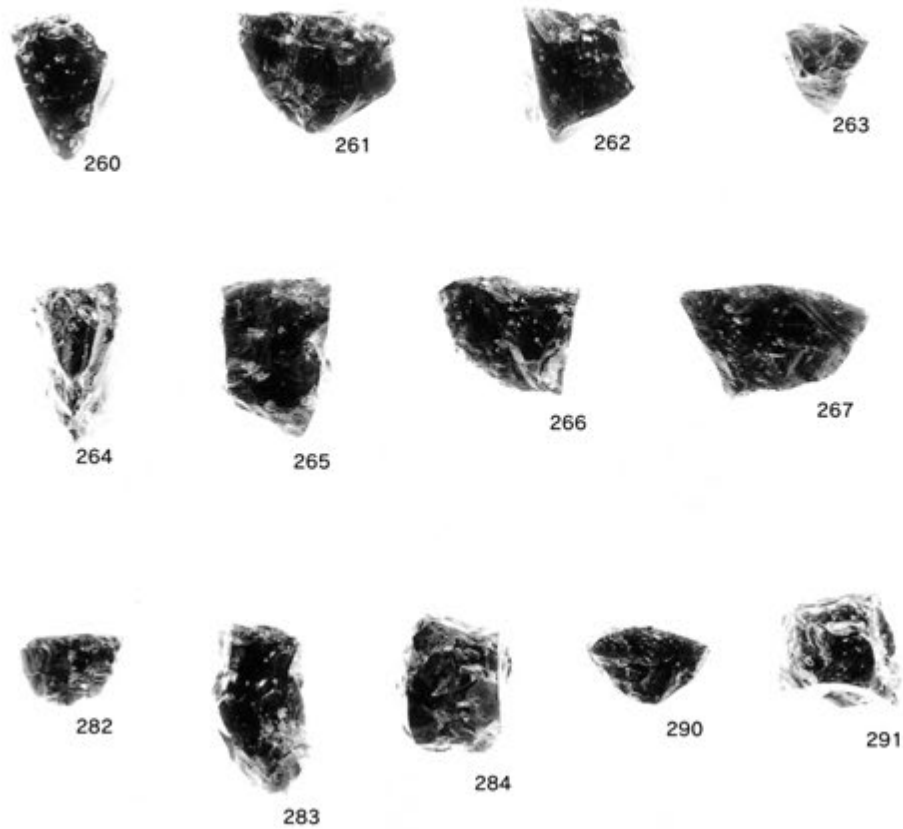
発掘風景



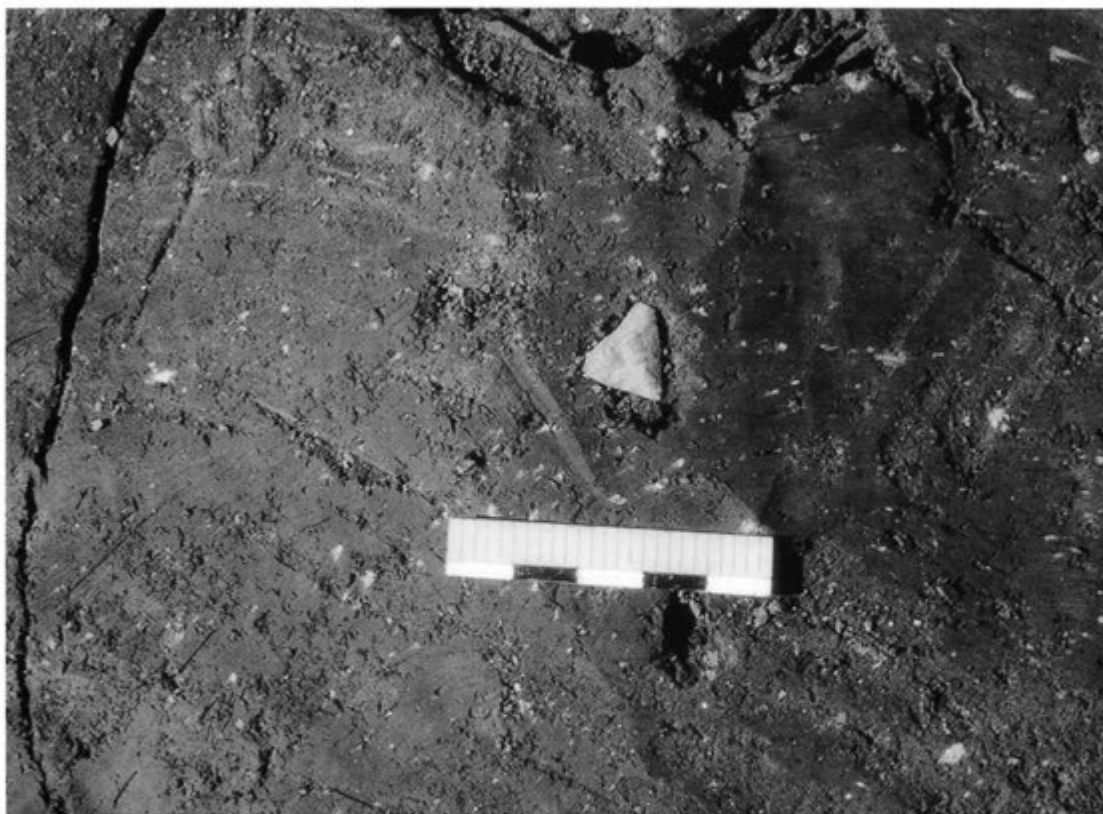
旧石器（1） 細石刃核



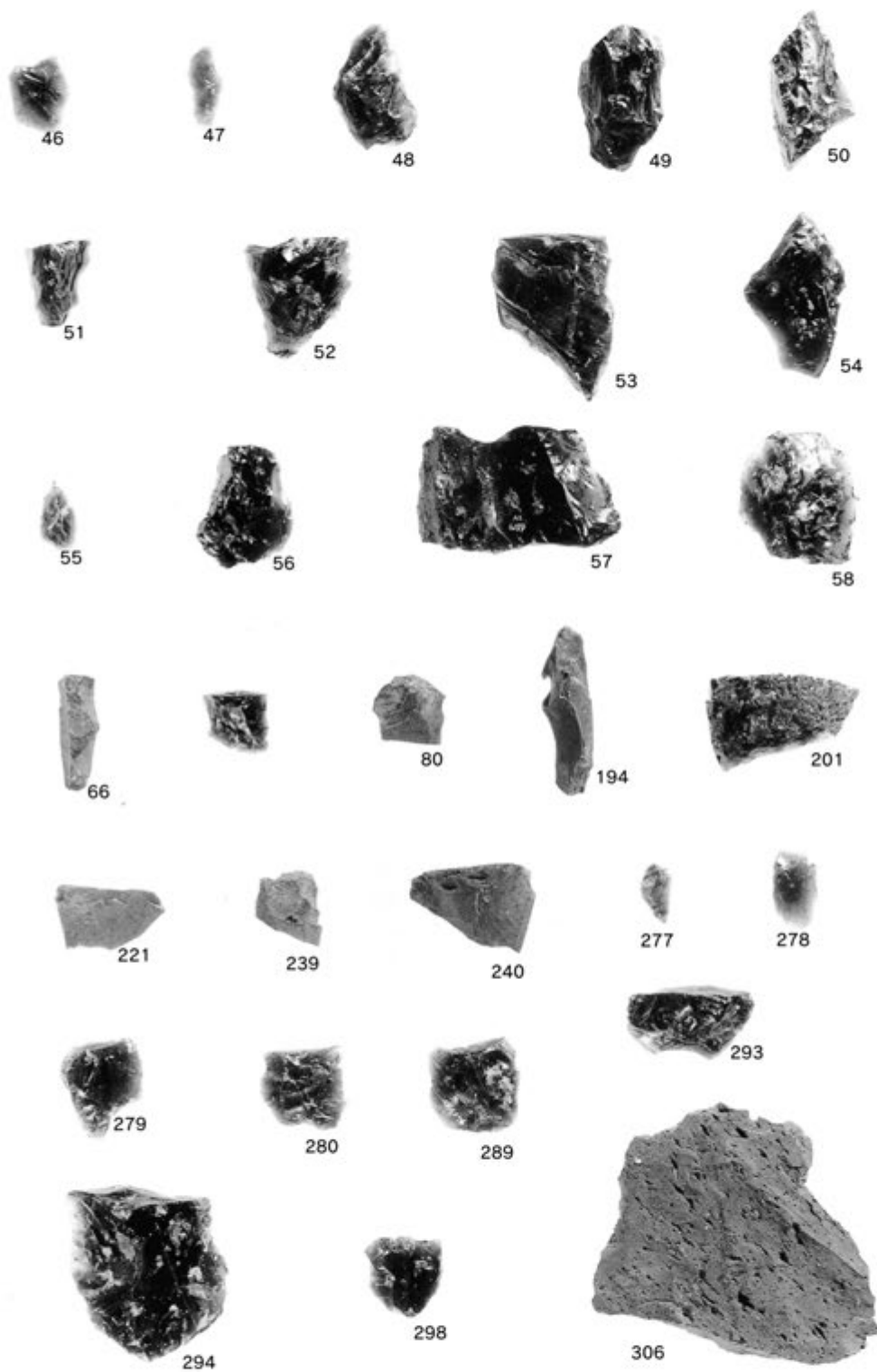
旧石器(2) 細石刃核



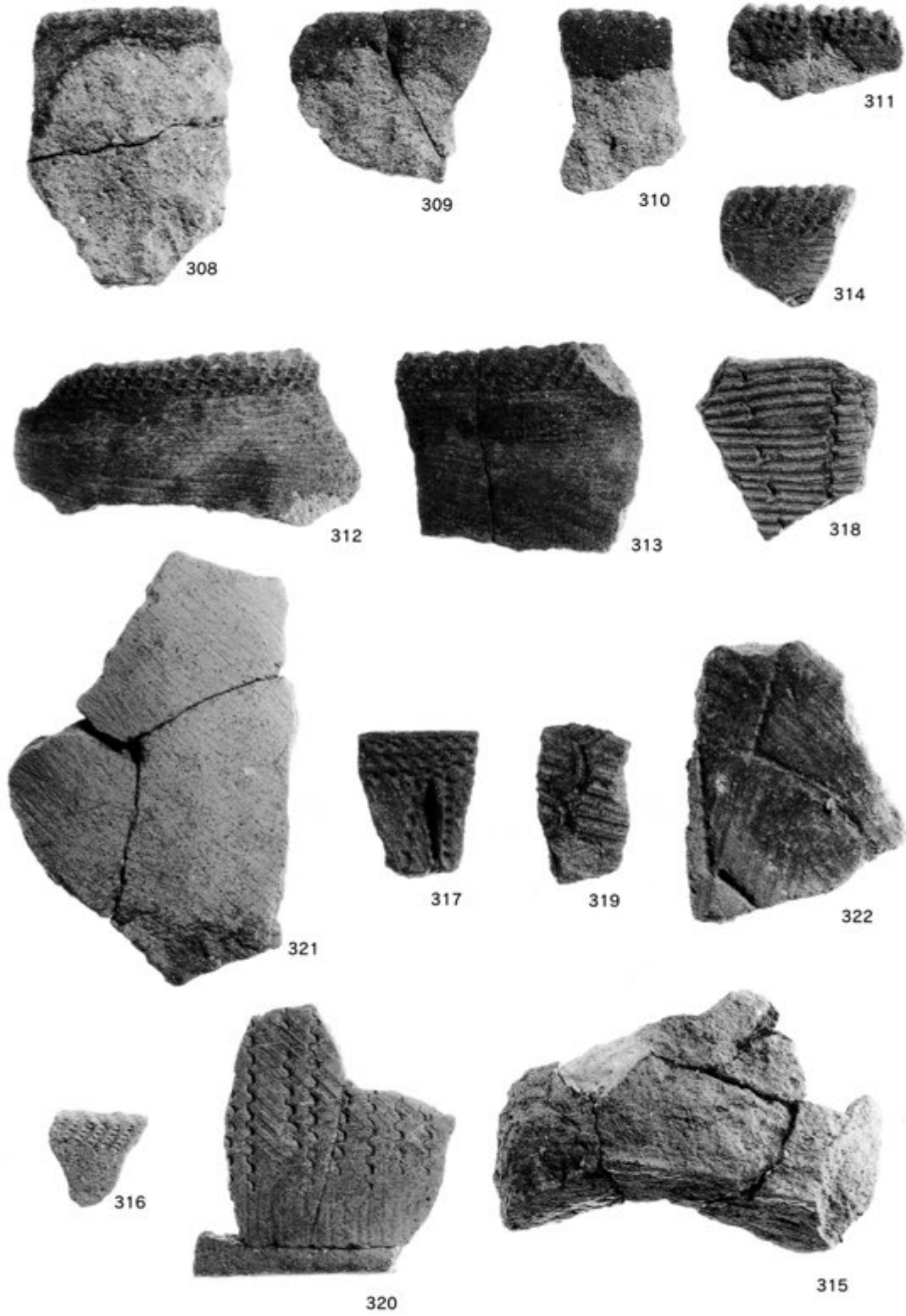
旧石器（3） 細石刃核



縄文時代草創期石鏃出土状況

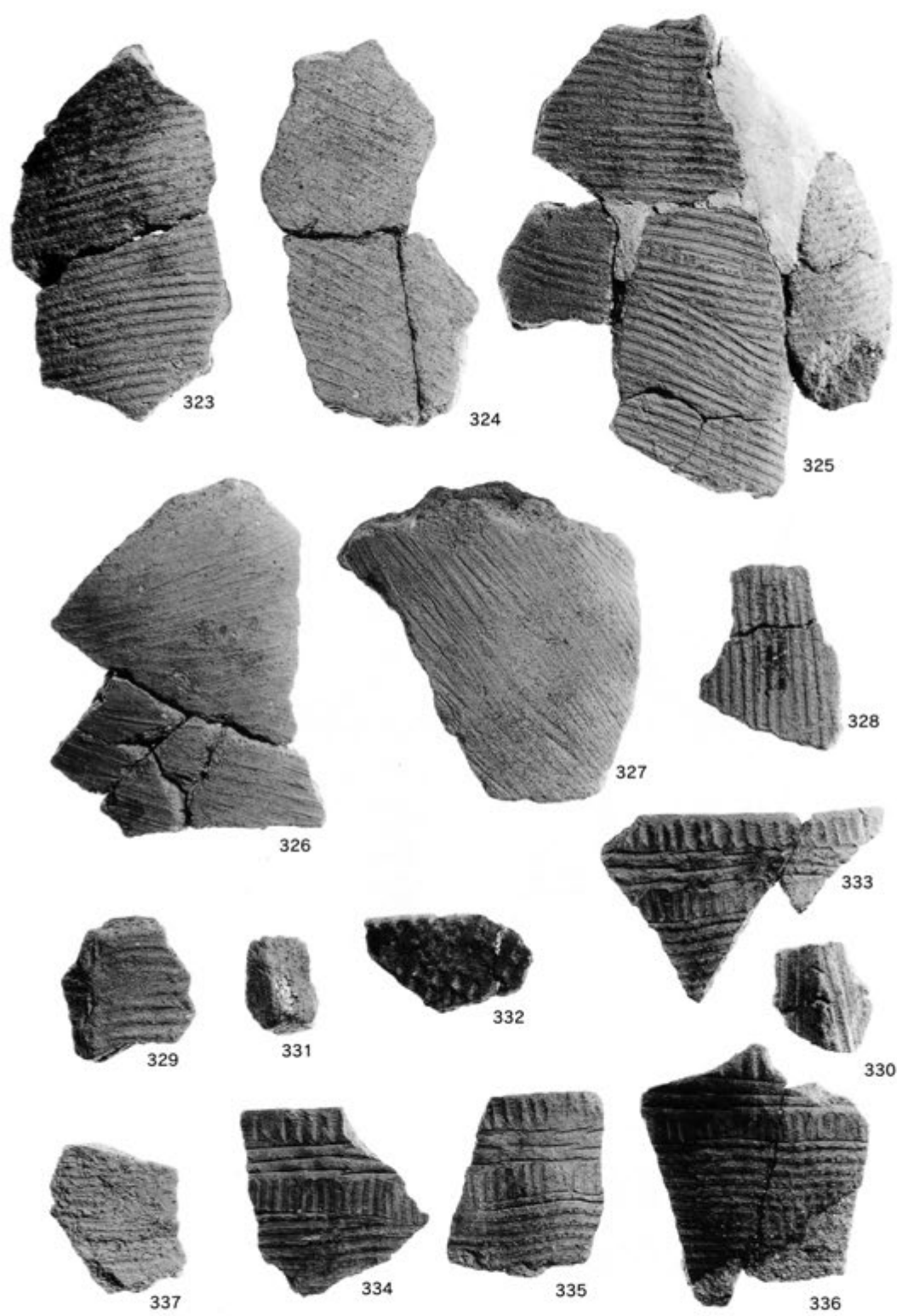


旧石器 (4)

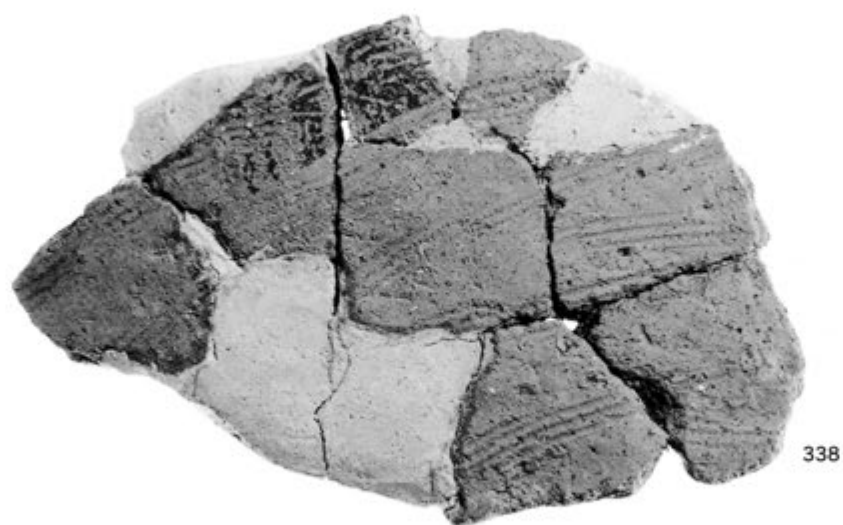


縄文(1)





繩文(2)



縄文（3）



341



342



346



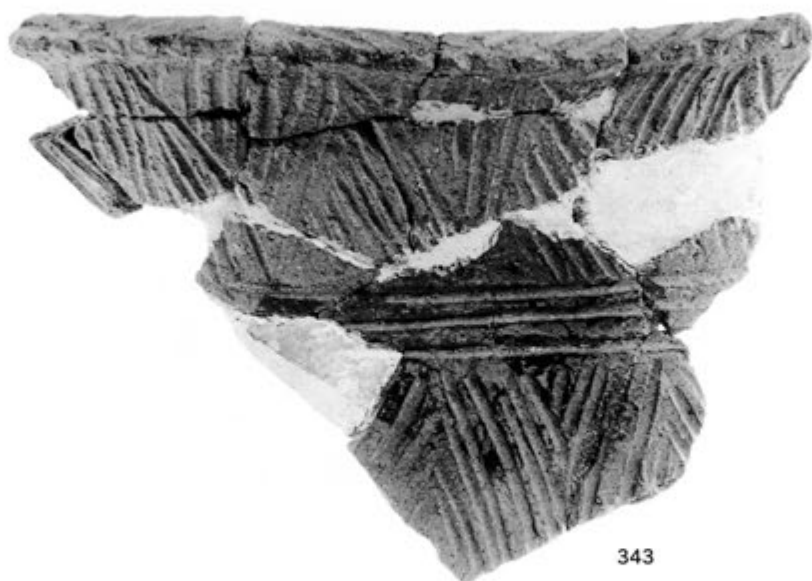
345



347



344



343

縄文(4)



351



353



352



350



354



355

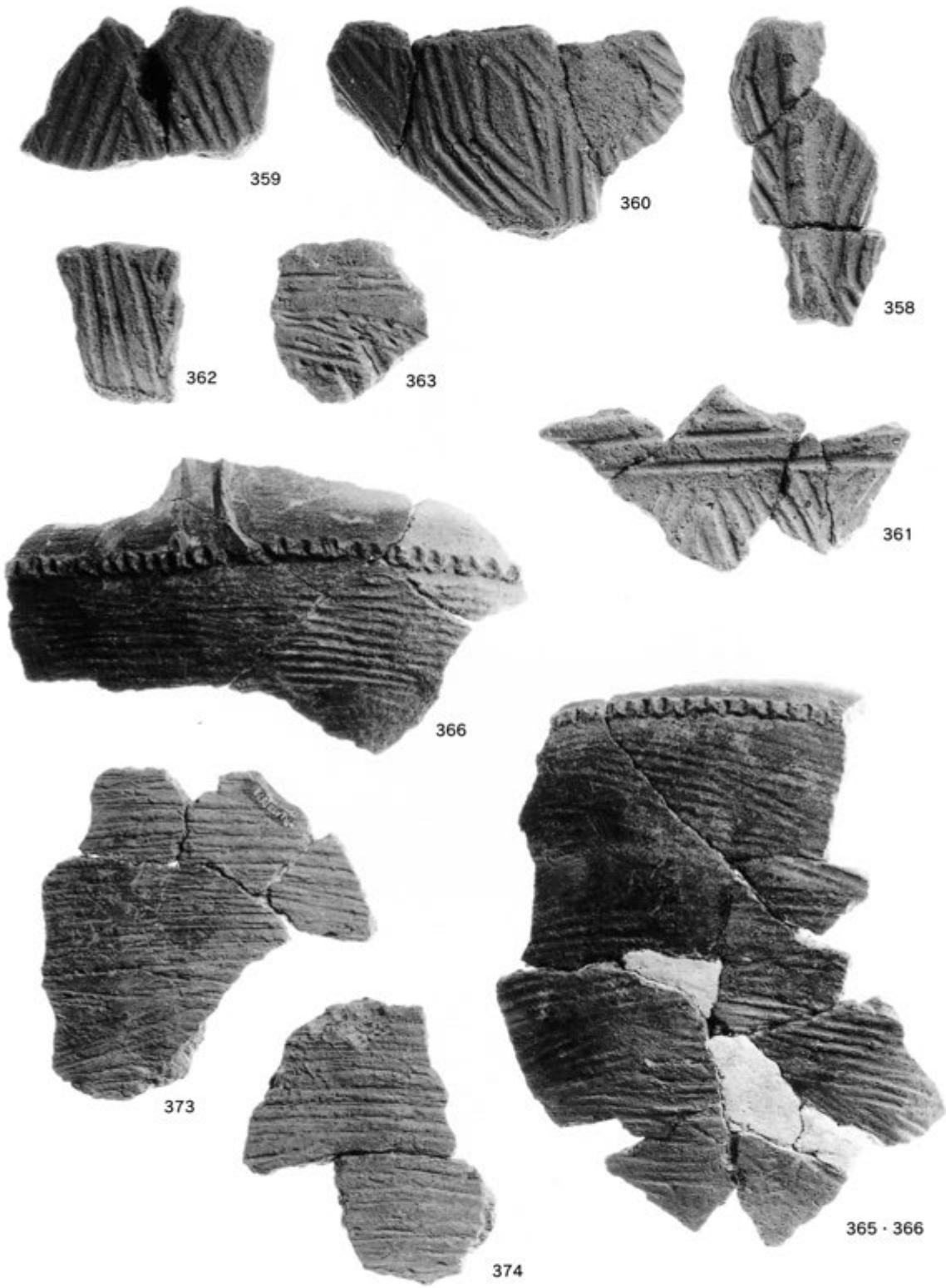


356



357

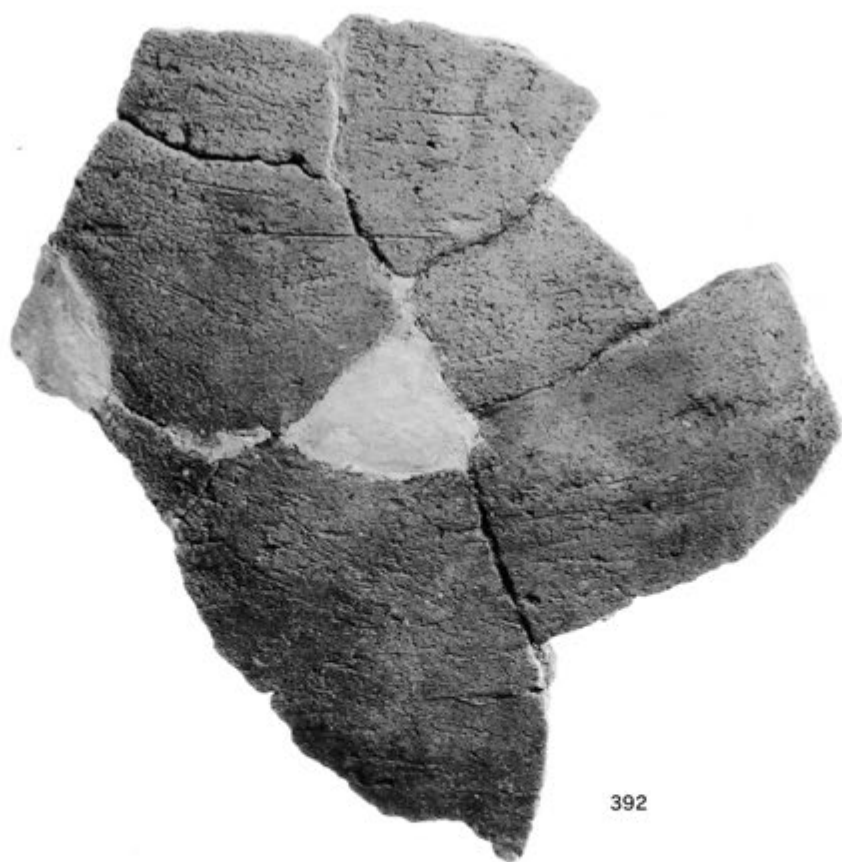
縄文(5)



繩文(6)

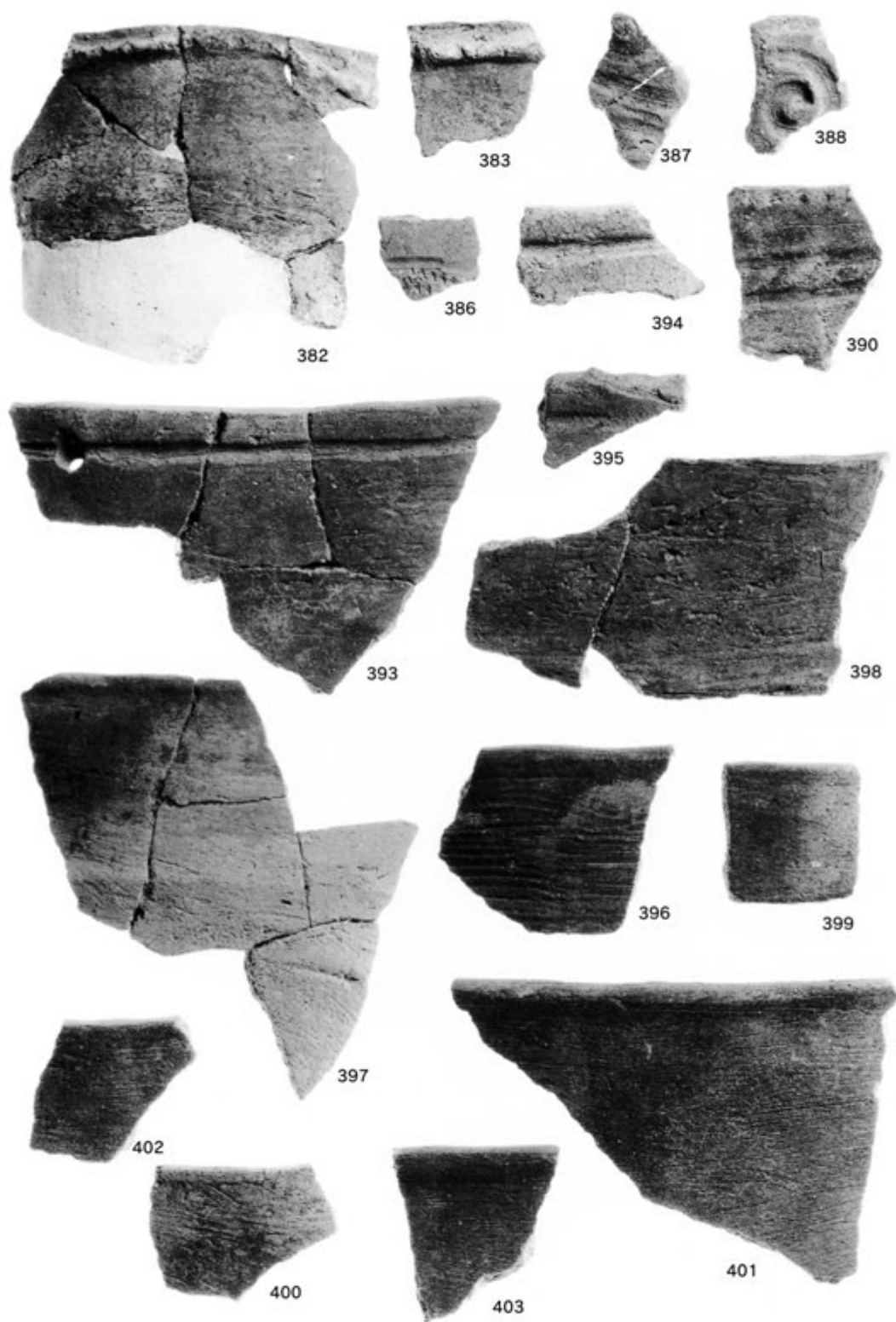


385

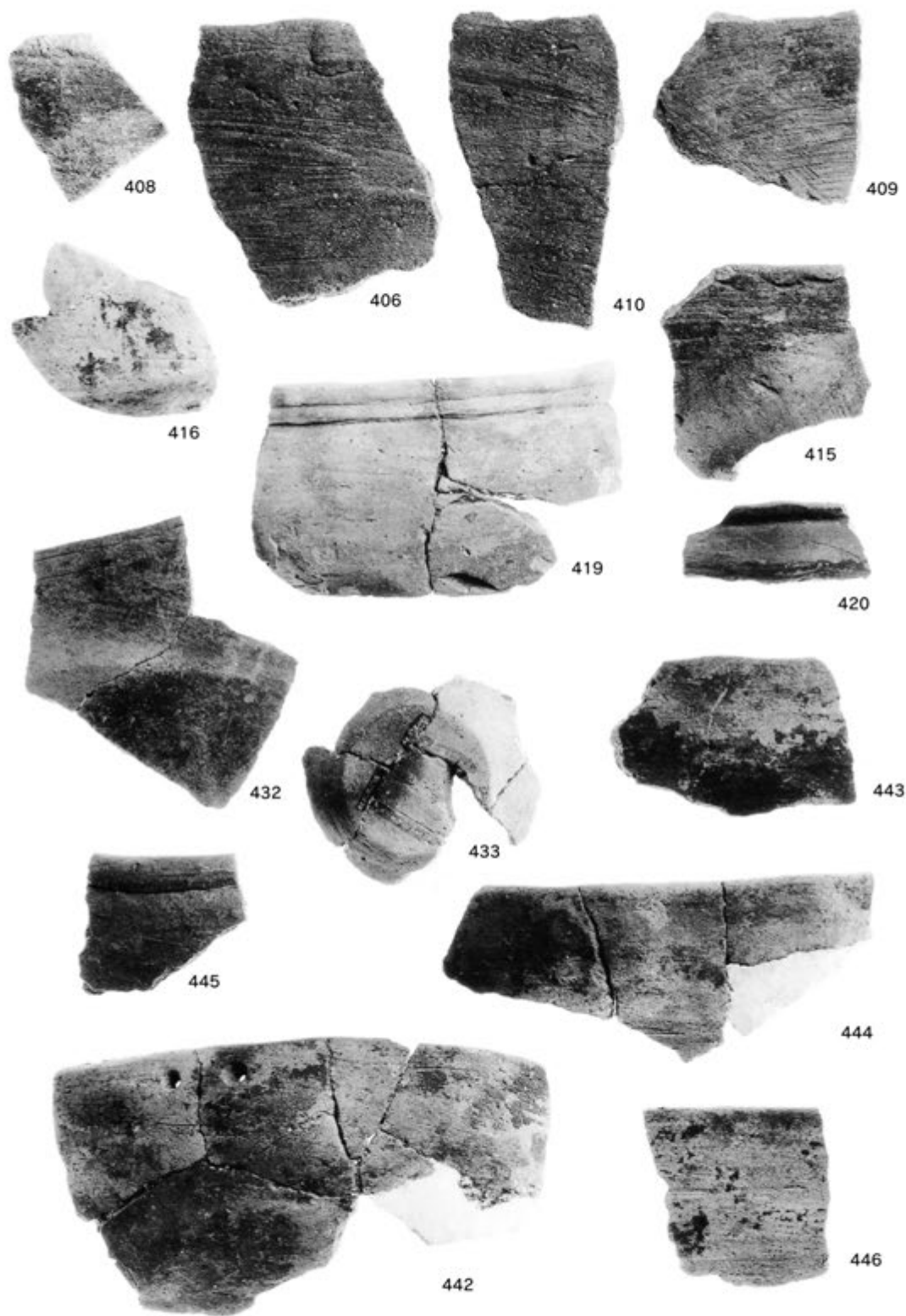


392

繩文(7)

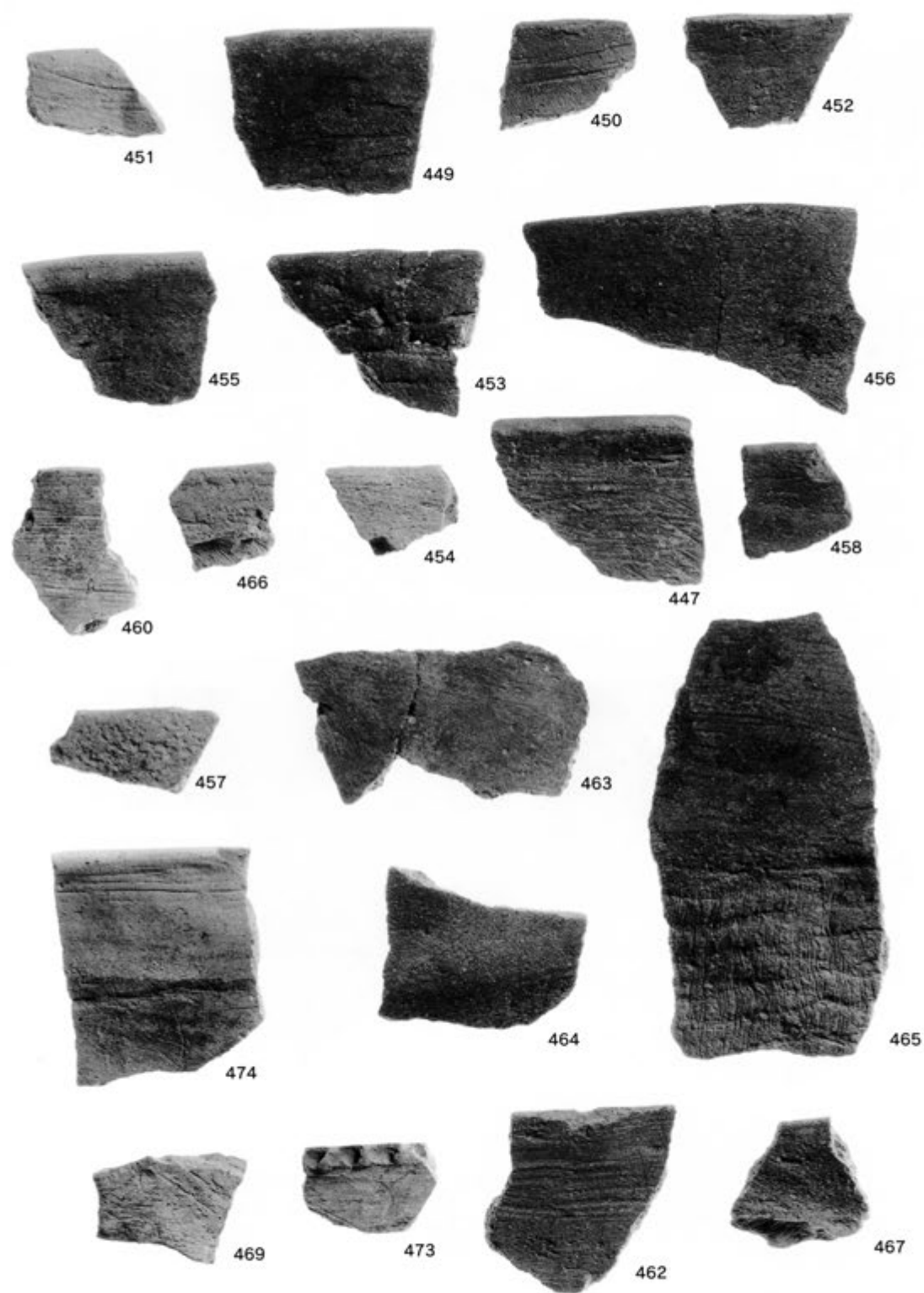


繩文 (8)

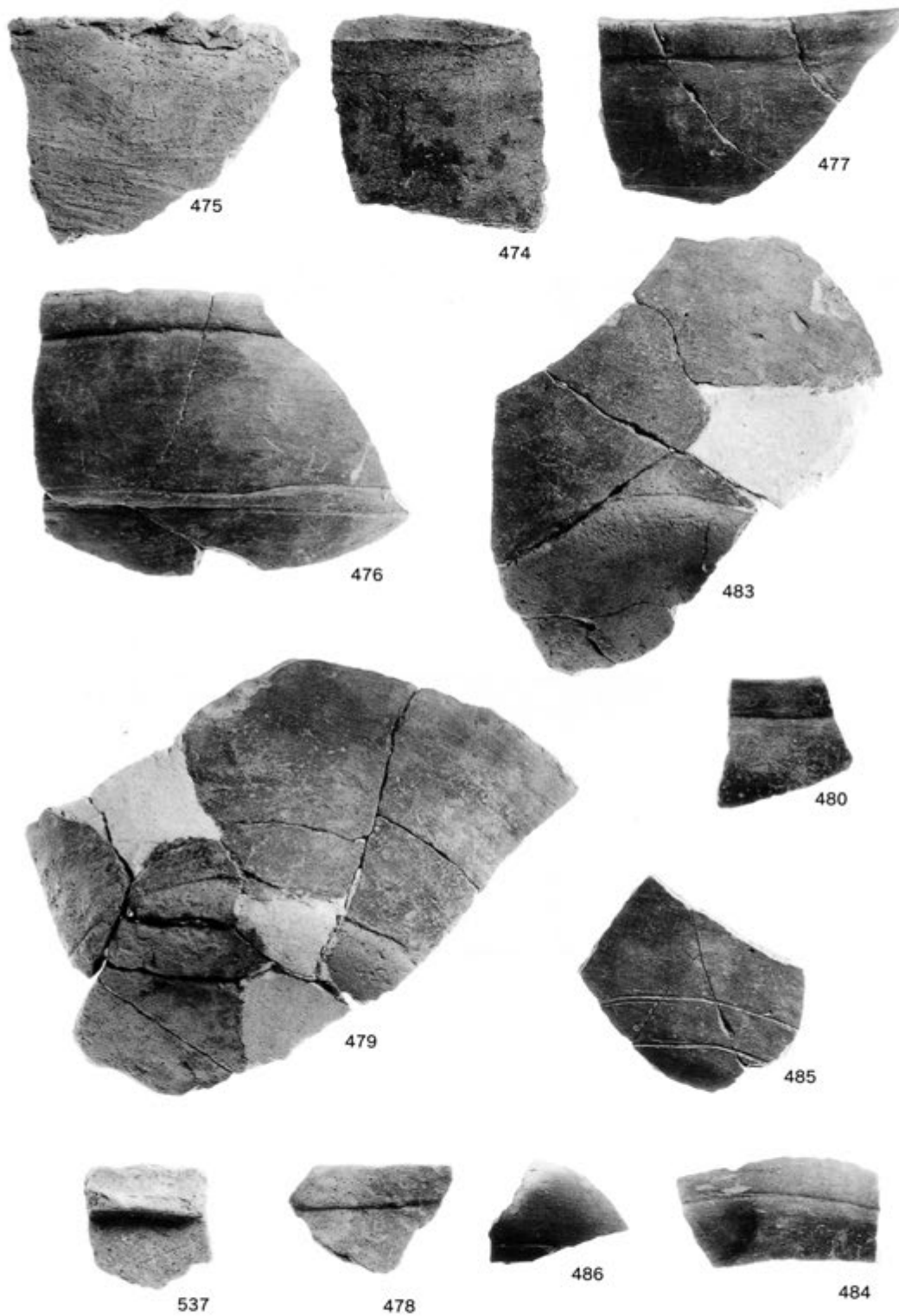


繩文 (9)

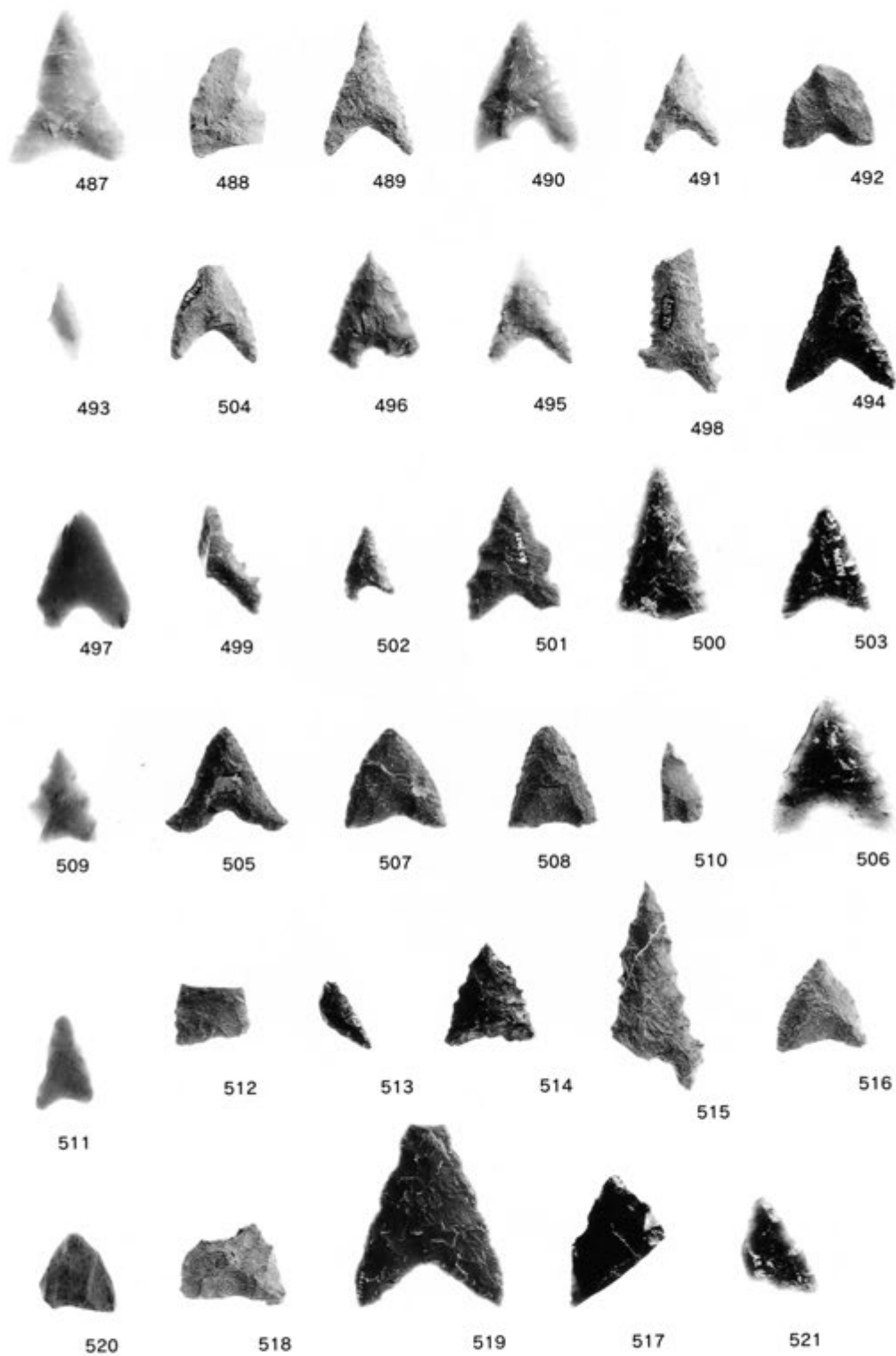




繩文 (10)



繩文 (11)



石 鏃



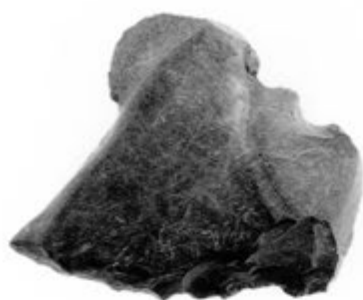
522



523



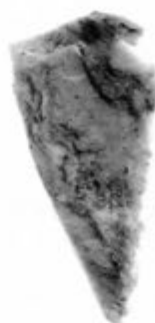
524



525



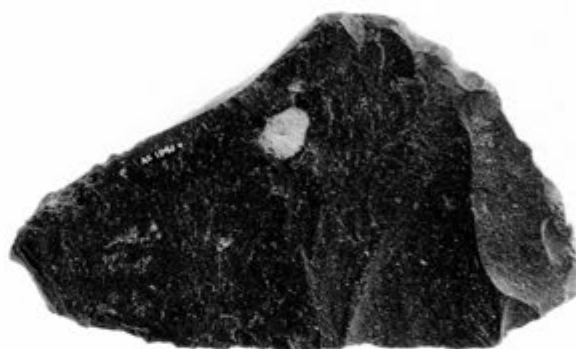
526



527



528

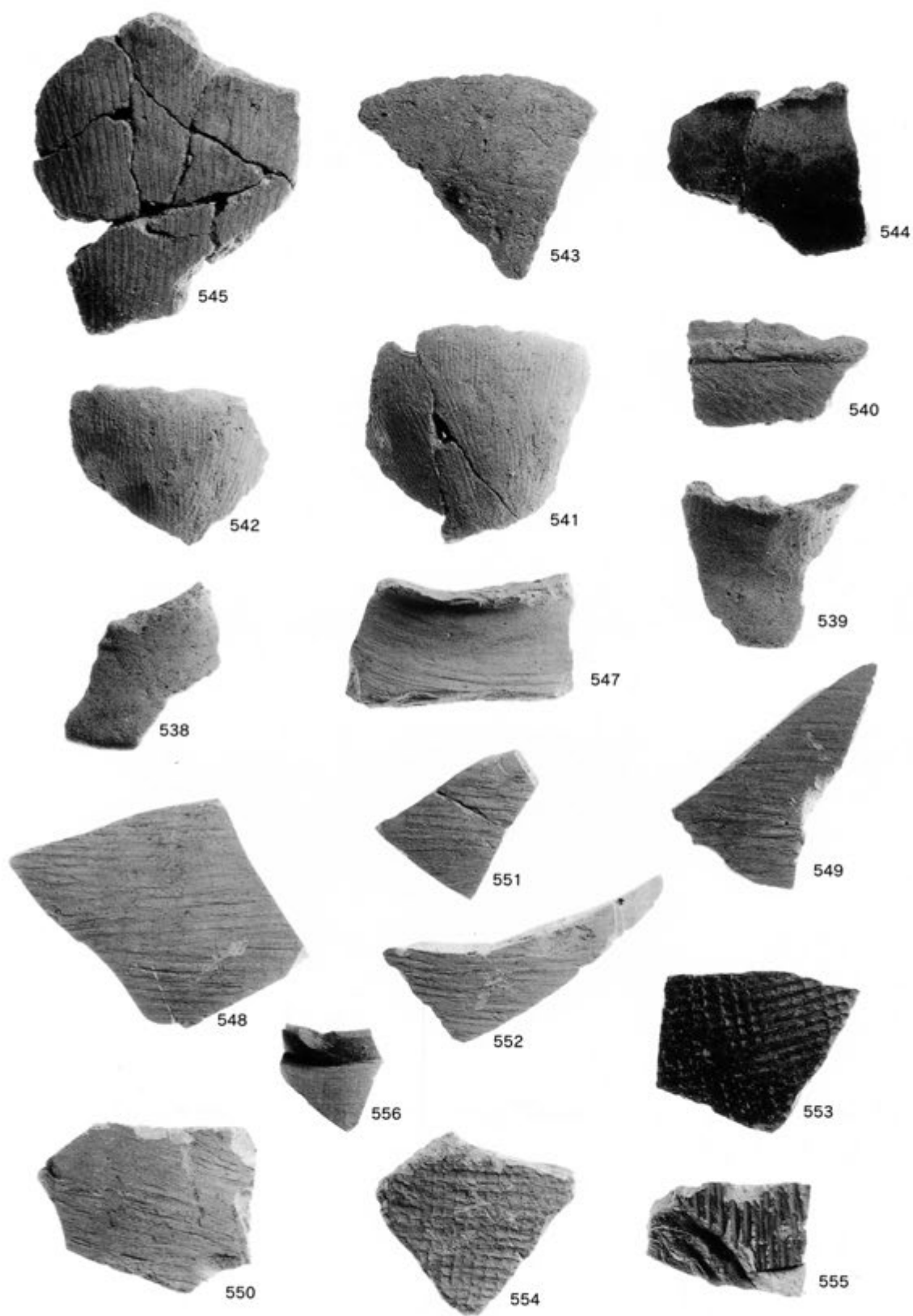


529

石 匙



砥石・磨石



成川式土器・須恵器



西ノ原B遺跡 航空写真（西から）



西ノ原B遺跡 航空写真（北から）

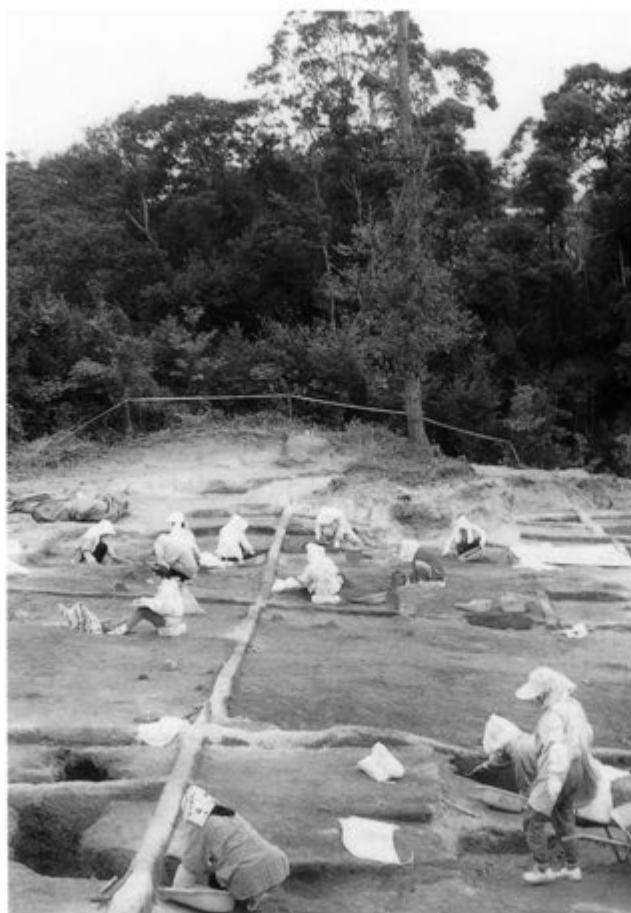


航空写真



A3区 東側土層





発掘状況（南より）



敲石出土状況



発掘調査風景



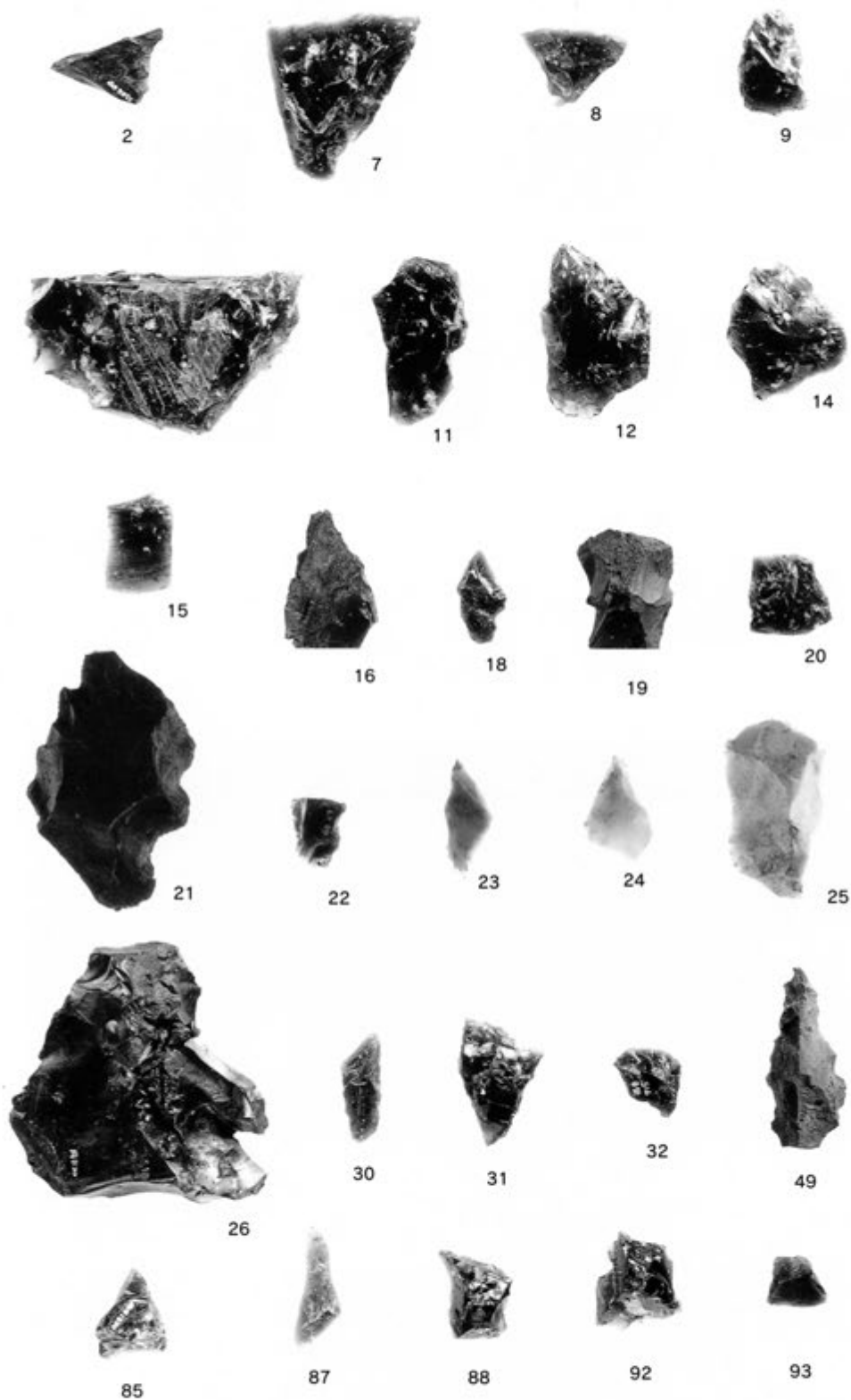
旧石器遺物出土状況



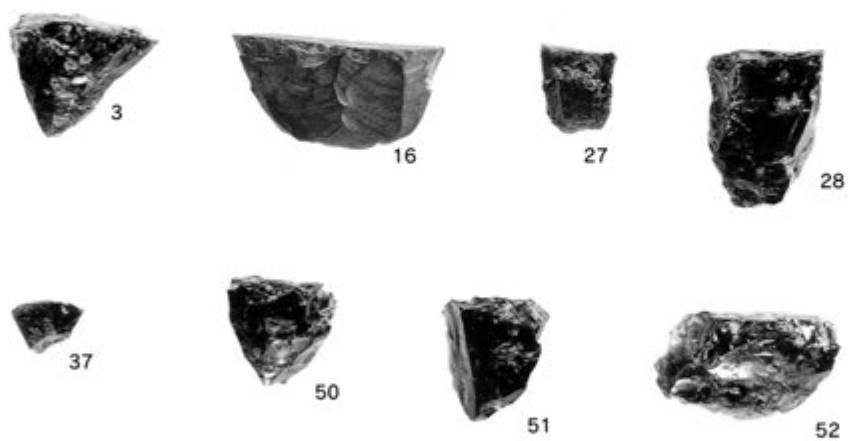
礫 群



調査風景



旧石器 (1)



旧石器（2） 細石刃核



西ノ原B遺跡調査メンバー

## あ と が き

南九州西回り自動車道が開通して、初めて車で走った時、発掘の日々が走馬燈の如く蘇ってきた。確認調査を開始したのが平成3年、あれから約10年、報告書を作成する時間もなく、以前、「ひかりは西へ」というキャッチフレーズがあったが、南九州西回り自動車道も西へ西へと延びていき、発掘に明け暮れる事であった。

遺跡の少なかった松元の台地は、発掘調査が進む度に、マスコミ等をにぎわす発見があった。現在では考古学の宝庫となった感じさえする。石谷城主の長男として生まれ、文化財保護行政の生みの親と称されている町田久成も地下で当惑しているに違いない。

今回発刊した栢堀遺跡・西ノ原B遺跡は、仁田尾遺跡・前原遺跡・前山遺跡という大規模な遺跡に囲まれた遺跡で、目立たない存在であったが、旧石器時代終末の研究史にはなくてはならない遺跡であると自負している。調査面積の割に出土遺物数が多く、また、年数がたった報告書作成になり苦労した面もあった。それでも、ここに報告書を発刊することが出来た。万全を期したつもりであるが、必ずしも十分といえないものになった。今後、検討を要するものも多いと思うが、機会をみて不備を修正し、その責務を全うしたい。

調査にあたり便宜を図ってくださった松元町教育委員会、発掘作業員としてご協力いただいた地元の方々、整理作業に従事していただいた鹿児島県立埋蔵文化財センターの方々に心より感謝申し上げます。

整理作業員

川田美津子・中屋弘子・前田秀子・山下道代・吉嶺昌子

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (30)  
南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 I

あぜ ぼり  
栢 堀 遺 跡

にし の はら  
西ノ原 B 遺跡

発行日 2001年 3月30日  
発 行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地  
☎0995-65-8787

印 刷 湧上印刷株式会社  
〒892-0845 鹿児島市樋之口町6-6  
☎099-225-2727